打タル同盟軍ノ一部モ、今ヤ「アテネ」艦隊ノ花々シキ武者振ト勇キ軍歌ニ引キ立テラレ、我ル劣ラジト敵軍ニ漕キ寄セタノデアル。

如此シテ「アテネ」艦隊ハ先第一ニ敵ニ接シ、「イージナ」人コレニ繼テ敵陣ヲ突擊セシガ暫シテ遂ニ全線ノ激戰トナツタ、此時波斯艦隊ハ「ギリシャ」艦隊ノ動靜豫想ニ反スルヲ見、志氣聊カ振ハザル處アリ、殊ニ終夜ノ橈漕ニ疲勞ヲ醫スル時ナク今ヤ正ニ隊形ヲ整ヘテ航進ヲ起サントスルニ際シ。「ギリシャ」艦隊ノ爲全速力ヲ以テ突擊ヲ試ミラレ、アナヤト叫ブ暇モナク鋭キ敵ノ衝角ニ羅ツテ沈メラル、モノ其ノ數ヲ知ラズ、加之波艦隊ハ其ノ數多キニ過ギ地區狹隘ニシテ其ノ翼ヲ張ルコト能ザルノミカ、少數ノ大艦ヲ有スル「ギリシャ」艦隊ニ對シテハ操縱ノ上ニモ各艦戰鬪ノ利害ニ對シテモ有利ノ點ナク、殊ニ昨夜來封鎖ノ姿勢ニアリシ爲メ敵方ニ船腹ヲ向ケ居リシモノ多カリシカバ混雜ハ更ニ一層ノ混雜ヲ加ヘ最早如何トモ恢復シ難キ窮境ニ陷タノデアル、波斯ノ總司令官「アリヤビクネス」ハ其ノ威風ヲ示シテ志氣ヲ引キ立テ且敵ノ主力タル「アテネ」艦隊ノ司令官「テミストクレス」ヲ敗ルニアラザレバ到底勝算ノ見込ナシト認メ直ニ其ノ旗艦ヲ以テ「テ」將軍ノ旗艦ニ薄リ、襲擊隊ヲ以テ之ヲ奪ハシト試ミタ、流石ノ將軍モコノ決死ノ突擊ニ會シ少シク敗色ヲ顯ハセシモ、「アテネ」ノ艦隊ハ之ヲ見テ競テ司令官ノ援助ニ赴シカバ壯麗ヲ極メタル波斯艦隊ノ旗艦モ引キ續ケル「アテネ」軍艦ノ衝角ニ羅リテ沈沒シ「アリヤビクネス」モ亦「アテネ」人ノ劍尖ニ羅ツテ戰死ヲ遂ゲ、其ノ死體ハ己レノ奪ハントシタル敵艦ノ艦首ヨリ海上ニ投ゲ捨ラレタノデアル。

既ニシテ「アリヤビネス」戰死ノ報波斯軍ニ傳ハリ士氣大ニ沮喪セシガ、之ニ反シ「ギリシャ」艦隊ハ

波斯ノ希臘遠征軍ノ未落

彌々力ヲ得、鬨ノ聲ヲ擧ゲテ打チカ、リ「アテネ」ノ艦隊ハ非常ナル勢ヲ以テ「フイニキヤ」艦隊ヲ踏ミ散ラシ、「シレシヤ」人、「ギプラス」人、「パンフイリヤ」人、「リカオニヤ」人等ハ相躡デ遁走シタノデアル。コノトキ他ノ一翼ノ戰況ハ未ダ明白ナラズ「イオニヤ」人ハ「イージヤ」及「メガリヤ」ノ艦隊ヲ喰ヒ止メ一歩ヲダモ進マシメズ、「ギリシャ」艦隊ハ寧ロ苦戰ノ體デアル、「テミストクレス」ハ之ヲ見テ其ノ艦隊ヲシテ逆ニ右ノ橈ヲ打タセテ、其ノ艦隊ヲ急轉シ驀然トシテコレニ向ヒタリシカバ戰勢ハ全ク決定シ波斯艦隊ハ總潰レノ有樣トナツタノデアル。

コノ日ハ朝ヨリ西風ナリシ爲、追擊遁走其ニ帆ヲ利用セシカト思ハル、ガ、其ノ内ニ日モ暮レハテシカバ、「ギリシャ」軍モ追擊ヲ止メ、波斯軍ハ散々ニ打破ラレ、サシモ雄大ナリシ遠征軍モ茲ニ全ク哀レナル最期ヲ遂タノデアル。

「クセルクセス」大王ハ巖頭ニ立チコノ有樣ヲ實見シ失望落膽其ノ極ニ達シタノデアル。加之、曩ニ「サラミス」ニ近キ「プシタリヤ」ニ上陸セシメタル波斯ノ貴族等ガ、「アリスチデス」ヲ將トシテ攻擊シタル「ギリシャ」軍ニ屠ラル、有樣ヲ目前ニ見、悲憤殊ニ甚シカリシモ今ヤ其ノ海軍ヲ有セザル波王ハ之ヲ如何トモスルコト能ハズ、タダタダヨモスガラ悲泣スルノミデアツタ。

如斯シテ「サラミス」ノ大戰ハ終結セシガ、現ニ陸上ヲ占領シ居ル「ペルシャ」軍ハ、其ノ勢極メテ強大ナルガ故ニ、モシ萬一必死ノ勢ヲ以テ攻勢ニ轉ジ「ギリシャ」ノ國土ヲ蹂躙セラル、ニ至ラバ、假令終局ノ結果ハ深ク憂ルニ足ラストスルモ、其ノ損害殊ニ大ナルベシト思惟セシカバ、波王ノ近臣ガ捕虜中ニアリシヲ幸トシコレヲ許シテ歸ラシメ、「ギリシャ」艦隊ハ勝ニ乘ジ長驅シテ「ヘレスポン

ト」ニ航シ其ノ軍橋ヲ破壞セント欲ス、ト言ハシメタノデ。波王ハ之ヲ聞テ大ニ驚キ其ノ海軍ノ殘部ニハ速カニ本國ニ歸ルベキヲ命ジ、遠征軍ノ總指揮官「マドニヤス」ヲシテ二十五萬ノ兵ヲ擁シテ「テツサリー」ニ止ラシメ、親ラ倉皇歸路ニ就キシモ大遠征軍ヲ起セル「ケセルクセス」大王モ、サナガラ鞭タレタル狗兒ノ如ク尾ヲ垂レ肩ヲ縮メ一散ニ遁ゲ去ツタノデアル。

「サラミス」ノ海戰ハ東人ノ西侵ヲ杜絶シタル偉功アルノミナラス、國防研究上ニ大ナル訓戒ヲ與ルコトモマタ明白デアル。モシモ「サラミス」ノ海戰ガ「ペルシャ」艦隊ノ勝利ニ歸シタリトセバ、「ギリシヤ」聯邦ノ自由民ハ「ペルシヤ」人ニ征服セラレテ悉ク奴隷トナリ、歷史上異彩ヲ放テル「ギリシヤ」ノ名モ顯ハレズニ終タデアロウ。殊ニ此戰役ノ偉大ナルハ國防上ハ大原則トモ稱スベキ、「海國ノ國防ハ海戰ニ於テ勝利ヲ得ルヲ先決問題トナシ之ヲ重視スベシ」トノ點ヲ遺憾ナク證明シテ居ルト云フ點デアル。而シテ反對ノ方向ヨリ之ヲ解釋スレバ「充分ニ敵ノ艦隊ヲ擊破シ得ルノ實力ナクシテ遠征軍ヲ海外ニ出スベカラズ」トノ原則ト「假令實力十分ナリトスルモ必先敵ノ海軍ヲ打敗リ敵ヲシテ活動ノ力ナカラシメ然ル後ニ陸軍ヲ輸送スベシ」トノ點ヲ證明シテ居ル。

兎ニ角此海戰ハ如斯明瞭ナル訓戒ヲ後人ニ垂ルルニ關セズ、「ナポレオン」ノ如キ名將スラ、猶且埃及遠征ノ如キ失敗ヲ招キタルハ了解シ難キコトデアル。併ナガラ軍隊ノ行動ハ必ズシモ絶對的ニ軍事上ノ利害ヨリノミ打算シ來ルモノニアラズ、「ナポレオン」ノ遠征隊ノ如キハ假令明瞭ニハ分ラザルモ議政府ノ「ナポレオン」敬遠主義ト「ナポレオン」ノ野心トノ暗鬪ノ結果カモ知レヌ。從テ簡單ナル理論ニヨリ「ナポレオン」ノ愚ヲ嗤フコトハ出來ヌ。此間ニ存スル消息ニ關シテハ吾輩ハ未ダ確實ナル觀察ヲ下スコト能ハザルモ兎ニ角「海上ヲ制セズシテ海ニ近キ陸地ノ作戰ヲ行フベカラズ」トノ一事ハ原則トシテコトヲ看ルノ資格ガアルト吾輩ハ思フノデアル。

海ヲ制セズシテ海ニ近キ陸地ノ作戰ヲ行フベカラズ

第四章　陸地攻擊ト來援艦隊ノ關係及其ノ成敗

陸地攻擊ト艦隊

讀者モシ前章ニ記載シタル先例ヲ仔細ニ點檢セバ最早他ノ史訓ノ證明ニ待タズシテ「敵海ヲ制セズシテ敵地ノ攻擊ヲ實施スルノ不利ト危險」トヲ充分ニ會得セラレ、コレト同時ニ海戰ノ勝敗ハ海國々防ニ如何ナル關係ヲ齎スカヲ悟ラレタデアロウ。假令如何ナル不世出ノ英雄アリテ自己ノ力倆ヲ信ズルコト大ナルニモセヨ、二十回ニ近キ戰例中一回ノ成功モナク、之ニ加フルニ「クルクセス」ノ失敗ニ關スル明ナル訓戒アルニモ關セズ、同一ノ失敗ヲ繰リ返ソウトハ思ハスデアロウ。乍併迷想ハ兎角ニ起リ易キモノデアル。香餌鼻邊ニ懸在スル塲合ニ於テハ「ヨモヤ危險ハナカルベシ」トノ迷想ニ動サレ、救ヒ難キ危難ニ陷ルコト古來其ノ先例ニ乏シカラヌノデアル。故ニ吾輩ハ更ニ進デ敵地ノ攻擊中敵艦隊ノ顯出シタル塲合ト、來襲ノ情報ニ接シタル先例ト、更ニ進デ正ニ攻擊ノ目的ヲ果シタル塲合ニ敵艦隊ノ顯出シタル史例トヲ掲ゲ、讀者ヲシテ此原則ヲ信ズルコト更ニ一層ノ深ヲ加ヘシムルト同時ニ、犯シ難キ威力ヲ附ケヨウト思フノデアル。

戰例第二

海島ノ攻擊ニ際シ敵艦隊ノ顯ハレタル前例、其ノ來襲ニ關スル情報ヲ得タル前例及攻擊ノ目的ヲ

達シタル場合ニ敵艦隊ノ顯レタル前例。（海島ニアラザルモ之ニ準ズベキモノハ此例ニ編入セリ）

對手國	同數	攻撃軍ノ成功ニ終ル	未タ攻撃ニ著手セズシテ中止ス	半成功	攻撃軍ノ失敗ニ終ル
英對佛	一	一			
佛對英	九	三			
佛西對英	一				
米對英	一				
以對墺	一				
計	一四	四			一〇
			一	六	一

（一）千六百九十年英將「ライト」ハ「ガーダループ」（佛領）ヲ攻陷セント欲シ、其ノ陸兵ヲ上陸セシメ「バス、テル」ノ敵壘ヲ攻撃セシガ、增艦ヨリ飛報アリ十一艘ヨリナリタル佛艦隊ノ將ニ來ラントスルヲ知リシカバ、倉皇攻撃ノ目的ヲ捨テ攻城材料ヲ委棄シテ退帆セリ。（史例第十八參照）

（二）千七百四年西國ハ佛國ノ援助ヲ得「ジブラルタル」ヲ回復セントシ「ポアンチー」ニ命ジ同灣ノ進攻及封鎖ニ從事セシメタリシモ不幸ニシテ暴風ニ會シテ四散スルニ際シ忽チ「リーク」艦隊ノ來襲スル處トナリ現在ノ諸艦ハ全滅ノ悲運ニ會セリ。（史例第二十五參照）

（三）千七百五年七月英將「ペートルボロー」ハ「アドミラル、ショーウエル」ノ隊ニ護衛セラレ「バルセロナ」ノ攻撃ニ從事シ、同八月ヲ以テ之ヲ占領セシガ、佛國ハ翌年ニ至リ之ヲ回復センガ爲陸軍將官「ド、テツセ」ヲシテ「ツーロン」艦隊司令長官「ツウルーズ」伯ト策應シテ之ガ攻撃ニ從事セシメタリシガ、英兵ハ衆寡ノ數懸絶シ大ニ苦戰セシモ、「アドミラル、リーク」ノ其ノ艦隊ヲ率テ來到スルニ及ビ佛艦隊ハ倉皇トシテ海面ノ攻撃ヲ止メ其ノ艦隊ヲ收メテ「ツーロン」ニ向ヒ退帆セシカバ、「ド、テツセ」モ今ヤ策ノ施スベキナク、同月末日ヲ以テ圍ヲ解キ大砲及糧食彈藥等ヲ委棄シ、僅ニ英軍ノ追撃ヲ避ケテ本國ニ退去シタリ。（史例第二十七參照）

（四）千七百十年ノ末佛國ハ英艦隊ノ大部越年ノ爲本國ニ引キ上ゲタルニ乘ジ、地中海ニ於ケル勢力ヲ恢復シ、翌年四月ヲ以テ「サルデニア」ノ攻撃ヲ企テシガ、英將「ノーリス」ハ「バルセロナ」ニ於テ之ヲ聞知シ之ニ赴援シ、佛艦四艘ヲ捕獲シ容易ニ佛兵ヲ降伏セシメタリ。既ニシテ同島ノ西岸ニ於テハ佛將「フルシー」公方ニ大攻撃ヲ企ントシ既ニ其ノ兵ヲ上陸セシメタリトノ情報ニ接シタリシカバ、英將ハ警ヲ聞テ直ニ之ニ赴キシガ、佛將ハ之ヲ聞テ大ニ驚キ、倉皇「コルシカ」ノ「アジヤシオ」ニ遁レ、其ノ運送船ト大砲及彈藥ヲ委棄シテ本國ニ遁レ去レリ。（史例第三十一參照）

（五）千七百十二年七月佛將「カツサルド」、英將「ウオルカー」ノアラザルヲ機トシテ「アンチヴア」ト「モンセラ」ヲ攻メシガ其ノ目的ヲ達スルニ先チ英將ノ來會セントスルヲ聞知シ速ニ其ノ目的ヲ捨テ、退帆シタリ。（史例第三十三參照）

（六）千七百五十六年四月佛將「ラガリゾニエール」百五十艘ノ運送船ヲ護衛シ「ミノルカ」ノ攻撃ヲ開始セシガ、英國ハ報ヲ得大ニ驚キ「アドミラル、ビング」シテ之ニ赴援セシメタリ。佛將ハ之ヲ聞知シ之ヲ海上ニ邀撃シ、一戰ノ後交綏セシガ「ビング」ハ軍事會議ノ議決ニ動サレ「ジブラルタル」ニ退帆セシカバ、「ミノルカ」ノ守將「ブレークネー」ハ終ニ防ゲコト能ハズシテ降リ同島ハ終ニ佛國ノ狀圖ニ入レリ、（史例第四十八參照）（成功）

（七）千七百六十三年佛國ハ英國ガ西印度ニ於ケル作戰ニ忙ク、「ニューフマオンドランド」方面ノ防禦完全ナラザルヲ機トシ、海峽附近ニ於ケル濃霧ノ時期ヲ利用シ遠征隊ヲ艤裝シ之ガ攻撃ニ當ラシメタリ。

佛將「テルヲー」ハ何等ノ困難ニダモ會スルコトナク「シント、ジョン」ヲ占領セシガ、英將「コルウイル」之ヲ封鎖シ、英將「アマースト」ハ陸面ヨリ之ヲ包圍セシカバ、其ノ終ニ守ルベカラザルヲ知リテ英軍ニ降レリ、（史例第六十二參照）

（八）千七百七十八年十二月英將「バリントン」ハ「セント、ルシー」ノ攻撃ニ從事シガ、佛艦隊來リテ「マルチニーク」ニアルヲ聞知セシカバ其ノ運送船ヲ灣内ニ退ケ其ノ軍艦ヲ灣口ニ排列シ以テ敵襲ヲ待チリ。

佛將「デステーン」ハ同島ニ來援セシガ、同將官ハ戰艦隊ヲ加ルコトナク、其ノ面前ヲ一過シタル後同ク其ノ陸兵ヲ上陸セシメ、然ル後再ビ英艦隊ノ面前ニ顯ハレタルモ、風力微弱ニシテ攻戰ニ轉ズルコト能ハズシテ止メリ。此際佛ノ上船兵モマタ其ノ目的ヲ貫徹スルコト能ハザルノミナラズ、英將「バイロン」ノ來ラントスルヲ聞知セシカバ、佛將ハ再ビ其ノ兵ヲ上船セシメテ同島ヲ去リ「セント、ルシー」ハ終ニ其ノ守ヲ全フスルコト能ハズシテ英軍ニ降レリ。（史例第七十參照）（成功）

（九）千七百七十八年米人ハ其ノ兵ヲ「ペノブスコット」ニ進メ、海陸相呼應シテ之ヲ攻撃セシガ、英將「コリヤ」直ニ之ニ赴援シ、河身ニ在泊セル米艦隊ヲ全滅セシカバ、米軍上ノ陸兵ハ幾多ノ辛酸ヲ嘗メ僅ニ陸路ヨリ退却ノ途ニ就キタリ。（史例第七十四參照）

（十）千七百七十九年佛將「デステーン」ハ英將「バイロン」ノ不在ヲ聞知シ「バルバドース」ヲ突カントセシガ、風向ノ不良ナルガ爲不得已其ノ目標ヲ轉ジテ「グレナダ」ニ向セコレヲ降伏セシメタリ。「バイロン」報ニ接シコレニ赴援セシモ、此時「グレナダ」ハ途ニ佛人ノ手中ニ歸シタリシカバ、「バイロン」ハ佛將ト戰フモ效ナキヲ悟リ、接戰ニ意ナク、英將モマタ之ヲ避ケタリシカバ、終ニ其ノ儘ニ物分レトナリ、「グレナダ」ハ其ノ自然ノ結果トシテ佛人ノ手中ニ歸セリ。（史例第七十一參照）（成功）

（十一）千七百七十九年西國ハ「ジブラルタル」ヲ回復セントシ、佛國ハ英國ノ侵略ヲ企ント欲シテ相同盟シ、一方ニ於テハ「ジブラルター」ヲ攻擊ヲ開始シ、一方ニ於テハ海峽地方ニ其ノ勢力ヲ集メタリシガ英將「ロドニー」ハ之ニ赴援シ「セント、ヴインセント」角ノ沖合ニ於テ敵ノ艦隊ニ會シ、大ニコレヲ擊破シタリカバ、「ジブラルタル」ノ守備ハ之レガ爲安全トナリ、マタ陷落ノ患ナキニ至レリ、此後「ジブラルタル」ノ包圍ハ永ク繼續シ、前後約三星霜ニ及ビタリシガ、英國ノ海上ニ於ケル威力ハ不充分ナガラモ本國トノ連絡ニ任シテ其ノ責務ヲ過ラザリシカバ、終ニ平和克復ニ至ル迄其ノ守備ヲ持續スルコトヲ得タリ。（史例第百二參照）

（十二）千七百八十二年佛將「ド、グラス」ハ其ノ勢力ノ優勢ナルヲ機トシ、海島占領ノ擧ヲ企テ、先「セント、キッツ」ニ其ノ陸軍ヲ上陸セメシタリ、英將「フード」之レニ赴援シタリシモ衆寡敵セズシテ接戰スルニ由ナカリシカバ、巧妙ナル運動ヲ以テ其ノ艦隊ヲ敵艦隊ト上陸軍トノ間ニ入ラシメ其ノ連絡ヲ絶チ、更ニ其ノ兵ヲ上陸セシメテ守兵ヲ援ケタリシモ、「ドグラス」終ニ去ラザルヲ以テ十分ナル援助ヲ與ルコト能ハズ、守兵ハ力屈シテ竟ニ佛軍ニ降ルニ至レリ。（史例第九十五參照）（成功）

（十三）千七百九十五年三月佛國ハ英艦隊ノ「コルシカ」ニアラザルヲ利用シ同島ヲ恢復セントセシガ、英將「ホタム」ハ「レゴーン」ニアリテ之ヲ聞知シ之ヲ邀擊セント期セシカバ、佛將ハ之ヲ諜知シ「コルシカ」遠征ノ目的ヲ捨テ、歸帆ノ途ニ就キシガ、兩軍ハ終ニ同島ノ北方ニ於テ相會シ、不活潑ナル戰鬪ノ後勝利ハ英將ノ手ニ歸シ、佛艦隊ハ其ノ二艦ヲ失ヒ「ツーロン」ニ向ヒ退帆シタリ。（第職例及史例第百十八參照）

（十四）千八百六十六年以艦隊「リッサ」島ヲ攻メ墺將「テゲトッフ」ニ破ラル。（第一戰例及史例第二百二十三參照）

右ニ表示シタル前例ニ據レバ、海島若クハ海岸要塞ノ攻擊ニ際シ敵艦隊ノ來援シタル前例中、「ルイス」十四世以降ニ屬スルモノ十有四例ノ多キニ達スルノデアル。モシ仔細ニ戰史ヲ網羅シテ調査スルトキハ或ハコレニ類スルモノ尚二三ノ存スルアルヲ發見スルデアロウト思フガ。吾輩ノ看ル處ニテハ適當ナル類例トシテ之ヲ掲グルニ適スルモノハ先是レ丈ケデアル。此十四例中赴援艦隊ガ其ノ目的ヲ貫徹シ得ザリシモノハ僅カニ四回ニ過ズシテ、其ノ他ハ其ノ來著若クハ出顯ト共ニ攻擊軍ノ不利ニ歸シタノデアル。此四回ノ戰例モ精細ニ吟味スルトキハ多クハ赴援艦隊ノ冷淡ナリシニヨリテ不成功ニ終ツタノデ眞面目ナル戰例ハタヾ一回（英將「フード」ノ「セント、キッツ」ハ塲合）ノミデアル。「セントルシヤ」ニ於ケル佛將ノ處置ノ如キ、（例令英將「バイロン」ノ來會スベキ風聞ヲ耳ニセシトハ謂ヘ）「グレナダ」及「ミノルカ」ニ於ケル英將等ノ行動ノ如キ明ニ此事實ヲ認ムルノデアル、「ミノルカ」ノ「ビング」ハ軍法ニ問ハレテ死刑ニ處セラレタルモ、「グレナダ」ノ「バイロン」ノ如キモコレニ伯仲スベキ懈怠ト謂ハナケレバナラヌ。「セント、キッツ」ノ戰例ノ如キハ假令眞面目ニ其ノ任務ニ從事シタリトハ言ヒナガラ、其ノ勢力ノ優劣相隔ルコト甚シク、到底赴援ノ目的ヲ果スニ足ラザルコトハ明白ナ次第デアル。依是之ヲ看レバ、後援艦隊ノ恐ルヘキハ勿論海上ヲ制セズシテ陸地ニ對スル進攻ヲ企ルノ無算ナルハ固ヨリ論ズルヲ待タズシテ明デアル。「リッサ」ノ海戰ノ如キハ誠ニ以テ戰慄スベキ結果トナツタノデアル。要スルニ此原則ハ古今ヲ通ジ未來ヲ盡スモ決シテ易ユベカラザル眞理ヨリ發生シタルモノニシテ、毫釐モ疑ヲ挿ムベキ餘地ナキハ今更新ニ之ヲ繰リ返スノ必要ガナイ。「サラミス」海戰ノ事情ノミニテモコレヲ原則トシテ紹介スルニ不足ガナイ。況シテ戰例第一及第二ニ於ケル形勢事情ハ悉ク之ヲ證明シテ餘ス處ガナイノデアル。故ニ吾輩ハ

後艦隊ノ威力

「海ヲ制セズシテ海島國ノ征服ヲ企ントスルハ無算ノ甚キモノナリ、故ニ海戰ニ於テ捷利ヲ得ベキ軍備充實スルトキハ十分ニ防衛ノ目的ヲ貫徹スルコトヲ得ベク、假令他ノ防禦設備堅實ナラザル

モ尙ホ能ク國防ノ任務ヲ全フスルニ足ルベシ。」

ト斷言セント欲スルノデアル。

吾輩ハ更ニ一歩ヲ進メ瀕海國ノ陸上ニ於ケル作戰ト海上ニ於ケル威力トノ關係ニ就キ研究スルニ、古來一トシテ海上ヲ制セズシテ善良ナル効果ヲ奏シタル先例ヲ看出スコトガ出來ナイノデアル。之レニ反シ海上ヲ制シタルガ爲メ、其ノ國防ヲ全フシ得タル前例ハ極メテ饒多デアルガ。凡ソ海ヲ距テ、相對スル對手國ガ一方ノ侵略ニ逢ハントシテ其ノ國難ヲ免レタル史例ハ殆ンド一トシテ此ノ類例ニ合セザルハナイノデアル。

海戰ノ敗後ニ於ケル陸軍ノ運命

我二十七八年戰爭ノ塲合ニ於テモ。マタ近ク三十七八年ノ塲合ニ於テモ、清國若クハ露國陸軍ノ來攻ニ關スル懸念ハ毫末ダモコレナカリシハ事實デアル、乃チ如何ニ杞憂ヲ抱ク人々ト雖モ清國陸軍ノ九州地方ニ來襲センコトヲ恐レ、露國陸軍ノ日本海方面ニ上陸スルヲ憂ヒタルモノハアルマイト思フ。此塲合ヲトリテ、自ラ考フレバ此等ノ信念ハ果シテ我陸軍ノ滿洲ニ於ケル捷利ノ爲ニ起リタリシヤ、抑又我海軍ガ海ヲ制セルヨリ起リタリシヤ、コハ疑ヒモナク後者ヨリ起レリトハ今更論ズル迄モナイノデアル。之ニ反シ、モシ假リニ我艦隊ハ黃海ニ敗レ日本海ニ打タレ敵艦隊ハ凜乎タル體勢ヲ以テ我對馬海峽ヲ抑制スルニ至レリトセバ、滿洲ニ於ケル數十萬ノ陸軍ハ波斯陸軍ノ前轍カ左ナクバ佛國ノ埃及遠征軍ノ如キ悲慘ナル最後ヲ遂ゲコレト同時ニ我邊海ノ不安ニ關スル恐怖心ハ一瀉千里ノ勢ヲ以テ我國民ノ腦裡ニ突入シ來ツタデアロウ。吾輩ハ佛軍ノ埃及ニ苦ミ波斯軍ノ「ギリシヤ」ニ餓死シタル先例ヲ憶ヒ、慨然トシテ我黃海ト日本海々戰ノ偉勳ヲ思ハザルヲ得ザルハコレガ爲デアル。則結局ニ於テハ、

如何ナル大陸軍モ恐ルヽニ足ラズ

「我帝國ニシテ東洋ヲ管制シ得ベキ海軍力ヲ有センカ、如何ナル大陸軍アリテ我ヲ覬覦スル塲合トモ雖モ毫モ我國安ヲ損ズルコトナシ。」

ノ原則ハ油然トシテ自ラ涌起シ、恰モ英國ニ於テ、

英國ハ其ノ主權者ガ海上ヲ制スル以上ハ到底之ヲ征服スルコト能ハザル邦國ナリ

ト傳唱スルト同樣ノ決論トナルノデアル。

海上ヲ制スルニ先チ其ノ陸軍ヲ輸送シタル前例ニ關シテハ既ニ前文ニ於テ之ヲ引用シ、吾輩ノ證セント欲スル凡テノ事實ヲ證明シ得テ餘リアリト雖モ。尙ホ重テ此意義ヲ明カニセンガ爲、海ヲ制スルニ先チ艦隊若クハ軍艦ヲ以テ輸送船隊若クハ商船隊ヲ護送シタル前例ヲ調査スルニ、是レ亦森嚴ナル一ノ訓戒ヲ吾輩等ニ與ルノデアル。是ト同時ニ船隊ノ護衞ハ直接ニ行フベキモノニハアラズシテ一國ノ威力ヲ以テ敵ノ威力ヲ海上ヨリ追攘シ、然ル後自由ニ其ノ目的地ニ航行セシムベキ方針ヲトルノ必要ヲ證明スルノデアル。コノ後段ノ方針ノ適切ナルハ日清及日露戰役ヲ以テモ證明スルコトガ出來ルノデアルガ、此訓戒ヲ知ラザリシ以前ニ於テハ輸送船隊ノ危險ハ豫想外ニ大ナルモノデアツタノデアル。英蘭戰役ノ塲合ノ如キモ其ノ一例デアル。戰役ノ經過ト共ニ其ノ經驗ヲ積ミタル後ハ蘭國政府ニ於テモ其ノ拿捕セラルヽ船舶ノ夥キニ驚キ總テノ船舶ニ出港禁止令ヲ發シ、先英國艦隊ヲ擊破シ然ル後コノ禁令ヲ解クベキ方針ヲトルニ至ツタノデアルガ、時機ハ既ニ逸シテ海軍ノ優勢ヲ維持スルニ由ナク、從テ遂ニ此禁止令ヲ解クコト能ハズシテ止ンダノデアル。當時蘭國ノ船隊ハ常ニ直接保護ヲ受ケ

タルニ關セズ、英人ノ手中ニ落タルモノ戰役開始後二箇年間ニシテ千七百艘ノ多キニ及ダノデアル。彼ノ有名ナル「ウアン、トロンブ」將軍ガ弦月ノ陣形ヲ以テ其ノ運送艦隊ヲ掩護シタル花々敷史例ニ於テモ、コノ不出世ノ勇將ガ不得已シテ敵手ニ渡シタル船舶ノ數ハ其ノ總船隊ノ五分ノ一ニ及ンダノデアル。若シ試ニ海上ヲ管制スルニ先チ五萬ノ陸軍ヲ輸送スルニ際シ、優勢ナル艦隊ニ會シ一萬ノ精兵ヲ失ヘリト假定セバ、誰カ其ノ無算ヲ責メザルモノアラムヤ。凡ソ百萬ニ近キ我陸軍ノ輸送ヲ行ヘルニ對シ、僅カ一艘ノ常陸丸ヲ失フテスラモ尚ホ且全國ヲ震駭セシメタルニアラズヤ。然ルニ、古來諸海將ガ不思議ニモ數々此訓戒ヲ忘レ筆紙ニ盡シ難キ苦戰ヲナシタルコト、其ノ例ニ乏シカラヌノデアル。殊ニ劣勢ナル艦隊ヲ以テ運送艦隊ヲ護送スルノ困難ナルハ言外ニ絶シタルモノト謂ハナケレバナラヌ。蘭將「デ、ロイテル」ガ「ブリマス」沖ニ於テ英將「アイスキユー」ノ優勢ナル艦隊ヲ破リ、自ラ引率シタル六十艘ノ商船隊ヲ安全ニ護衛シタルガ如キハ、實ニ千古ノ異例トモ稱スベキデアル。モシ當時蘭國ニ「デ、ロイテル」ノ如キ名將（吾輩ハ世界ノ海將ノ隨一トシテ將軍ヲ敬スルノデアル。）アリテ蘭艦隊ヲ指揮シ、我ヨリ攻勢ヲ取リテ勝利ヲ確メザリシナラバ、決シテ如彼好結果ヲ奏スルコト能ハザリシナラントハ、何人モ疑ハザル處デアル。況ンヤ二將ヲシテ其ノ處ヲ易ヘ「アイスキユー」ヲシテ護送艦隊ヲ指揮セシメタランニハ、果シテ如何ナル結果ヲ生ジタデアロウカ。中將ノ言ハ少ク奇矯ニ失スルノ感ナキニハアラザルモ「劣勢ナル艦隊ヲ以テ護送スルハ寧ロ全ク護衛ナク、而カモ單獨ニ航行セシムルニ如カズ。」トスルハ大ニ注意スベキ議論デアルト吾輩ハ信ズルノデアル。依テ吾輩ハ次章ニ於テコレヲ史例ニ訂シ果シテ此言ノ正當ナルヤ否ヤヲ點檢シヨウト思フ。

輸送艦隊ノ安否
戰例第二
船隊ト艦隊

第五章　輸送船隊ノ安否

戰例第三

軍隊輸送船隊若クハ商船隊（軍艦）ガ敵艦隊ヲ護衛スル艦隊（軍艦）ニ會シタル前例

◎大規模ナル船隊ノ場合

護送艦隊ノ劣勢ナル場合

對手國	回數	船隊ノ受ケタル損害 損害ナシ（不詳）	小損害	大損害	全破壞 全拿捕	護送艦隊ノ受ケタル損害 損害ナシ（不詳）	小損害	大損害	全滅或反テ敵ヲハ殆ド擊破ス
英對佛	五	一（一）	五	四	三（一）	一（一）	一	六	五
佛對英	四	一（一）							
蘭對英	二	二（一）			二				二
小計	二一	二（一）	五	六	七	一（二）	一	八	九

護送艦隊ノ優勢ナル場合

佛對英	三	二	一			二	一		

◎小規模ナル船隊ノ場合

護送艦隊ノ劣勢ナル場合

英對佛	二		一		一																		
佛對英	三		一																				
英對米	一		一																				
西對英																							
小計	八	三	二	二	三	一	一	三	三	一	一	三	三	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一

護送艦隊ノ優勢ナル場合

佛對英	一																						
英對米	一																						
西對英	一																						
英對西																							
英對佛	三	三																					
小計	七	四	二	一																			

彼我勢力ガ殆ンド相匹敵セル場合

佛對英	一	一																					

通計

合計	四〇	一二（一）	七	一〇	一〇	四（二）	六	一二	一三	三													

備考

右四十例中「自己ノ艦隊ヲ犧牲トシ殆ンド全滅ニ瀕スル迄奮戰シ船隊ヲ掩護シ其ノ目的ヲ達シタルモノ」（一七四七、「ホーク」ノ例）「遠距離ヨリ其ノ船隊ヲ避ケシメ己レハ其ノ附近ニアル他ノ艦隊ニ合シ敵ト會戰シタルモノ」、（一七四八、「ホルムス」ノ例）「自己ノ安全ヲ圖ンガ爲商船隊ヲ捨テ全滅セシメタルモノ」（一七四七、「ド、ラ、モット」ノ例）「優勢ナル艦隊ヲ引率シツヽ其ノ船隊ノ捕獲ヲ傍觀シタルモノ」（一七八一、「ド、ギシャン」ノ例）「潛ニ敵船隊ニ混入シ機智ヲ以テ偉功ヲ奏セルモノ」（一七七七、米艦「ロレー」ノ例）ノ如キ特種ノ史例各一アリ、此他優勢ナル艦隊ヲ有シツヽ劣勢ナル護衛艦隊ヲ敗ルコト能ハズ、又其ノ船隊ヲタモ拿捕スル能ハズ、反テ其ノ一艦ヲ捕獲セラレタル（一七九九、英艦「クレセント」ノ偉功）ガ如キアリ、又攻擊艦隊ガ他ノ任務ニ赴クニ急ニシテ船隊ノ捕獲ヲ念トセザリシ前例（一七六二、「ローレー」ノ例）等アリ。

（一）千六百九十三年英將「ルーク」船隊ヲ護送シ佛艦隊ノ攻擊ヲ受ケ其ノ船隊ノ殆ンド全部ヲ失フ。（史例第二十一ノ二參照）

（二）千七百五年佛將「セントポール」英船隊ノ全部ヲ拿捕ス。（史例第二十六參照）

（三）千七百七年佛將「フォーベン」英船隊ヲ「ダンジネス」ニ迎ヘ其ノ二十艘ヲ捕獲ス。（史例第

二十八參照）

（四　同年佛將「フォーベン」「リスボン」ニ行クベキ英艦隊ヲ攻擊シ其ノ護送艦隊ヲ全滅セシム。（史例第二十八參照）

（五）千七百四十五年英將「タオンスエンド」佛ノ西印度船隊ヲ攻擊シ大損害ヲ與ヘタリ。（史例第三十九參照）

（六）千七百四十七年英將「ケビテン、フヲクス」佛將「デユポア、ド、ラ、モット」ノ護送スル艦隊ヲ攻擊シ其ノ全數ヲ拿捕ス、此際佛將ハ自己ノ安全ヲ期センガ爲戰ヲ避ケテ「ブレスト」ニ入リタリ。（史例第四十五參照）

（七）千七百四十七年英將「アンソン」佛國船隊ヲ「フイニスチヤ」岬ノ沖合ニ攻擊シ殆ンド其ノ護送艦隊ノ全部ヲ捕獲セリ。（十四艘ノ內十二艘）（史例第四十三參照）

（八）千七百四十七年英將「ホーク」佛將「ド、レタンヂユエール」ノ護衛スル佛國船隊ヲ攻擊シ殆ンド護送艦隊ノ全部ヲ捕獲セリ。（十艦中ノ六艘但十艘中二艘ハ戰ニ會セズ）（史例第四十四參照）

（九　千七百四十八年英將「ケビテン、ホルムス」ノ護送船隊西艦隊ニ會ス。（史例第四十六參照）

（十）千七百五十八年英將「ケビテン、パリサー」「ブレスト」沖ニテ佛國ノ沿岸航行艦隊ヲ捕獲ス。（史例第五十二參照）

（十一　千七百六十年英「ケビテン、ノーバリー」佛國ノ護送船隊ヲ擊破ス。（史例第五十八參照）

（十二）千七百六十二年英「ケビテン、ローレー」英國ノ商船隊ヲ護送ス。（史例第六十五參照）

（十三）千七百七十七年米艦「ローレー」英國船隊ヲ騷ガス。（史例第六十七參照）

（十四）千七百七十八年英艦「アポロ」佛國船隊ヲ襲ヒ其ノ護衛船一艘ヲ捕獲ス。（史例第六十八參照）

（十五）千七百七十九年英艦「ジユピター」佛國艦隊ヲ襲フ。（史例第七十五參照）

（十六）千七百七十九年米「ケビテン、ジヨン、ボール、ジョーンス」英艦「セラピス」以下ノ艦隊ヲ以テ護送スル英國艦隊ヲ攻擊シ「セラピス」ヲ捕獲ス。（史例第七十六參照）

（十七）千七百七十九年英「ケビテン、フイールデンク」蘭國輸送船隊ヲ捕獲ス。（史例第七十七參照）

（十八）千七百八十年英將「デクビー」佛ノ船隊ヲ攻擊ス。（史例第七十八參照）

（十九）千七百八十年英「ケビテン、モートレー」ノ護送艦隊佛西連合ノ艦隊ニ會ス。（史例第七十九參照）

（二十）千七百八十年英將「コーンウオリス」佛將「テルネー」ノ護送スル佛國艦隊ニ會フ。（史例第八十三參照）

（二十一）千七百八十一年英「ケビテン、レーノルヅ」「ロドニー」ノ命ヲ受ケ蘭國船隊ヲ捕獲ス。（史例第八十參照）

（二十二）千七百八十一年佛將「ドグラス」佛國艦隊ヲ護衛シ英將「フード」ト戰フ。（史例第八十七參照）

(二十三)千七百八十一年英將「ケンペンフエルト」佛將「ギシヤン」ノ護送スル船隊ヲ攻擊ス(史例第八十八參照)

(二十四)千七百八十二年佛將「ド、グラス」佛國艦隊ヲ護衛シ、英將「ロドニー」ト「セーンツ」ニ戰フ。(史例第九十六參照)

(二十五)千七百八十二年英將「バリングトン」佛國船隊ヲ攻擊捕獲ス。(史例第八十一參照)

(二十六)千七百九十四年英將「ホー」米國船隊ヲ遮斷セント欲シ佛將「ウイラレ、ジヨワイユーズ」ト戰フ。(史例第百十參照)

(二十七)千七百九十五年英將「コルンウオリス」佛將「ウエンス」ノ護送スル船隊ヲ攻擊ス。(史例第百二十二參照)

(二十八)千七百九十五年佛將「リシエリー」英國船隊ヲ捕獲ス。(史例第百二十三參照)

(二十九)千七百九十五年英「ケピテン、ウイルソン」佛國船隊ヲ逸ス。(史例第百二十四參照)

(三十)千七百九十四年英「ケピテン、ボイルス」船隊護送中佛艦ヲ捕獲ス。(史例第百十七參照)

(三十一)千七百九十六年英「ケピテン、ストラチヤン」佛國船隊ヲ捕獲ス。(史例第百四十七參照)

(三十二)千七百九十六年英「ケピテン、ウアーレン」佛國船隊ヲ攻擊ス。(史例第百四十八參照)

(三十三)千七百九十九年英艦「サーベラス」單艦敵ノ護送船隊ヲ突ク。(史例第百五十三參照)

(三十四)千七百九十九年英艦「クレツセント」船隊ノ護衛中西艦一艘ヲ捕獲ス。(史例第百五十四參照)

(三十五)千七百九十九年英「ケピテン、ダツフ」船隊ノ護衛中佛艦一艘ヲ捕獲ス。(史例第百五十五參照)

(三十六)千八百〇五年英將「トローブリツチ」船隊ヲ護衛中佛艦隊ヲ擊退ス。(史例第百八十二參照)

(三十七)千八百〇六年佛將「ボーデン」船隊ヲ護衛中英將「コリンウード」ニ攻擊セラル。(史例第百九十一參照)

(三十八)千八百〇六年英「ケピテン、オスボーン」船隊護衛中佛艦「カノニエー」ト戰フ。(史例第百九十二參照)

(三十九)千八百〇八年英「ケピテン、マクスウエル」「カデス」附近ニ於テ西國艦隊ヲ攻擊ス。(史例第百九十五參照)

(四十)千八百十年英艦「テームス」佛國陸軍輸送船隊ヲ奪フ。(史例第二百十五參照)

因ニ千七百九十年頃ヨリ以降ハ、英國ノ制海權モ以前ニ比シテ鞏固トナリタルヲ以テ、大陸諸國ノ大輸送ヲ企ルモノ尠ク、從テ英國輸送船隊ノ敵艦隊ニ會スルモノ亦從テ減少シタリ。此時代ニ於テハ主トシテ海岸ニ於ケル短航程ノ輸送ヲナシタルヲ以テ、適當ナル史例ヲ得ルコトマタ甚ダ稀ナリ。殊ニ千八百年代ニ入リテハ、英國艦隊ノ活動力彌々增加シ、多クハ敵ノ海岸若クハ港灣ニ碇泊スル輸送船隊ヲ其ノ未ダ發セザルニ攻メ、或ハコレヲ其ノ避難地點ニ突クモノ

多ク、從テ海洋上ニ於ケル先例ヲ得ルコト極メテ尠シ。又「ナポレオン」戰役終結ノ後ニ於テハ、大船隊ガ陸軍ノ輸送ニ任ジタル類例多シト雖、戰役其ノ物ノ性質上敵艦隊ニ會シテ苦ムガ如キコトナキヲ以テ、千八百十四年以降ニ於テハ殆ンド一モ適當ナル先例ニ會スルコトナシ。

輸送船及艦隊ノ運命

右ニ掲ゲタル諸例ニ就テ調査スレバ、大規模ノ船隊ヲ護送スルニ際シ護送艦隊ノ劣勢ナル場合ニ於テハ、二十一例中十三回ハ慘酷ナル大損害ヲ受ケ、其ノ十回ハ殆ンド全滅ニ瀕スルノ打擊ヲ受ケタノデアル。護送艦隊ノ損害ニ至テハ更ニ甚ク、其ノ大損害ヲ受ケタルハ十七回ノ多キニ及ビ其ノ九回ハ殆ンド敵ノ爲ニ全滅セシメラレタノデアル。護送艦隊ノ優勢ナル場合ニ於テハ幾分カ危險少キガ如キモ、コレトテモ安全ナリトハ稱シ難ク、其ノ三例中一回ハ大損害ヲ受ケタノデアル。而シテ輸送ノ規模ノ大ナラザル場合ニ於テモ損害ノ割合ハ殆ンドコレト同率デアル。

損害ノ大小、護衛艦隊指揮官ノ豪膽ト其ノ技倆ニ待ツ處多キハ、固ヨリ理ノ當然デアル。サレバ劣勢ナル護送艦隊ヲ以テ、優勢ナル敵ニ對シ、其ノ任務ヲ全フシタルノミナラズ、反テ敵艦ヲ捕獲シタル如キ異例ナキニアラザルモ。是等ハ雙方關係上、豫想外ニ出來上リタル事蹟ニシテ、之レヲ豫期スルコトハ到底不可能デアル。彼ノ有名ナル英將「ルーク」ノ如キハ三十一艘ノ大艦隊ヲ以テ四百艘ニ近キ「スミルナ」艦隊ヲ護衛中、不幸ニシテ佛將「ツールヴイル」ノ優勢ナル艦隊ニ發見セラレ。其ノ目前ニ於テ「ライン」艦二艘商船九十餘艘ヲ捕獲セラレ擊沈セラレ。佛將「ジョンキエール」侯ノ如キハ「アンソン」將軍ニ會シ殆ンド全艦隊ヲ捕獲セラレ戰慄スベキ史例ヲ後世ニ殘シタノデアル。

由是觀之大船隊ニ護衛艦ヲ附シ、未制ノ海上ニ向ヒ發航セシムルガ如キ危險多キ計畫ハ、斷然之ヲ廢シ、必先海上ヲ廓清シテ自己庭中ノ沼池トナシ、然ル後安全ニ其ノ艦隊ヲ發航セシムルノ順序ヲトルヲ以テ、原則トナスベキハ明白デアル。又此史例上ニ掲ゲタル佛將「ド、グラス」ガ英將「フード」ニ對シ其ノ護送艦隊ヲ掩護シ首尾ヨク其ノ目的ヲ果セル先例ヲ基礎トシ、護送艦隊ニ關スル全般ノ形勢事情ヨリ推斷スルニ、船隊護衛ノ最良ナル戰術ハ、護衛戰ヲ主眼トナサズ成ルベク純粹ナル海戰ヲナサント心掛ケ此目的ヲ遂行スルニ適當ナル運動ヲ戰鬪開始前ニ行フニアリ、ト云フコトガ分ルノデアル。

此ノ見地ヨリ看レバ船隊護衛ハ理論上必ズシモ困難ナラザルガ如キモ、如此作戰ハ已レノ大優勢ナル場合ニ於テ初メテ奏功スベキモノニシテ、モシ萬一敗走スルガ如キコトアラバ其ノ結果ノ誠ニ畏ルベキハ史例ノ示ス處ニヨリ極メテ明白デアル。故ニ原則トシテ決シテ右ノ如キ僥倖ヲ望ムコトガ出來ヌ

右ノ四十例ハ護送船隊ガ敵ニ會シタル凡テノ場合ヲ網羅スルノデハナイ。吾輩ガ小規模トシテ計上シタル史例ト雖モ、相當ナル規模ヲ以テ實施サレタモノデ、餘リニ小規模ナル史例ハ其ノ煩ヲ避ンガ爲ニ悉ク之ヲ削除シタノデアル。加之吾輩ノ揭ゲタル史例ハ固ヨリ大船隊護送ノ總テヲ包含スルト云フノデハナイ。敵艦隊ニ會セズシテ其ノ目的地ニ安著シタル先例ノ更ニ多キハ勿論デアル。乍去吾輩ハ大西洋ノ如キ渺茫タル海上ヲ通ジテ其ノ陸軍ヲ輸送スル場合ヲ考ルノ必要ガ少ナイ。又如此大洋ヲ通ジテ來ルベキ敵ノ船隊ニ關シ之ヲ研究スルノ急ヲ認メヌノデアル。吾輩ハ帝國々防上ノ實際問題ヲ基礎トシ狹隘ナル東洋ノ小區域ヲ舞臺トシテ之ヲ調査スレバ充分デアル、西大陸ヨリ太平洋ヲ踰ヘ數十萬ノ大陸軍ヲ輸送シ來ルガ如キ破天荒ノ場合ハ今日之ヲ研究スルノ必要ガナイ。然ルニ我日本海支那

海及黃海ノ如キ狹キ水域ニ於テハ敵艦隊ニ會セズシテ輸送ノ目的ヲ貫徹スルコトガ出來ヌ。(海ヲ制スル場合ハ勿論此ノ患ナキモ)殊ニ通信機關ノ完備スル今日ニ於テハ殆ンド敵ニ知ラレズシテ大輸送ヲ行フコトハ出來ヌト云フテモ差支ガナイ。從テ右ニ述ベタル史例ハ護送船隊ノ全部ヲ意味スルモノト假定スルモ一向差支ナイノデアル、獨リ差支ナキノミナラズ爾ク認定スルノガ至當デアル。

於是吾輩ハ原則トシテ左ノ一言ヲ讀者ニ紹介シヨウト思フ。

『陸上移動軍ノ海上輸送ニ關スル事項ハ、制海的武力ノ整否ヲ先決問題トシ、海上移動軍ノ直接保護ヲ要セザル時機ニ於テ之ヲ行フヲ準則トシ其ノ計畫ヲナスベシ』

「コロム」中將ハ此問題ニ就キ其ノ論旨ヲ進メ左ノ如ク云フテ居ラル、ノデアル。

「千五百八十一年ノ「アルマダ」戰役ニ於ケル西兵ノ上陸、千八百六十六年ニ於ケル「リッサ」島ノ攻擊、及ビ埃及ニ於ケル「ナポレオン」ノ遠征トニ就テ之ヲ察スルニ、其ノ失敗ヲ致セル主因ハ、海軍戰術ノ著明ナル原則ヲ蔑視セルニアルノミ、故ニ此原則ニ遵由シ、敵艦隊ノ現在スル海上ヲ踰ヘテ敵地ニ進攻セント欲セバ、必之ヲ行フニ十分ナル海軍ヲ用ザルベカラズ、而シテ此海軍ハ之ヲ甲乙ニ分チ甲ハ敵ノ艦隊ヲ牽掣シテ其ノ行動ヲ拘束シ、乙ハ則其ノ上陸軍ヲ掩護セサルベカラズモシ此二艦隊ヲ派遣スルニ十分ナル艦隊ヲ有セズンバ、敵地進攻ハ決シテ之ヲ行フベカラズ。若シ强テ其成功ヲ僥倖セント欲セバ或ハ一時天幸ヲ享ルコトアルモ、必ズヤ竟ニ失敗ニ終ラン。

ト言ハレタコトガアル。是レハ誠ニ注意深キ而モ完全ニ近キ戰策ニハ相違ナイガ。吾輩ハコノ議論ハ贅澤ニ失シ而カモ十分ニ安全ナリトハ明言シ難シト信ズルノデアル。則吾輩ハ斷ジテ右ニ揭ゲタル原則ヲ主張スルノデアル、モシ果シテ中將ノ如キ勢力ヲ有ストセバ右ノ如キ戰策ヲトラズシテ先第一ニ相當ノ程度迄海上ヲ廓清スル方カ更ニ完全デアル。

乍去二十七八年戰役ニ於ケル仁川花園口及桑城灣ノ輸送ハ、果シテ此原則ニ合スルモノナリヤ否ヤノ問題ハ、聊カ講究スベキ價値アリト吾輩ハ信ズル。仁川輸送ニ際シテハ、敵艦隊尙海上ヲ雄飛スベキ實力ヲ備ヘテ居タノデアル。故ニ我艦隊ハ未ダ十分ニ海上ヲ管制スルニ至ラズトナシ、實力保護ノ下ニ輸送船隊ヲ發航セシメタノデアル。是レ如何ニモ原則ヲ無視スルガ如ク看ユルノデアルガ。當時ノ情況ニ依レバ、清艦隊ガ其ノ全力ヲ擧ゲ朝鮮ノ南西ニ近ク顯ハル、コトナカルベキハ殆ンド明白ナル事實ニシテ。清國艦隊ハ豐島海戰ノ後實ニ朝鮮西岸ノ海上ヲ捨テ、之ヲ我軍ニ委シ。事實上我艦隊ハ該海上ヲ管制シテ居タノデアル。然ルニ我艦隊ガ實力ヲ以テ而カモ全力ヲ以テ之ヲ護送シタルハ、注意ノ周到ニシテ畫策ノ綿密ナルヲ證スベキ好史例デアル。花園口及桑城灣ノ輸送ニ至テハ敵艦隊既ニ黃海ノ一戰ニ辟易シ其ノ軍港ニ蟄伏シ、制海ノ實權ハ事實上我艦隊ノ掌裡ニアッタノミナラズ。我軍ハ「コロム」中將ノ言ノ如ク、敵ヲ制壓スベキ艦隊ト、輸送船隊ヲ護衞シ上陸地點ヲ攻擊スルニ足ルベキ他ノ特務艦隊ヲ併有シ、且敵ノ所在ヲ明白ニ知悉シタ上ニ決行シタノデアル。日露戰爭中ニ於ケル大輸送ノ如キハ、殆ンド絕對ニ右ノ原則ニ遵由シ、護衞ヲ附セズシテ自由ニ其ノ船舶ヲ往返セシメタノデアルガ。コレガ準備トシテ旅順ノ艦隊ニ大打擊ヲ加ヘテ蟄伏セシメ、或ハ間接射擊ニ、或ハ閉塞船隊ニ、或ハ機械水雷ニ、有ラユル手段ヲ盡シ、敵艦隊ノ逸出ヲ妨ゲ、更ニ嚴密ニ哨艦ヲ配置シ、且我艦隊ノ主力ヲ以テ之ヲ監視シ日夜其ノ出動ニ備ヘテ怠ラナイノデアッタ。

敵ヲ外洋ニ覓ムルノ困難

吾輩ガ是レマデ引用シタル史例ハ、我海軍ニシテ海上ヲ制壓スルドキハ、國防ノ實ヲ擧ゲ我國土ノ神聖ヲ維持シ得ベキ望確實ナルヲ證シテ餘リアリト吾輩ハ信ズルノデアル。乍去敵ヲ外洋ニ覓メテ萬誤ナキヲ期スルハ難事中ノ難事デアル。即敵ノ出發以後ニ於テ之ヲ搜索スルハ極メテ困難ナル事業デアル。此事ニ關シ「ロード、ホー」ノ逢ヒタル千七百九十四年ノ戰例ノ如キハ誠ニ善キ敎訓ヲ吾輩等後人ニ與フルノデアル。此戰ハ既ニ第三戰例ノ二十六ニモ擧上シアル如ク、「ロード、ホー」亞米利加艦隊ヲ遮斷セントシ佛將「ウイラレー、ジョリイエーズ」ト戰フタノデ。英人ガ「名譽ノ六朔」(則名譽ノ六月一日)ト稱シ盛ニ「ホー」ノ功績ヲ稱スルノデアルガ、佛艦隊ヲ發見センガ爲ニ英艦隊ノ苦心シタコトハ實ニ容易デナイノデアッタ。原來此海戰ハ輸送船隊ノ護衛及遮斷ヲ以テ目的トセシモ護衛艦隊ノ規模大ナルヲ以テ有史以來稀ニ見ルノ大海戰トナリ、マタ當初ノ目的ヲ問フモノナキニ至ッタノデアルガ、「ロード、ホー」ガ「アシャント」ヲ去リ輸送船隊ノ搜索ヲ主トシコレガ爲メ一時不利ノ姿勢ニ陷リタルノ事蹟ハ、後學ノ大ニ味フベキ處ニシテ確實ナル監視點ヲ去リ、廣漠タル洋上ニ目的物ヲ搜索セント欲シタルハ一ニ佛艦隊ノ出航ニ先チ奇利ヲ博セントスルノ小利ニ迷ハサレタルモノデ、敵ノ主力艦隊ニ膺接シ丞ニコレヲ擊破スルハ更ニ有効ナルヲ憶ハザルノ致ス處デアル、(如何ナル場合ニ於テモ一時偶發スル小利害ノ方面ニ迷ハサレザルヲ期スルハ海將ノ殊ニ注意セザルベカラザル處ナルベシ)

讀者若此史例ヲ調査吟味セバ敵艦隊ノ監視ハ是非トモ之ヲ敵ノ近海ニ於テスルノ必要アルヲ悟リ。其ノ方針トシテハ我聯合艦隊ノ日清及日露戰役ニ於ケル威海衞及旅順封鎖ノ如ク、常ニ敵艦隊ニ接著スルノ必要アリ。之ヲ外洋ニ迎接スルガ如キハ獨リ其ノ作業ノ困難ナルノミナラズ充分ニ其ノ目的ヲ達スルコトモマタ困難ナリトノ理ヲ了解シ得ラルヽデアロウ。我第二艦隊ガ浦鹽艦隊ニ對シ六百里外ヨリ之ガ動靜ヲ監視シタルガ如キハ其ノ任務トスル處、固ヨリ同艦隊ノ封鎖若クハ監視ニアラズシテ、對馬海峽ヲ通過シテ南下スルコト能ハザラシムルニアリ、從テ同海峽附近ヲ離ルヽコト能ハザルガ故ニ、嚴密ニ浦鹽艦隊ノ動靜ヲ監視スルノ目的ニハ應ゼヌノデアル。例令ヘバ「ジブラルター」ニアリテ「ツーロン」ヲ監視シタルガ如キモノデアル、サレバコソ海峽ヲ閉塞シテ敵艦隊ノ南下ヲ杜絶スルコトハ充分ニ其ノ目的ヲ果シタノデアルガ、其ノ出動ヲ抑制シ、或ハ我商船ニ對スル攻勢的行動ヲ抑制シ得ザリシガ如キハ自然ノ結果デアル。モシ絶對的ニ獨立ノ姿勢ヲトリ自由ノ行動ヲ取リ得ベキ情況ニ於テハ、浦鹽近海ニ監視線ヲ張リ其ノ附近ニ根據ヲ定メテ此任務ニ從事シタルランニハ、或ハ一層良好ナル結果ヲ得シヤモ亦計ラレヌノデアル。如何セン我艦隊ノ主力ト千海里以上モ隔在スルハ勢力ノ關係上到底許シ難キ處デアル。通信ノ比較的便利ナル對馬海峽ニアッテ守勢的ニ同海峽ヲ守ラナケレバナラヌノデアル。モシ當時重キヲ浦鹽ニ置キ相當ノ通信設備ヲ同方面ニ起シ、第二艦隊ヲ以テ浦鹽港ノ直接監視ニ任ゼシメタリトセバ對馬海峽通過ニ對シテハ幾分カ不安心ナルヤモ計ラレヌトハ謂ヘヽ、同艦隊ノ出動ヲ抑制スルニハ遙カニ有効デアッタデアロウ。併シナガラ更ニ精細ニ考レバコハ到底行ヒ難キ空論デアル。浦鹽港ノ確實ナル監視ハ濃霧ノ爲殆ンド不可能デアル、是非トモ濃霧ノ比較的ニ少キ南方ニ下ラナケレバナラヌ、果シテ此必要アリトセバ洋上ニ之ヲ監視スルカ、若クハ對州海峽ニ於テナサヽルヲ得ヌノハ理ノ當然デアル。故ニ敵ノ監視ハ是非トモ敵海ニ於テスルノ必要アリトノ原理ハ、

是等ノ事情ヨリ不可能ニ屬スル場合アリ、從テ其ノ戰策ヲ變易スルノ必要ガアル。サレバコソ不得已六百海里ノ遠方ヨリ其ノ動靜ニ對應スルノ困難ニ遭遇シタノデアルガ。假令ハ「ロード、ホー」ガ最後ニ於テ六月一日ノ快戰ヲ得タルガ如ク、我第二艦隊モ亦八月十四日ノ戰捷ヲ得タルニハ相違ナキモ、其ノ間ノ苦衷ト困難トハ容易ナコトデハナイ。況ンヤ索敵ノ困難ナルハ獨リ海面ノ廣キニ比シ、其ノ眼界ノ狹キガ故ノミナラズ、視界ノ廣狹ハ天候ニヨリ變易シテ一定ナラズ、相反航スル艦隊カ殆ンド相擦過シタル場合ニ於テモ尙互ニ悟ラザリシ前例モ少カラヌノデアル、「ロード、ホー」ノ場合モマタ其ノ一例デアル。其ノ航路ノ相交叉スル場合ノ如キハ、其ノ角度ノ大ナルニ從ヒ相發見スルノ機會彌々減ズルノデ。「ネルソン」ガ「ナイル」ニ急航スル當リ、其ノ航路ハ佛艦隊ト鋭ク相交叉シ、且相同航シタルニモ關セズ、マタ水面ニ印セル佛艦隊ノ航跡ガ明ニ英艦隊ノ注意ヲ惹キ起シタルニモ係ラズ、終ニ之ヲ發見スルコトガ出來ズシテ終タノデアル。天氣晴朗ノ場合ニ於テスラ此通リデアル。又千七百九十九年ニ「ロードキース」ガ「セントヴインセント」伯ノ後ヲ受ケ「ツーロン」監視ノ任ニアルニ際シ、佛艦隊ガ「ゲノア」ヲ發シ海岸ニ沿フテ「ツーロン」ニ徐航シタルトキノ如キ、正ニ英艦隊ノ後ニ隨フタノデアルガ、「キース」ハ終ニ之ヲ知ラズ、無事ニ「ツーロン」ニ入港セシメタノデアル。(佛艦隊ハ「キース」ガ西班牙ノ「ローサス」ニ赴援ノ爲「ツーロン」港外ヲ去リタル後僅ニ數時間ニシテ入港シタリ。)又千八百七年ニ於テ彼ノ有名ナル「コリングウード」ハ「シヽリー」ノ「シラキユース」ニ碇泊中佛將「ガントーム」ハ一艦隊ヲ率キ陸軍ノ輸送艦隊ヲ護衛シ「コルフ」ニ到ランガ爲「シヽリー」ノ南東角ヲ航過シタノデアルガ、兩將軍ハ實際ニ於テ幾何モナキ近距離ニアリナガラ、互ニ相知ラズシテ終タノデアル。我日露戰役ニ於テ第二艦隊ガ浦鹽港外ヨリ元山ニ向ヒ航行中、露艦隊ト僅ニ三十海里內外ノ距離ニテ相航過シナガラモコレヲ發見スルコトガ出來ヌノデアツタガ。(當日ハ濃霧四塞セリ且相航過セシハ夜間ナリキ、是等モ外洋ニ於テ敵艦隊ト相會スルコトノ困難ナルヲ證スベキ適例デアル。相索メテ戰ハントスル場合ニ於テハ兎モ角其ノ一方ガ敵ノ耳目ヲ避ケテ目的地ニ至ラントスル場合ノ如キハ、是レヲ發見スルコト殆ンド不可能ナリト謂フテ差支ナキ位デアルト吾輩ハ信ズル。故ニモシ不幸ニシテ敵ノ遠征軍ガ我監視艦隊ノ視界ニ入ラズシテ、直ニ我海岸ニ殺到スルガ如キコトアラバ、獨リ海上ノ勢力ニノミ依賴スルコト能ハザルハ勿論デアル。然ラバ則

『我帝國ニシテ東洋ヲ管制シ得ベキ海軍力ヲ有センカ、如何ナル大陸軍アリテ我ヲ覬覦スル場合トヽ雖モ我國安ヲ損スルコトナシ。』

トノ原則ハ其ノ基礎ニ於テ少ク動搖ヲ來スモノハト謂ハナケレバナラヌ。古來ノ史例ニ於テモ此ノ不安ヲ證明スベキ史例ナキニアラズ。千七百九十六年ニ於ケル侵英作戰中、佛將「オーシユ」及「ウンベール」ノ愛蘭送兵ノ如キハ則チソレデアル。

右ノ二例ハ國防史上大ニ注意スベキ訓戒ヲ吾輩ニ與ヘテ居ルノデアルガ、簡單ニ其ノ事情ヲ記述スルトキハ反テ其ノ際ニ於ケル眞相ヲ察知スルニ困難ナルガ故ニ、吾輩ハ奇襲軍ニ關スル大體ノ記述ヲナシ、進ミテ此意義ヲ調査セントスル讀者ニ對シテハ本史論ヲ紹介スルニ止メント欲スルノデアル。

奇襲軍ノ成敗

第六章　奇襲軍ノ成敗及敵海封鎖ノ効果

海上威力ノ優勢ナル邦國ニ對シ、奇襲ヲ以テ効果アル攻擊ヲ加ヘントスルハ、到底望ミナキ事柄デアル。是ヲ史乘ニ徵スルモ、明々白々毫釐モ疑ヲ容ルヘキ餘地ナキハ明デアル。サリナガラ「英國侵入可能論」ト云ヒ「制海權不萬能論」ト云ヒ、(必竟杞憂ニ過ギサル心配論ニ過ギズトハ云ヘ)、相當ノ識見ヲ有スル人士ニヨリテ稱導セラレ討論セラレツツアル現時ニアリテハ、マタ相當ノ敬意ヲ拂フテ之ヲ研究スルノ必要アルハ無論デアル。彼ノ有名ナル英將「ロバーツ」元帥ヲ始メ、英國知名ノ志士ハ、陸軍ノ改良及擴張ニ盡瘁シ終ニ百萬ノ公民軍ヲ編組スルノ議ヲ決シタルモ誠ニ無理ナラヌ話デアル。

英國元帥ノ演說

千九百八年十一月二十三日英國上院ニ於テ、「ロバーツ」元帥ノナシタル國防演說。

千九百八年十一月二十三日、「ロバート」元帥ハ千九百七年五月十八日「ウヰドマス」卿ノナシタル提案ニ對シ、王國政府ノ注意ヲ拂ハンコトヲ求メ、且國防會議ガ、千九百五年五月ニ議決シタル議決案ニ基キ、國防ヲ完整スルニ意アルヤ否ヤヲ問ヒ、且左ノ如キ決議案ヲ提出セリ。

王國議會ハ、島王國ノ防禦上、王國政府ノ强盛ナル海軍ニ加フルニ、其ノ兵數及實力ニ於テ最モ强勢ナル外國ヲシテ、王國ノ沿岸ニ上陸スルヲ難セシムルニ足ルベキ陸軍ヲ速ニ備フルノ必要ナルニ留意スベキ必要アルヲ決議ス。

王國議會ハ、北海ニ於ケル戰略的關係ノ變移ニ對シ、王國政府カ、千九百五年ニ於ケル「バルフオア」氏ノ提言ニ基キ、外寇問題ニ關スル「ステートメント」ヲ作リ、帝國國防會議ノ審査シタル決論ヲ明確ニ開陳スルヲ王國政府ニ要望ス。

「ロバーツ」卿ハ右ノ決議案ヲ提出シテ曰ク。

諸卿、予ハ本國防衛ノ極メテ重要ニシテ死活問題ト見ルベキヲ訴ヘ、諸卿ノ眞率ナル考慮ヲ煩サント欲セルコト既ニ二年ニ及ベリト雖、予ノ首肯シ難キ或ル理由ニヨリ、常ニ否決ノ運命ニ接セリ。コレ蓋シ我國民ガ此警告ヲ迎フルニ意ナク、唯々自己ノ營利ニ汲々シ、今ヤ可驚速度ヲ以テ變轉シツヽアル、世界ノ趨勢ヲ大觀スルニ遑ナキノ致ス處ニアラザルナキヲ知ランヤ。

卽チ彼等ハ軍備ノ重スベキヲ知ラス、唯之ヲ其ノ主任タル當事者ノ處置ニ放任シ自ラ以テ安スルニ足レリトスルノ看アリ。而カモ其ノ國事ヲ主掌スル當局者トハ、卽チコレ諸卿ニアラズシテ唯ゾヤ。然ルニ國防ニ關スル予等ノ警告ヲ受ケタル諸卿ハコレヲ重視スルニ意ナク、今ニ至リテ何等ノ成果ヲ見ル能ハザルハ、吾人ノ慨嘆ニ堪ヘザル處ナリ。

昔時貿易ノ隆盛ヲ極メタリシ海國ガ、其ノ國民ノ商人的觀念ニ專ナリシ爲メ、憐ムベキ末路ヲ示セルモノアルハ、史上歷々トシテ數フルニ足ルベシ。然ルニ諸卿ハ如何ナル邦國ト雖モ、我英國ヲ攻擊スルニ躊躇スルガ如キ威力ヲ保維スルハ、一ニ諸卿ノ責任ニ歸スルヲ遺レ。現時ニ於ケル列强ノ情態ト、强隣ノ發展トハ我海軍ヲシテ獨リ優勢ヲ肆ニセシムルヲ許サヽルニ至レルヲ知ラザルガ如キハ、コレ實ニ諸卿ノ爲ニ取ラザル處ナリ。予ハ恐ル、モシ果シテ諸事ヲ現狀ノ儘ニ放任シ、進デ我强隣ヲシテ我ヲ攻擊スルニ躊躇セシムルニ足ルベキ武力ヲ養成スルヲ怠ルガ如キコトアラバ。恐ベキ警報ハ遠カラズシテ我國民ノ耳朶ヲ衝テ來ルアランコトヲ。

一部ノ政治家ハ、軍備費ノ節減ヲ主張センガ爲メ、我英國ガ他國ノ侵略ヲ受クルノ憂全然コレナキヲ說キ、是レ必竟世ノ誇言者ガ、大陸ノ隣邦ガ、平和ノ爲通商ノ爲メニ行ヘル海上ノ發展ヲ以テ、我國ニ侵入スルノ準備ヲ含メルモノト臆測スル一派ノ詭言ニ過ギズトナスモノアリ。而シテマタ吾ニシテ制海權ヲ把握シ、而カモ尙敵軍ノ我國內ニ侵入センコトヲ恐ル、ガ如キハ、全クアリ得ベカラザルノ杞憂ニ過ギザルヲ說キ、又或ル者ハ有事ノ際ニ於ケル民兵ニ囑望シ、ヨツテ以テ國防ヲ全セント欲スルモノアリト雖モ元來此兵タルヤ、其ノ數ニ於テハ三十五萬五千ヲ以テ數フルニ關セズ、軍事敎育ヲ缺キタル指揮者ト兵員トヨリ成レルガ故ニ、卽チ種ノ軍隊ヲ以テ隣邦ノ精銳ニ抗スルガ如キハ、固ヨリ望ムベカラズ。而カモ我國民ニシテ是等ノ不倫ナル誘惑ニ逢ヒタルモノトセバ。ソノ國防ヲ輕視シ、個人ノ利益ヲ專念スルニ至ルハ固ヨリ其ノ處ナリト謂フベシ。然レドモ彼等一部ノ政治家ガ如何ニ民力休養ニ焦慮スルモ、(予モマタ民力休養ヲ重視セザルニハアラザルモ)、之レガ爲、我軍備ヲ縮少シ、緩急用ニ耐ヘザルノ陸海軍ヲ備ルニ過ギザルガ如キハ、斷シテコレヲ允スベカラズ。又單ニ海軍ノ優勢ニ委任シ枕ヲ高フシテ安スルコト能ハザルモ、マタ諸卿ノ等ク首肯セヲル、處ナルベシ。云々　(後略)

元帥ノ言ハ言々肺腑ヨリ出デ、人ヲシテ感動セシムルニ足ルモノアルハ無論デアルガ。不完全ナル公

民軍ヲ力トシテ其ノ國防ヲ全セントスルニ至テハ誠ニ以テ心細キ次第デアル、同元帥ハマタ、涙アリ氣力アル意見ヲ吐露シ。

予ハ固ヨリ平和ヲ愛ス、然レドモ請フ試ニ近東ニ於ケル事情ニ留意セヨ近ク二ケ月以前ニ起リタル事件ハ、果シテ如何ナル教訓ヲ與フルヤ。則チ國家ハ自ラ武裝シ自ラ衛ルニアラザレバ自立スルコト能ハザルヲ戒ムルモノニアラズシテ何ゾヤ。同盟ハ決シテ賴ムニ足ラズ。條約マタ依ルベカラズ。國民ハ必ズヤ己レノ武器ヲ執リテ自衛ノ道ヲ講ゼザルベカズ。予ハ切望ス。時ニ臨ンデ後悔臍ヲ噛ムノ悔ナカラザランコトヲ。又世ノ海軍萬能論者ニ問ハン。本國艦隊ト雖、必要ニ應ジ遠ク離レテ派遣サルヽコトコレナキヤ否ヤ。如此場合ニ於テ、萬ガ一ニモ敵國ガ其ノ全海軍ヲ擧テ我虛ヲ衝クガ如キコトコレアリトセバ、其ノ結果ハ果シテ如何ゾヤト。（中略）

吾人等ガ豫期セザル事件ヲ偶發スルニ際シ、敵國ノ之レニ乘ジテ其ノ功ヲ成スコト決シテ之レナキニアラザルハ吾人等ノ留意セザルベカラザル處ナリ。而カモ戰時ニ於テ特ニ其ノ然ルヲ見ル。然ラバ、吾人ハ如何ニ自己ノ情態ヲ有利ナリトスルモ、唯單ニ海軍ヲ以テ外寇ニ備ヘントスルノ不可ナルヲ知ラザルベカラズ。約八萬ニ達スル獨人ハ我英國ニ於ケル主要ナル停車場ニ於テ、旅館ニ於テ、各其ノ業務ニ從事シツヽアリ。而シテコレ等ノ多クハ完全ナル軍事教育ヲ受ケタル在鄕兵ナリ、モシ獨人ニシテ我國ニ侵入セバ、此等ノ獨人ハ必ズヤ其ノ祖國ノ爲重大ナル任務ニ當ラン。

予ヲシテ今暫ク左ノ二事ニ就キ諸卿ノ淸聽ヲ煩ハサシメヨ、一ハ卽チ制海權ハ固ヨリ當ニ其ノ絕對ナルヲ望マサルベカラズ。然レドモ未ダ必ズシモ侵入軍ニ對シテ絕對ナルコト能ハザルヲ知ラザルベカラズ。侵入軍ハ必ズシモ絕對的ニ海上ヲ制スルノ必要アルモノニアラズ。部分的若シクハ一時的ノ制海權ヲ以テ侵入ノ目的ヲ遂行スルニ十分ナルコトアリ。獨人ハ固ヨリ此理ヲ解セリ。（中略）他國ノ侵略ヲ豫防スルノ手段ハ。要スルニ海軍ニアラズシテ、十分ナル國防軍ヲ備ルニアリ、此如キ國防軍ヲ有セザルノ國民ハ、常ニ他强ノ窺覦ヲ免ルベカラズ。假令我海軍ヲシテ列强ノ海軍ニ二倍セシムルモ國防ノ爲ニ十分ナル公民軍ヲ有スルハ、國際上ノ平和ヲ維持センガ爲メ、國民ノ信賴ヲ求メンガ爲メニ必要ナリ云々。（後畧）

「ロバーツ」元帥ノ議論ハ奇襲軍ニ關スル有力ナル議論デアル、吾輩ハ其ノ熱誠ニ感スルコト大ナルト同時ニ、我國ノ如キ大切ナル國柄ニ於テ如此ク雄大ナル、而カモ熱實ナル議論ヲ聞クコトナキハ遺憾デアル、如何ニ何事ヲモ言アゲセヌ國柄ナルニモセヨ、如何ニモ物足ラヌ如ク感スルノデアル、右ノ議論ハ英國ニ於テ初メテ之ヲ唱フルコトヲ得ヘク、其ノ對岸ニ獨逸ノ如キ强國ナク、又決シテ大陸軍ノ大輸送ヲ企テ得ヘキ邦國ナキ我東洋ニ於テハ、決シテ右ノ如キ心配ナシトハ、吾輩ノ深ク信ズル處ナルモ、（獨逸ニハ一擧シテ二十萬ノ大陸軍ヲ輸送シ、僅ニ二日ニ足ラヌ行程ヲ以テ英國海岸ニ殺到シ得ルノデアル。）海ヲ制セサル進攻軍ノ奇襲ガ、果シテ如何ナル結果ヲ齎スヘキカノ先例ハ、是非トモコレヲ調査スルノ必要アリ、徒ラニ漫散ナル空想ニ耽テ煩悶スルモ、全體ニ於テ何等ノ得ル處ナキハ吾輩ノ信シテ疑ハザル處デアル（海島國國防上陸上移動軍ノ必要ナルヤ否ヤノ點ニ就テハ、更ニ第八篇ニ於テ詳論スルツモリデアル。

奇襲軍ノ史例

奇襲ノ成敗ニ關スル史例

○千七百九十六年ニ開殆シタル佛國ノ英國奇襲策

此際ニ於ケル英國侵略策ハ其ノ規模頗ル廣大ニシテ其ノ畫策マタ頗ル周密ナリキ。則千七百九十四年ノ頃ヨリ其ノ基礎ヲ起シ、着々其ノ準備ヲナセシガ、此時英國ハ連年ノ戰役ニ其ノ國債ヲ增加セルコト夥ク租稅モマタ從テ驚クベキ高率ニ上リシカバ非戰說ヲ唱フルモノ頗ル多ク其ノ勢持ニ强盛ヲ極メ、終ニ國王「ジョージ」三世ヲ要シ平和ヲ恢復シ總理大臣ピットヲ免ズベシト叫ビ、石ヲ投ジテ鳳凰ノ玻璃窓ヲ破リ王ヲシテ僅ニ遁レテ王宮ニ歸ルヲ得セシメタルノ甚キニ至リシガ。當時兩院ノ議員ハ主トシテ「ピット」黨ナルガ故ニ主戰說勝ヲ制シ戰ヲ繼續スル爲巨萬ノ軍費ヲ支出スルノ議案ハ大多數ヲ以テ兩院ヲ通過シタリ。然レドモ其ノ實際ニ於テハ、獨リ非戰及主戰ヲ以テ其ノ黨ノ旗幟ヲ鮮明ナラシムルニ過ギズシテ、此時英國ハ貴族黨民政黨トノ根底的衝突其ノ極度ニ達シ殆ンド內亂トモ稱スベキ有樣ナリシカバ、英政府モ必竟平和ヲ復セザルヲ得ザルノ狀態トナリ、「ウキカム」ヲ特派シ佛政府ノ意向ヲ問ハシメタリシカ。佛政府ハ斷然其ノ要求ヲ退ケ、英國ノ利益ヲ放擲シ盡スニアラザレバ、到底佛國ト相和スルコト能ハザルノ勢ヲ示セシカバ「ピット」ハ更ニ戰爭ヲ繼續スルニ決シ、更ニ軍費支出ヲ兩院ニ提議シ再ビ大多數ヲ以テ之ヲ通過セシメタリ。

是ヨリ先「ピット」ハ佛國ニ對シ均衡ヲ維持センガ爲、墺露兩國ト三角同盟ヲ結ビタリシガ、英國ハ右ノ二國ト相隔在スルガ故ニ、實際ニ相佐テ其ノ利益ヲ與ニスルコト能ハズ。加之、佛國ハ更ニ西班牙ト同盟ヲ結ビ其勢力ヲ增加セルニ反シ、英國ノ同盟國タル墺國ハ戰役ニ憊レテ奮起スルノ望殆ンド斷ヘタリシカバ。英國ハ其ノ形勢ノ大ニ非ナルヲ察シ、再ビ歐洲ノ平和ヲ克復セザルベカラズト決シ。千七百九十六年末「マームッベリー」伯ヲ佛國ニ遣シ更ニ平和ノ申出デヲナサシメタルモ、論談二ケ月ノ後全然佛國政府ノ拒絕スル處トナリ、佛政府ハ同伯ニ對シ二十四時間以內ニ佛京ヲ退去スベキノ命ヲ發セリ、是ニ於テカ兩國ノ交誼ハ遂ニ全ク破レ大衝突ヲ起スベキ運命ハ既ニ眼前ニ迫レリ。

英國ニ於テハ獨リ兩黨ノ軋轢右ニ述タル如クナルノミナラズ、愛蘭ニ於ケル狀態ハ極メテ危險ニ陷リ、內亂ヲ發セントスルノ機既ニ熟セルモノヽ如ク。內亂黨ハ密接ナル機脈ヲ佛政府ニ通ジ、佛軍ノ其ノ海岸ニ顯ハルヽヲ機トシ、所在相蜂起シテ之ニ應ズルノ準備極メテ周到ナリシモ、其ノ通信ノ秘密ヲ嚴守スルコト極メテ堅カリシカバ英政府モ之ヲ悟ルコト能ハザリシモノヽ如シ。（本史論參照）

此際ニ於ケル情況ハ愛蘭反黨ノ志士「ウオルフ、トーン」ノ覺書ニ依リ十分ニ之ヲ察知シ得ベシ、則其ノ趣意トスル處ハ、

『愛蘭ニ於ケル民兵ハ一萬八千ヲ算シ毫モ他ノ歐洲諸國ノ軍隊ニ劣カラサル資格ヲ有シ、其一萬六千人ハ舊敎ニ屬シ、其大部分ハ愛蘭ノ獨立ヲ熱望スル「デフエンダー」ナリ。加之愛蘭ニ於ケル軍隊ハ一ケ月ニシテ容易ニ二十萬ヲ擧グ得ベク農民ハ皆爭テ共和軍ノ麾下ニ集合シ、司令官ヲシテ之ヲ點檢スルノ煩ニ堪ヘザラシムベシ』ト云フニアリトス。

佛國政府ハ愛蘭ノ實況ハ「ウオルフトン」ノ述ル處ノ如シト信ジタルガ故ニ、先兵ヲ愛蘭ニ派遣シ其ノ內亂ヲ誘起セシメ、之ト同時ニ蘇格蘭ノ侵入軍ヲ和蘭ニ集メ、機ヲ看テ之ヲ發シ、又陸軍ヲ搭載スベキ小舟ヲ「ブーロン」ニ作リ、一時海峽ヲ制壓シ、之ヲ英國海岸ニ渡航セシムベキ計畫ヲ實施スルトキハ、一擧手一投足ノ勞ヲ以テ容易ニ英國ヲ制服シ得ベシト信ズルニ至レリ。

（佛國ノ戰策）佛國ハ右ニ述ベタル期望ニ基キ征英軍ヲ起スニ決シ左ノ如キ計畫ヲナセリ。

一　西印ニ在ル艦隊ノ一部ト「ツーロン」艦隊ノ一部ヲ「ブレスト」ニ集ムルコト。

二　愛蘭侵入軍ハ之ヲ「ブレスト」ニ集メ「ブレスト」艦隊ト新ニ來會スベキ艦隊トヲ以テ之ヲ愛蘭ニ護送スルコト。

三　蘇格蘭侵入軍ハ之ヲ和蘭ニ集メ、和蘭艦隊ヲシテ之ヲ護送シ蘇格蘭ニ上陸セシムルコト。

四　西班牙ト同盟ヲ結ビ、其ノ艦隊ヲシテ佛國ノ海上ニ於ケル作戰ヲ輔佐セシムルコト。

此時ニ當リ英國海軍ハ到ル處敵地ナラサルナキノ逆境ニ遭遇セリ。今試ニ其情況ヲ示サンニ地中海ノ西部ハ悉ク佛國ノ有ニ歸シ葡萄牙

征英戰策

一帶ノ小部分ヲ除クノ外大西洋沿岸ノ大陸ハ處トシテ敵地ナラザルハナク、其ノ北海ニ於テモ其兵略的關係ノ少キ「オルデンブルグ」以東ノ外ハ一モ安全ニ碇泊スベキ港灣ナカリキ。

ニ於ケル英國海軍ノ動作極メテ困難ナリシハ想像スルニ餘リアリト謂フベシ。況ンヤ其ノ通信ハ悉ク外洋ヲ迂回シテ之ヲ致サヾルヲ得ズ、而シテ其ノ軍需物品ノ如キモマタ必之ヲ遠隔ノ地ニ迎ザルヲ得ザルオヤ。其ノヨク交戰ノ機會ヲ失セズマタヨク長ク海上ニ在テ其ノ任務ヲ全フシ得タルハ寧ロ奇ト謂フベシ。之ニ反シ、佛國ハ國內及同盟國ヲ通ジテ通信スルコト固ヨリ容易ニシテ其ノ糧食及彈藥ノ如キモマタ所在之ヲ添載シ得ベク、是等ノ點ニ關スル利益ハ固ヨリ英國ト同日ノ論ニアラザリシハ明ナリ。然レドモ當時佛國ノ海軍ハ其ノ訓練遙ニ英國ニ劣リ、其ノ陸軍ノ如キモ船ニ乘ジテ國外ニ出ルヲ嫌惡スルノ情極メテ深ク、海陸ノ兩將ハ意氣相投合セズ。天候モ亦頗ル不良ニシテ大輸送ヲ行フニ適セザリシガ如キ事實ハ皆悉佛軍ヲ失敗ノ域ニ陷ルベキ媒介トナリ。一時有望ナリシ愛蘭侵入モ何等ノ效ヲ奏スルコト能ハズシテ止メリ。然レドモ　役ノ實施以前ニ於テハ其ノ情況極メテ佛國ニ利ニシテ英國ニ不利ナルモノヽ如ク、當時英國ノ海軍ハ其ノ數的實力遙ニ佛西蘭三國ノ同盟軍ニ劣リタルノミナラズ、一種ノ厭フベキ暗潮アリテ軍人ノ間ニ流レ、其ノ紀律ノ紊亂甚シカリシ事實アルヲ以テ察スルニキハ是レ實ニ乘ズベキノ好機ニシテ、何人ト雖ドモ其ノ成功ヲ疑ハザリシハ、當時ニアリテ寧ロ至當ナリト謂フベシ。

（英國海軍ト同盟國海軍トノ比較）此時代ニ於ケル英國海軍ハ戰艦百〇八艘二段備ノ巡洋艦十九艘及一段備ノ軍艦百三十四艘ヨリナリ、此他航海ノ任務ニ服セザルモノ及ビ製造中ノモノヲ合スル時ハ戰艦ノ總數百七十二艘「フリゲート」百八十二艘ニ達モリト雖モ、其ノ防禦方面ノ廣大ニシテ殆ンド全地球ニ渉ルガ故ニ守勢的作戰ニ從事スルモノトセバ、其ノ各地ニ於ケル勢力ハ比較的ニ弱小ナラザルヲ得マヽ、今千七百九十六年ニ於ケル英國及三國ノ艦隊ヲ對照シテ其ノ優劣ヲ比較スレバ左ノ如シ（戰艦ノミ）

英國艦隊

北海艦隊二十六艘

海峽艦隊二十九艘

愛蘭警備艦二艘

地中海艦隊三十一艘

合計八十八艘（外ニ本國ノ防禦ニ用ヒ難キ在外艦三十三艘）

同盟峽隊

「ツーロン」艦隊十五艘（佛）

「カルタジナ」艦隊十八艘（西）
在「カディス」軍艦三艘（西）
「フエロル」艦隊二十六艘（西）
「ドアルニツ」艦隊七艘（西）
「プレスト」艦隊二十一艘（佛）
「テキセル」艦隊二十二艘（蘭）
合計　百十一艘（外ニ在外艦隊西ニ十八艘佛ニ七艘アリ）

〔英國ノ戰策〕英國ハ右ニ述ベタル如キ情勢ナルガ故ニ、佛國ノ攻擊ニ對シ國防ヲ全フセンガ爲ニハ極メテ周密ナル注意ヲ以テ之ニ應ゼザルベカラズ。而シテ其ノ愛蘭ニ對スル佛人ノ計畫ハ英政府ノ確知スル處ニアラザリシトハ謂ヘド、愛蘭及葡萄牙ニ對スル侵略ト「ジブラルタル」恢復ニ關スル計畫アリトハ一般ノ推測シタル處ナルガ如ク。英國政府ハ將來ノ大打擊ニ對シ之カ防禦ヲ全フセンガ爲メニ取ルベキ唯一ノ手段トシテ敵艦隊ノ集合ヲ妨グベキ所ニ封鎖シ、且之ヲ擊破センガ爲メ攻勢的運動ヲ取ルベキニ決シ其ノ大權ノ計畫ヲ定ムルコトヽ左ノ如クナリシ。

(一)「プレスト」及「テキセル」艦隊ヲ封鎖シテ出動セシメザルコト。

(二)地中海ノ佛艦隊及西班牙艦隊ハ「プレスト」ニ來會スルヲ防止スルコト。

此戰策ハヨク原則ニ協ヒ遺憾ナク彩ニ緑國防ノ趣旨ヲ發揮シタルモノト謂フベシ。

〔佛國ノ戰略的行動〕佛國ハ前ニ述ベタル計畫ノ實施センガ爲「プレスト」艦隊ハ之ヲ中將「サイラン、ジョワイユーズ」ニ愛蘭遠征軍ハ之ヲ大將「オーシユ」ニ屬シ、「ツーロン」艦隊ノ五艘ハ少將「ゲイルニユール」之ヲ率ヒ、西印度ニ在リタル少將「リシエリー」ハ其ノ七艦ヲ率ヒ「プレスト」ニ來會セシメ、共ニ「レブスト」艮官ノ指揮ノ下ニ屬スベキヲ命ゼリ。

是實ニ佛國作戰ノ第一着手ニシテ是等ノ計畫ヲ實施シ先愛蘭ノ内訌ヲ惹起セシメ、然ル後佛西聯合艦隊ハ海峽ヲ制シ大輸送ヲ行ヒ、蘭國艦隊ハ「スコツトランド」ヲ突クベキ戰策ヲ實施セントスルノ豫定ナリシハ疑ヲ容レズト雖モ、其實施ノ成績ニ至テハ支離滅裂言フニ忍ビザルモノアリ。（愛蘭上陸軍ノ失敗ニ機グ西艦隊ノ大敗ト蘭艦隊ノ潰裂トヲ以テ局ヲ結ベリ。）而シテ佛人ハ「ツーロン」艦隊ノ進擊ノ外豫定ノ如ク凡テノ計畫ヲ實施シタルニ關セズ、其ノ間ニ一ノ脈路ヲダモ存スルコトナク、各自各方面ニ於テ思々ニ行動セルコト、譬ヘバ裝飾者ノ無意識ニ跳梁スルガ如クナリシハ寧ロ奇ト謂フベシ。

〔英國ノ戰略的行動〕英國モ亦作戰上遺憾ナル點頗ル多カリシト雖モ、全然其ノ方計ヲ實行シ、若々相當ノ効果ヲ擧ゲタリ、即海峽艦隊（「ロールド、プリツドポート」）ハ之ヲ三分シ其ノ一部ハ之ヲ「スピツトヘツド」ニ止メ緩急ノ用ニ備ヘ、中將「チヤールズ、ムンソン」ハ十三艦ヲ率テ「アシヤント」沖ヲ警備シ、少將「ロジヤー、カーティス」ハ七艦ヲ率テ「ビスケー」灣ニアラシメ、地中海艦隊ハ大將「ジョン、ジヤーヴイス」之ヲ率ヒ、少將「ロバート、マン」ヲシテ「カチス」ヲ去テ之ニ屬セシメ、其ノ勢力ヲ合シ地中海ヲ管制セシメンコトヲ計リ、更ニ中將「ダンカン」ヲシテ北海艦隊ヲ率テ「テキセル」ノ封鎖ニ當ラシメタリシガ、「アシヤント」艦隊ハ何等ノ功ヲモ奏スルコト能ハザリシニ關セズ、佛軍ハ不幸ニモ天候ノ爲ニ難破シ悲慘ナル結果ヲ見ルニ至リシカバ、佛國ノ第一作戰ハ之レガ爲全然之ヲ蔑却セザルニ至レリ。此際大將「ジヤーヴイス」ハ極メテ危險ナル境遇ニ行動センカ、佛西兩將ノ喧嘩ナル其ノ乘スベキノ好機ヲ逸シタルノミナラズ、「セント、ヴインセント」岬ノ海戰ニ於テ大打擊ヲ蒙ムリ佛西艦隊ノ「プレスト」ニ來會スベキ望全ク斷絶スルニ至レリ。加之中將「ダンカン」ハ國將「デ、ヴインテル」ノ冒險的行動ニ大打擊ヲ與ヘ「カンパーダオン」ノ海戰ニ之ヲ擊破セシカバ、サシモニ大規模ナリシ德英聚モコレガ爲ニ全然崩壞シ大失敗ヲ以テ其ノ局ヲ結ブニ至レリ。

〔愛蘭遠征軍〕佛國政府ハ愛蘭獨立黨ノ志士「ウオルフ、トーン」ノ言ニ依リ愛蘭民兵中ノ一萬五千ハ直ニ武器ヲ拋テ佛軍ニ應ズベキヲ知リ、二萬五千ノ兵ヲ擧ゲテ之ヲ愛蘭ニ輸送シ、四萬ノ兵ヲ以テ同島ヲ征服スベキニ決シ、大將「オーシユ」ヲ軍司令官トシ、内亂黨ノ名士「フィツゼラルド」卿及「アーサー、オコンノル」氏ハ「オーシユ」將軍ニ「バール」ニ會シテ諸般ノ打合ヲナシタリト云フ、其ノ海軍ニ關スル計畫ハ海軍大臣「トルーグ」中將ト相議シ其ノ計畫ヲ定ムル事トシ、中將「ジョワイユーズ」ハ艦隊司令長官トシテ輸送實施ノ任ニ當リ「プレスト」艦隊ノ戰艦十五艘ヲ率ヒ遠征第一梯團ヲ載シテ愛蘭ニ赴クベキニ決シ。別ニ少將「ドリシエリー」ヲシテ其ノ七艦ヲ率ヒ「ロリーヤン」ヨリ、少將「ウエルニユール」ヲシテ其ノ五艦ヲ率ヒ「ツーロン」ヨリ「プレスド」ニ來會スベキヲ命ゼリ。此ノ二艦隊ハ「プレスト」ニ於テ第二梯團（遠征軍ノ殘部）ヲ搭ジ愛蘭ニ侵入スベキモノニシテ中將「ジョワイユーズ」ノ麾下ニ屬スベキモノトス。而シテ同中將ハ愛蘭ニ於ケル上陸ヲ了シタルトキハ、其ノ二段備殿艦中最モ快速ナルモノヲ簡選シ其ノ八艘ヲ率ヒテ東印度ニ赴キ、「チツポー、サーイブ」及國人ヲ助ケ、少將「セルシー」ト相協力シテ英國殖民地ヲ攻陷スベキ他ノ任務ヲ有セリ。然レドモ是等ノ壯達ナル計畫ハ怨ニシテ之ヲ變更スルノ必要ニ會シ且海軍司令長官ハ遂ニ來送シタリ。

此交送ハ海陸兩將ノ意見相合セザルヨリ起レリ。元來「オーシユ」其ノ人ノ目的ハ愛蘭ニ在リテ又他事ヲ省ルノ意ナク、「ジョワイユーズ」ハ主トシテ東印度ノ事ニ留意シ陸軍輸送ノ任務ヲ視ルコト極メテ冷淡ナリシカバ、兩將ノ意見ハ動モスレバ相衝突シ、到底圓滑ナル運動ヲナスコト能ハザルノ勢ナリシカバ、「オーシユ」ハ佛政府ニ建議シ海軍司令長官ハ愛蘭ニ對シテ極メテ冷淡ナルガ故ニ、到底事ヲ

共ニスルコト能ハザルヲ逃ベテ佛政府ヲ動カシ、終ニ中將「モラルド、ド、ガリ」ヲ以テ之ニ代ラシムルニ至レリ、而シテ遠征ノ準備モ亦少ク其ノ趣ヲ變ジ之ヲ二回ニ分ツコトナク一回ノ大輸送ヲ以テ完結スベキニ決セリ、(海相ノ期望ハ十月ノ下旬若クハ遲クモ十一月上旬ニハ發航セシメントスルニアリシモ「オーシユ」ハ其ノ軍ヲ二分スルヲ好マザル故ニ他ノ艦隊ノ來着ヲ待チ大輸送ヲ行フニ決シ其ノ時期ヲ遲延セリ。)

陸軍ノ輸送計畫ハ右ノ如ク變更シタリト雖モ、少將「リシエリー」ハ「ブレスト」ニ向ヒ航進中、英將「カルチス」ノ艦隊ニ近接セシ爲、十二月八日ヲ以テ初メテ、「ブレスト」ニ向ヒ出航シ、同十一日英將「サージョン、コルポイス」ノ視線内ヲ通過シ目的港ニ入ルコトヲ得タリ。時期ノ遲延如茲ナリシノミナラズ該艦隊中航海ノ役務ニ堪ユベキモノ僅ニ二艘アルノミ、其ノ他ハ悉ク大修理ヲ加フル必要アリ到底即用ニ供スベキ望ナク、「ウイルニユーヴ」麾下ノ「ソーロン」艦隊モ亦未ダ來着セザルガ故ニ、佛將ハ到底是等ノ艦隊ヲ待チ合スコト能ハズ、十二月十五日艦隊ノ一部ニ拔錨ヲ命ジテ港外ニ出シメ、同十六日他ノ出港ヲ待チ東風ニ乘ジ直ニ征愛ノ途ニ上ルコトナセリ。

佛政府ハ深ク遠征ノ目的ヲ秘シ、或ハ西印度ニ赴クト宣言セシメ、或ハ葡萄牙ニ向ヒ南下スルモノト稱セシムル等、百方手段ヲ盡シテ英人ヲ欺カントセシモ、英人ハ其ノ目的ヲ察知スルニ迂ナラザリシカバ、愛蘭ニ戒嚴令ヲ布キ民兵ヲ召集シ、沿岸諸地點ノ監視ヲ嚴ニシ、敵艦隊ノ來寇ニ注意セシメ、又敵軍ノ出顯ニ際シテハ其ノ家畜及諸食料ヲ内地ニ轉送スベキ命令ヲ發セリ。

愛蘭遠征軍ハ兵數一萬八千(二萬五千ノ豫定ナリシモ)ニシテ其ノ軍需物品等悉ク整頓シタリ、(其ノ準備ハ短時日ニ對スルモノナリシト云フ)而シテ「オーシユ」將軍ノ部下ニハ「ウンベール」及「グルーシー」ノ如キ名將アリテ皆悉ク驍名ヲ大陸ニ轟シタル知名ノ將官ナリシカバ、此强盛ナル陸軍ヲ以テ愛蘭ヲ征服シ得ザルベシトハ何人モ思料セザル處ナリシガ如シ。

〔艦隊ノ行動〕佛艦隊司令長官ハ其ノ出艦ニ先チ英艦隊三十艘「アシヤント」沖ニ在リトノ情報ヲ得タリシカバ、ソノ目ヲ掠メ安全ナル航海ヲナサント欲シ、「ラツ」海峽ヲ經テ南下シ然ル後針路ヲ右轉スベキ計畫ヲナセシモ、其ノ既ニ「ブレスト」灣外ニ出ルニ及ビ天闇ク風急ニシテ同海峽ヲ通過スルノ困難ナルヲ察セシカバ、其ノ豫定ノ計畫ヲ變ジ「デロアーズ」ノ水道ヲ取ルベキ信號ヲナセシモ、此信號ヲ解シ得タルハ旗艦ニ近キ二三ノ軍艦ニ過ギズ。ソノ他ノ諸艦ハ悉ク豫定ノ航路ニ向ヒ進行セシカハ、遠征艦隊ハ其ノ發途ノ日ニ於テ早ク既ニ散亂シテ相合同セザルノ結果ヲ生ゼリ。

翌日拂曉佛艦隊ノ一部ハ「ラツ」海峽ヲ進過シ了リタリシガ、佛將ハ艦隊ト相失シテ此處ニアラザルガ故ニ、全艦隊ノ指揮權ハ自ラ次席將官タル「ブーウエ」ニ移レリ。同少將ハ於茲更ニ訓令ヲ發シ、(艦隊ノ相分離セルトキ行フベキ動作トシテ豫定シタル要領ニ從ヒ)「ミヅンヘッド」ニ至リ此處ニ於テ他ノ艦船ヲ待合スベキヲ告ゲ、先第一ニ略西方ニ向ヒ航行シ、十九日朝其ノ針路ヲ正北ニ轉ジタリシカ、暫クシテ他ノ艦船續々來會セシカバ戰艦一艘「フリゲート」三艘(内一艘ハ司令長官ノ旗艦)「ブリック」二艘運送船二艘ノ外全艦隊ノ諸艦悉ク「ブーウエイ」少將ノ麾下ニ會スルニ至レリ、則チ

戰艦十六艘、「フリゲート」十艘、「ブリッグ」四艘、火藥船一艘運送船五艘

合計三十六艘(未會ノモノ八艘)

「ブーウエー」ハ十二月二十一日朝、「ミヅンヘッド」ヲ其ノ視界内ニ發見セシカバ、豫定ノ如ク「バントリー」ニ入泊スベキ命令ヲ發シ、コレヲ實行セシガ、不幸ニシテ暴風ニ會シ豫定ノ上陸ヲ行フコト能ハズシテ分散シ、西方ニ掃盪シ、去ラレテ再ビ相會スル能ハズ、剩ヘ糧食モ欠乏セシカハ分散ノ儘思ヒ思ヒニ本國ニ歸ラザルヲ得ザルニ至レリ。

斯クテ佛國ノ愛蘭遠征軍ハ如斯不結果ヲ以テ終結ヲ告ゲシガ、尙此遠征ニ由リ蒙ムリタル佛艦隊ノ損害ヲ擧グレバ左ノ如シ。

艦種	戰艦	フリゲート	ブリック	運送及火藥船	合計
英艦隊ニ捕獲サレタルモノ					
難破セルモノ		一	二	〇	七
沈沒セルモノ	二	二		一	四
損害合計	二	四	二	五	一三
一月ニ於テ「ブレスト」ニ歸國セル艦數					
「ロジフオート」及「ローリヤン」		一	一	〇	二
十一日		五	五	〇	一四
十三日		四	二	三	七
十四日		一	一	〇	三
安全ニ歸國セル艦數	一五	九	四	三	一三
「ブレスト」ヲ出發セル艦數	一七	一三	六	八	四四

此戰役ニ於テ佛艦隊ノ冒險ニシテ無算ナル行動ハ、英將ノ敏活ナラザル動作ト相對シテ一種ノ興味アルヲ覺ユルモ原來佛國ノ冒險的行動ハ果シテ英艦隊ノ無能ヲ豫想セルノ結果ナリヤ否ヤ。而レドモ吾人ハ其ノ決シテ然ラザルヲ斷言シ得ベシ。「ド、ガリ」中將ガ「コル

ポイス」艦隊ヲ恐レ、「ラツ」海峽ヲ取ルノ計畫ヲナセルノ一事ハコレヲ證スルニ足ルベシ。然ラバ佛國ハ何等ノ目的ニ依リ彼ノ如キ無謀ナル輸送ヲナセシヤ、是レ大ニ怪シムガ如シ。然レドモ當時ノ事情ヲ勘考シ佛國ノ爲ニ辯護セント欲セバ、一二ノ首肯スベキ理由ナキニアラズ、愛蘭ニ於ケル事情ハ佛人ニ與ルニ疑ナキ好望ヲ以テシ、一舉手一投足ノ勞ヲ以テ其ノ内亂ヲ蜂起セシムベキノ望ミ確實ナルガ故ニ、モシ佛軍ニシテ上陸ヲ了センカ、假令後方ノ連絡ヲ絶タレタリトスルモ、其ノ目的ヲ貫徹シ得ルコト殆ンド疑ナキガ故ニ、寧ロ必勝ヲ期シ難キ海戰ヲ試ンヨリハ、其ノ成功ノ充分ナリト信ズベキ計畫ヲ實施スルハ領ノ得タルモノナリト思考シ。一時ノ冒險的行動ヲ肯ヂシタルモノニ外ナラザルベシ、然レドモ時日ノ遷延ハ佛國ヲシテ益々其ノ認見ノ結果ヲ大ナラシメ、終ニ如上ノ失敗ヲ演出スルニ至レリ。（由來遊戰主義ノ佛人ニ仇スルコト誠ニ甚キモノアリ注意セザルベケンヤ。）

吾人ハ獨リ征愛ノ戰役ニ於テ之ヲ看ルノミナラズ。佛國ハ數々英國侵略ノ策ヲ定メ、常ニ大失敗ヲ以テ其ノ局ヲ結ブハ皆悉ク一時ノ謬見ニ迷ハサレ、

「海ヲ踰ヘテ陸軍ヲ輸送セント欲セバ必充實際ニ其ノ海上ヲ管制スベシ。遊戰主義ヲトリ其ノ成功ヲ僥倖スルコトナカレ」

トノ原則ヲ悟ルコト能ハザルニ職由スルモノニシテ決シテ他ノ理由アルニアラズト斷言シ得ルト同時ニ、此ノ簡單ニシテ而カモ了解シ易キ原則ガ動モスレバ幾多ノ英雄ヲ苦メ失笑ノ外何等ノ價値ナキ戰爭ヲ實施セシムルコト多キヲ怪マザルヲ得ズ。

（因ニ、コノ愛蘭遠征軍ノ失敗ニ終リタル後、カノ有名ナル「セント、ウインセント」及「カンバーダオン」ノ海戰アリ、コノ遠征トハ相待チ兩國間ノ關係ト英國々防ニ關スル教訓ヲ遺憾ナク發揮スト雖、其ノ叙事ノ餘リ長カランコトヲ恐レテ之ヲ略セリ、惟フニ熱心ナル讀者ハ本史論ト其ノ關係書ニ就テコレヲ調査セラルヽナラン。）

吾輩ハ佛將「ブルキ」ガ英艦隊ノ監視ヲ避ケ二回迄「ブレスト」「ツーロン」間ノ航海ヲナシタル前例等凡ソ海上ニ於テ敵艦擊ノ監視線ヲ竊カニ通過シ得タル先例ヲ看ルコト尠カラヌニモ關セズ、適切ナル史例トシテハ右ノ外タヽ二回ノ千七百九十八年ニ於ケル（第二回）ノ征愛戰役アルノミ（本史論參照）其他ニ之ヲ發見スルコト能ハズトハ雖モ、前ニモ述タル如ク、「子ルソン」ガ埃及遠征軍ヲ尋テ逢ハザルコト一箇月ニ及ベルガ如キ、又同將軍ガ「ウエルニユーブ」ノ目的地ヲ知ルニ苦ミ御苦勞千萬ニモ西印度迄追ヒカケタルガ如キ前例ハ、海上ニ於テ敵ヲ索ムルノ如何ニ困難ナルカヲ證スルニ足ルベキ好箇ノ證明デアル。是ニ由テ之ヲ看レバ縱令我海軍ハ實力强盛ニシテ、敵軍ヲ擊破シ得ベキ望確實ナリトスルモ、其ノ行動敏活ナラザルカ、或ハ天候ノ關係上彼ニ利ニシテ我ニ不利ナルガ如キ場合ニ於テハ敵兵ノ上陸ヲ防止スルコト果シテ容易ナリヤ否ヤノ疑問ハ、自ラ油然トシテ起ラザルヲ得ズ、「一歩ヲモ我國土ヲ踏マシメズ」トノ主張ヲ貫徹セン爲强大ナル海軍ヲ備ヘナガラ、沿岸ノ防備ヲ重視セザルノ結果トシテ反テ我寶土ヲ敵ノ馬蹄ノ蹂躪スルニ委スルカ如キコトアラザルベキカ、是レハ確ニ一ノ疑問デアル。乍去其ノ結果ハ必竟如何デアルカ、果シテ深ク惧ルベキモノデアロウカ、抑モマタ雲煙過眼視シテ差支ナイ程ノ小問題デアロウカ。吾輩ハコハ決シテ雲煙過眼視スベキ問題デナイ、サリナガラ制海ノ二字ニ關スル要素ヲモ深ク論ゼズシテコノ問題ヲ議スルハ順序ニ於テ不適當ナリトノ一事ヲ斷言セント欲スルノデアル、加之吾輩ノ信ズル處ニヨレバ此問題ハ明ニ右ノ史例ニ依テ解決サレテ居ルノデアル。假令此史例ヲ假ラズトモ「サラミス」以下ノ戰例ハ明ニ其ノ深ク憂ルニ足ラザルヲ證明シテ居ル、千七百八年ニ企タル「フオーベン」ノ「スコツトランド」遠征軍ノ如キモ、（史例第二十九參照）單ニ敵國ガ己レノ計策ヲ知ラズト臆想シ、或ハ敵ハ即用ニ供スベキ優勢艦隊ヲ其ノ附近ニ配置シアラザルベシトノ判斷ニ基キ企ラレタル一種ノ奇襲ニ過ギヌノデアルガ。其ノ結果ハ不充分ナガラモ如何ニ敵眼ヲ瞞シ海ヲ踰ヘテ大規模ナル進攻軍ヲ差遣スルノ危險ナルヤヲ證明シ得ルノデアル。故ニ第一線ノ國防トシテハ、敵ヲ海上ニ迎フルノ方針ヲトルヲトルト利害ノ區別ヲ生ゼヌトハイヘ、其ノ最良ナル戰策トシテハ寧ロ敵ヲ其ノ海港ニ制壓シ、機ヲ看テ之ヲ海上ニ擊破シ、敵ヲシテ其ノ兵ヲ輸送スルコト能ハザラシムルニアルハ疑モナキ事デアル。

（此ノ際艦隊司令長官ノ第一ニ心掛ベキハ可成敵ト接戰シテ其ノ實力ヲ減少セシメンコトヲ期スルニアルハ勿論デアル、モシ萬一敵ヲシテ其ノ港内ニ安在セシムルトキハ、不知不識、我ハ勞シ敵ハ逸スルノ結果トナリ、荏苒日月ヲ空費シ、敵ノ勢力依然トシテ舊ノ如キニ反シ、我ハ修理ノ爲、又ハ不意ノ出來事ノ爲、其ノ實力ヲ減少シ、彼我勢力比ニ動搖ヲ來スガ如キコト尠カラザルハ實際上疑ヒナキ處デアル。サレバコソ英將「ホーンベー」等モ、敵ヲ封鎖センニハ三ニ對スルノ五ヲ以テセザルベカラズト論ジタル次第デアル。）是實ニ英將等ノ佛蘭西諸國ニ對シテ用ヒタル慣用戰策ニシテ、「ドレーキ」ノ「カヂス」ニ於ケルヲ始トシ、「ルイス」十五世ノ侵英策ニ對シ、「ツーロン」「ブレスト」「ヅンケルク」及「アープル」等凡ソ敵國ガ遠征軍ヲ準備シツヽアル各港灣ハ、一モ漏ス處ナク封鎖ヲ行ヒ、終ニ「クイベロン」及「ラゴス」ノ海戰ニ全然敵國ノ目的ヲ崩壞セシメ終リタルハ最モ完全ナル史例デアル。

（戰例第一ノ六及史例第四十八參照）。佛國革命時代ニ於ケル「カンパーダオン」及「セント、ヴインセント」ノ海戰ノ如キモ、マタ此方針ヲ遺憾ナク實行シタル先例トシテ祖述スベキ充分ナル價値アリト思フノデアル。乍去敵港ノ封鎖ハ極メテ簡單ノ如クニシテ實ハ最モ繁雜デ而カモ最モ困難ナル事業デアル。千八百五十九年以降ニ就キ長日月ニ渉レル封鎖艦擊ノ前例ヲ調査スルニ、

○封鎖艦隊ノ實例

（一）千七百五十九年英將「ホーク」佛將「コンフラン」ヲ「ブレスト」ニ封鎖シ之ト同時ニ「コンモドル、ボイス」「ツロー」ヲ「ヅンケルク」ニ監視ス。（史例第四十八參照）

（二）千七百九十四年英將「ホタム」佛將「マルデン」ヲ「グールゼアン」ニ封鎖ス。（史例第百十六ノ二參照）

（三）千七百九十七年「ダンカン」「デキセル」ヲ封鎖ス。（史例第百二十六ノ二參照）

（四）同年英將「ネルソン」「カヂス」ヲ封鎖ス。（史例第百五十參照）

（五）千七百九十八年「ネルソン」「ツーロン」ヲ監視ス。（史例第百三十六參照）

（六）千八百四年英將「ペリユー」「フエロル」ヲ封鎖ス。（史例第百七十二參照）

（七）同年英將「ネルソン」「ツーロン」ヲ封鎖ス。（史例第百七十三參照）

（八）千八百五年英將「コリンウード」「カヂス」ヲ封鎖ス。（史例第百七十四參照）

（九）千八百七年英將「ガンビヤ」佛國西岸諸港ヲ封鎖ス。（史例第百八十六參照）

ノ九例ニ達スルノデアル。此他「ブレスト」ノ監視ヲ「アシヤント」附近ニ行ヒタルガ如キ史例ヲ加ルトキハ尚其ノ數ヲ增加スベク、「ツーロン」監視トシテ「セント、ヴインセント」伯及「ロード、キース」等ノ行ヒタルガ如キ、「アドミラル、カルダー」及「アドミラル、コクラン」等ノ「フエロル」及「ビスケー」方面ノ監視ニ任ジタルガ如キ、マタ千八百六十一年以降ニ於ケル北米南北戰爭ノ際ニ「チヤールストン」其ノ他南部海灣及河口ニ對シ行ヒタル北軍ノ封鎖行動ノ如キヲ計上スレバ尚十數例ニ上ルナラムモ、右ニ列記シタル九例ハ先封鎖史例中ノ注目スベキ者デアルト吾輩ハ信ズルノデアル。（千七百五十九年以前ニアツテハ殆ンド完全ニ封鎖ト名クベキ職畧的行動ヲ看出ス事ガ出來ヌ。）日露戰役ノ旅順封鎖ノ如キモ實際上有史以來稀ニ見ルノ大封鎖ニシテ、カクノ如ク完全ナル終結ヲ告ゲタルモ誠ニ稀有ナル次第デアル。八月十日ノ海戰ニ露國艦隊ガ再ビ旅順ニ歸レルナドハ誠ニ一個ノ奇績デアル。旅順艦隊ハ所詮死神ニ取リ着カレタリシ者ト見ユルノデアル。

兎ニ角右ノ九例ニ就キ調査スルニ完全ニ敵艦ノ逸出ヲ防遏セントスルハ甚ダ困難ナル事業ニシテ、此九例中完全ニ敵ヲ港内ニ蟄伏セシメ得タル前例ハ甚ダ少ヒノデアル。

被封艦隊ノ運命

場合	脫出セシヤ（何ヲ利用セシヤ）	脫出セズ	脫出後被封鎖（監視）者ノ受タル結果	脫出セザル理由
「ホーク」ノ「ブレスト」	セリ（天候）			
「ボイス」ノ「ヅンケルク」	セリ（天候）		「クィベロン」ノ敗	
「ホタム」ノ「グールゼアン」	セリ（天候）		追擊セラレテ大敗	
			「ツーロン」ニ入ル	

「ダンカン」ノ「テキセル」	一部脫出セリ	脫出セントシテ攻擊セラルセズ	「カンパータオン」ノ敗
「ネルソン」ノ「カヂス」	セリ		
「ネルソン」ノ「ツーロン」			
「ベリユー」ノ「フエロル」			「ナイル」ノ敗
「ネルソン」ノ「ツーロン」	ゼ	ズ	
「コリングウード」ノ「カヂス」	一時出動セシモ直ニ引返シ入港ス		
「ガンビヤ」ノ「佛國西岸」	「ネルソン」來會後脫出ヲ企ツ 敗後遁走セリ		「トラファルガル」ノ敗 「パスクロード」ノ敗

「セント、ウィンセント」ノ二ノ舞ヲナサンコトヲ恐レタルニ由ル他ノ艦隊來會ノ見込ナキヲ以テ出港シ得ザリシナリ

乍併、脫出後ノ結果ニ就テ吟味スレバ、假令一時ハ脫出ノ目的ヲ果セルニモセヨ、其ノ終局ニ於テハ矢張リ優勢ナル封鎖艦隊ノ爲ニ擊破セラルベキ運命ヲ有スルハ疑ナキ事實デアル。則右ノ十例中敵ノ攻擊ヲ免レ得タルハ僅ニ「ホタム」對「マルテン」ノ場合ノミニシテ、其ノ他ハ悉ク大敗ヲトツタノデアル。

要スルニ第一線國防ハ其ノ防禦線ノ甲タルト乙タルト丙タルトニ論ナク苟モ、其ノ任務ヲ全フシ得ベキ實力アリトセバ、其ノ結局ニ於テ國防ノ目的ヲ貫徹シ得ルハ戰史ノ研鑽上最早疑フニ足ラヌコトデアル。殊ニ甲線則敵國ノ港灣及近海ヲ以テ防禦線トナスベキ戰策ハ其ノ効果最モ適確ニシテ國防眼ニ照シテ之ヲ看レバ此場合ニ於テ最モ鮮明ナル光輝ヲ發スルノデアル、コレ獨リ、吾輩ノ信ズルノミナラズ古來戰例ノ之ヲ證明スルコト極メテ親切デアル。

言ヲ換ヘテ之ヲ云ヘバ我海軍ニシテ既ニ敵ノ海軍ヲ制壓若クハ擊破スルノ實力アリ、且巧ニ之レヲ用テ國防ノ任務ヲ負擔シタリトセバ、第二第三線國防ハ最早敵ニ對スルノ必要ナク、敵ヲ見ルコトナクシテ戰役ヲ終ルデアロウ。是レ啻ニ理論上然リトナスノミナラズ、マタ英國ノ國防史ガ明白ニ之レヲ證明スルノミニアラズ、近キ日清及日露ノ戰爭ガ好箇ノ前例デアル。假令敵軍ガ巧ニ我艦隊ヲ瞞著シ其ノ視線ヲ外ニ轉ゼシメ、其ノ虛ニ乘ジテ陸軍ヲ輸送シ我國土ノ一部ニ上陸セシメタリトスルモ、到底多數ノ兵員ヲ送ルコト能ハズ。例令比較的ニ多數ナリトスルモ、僅カ一二回中規摸ノ輸送ヲ行ヒ得ルニ過ギヌノデアル。則其ノ兵數ニ於テモ四五萬ヲ出ルコト能ハザルハ云フ迄モナイ、此數萬ノ陸軍ガ後方ノ聯絡ヲ絕タレタル場合ニ來ルベキ運命ニ就テハ、史上ニ明白ナル前例ノ如ク、「サラミス」「エジプト」及愛蘭ノ如キ結果トナルニハ相違ナイノデアル。

第二第三線ヲ主トセル國防ノ結果

然ルニ若シ之ニ反シ第二若クハ第三線ノ國防ヲ主トシ、第一線國防ヲ從トスルトキハ、其ノ結果ハ我艦隊ノ敗北トナリ、軍港ヘノ退却トナリ、敵ハ之レニ乘ジテ海上ヲ制シ、自由ニ其ノ陸軍ヲ輸送シ我海岸ニ上陸セシムルニ至ルハ毫釐モ疑フベキ處ガナイ、則天與ノ地理的好位置モ是ガ爲メ空然轉換セラレ、變ジテ大陸ニ介在スルト同一ノ始末トナリ、大陸軍備ノ威力ハ遺憾ナク海島國ニ加ルノデアル。然ラバ則例令第二線第三線ノ威力强大ナリトスルモ、海島國ハタ〳〵孤城ニ嬰守スルト同一ノ場合トナリ遂次敵ノ全力ニ逢フテ敗レ、相佐ケント欲スルモ援クルコト能ハズ、環海ノ諸島ハ悉ク敵軍ノ占領スル處トナリ、文正弘安ノ如キ慘事ヲ演出シ、手足斷タレテ身亦終ニ斃ルヽガ如キ悲運ニ遭遇スルデアラウ。假令幸ニシテ敵ノ陸軍ヲ擊破シ得タリトスルモ、既ニ進取ノ機能ヲ失ヒタル軍隊ハ最早敵ヲ追フテ其ノ捷利ヲ確メルコトガ出來ナイ。故ニ若シ不幸ニシテ第一線國防既ニ敵軍ノ敗ル處トナリ、

敵ノ艦隊ハ我海上ヲ制シ、徐ニ其ノ陸軍ヲ輸送シ第二第三線ニ肉薄シタリトセバ、コレ則チ第二第三線國防ノ努力シテ其ノ任務ヲ全フスベキ戰局ニ入リタルモノナルニモセヨ、敵軍既ニ海ヲ制スルトキハ、最早コレヲ防遏スベキ手段ガナイノデアル。假令海岸ニ於ケル國防ノ設備堅實ナルモ、陸軍移動軍ガ如何ニ强大ナルモ、全體ニ於テ勝利ヲ得ルコト能ハザルハ明白デアル。則此問題ニ就テハ獨リ理論上ノミナラズ、古來ノ戰例一々之レヲ證シテ餘リアルハ無論デアル。(我國ヲ除キテハ世界唯一ノ島帝國タル英國ガ、其ノ海上制力ノ衰ヘタル場合ニ於テ、數々亡國ノ災ヲ招キ、千歲不磨ノ耻辱ヲ貽シタルガ如キハ好キ鑑例デアル、其ノ甚キニ至テハ第二線國防ノ設備ハ反テ敵軍ノ利用スル處トナリ、翻テ我ニ仇スルノ異觀ヲ呈スルコトガアル。日清戰役ニ於テ、我軍ガ龍廟嘴及趙北嘴砲臺ヲ奪ヒ、之ヲ用テ敵艦隊ヲ砲擊セルガ如キ、又遠ク千七百七十八年ニ於ケル英將「バリントン」ノ「セント、ルシー」作戰中ニ看ル處ノ如キ、(史例第七十參照)千八百九年ニ於ケル「ブールボン」島「セント、ポール」ノ攻擊(史例第二百〇二參照)ノ如キマタ露土戰爭ニ際シ英軍ガ「ボーメルズンド」ノ占領砲臺ヲ利用シタルガ如キモマタ此ノ例デアル。

帝國國防ハ第一線國防ノ設備ヲ完整スルニ在リト明言センガ國防設備ノ完整ヲ主眼トスヲ

吾輩ハ以上縷述シタル處ニ依リ島帝國々防ノ主眼ハ第一線國防ノ設備ヲ完整スルニ在リト明言センガ爲ニハ毫釐ノ不足ヲモ感ゼヌノデアル、去リ乍ラ、吾輩ハ更ニ一層右ノ意義ヲ確實ナラシメンガ爲メ「我海軍敗レ、海上ハ敵手ニ歸シ、第二第三線國防ノ設備ヲ以テ敵軍ニ當ルベキ場合ヲ研究シヨウト思フ。

第七章　海軍敗レ海上敵手ニ歸シ第二第三線國防ヲ以テ敵軍ニ當ルヘキ場合ニ於ケル成敗及海島國々防ノ終結ニ關スル研究

第二第三線國防

吾輩ハ此研究問題ヲ解決センガ爲メ、歐洲諸國ガ主トシテ海上權ヲ利用シ、艦隊及少數ノ陸軍ヲ以テ海島ヲ攻擊シタル前例ヲ調査シ、其ノ成敗ノ蹟ヲ研究スルニ、防守者ガ其ノ目的ヲ全フシ得タル前例ハ殆ンド絶無デアル、則數ヲ以テ之ヲ表スレバ七十例中攻者ノ失敗ニ終レルハ僅ニ二回ノミデアル。此失敗シタル場合トテモ皆明瞭ナル原因アリ、其ノ責主トシテ攻者其ノ人ニアルハ一目瞭然タル有樣デアル、假令如何ニ巧妙ナル戰策ヲ用ルニモセヨ、第七十一回ニ至リ前者ハ例ヲ打破シ、守者ノ爲ニ必勝ノ道ヲ開カントスルガ如キハ必竟空論ト稱スルノ外ハナイノデアル。(第二線國防ノ價値ニ就テハ別ニ論ズル處アルベシ。)故ニ吾輩ハ制海艦隊ノ擁護ヲ受タル出征軍隊ハ、其ノ失敗ヲ招クベキ特別ノ事情ナキ限リハ其成功極メテ確實ナルヲ信ズルト同時ニ、敵ノ全力ニ當ルベキ大陸軍ヲ以テ衛戍スルニアラザレバ、環海ノ諸島ハ一トシテ海ヲ制スル敵軍ニ抗スルコト能ハザルヲ確信スルノデアル。則チ我海軍ノ力ニシテ微弱ナランニハ敵ハ先我艦隊ヲ擊破シ、而シテ其ノ全力ヲ擧ゲ、我要衝ノ地點ヲ突クニ至ルベキヲ信ズルノデアル。若シ夫深ク此理ヲ察セズ、海軍ノ充實ヲ圖ラズ、反テ海岸及海港ニ局地的防禦設備ヲナスガゴトキコトアラバ、是レ實ニ事ノ本末ヲ失スルノ甚キモノデアル。

我輩ハ右ノ趣旨ヲ證明スル手段トシテ先「主トシテ海上權ヲ利用シ艦隊及少數ノ陸軍ヲ以テ海島國ヲ攻擊シタル前例」七十ヲ略序シ、然ル後更ニ論旨ヲ進メ根本的ニ第一線國防ヲ主幹トスベキコトニ論及ショウト思フ。

戰例第四

海上權利ヲ用ヒテ海島ノ防禦

戰例第四

主トシテ海上權ヲ利用シ艦隊ヲ以テ海島若クハ海島孤立ノ地勢ニアルモノヲ攻擊シタル前例

對手國名	同數	成功	中止	一部成功	失敗
英對佛	三五	三〇	三		二
英對蘭	一五	一四	一		○
佛對英	七	七			○
英對西	六	五	一		○
英對瑞	一	一			○
英對丁	三	三			○
英葡同盟對佛	一	一			○
露土對墺佛	一	一			○
英對葡	一	一			○
合計	七〇	六三	五	○	二

(一) 千六百九十年英國「コドリントン」「セント、キッツ」ヲ攻陷ス。(成功)(史例第十七參照)

(二) 千六百九十四年英將「バーケレー」「ブレスト」ヲ攻メント欲シテ成ラズ。(中止)(史例第二十二參照)

(三) 千七百十年英將「マーチン」「アンナポリス」ヲ攻陷ス。(成功)(史例第三十一參照)

(四) 千七百三十九年英將「ヴアーノン」「ポート、ベロ」ヲ陷ル。(成功)(史例第三十五參照)

(五) 千七百四十五年「ニューソアオンドランド」殖民軍佛領「ケーブ、ブレトン」ヲ取ル。(成功)

(六) 千七百四十六年英國ノ遠征軍「ローリヤン」ヲ攻メテ成ラズ。(中止)(史例第四十二參照)

(七) 千七百四十六年佛將「ラブールドンネ」「マドラス」ヲ取ル。(成功)(史例第四十一參照)

(八) 千七百四十八年英將「ボスカーウエン」「ポンヂシエリー」ヲ攻メテ成ラズ(失敗)(史例第四十七參照)

(九) 千七百五十九年英艦隊佛領「ガーダルーブ」ヲ攻陷ス。(成功)(史例第五十三參照)

(一〇) 千七百六十年英將「ポコック」「ハウアンナ」ヲ攻陷ス。(成功)(史例第五十五參照)

(一一) 千七百六十一年英將「コーニッシュ」等「マニラ」ヲ攻陷ス。(成功)(史例第五十六參照)

(一二) 千七百六十一年英軍佛領「ポンヂエシエリー」ヲ攻陷ス。(成功)(史例第五十八參照)

(一三) 同年英軍佛領「マーチニク」ヲ攻陷ス。(成功)(史例第五十九參照)

(一四) 同年英軍佛領「グレナダ」ヲ征服ス。(成功)(史例第六十參照)

(一五) 同年英軍佛領「サンタ、ルシー」ヲ征服ス、(成功)(史例第六十一參照)

(一六) 千七百七十八年英軍「ポンヂエシエリー」ヲ攻陷ス。(成功)(史例第六十九參照)

(一七) 千七百七十九年佛軍「セント、ウインセント」島ヲ恢復ス、(成功)

(一八) 同年佛軍「グレナダ」島ヲ回復ス。(成功)(史例第七十一參照)

(一九) 千七百八十一年英軍蘭領「セントユースタシヤ」ヲ攻陷ス。(成功)

(二〇) 同年英軍蘭領「セント、マーチン」及「サバ」島ヲ征服ス。(成功)(史例第九十參照)

(二一) 千七百八十一年佛軍英領「タボガ」ヲ攻陷ス。(成功)(史例第九十二參照)

(二二) 千七百八十二年佛軍「ド、グラス」「セント、キッツ」外西印度諸島ヲ攻陷ス。(成功)(史例第九十五參照)

(二三) 千七百八十二年英軍蘭領「トリンコマリー」ヲ攻陷ス。(成功)(史例第九十九參照)

(二四) 同年佛軍英領「トリンコマリー」ヲ攻陷ス。(成功)(史例第九十九參照)

(二五) 千七百九十二年英軍佛領「トバコ」ヲ征服ス。(成功)(史例第百〇五參照)

(二六) 千七百九十三年英軍佛領「ボンヂエシニリー」ヲ攻陷ス。(成功)(史例第百〇七參照)

(二七) 千七百九十三年英將「ガートナー」「マルチニーク」ヲ取ラントシテ失敗ス。(失敗)(史例第百〇九參照)

(二八) 千百九十四年英將「フード」「コルシカ」ヲ取ル。(成功)(史例第百十五參照)

(二九) 千七百九十四年英軍ハ佛領「サン、ドミンゴ」ヲ征服ス。(成功)(史例第百十四參照)

(三〇) 千七百九十四年英軍佛領「マルチニーク」ヲ征服ス。(成功)(史例第百十一參照)

(三一) 千七百九十四年英軍佛領「サンタ、ルシー」ヲ征服ス。(成功)(史例第百十二參照)

(三二) 千七百九十四年英軍佛領「ガーダループ」ヲ征服ス。(成功)(史例第百十三參照)

(三三) 千七百九十五年英軍蘭領喜望峰ヲ征服ス。(成功)(史例第百十九參照)

(三四) 千七百九十六年英軍佛領「セント、ルシー」ヲ攻陷ス。(成功)

(三五) 同年英軍佛領「セント、ウインセント」ヲ攻陷ス。(成功)

(三六) 同年英軍「グレナダ」ヲ攻陷ス。(成功)

(三七) 同年英軍佛領「サン、ドミンゴ」ヲ攻擊ス。(中止)(史例第百二十五參照)

(三八) 千七百九十七年英軍西領「トリニダッド」ヲ征服ス。(成功)(史例第百二十九參照)

(三九) 千七百九十七年英將西領「ポルトリコ」ヲ攻擊シテ失敗ス。(中止)(史例第百二十九參照)

(四〇) 千七百九十八年英將西領「ミノルカ」ヲ征服ス。(成功)(史例第百三十八參照)

(四一) 千七百九十六年佛軍英人ヨリ「コルシカ」ヲ奪還ス。(成功)(史例第百三十二參照)

(四二) 千七百九十八年露土同盟軍「コルフ」ヲ攻陷ス。(成功)(史例第百五十一參照)

(四三) 千八百年英軍佛領「マルタ」ヲ攻陷ス。(成功)(史例第百四十四參照)

(四四) 千八百一年英軍瑞領「セント、バーソロミユー」及「セント、マルチン」ヲ征服ス。(成功)

(四五) 同年英軍丁領「セント、トーマス」「セント、ジョン」及「サンタ、クロア」ヲ征服ス。(成功)

(四六) 同年英軍蘭領「セント、ユースタシヤス」及「サバ」ヲ征服ス。(成功)(史例第百六十三乃至百六十八參照)

(四七) 千八百一年英軍蘭領「マデーラ」ヲ征服ス。(成功)

(四八) 同年英軍蘭領「テルナチ」ヲ征服ス。(成功)(史例第百六十九及第百六十一參照)

(四九) 千八百三年英軍佛領「サンタ、ルシー」ヲ征服ス。(成功)

(五〇) 同年英軍佛領「ドバコ」ヲ征服ス。(成功)

(五一) 同年英軍佛領「デメララ」「エスキーボー」及「バービス」ヲ征服ス。(成功)(史例第百七十五參照)

(五二) 千八百四年英軍蘭領「キユラサオ」ヲ攻撃ス。(中止)(史例第百七十七參照)

(五三) 同年英軍蘭領「スリナム」ヲ征服ス。(成功)(史例第百七十八參照)

(五四) 千八百六年英軍蘭領喜望峰ヲ征服ス。(成功)(史例第百八十五參照)

(五五) 千八百七年英軍蘭領「キユラソー」ヲ攻陷ス。(成功)(史例第八十九參照)

(五六) 同年英軍丁領「セント、トーマス」、「サンタ、クロア」ヲ征服ス。(成功)(史例百九十參照)

(五七) 千八百九年英軍丁領「アンホルト」島ヲ征服ス。(成功)(史例第百九十八參照)

(五八) 同年英軍佛領「マルチニーク」島ヲ征服ス。(成功)(史例第百九十九參照)

(五九) 千八百八年英軍佛領「ギアナ」ヲ征服ス。(成功)(史例第二百參照)

(六〇) 千八百九年英軍佛領「セネガル」ヲ征服ス。(成功)(史例第二百一參照)

(六一) 同年英軍佛領「シントボール」ヲ攻陷ス。(成功)(史例第二百〇二參照)

(六二) 同年英將「コリングヴード」「ザンテ」以下諸島ヲ取ル。(成功)(史例第百九十四參照)

(六三) 千八百十年英軍佛領「ガーダローブ」ヲ征服ス。(成功)(史例第二〇三參照)

(六四) 同年英軍蘭領「セント、マルチン」「セント、ユースタシヤ」及「サバ」ヲ征服ス。(成功)(史例第二百〇四參照)

(六五) 同年英軍佛領「セント、マウラ」ヲ攻陷ス。(成功)(史例第二百〇七參照)

(六六) 同年英軍佛領「アイル、オフ、ブールボン」ヲ征服ス。(成功)(史例第二百〇八參照)

(六七) 同年英軍蘭領「アンボイナ」ヲ攻陷ス。(成功)(史例第二百十一參照)

因ニ英將ハ此時機ヲ利シ「ハローカ」「ナツソー、ロート」「ボール」「マニバ」「セバロナ」等ノ殖民地ヲ略シ、且「セレベス」ノ「メナドー」ヲ招降シ其ノ附近ノ諸港ヲ降シタリシガ、尙「タッカー」大佐ハ八月三十一日小激戰ノ後「テルナチ」ヲ陷レタリ。

(六八) 同年英軍蘭領「バンタ」ヲ陷ル。(成功)(史例第二百十一參照)

(六九) 同年英軍「アイル、オフ、フランス」ヲ攻陷ス。(成功)(史例第二百十二參照)

(七〇) 千八百十一年英軍蘭領「ジャワ」島ヲ征服ス。(成功)(史例第第二百十參照)

世界ノ海洋的殖民國ハ英、佛、蘭、西、葡、瑞、及丁ノ七國ニ過ギズ、而シテ海上ノ勢力ヲ利用シ敵ノ海島及海港ヲ攻撃シタルハ、主トシテ英佛二國ナリトス、然ルニ此二國ハ「ナポレオン」一世亡滅ノ後未ダ一タビモ相戰ハザルガ故ニ、コノ種ニ關スル史例ヲ得ルコト難シ。强テコレヲ求ムレバ智秘戰役ノ「ピサグア」攻撃ト米西戰爭ニ於ケル「サンチヤゴー」ノ戰ト我日清戰役ニ於ケル臺灣及澎湖島攻撃ト日露戰役ニ於ケル樺太遠征ト關東半島占領トアルノミ、故ニ吾人ハ便宜上千八百十一年ニ於ケル「ジャワ」島攻撃ヲ以テ最終トナシ、且歐米諸國ノ東洋獨立國ニ於ル行

海ト島トノ密接關係

動ハ引例ニ適セザルモノ多キヲ以テ之ヲ除ケリ

讀者モシ是等ノ史例ヲ研究セバ境遇ニ異同アリ、兵力ニ多少アリ、戰策ニ巧拙アリ、教練ニ精粗ノ別アルヲ認ムルトハ云ヘ、全史例ヲ通ジテ一貫スルモノヲ吟味スレバ、最早多言ヲ費スノ要ナクシテ一ノ原則ニ逢着スルノデアロウト吾輩ハ信ズル。則

『海島及孤立スル海港ノ防禦ハ、海上ノ權力ガ自己ノ掌握裡ニ存スル場合ニ於テハ、完全ニ其ノ守備ヲ全シ得ベキ望アルモ、一タビ海上ヲ敵手ニ委スルトキハ終ニハ敵軍ノ有ニ歸スベシ。』

ナル原則ヲ發見スルデアロウト思フ、假令如何ニ堅白異同ノ辯ヲ弄スルモ、如何ニ時勢ノ變移ヲ說キ、彼我內力ノ强弱ヲ喃々シテコノ原則ヲ打破セントスルモ、既ニ七十例中僅カニ二回ノ異例ニ過ギザル明白ナル敎訓ニ逢テハ到底此原則ヲ打消スコトハ出來ヌ。即我帝國ノ諸島例ヘバ臺灣北海道及對島琉球ノ如キ或ハマタ佐渡ノ如キ或ハマタ五島ノ如キハ、我海上ノ勢力一タビ失墜セバ、到底コレヲ維持スルコト能ハザルハ明白デアル。則海上ニ於テハ全然通商ノ機關ヲ破壞セラレ、英蘭戰役ニ於ケル蘭國ハ如ク、我船舶ハ橫濱若クハ神戸若クハ馬關ニ集マリ一歩モ海上ニ踏ミ出スコトガ出來ヌデアラウ。我海岸地方ノ侵襲若クハ鹵掠セラルルコトハ猶「ルイス」十四世及十五世時代ニ於ケル佛國ノ如ク、我國都東京ノ封鎖セラルルコトハ猶英蘭第二戰役ノ終ニ於ケル英國ノ如ク、困憊ノ極怨ヲ呑デ和ヲ敵國ニ請フニ至ルデアラウト我輩ハ信ズルノデアル、加之我國ノ地勢ハ長クシテ狹ク、到ル處ノ都會ハ海岸ニ近接シテ居ル、從テ攻擊軍ハ懸軍深ク重地ニ入ルノ不利ニ會スルコトナク、上陸後作戰目標ヲ突クニ多クノ時日ヲ要セヌノハ明白デアル。二三ケ月乃至五ケ月ヲ費シ、漸ク作戰目標ニ達シ得ルガ如キ大陸的ノ情況ヲ顯出スルコトハ、我國ノ如キ細長キ海國ニ對スル作戰上アリ得ベカラザル事實デアル、萬一作戰ノ經過不良ナルトキハイザ知ラズ、一擧シテ目的地ニ達スルノハ地理的關係ニ於テ自然ニ起ルベキ結果ニシテ、如何トモ致シ方ガナイ。故ニ第一線國防ガ敵ノ爲ニ全滅スルカ、或ハ假令全滅セザル迄モ軍港內ニ蟄伏スルコト威海衞及旅順ノ如キ塲合ニ於テハ。敵ハ我陸軍ガ各所ニ散在スルニ乘ジ、其ノ全力ヲ擧ゲ、電光石火ノ如ク我沿岸ノ一地方ニ上陸スルデアラウ。此塲合ニ於テハ敵ハ勿論我防禦ナキ海岸ヲ選定シテ上陸點トスルニ相違ナイガ。假令敵ハ其上陸ニ際シ幾分ノ抵抗ヲ受クルニモセヨ、海上既ニ敵軍ニ屬スルトキハ、敵ニトリ必竟何等ノ患フル處ナキハ明白デアル。乍去此問題ニハ議論ヲ挿入スルノ餘地ガアル。上陸ノ際ニ抵抗スレバ敵ノ勢力ヲ充分ニ取リ挫クコトガ出來ル、從テ敵ヲシテ上陸ノ目的ヲ果タスコト能ハズシテ大損害ヲ受ケシムルコトモ出來ルトノ說ハ一應謹聽ノ價値アルガ如ク看ユルノデアル。サリナガラ此議論ノ如キ。樂天主義ハ必竟敗戰ノ基デアル。歷史ノ敎ル所ニ據レバ敵ノ上陸ニ際シ之ヲ妨害スルコトスラモ既ニ困難デアル。古來ノ戰例上敵前上陸ノ塲合極メテ尠キハ何ヨリノ證據デアル。加之吾輩ノ研究シタル戰例ノ調査ニ據ルニ、上陸ノ際ニ抵抗ヲ受ケタル塲合ト雖モ、海上ノ後援確實ナルトキハ不成功ニ終ルベキ恐レ極メテ少イノデアル。否ナ殆ンド皆無ト云フテモ差支ガナイ。吾輩ノ調査ニ據レバ佛王「ルイス」十四世以來ノ戰例中上陸ノ際ニ抵抗ヲ受ケタル塲合ニシテ引例ノ價値アルモノハ僅ニ十四回ニ過ギズ、(半開國若クハ野蠻國ニ對スル戰例ヲ除ク)其內上陸ノ目的ヲ果シ得ザリシモノハ僅カニ一回デアル。其他我第二軍ノ榮城灣上陸ノ如キ千七百六十年ニ於ケル英軍ノ「マニラ」攻擊ノ如キ千八百十一二年頃ニ於ケル以太利沿岸ニ於ケル

敵前上陸ノ成功

英國端舟隊ノ急襲ノ如キ二三ノ例（「ゼームス」氏英國海軍歴史ニ詳記シアリ）アルニモセヨ、吾輩ノ調査シ得タル範圍内ニ於テハ先殆ンド上陸ノ目的ヲ果シ得ザリシモノガナイノデアル。上陸後ノ成敗ニ就テハ他ニ紛雜スル幾多ノ原因アリ、強テ一概ニ論定スルコト能ハズ。例ヘバ千八百年ニ於ケル「フロエル」攻擊ノ如キ、千七百九十七年ニ於ケル「ポルト、リコ」作戰ノ如キハ確カニ不成功（中止）ニ終ツタノデアルガ、ソレスラモ上陸ハ首尾ヨク成功シタノデアル。又失敗トシテ擧上セラレタル「ネルソン」將軍ノ「サンタクルズ」ノ如キハ其ノ失敗ノ原因極メテ明瞭デアル。

サレバ假令相當ノ準備ヲ以テ敵襲ニ備ル場合ニ於テモ、十中ノ八九ハ疑モナク敵軍ニ上陸セラルヽモノト覺期セナケレバナラヌ。從テ其ノ結果ハ第四例ニ胚胎產出シ來レル原則ノ如ク、竟ニハ敵軍ノ爲ニ擊破セラレ、後人ノ研鑽ノ資料トシテ第七十二例ニ列セラルヽノ不幸ヲ看ルデアロウト、吾輩ハ信ズルノデアル。

今試ニ上陸ノ際抵抗ヲ受ケタル前例ヲ調査スルニ左記戰例第五ノ如ク成敗ノ數殆ンド明白デアル。

戰例第五

上陸ノ際抵抗ヲ受ケタル前例

對手國	回數	上陸ノ成否 成功	上陸ノ成否 失敗	上陸後ニ於ケル作戰ノ結果 成功	上陸後ニ於ケル作戰ノ結果 中止	上陸後ニ於ケル作戰ノ結果 失敗
英佛對西	一〇	一〇		九	一	
英對西	三	三			一	
佛對英	一	〇	一	〇		一
合計	一四	一三	一	一〇	二	一

（一）千七百五十八年英軍ノ「セントマロ」上陸、（上陸後作戰中止）（史例第五十參照）
（二）同年七月英軍ノ「セルブール」上陸。「成功」（史例第五十參照）
（三）千七百六十一年英軍「ベルアイル」ヲ攻陷ス。（史例第六十三參照）
（四）千七百九十四年英軍「セント、ルシー」ニ上陸ス。（成功）（史例第百十二參照）
（五）千七百九十七年英軍ノ「ポルト、リコ」上陸（上陸後攻擊中止）（史例第百二十九參照）
（六）千七百九十七年英軍ノ「サンタクルヅ」攻擊。（上陸後失敗）史例第百五十一參照）
（七）千七百九十七年佛軍「サン、マルコフ」ヲ取ントス。（失敗）（史例第百三十一參照）
（八）千八百年英軍「フエロル」ニ上陸ス。（上陸後作戰中止）（史例第百五十六參照）
（九）千八百年英軍「クイベロン」ニ上陸ス。（成功）（史例第百四十二參照）
（一〇）千八百一年英軍埃及ニ上陸ス。（成功）（史例第百五十八參照）
（一一）千八百三年英軍「タポガ」ニ上陸ス。（成功）（史例第百七十五參照）
（一二）千八百七年英軍「キユラサヲ」ニ上陸ス。（成功）（史例第百八十九參照）

(一三)　千八百八年葡軍英領「ギアナ」ニ上陸ス、(成功)(戰例第四ノ五九及史例第二百參照)

(一四)　千八百十年英軍「マウラ」ニ上陸ス、(成功)(戰例第四ノ六五及史例二百〇七參照)

爾來今日ニ至ルマデ世界ノ各方面ニ戰爭ヲ看ルコト數回ニ及ビタリシモ、敵前上陸ノ比較的ニ損害多キヲ悟リタルモノ、如ク、是レヲ決行シタル類例殆ンド之レナキガ如シ。但シ歐米人ガ認テ以テ半開國トセル東洋諸國ニ行ヒタル作戰ニ於テハ、時トシテ敵前上陸ヲ企ルモノアリ。千八百五十二年ニ於ケル、英國ノ「ビルマ」遠征ニ於ケル又千八百六十年ニ於ケル英佛兩國ノ支那遠征ニ於ケル、又各國同盟軍ガ我ガ長州ニ對シテ行ヒタル先例ノ如キコレナリ。此他陸上防禦ノ程度甚ダ低クキカ、或ハ既ニ廢壞シテ大ナル損害ヲ受クルノ患ナシト認メタル場合ニ於テハ一時的ニ之ヲ行ヒタルコトナキニアラズ。(米國南北戰爭ノ不秩序ナル作戰ニ於テ「フォート、サムター」ノ端舟襲擊ニ失敗セルハ吾人ノ記憶ニ存スル唯一ノ戰例ナリ)、北清事變ニ於ケル太沽砲臺攻擊ノ如キハ蓋シ大ナル損害ヲ受クルノ患ナシト認メタル場合ニ屬スルナラン。

從來ニ於テモ、マタ現今ニ於テモ衆人ガ看テ以テ不利ナリト信ズル敵前上陸ノ場合ニ於テモ、尙右ノ如キ結果ヲ看ルハ大ニ疑フベキコトデアル。是ニ據テ考レバ敵前上陸ヲナサヾル場合ニ於テハ更ニ有利ノ戰果ヲ得ラル、コト勿論ナリト謂ハザルヲ得ヌ。故ニモシ我國ノ如キ地勢ニ於テハ各方面ヲ衞戍スル陸軍ガ到ル處敵ノ全力ニ膺リ得ベシトセバ。或ハ千七百四十六年ノ「ローリヤン」遠征ノ如ク、又千八百年ノ「フエロル」上陸ノ如ク、或ハ敵軍ノ行動ヲ中止セシムルコトヲ得ベキモ、一時的奇襲ニ對シテハイザ知ラズ、根柢アル進攻軍ニ對シ優勢ヲ維持シ得ベキ陸軍ヲ各方面ニ配置スルガ如キハ

瓌海ノ諸島

實際謂フベクシテ行フ可ラザルコトデ、第一非常ナル不經濟デアル。孫子ガ「所謂備ヘザル所ナケレバ則チ寡カラザル所無シ」トハ此ノ意味ニ外ナラヌノデアル。我輩ハ此見地ヨリ判斷シ如何ナル大陸軍ヲ備フルモ我帝國ノ本洲ハイザ知ラズ、苟モ海ヲ隔ツル海島ハ敵ノ蹂躪ニ委スル外萬々致シ方ガナイ。之ニ反シ我帝國ノ第一線國防ノ準備完整シ、敵國ノ派遣シ得ベキ軍隊ニ對シ優勢ヲ維持シ得ベキ威力アリトセバ。本州四國九州ハ勿論瓌海ノ諸島ハ一トシテ安全ナラザルナク、敵ヲシテ一指ヲダモ我國土ニ觸ルヽコト能ハザラシムルコトヲ得ベク、反之我海上ノ勢力一タビ失墜シ去リタランニハ、一タビ敵手ニ移シタル海島ハ終ニ之ヲ回復スルニ由ナク、孑々トシテ孤獨ノ狀態ニ陷リ終ニハ國運ヲ維持スルコト能ザルニ至ランコトヲ恐ル、ノデアル。更ニ眼ヲ轉ジテ敵兵ガ帝國內ニ上陸シタル場合ヲ想像スルニ、彼ノ有名ナル英將「ウエリントン」ノ西班牙半島ニ於ケル作戰ノ結果ヲ看ルモ、海上勢力ノ陸戰ノ勝敗ニ關スルコト至テ大ナルヲ想像シ得ラルベク、況ンヤ地勢上攻擊軍ノ爲ニ便利ナルコト西班牙半島ノ比ニアラザル我國ニ於テヲヤ。當時「ナポレオン」ノ强大ナル陸軍ヲ以テ、尙且、一掬ニモ足ラザル英國陸軍ヲ半島以外ニ驅逐スルコト能ハズ。終ニ「ウオータールー」ノ敗因ヲナシタル一事ノ如キハ大ニ玩味スベキ問題デアル。小作戰トハ謂ヒナガラ千七百七十六年ニ於ケル英將「ドグラス」ノ「クエベック」援助ニ關スル史例、(「レーヤード、クロース」英國海軍史第三卷第三百五十六頁乃至八頁參照)ノ如キ又「ナポレオン」ノ「サンダークル」攻擊ニ際シ、英海軍ガ防禦軍ヲ助ケタル前例ノ如キ、固ヨリ之ト相比スルノ價値ナシトハ謂ヘ、海上勢力ガ陸戰ニ對シ果シテ如何ナル影響ヲ有スルヤノ問題ヲ解決スルニハ頗ル有益ノ戰例デアル。英人「メジョア、コールウエル」氏(「ウ

李舜臣ノコト

オータールー」以來ノ陸上戰役ニ於ケル海上管制ノ効果）ノ序文ニ於テ「十六世紀ニ於ケル日本軍ノ朝鮮征伐ヲ紹介セルガ如キモ注意スベキ着眼デアル。當時如何ニ韓將李舜臣ニ屬スル水軍ノ爲ニ我軍ノ運動ヲ掣肘セラレ、マタ我軍ヲ不利ニ導ク爲ニ同水軍ノ如何ニ有功ナリシヤニ就テハ今更論ズル迄モナイノデアル。則我軍ガ第一戰役ニ於テ充分ノ効果ヲ擧グルコト能ハザリシハ、實ニ我水軍ガ李提督ニ制壓セラレ、珍島ヲ廻リテ西海ニ出デ一擧シテ牙山仁川ニ通ズルコト能ハザリシニ職由スルハ明白ナル事實デアル。我二十七八年戰役ニ於ケル我軍ノ偉勳ヲ以テ豐太閤ノ盛業ニ對スルニ其ノ成績ノ相懸絶スルコト甚キハ、必ズシモ我諸將ノ豐太閤時代ニ不能ニシテ今日ニ卓拔ナルニアラズ、一ニ御稜威ノ然ラシムル處ナルハ固ヨリ論ズルニ足ラズトハ云ヘ、其ノ原因ハ主トシテ仁川ニ上陸セルト釜山ヲ上陸點トナシタルノ二點ニ屬スルノデアル。更ニ進デ之ヲ謂ヘバ海上ヲ制スルト制セザルトノ二點ニ歸スルハ疑モナキコトデアル。此點ニ就テハ既ニ豐太閤時代ニ於テ充分ニ焦慮シタル痕跡アリ。大河内秀元ノ日記ニ

「阿波守（蜂須賀）云ケルハ、抑アノ山ノ如クナル數萬艘ノ大敵、日本僅カノ小船小勢ニテ乘合セ戰ハン事成リ難シ。所詮此處ノ舟軍ハ指置キ陸地ニツキ、國中ヲ攻侵シ然ルベシトアリシニ、太田飛驒守（奉行）云ケルハ、眼前ノ敵ヲ指置テ、目ニモ見ヘヌ陸地ノ敵ヲ計ハントノ事予ガ分別ニハ心得ガタシ、各如何トアリケレバ、加藤左馬之介進ンデ曰ケルハ、仰ノ如ク此船其儘ニ捨置ニ於テハ釜山表椎ノ木島ニ乘リ出シ、日本ヨリ渡海ノ兵粮船ヲ取候ハン。左アレバ味方ノ軍士上下飢ニ勞レ候ベシ、不肖ノ某末座ノ推參ニ候云々。」

トアルハ大ニ味フベキ價値アリト吾輩ハ信ズルノデアル。既ニ「サラミス」ノ戰例ニモ附言シタル如ク「コールウエル」陸軍少佐ノ著ニ於テ、

奈翁ノ戰鬪力ハ陸上ニ於テ無限ニ雄大ナルモノニシテ、列底英國ノ比肩スベキモノニアラザリキ。而カモ其ノ勝敗ハ兵力ノ大小ニ依ラズシテ終ニ同盟軍ノ手中ニ歸シタル所以ノモノハ、主トシテ實ニ英海軍ノ「海ヲ制シ」タルニヨレリ。英國陸軍ハ實ニ戰場ノ花トシテ勇戰シタリ、而カモ皆コレ海上權力ノ庇陰ニアラザルハナシ、云々。

トアルガ如キハ國防ヲ議セントスルモノヽ宜シク考究スベキ處ナリト吾輩ハ信ズル。我征韓役ニ於テハ正ニコレニ反シ。當時我陸軍ノ如何ニ精鋭ニシテ當ルベカラザリシヤハ柳成龍ノ言ニヨリ明白デアル。

壬辰四月賊連リニ内郡ヲ陷ル、我軍風ヲ望デ潰亂シ敢テ鋒ヲ交ル者ナシ、備邊司ノ諸臣日々闕下ニ聚リ備禦ノ策ヲ講ジテ以テ計ヲナスコトナシ、或ハ建議シテ曰ク、賊善ク槍刀ヲ用ユ、我レニ堅甲ノ禦グベキナシ、故ニ敵スルコト能ハズ、當ニ厚鐵ヲ以テ滿身甲トナシ、被リテ賊陣ニ入ルトキハ則チ賊隙ノ刺スベキナクシテ我レ必ズ勝タント。衆曰ク然リト。是ニ於テ大ニ工匠ヲ聚メ晝夜打造ス、余以テ不可トナス、曰ク賊ト鬪フハ雲ノ合ヒ鳥ノ散ズルガ如ク捷疾ナルヲ貴ブ。既ニ滿身ノ厚甲ヲ被ル其ノ重キコト勝フベカラズ。身且還ルコト能ハズ何ゾ賊ヲ殺スコトヲ望マント、數日ニシテ其ノ用ヒ難キヲ知リテ遂ニ罷ム。（懲毖錄）

當時韓人ノ狼狽シタル有樣ハ柳氏ノ記スル處ニヨリ之ヲ目前ニ看ルノ感アリ。要スルニ我陸軍ノ精鋭

征韓ノ失敗ニ關スル柳成龍ノ意見

ナルハコノ言ニ據リ明白ニ之レヲ證スルコトガ出來ル。如斯嚮フ處敵ナキ陸軍ヲ以テ前後數年ノ大戰役ヲ經、尙且其ノ目的ヲ貫徹スルコト能ハザリシハ抑モ亦何等ノ原因ニ由ルヤ。コノ點ニ對シ賢相柳成龍ハ明ニ解決ヲ與ヘ、

是ヨリ先キ賊將行長平壤ニ到リ書ヲ投ジテ曰ク、日本ノ舟師十餘萬又西海ヨリ來ル。未ダ知ラズ、大王是ヨリ何處ニカ龍御スルヤト。想フニ賊本ト水陸勢ヲ合シテ西ニ下ラント欲セルナラン。然ルニ水軍敗ラレテ(李舜臣ノ捷ヲ云フ)一臂遂ニ斷タレタリ。行長獨リ平壤ヲ得ルト雖モ、勢孤立ノ姿トナリ、又軍ヲ進メザルナリ。而シテ我國家亦全羅忠淸ヲ保チ黃海平安ニ及ビ、沿岸一帶ニ軍食ヲ調度シ、號令ヲ傳通シ、以テ中興ヲナスコトヲ得タリ。而シテ遼東金州天津等ノ地震驚ヲ被ラス。陸路來援ノ天兵ヲシテ賊ヲ却クルニ至ラシメタルモ皆此一戰ニ基ク。嗚呼豈天ニアラズヤ。舜臣三道ノ舟師ヲ率ヒ留リテ閑山島ニ屯シ賊ノ西犯ノ路ヲ遏ム。(懲毖錄)

ト云フテアルノハ明ニ「陸上ノ作戰彼ノ如ク韓國ニ不利ナリシト雖ドモ制海權李舜臣ノ手ニアリ依テ以テ中興ヲナスコトヲ得タリ」トノ意義ヲ指摘シタノデアル。

要スルニ第三線國防ノ設備ハ陸海軍ニ對シ之ヲ擊攘スルノ能力ナキコト、例ヘバ動物園ノ猛獅ガ檻外ノ觀客ヲ園外ニ追ヒマクルコト能ハザルガ如ク、天地ヲ震動シ山岳ヲモ址裂セントスル恐ルベキ獅子吼モ既ニ檻中ノ物ト知リテハ隣房ノ貍兒ヲモ驚スニタラヌノデアル。陸上百萬ノ强兵モコレニ同ジク海上ヲ遊弋スル敵ノ海軍ニ對シテハ何等ノ威力ヲダモ及スコト能ハズ、第二線國防ノ如キニ至テハ巢中ニ蹲ル針鼠ノ如クマタ樹上ヨリ墜タル栗ノ毬彙ノ如ク手ヲダニ觸レザレバ何等ノ惧ルベキモノニアラザルコト今更論ズルニ及バヌ次第デアル。サレバ第二第三線ノ軍備ハ守勢ヲ轉ジテ攻勢ニ移ルノ能力ナク從テ敵軍ヲ追拂ヒ進デ敵ノ海岸ヲ突クコトガ出來ヌ。吾輩ノ舊著ニ

『且夫レ第三線國防ノ設備ハ敵ノ海軍ト勝敗ヲ決スルコト能ハズ、第二第三線ノ軍備ハ守勢ヲ轉ジテ攻勢ヲ取ルノ能力ナク、從テ敵軍ヲ追攘シ進デ其ノ邊海ヲ衝クニ由ナシ。是ヲ以テ我軍幸ニシテ敵ノ陸軍ヲ擊破シ、我本土ヲ防守スベキ重責ヲ盡セリトナスモ敵艦隊ハ肆ニ我沿海ヲ遊弋シ、大陸軍ヲ輸送シ、環海ノ諸島ヲ占領シ我海上ノ交通ヲ遮斷スルニ至ラン、然ラバ則我國都ハ之ガ爲、餓孚ヲ生ジ、漁業及海運ハ之ガ爲ニ停止シ、工商ノ機關ハ之ガ爲ニ其ノ運轉ヲ止メ、經濟社會ノ大恐慌トナリ、國民全般ノ窮乏トナリ、遂ニ地ヲ割キ償金ヲ出シ、建國以來世々聖德ニ沐浴シ來レル我　陛下ノ臣民ヲシテ、怨ヲ呑ンデ異邦ノ法下ニ隷屬セシムルニ至ランモ未ダ知ルベカラズ。吾人故ラニ不祥ノ言ヲ爲シテ國運ノ將來ヲトセントスルニアラズト雖モ、第一線國防ノ備完カラザルノ致ス處終ニハ斯クノ如キ悲運ニ遭遇セントスルノミ。而シテ前記ノ情況ハ英蘭戰役ニ於テ之ヲ看ルコトヲ得ベク、(史例第十四參照)海上輸送事業ノ大ニ發達セル今日ニ於テハ、惟フニ其ノ慘害更ニ彼レヨリモ甚キモノアルベシ。英京「ロンドン」ノ如キハ、英國ガ主トシテ其ノ食品ヲ海外ニ仰グヲ以テ若シ一タビ海上ヲ敵手ニ委スルトキハ、僅ニ五週日ヲスラ支ヘ難キハ識者ヲ待タズシテ明白ナル事實トナレリ、我東京ノ如キモ食品ハ概ネ之ヲ海路ニ仰グヲ以テ若シ灣口封鎖セラルヽトキハ、海上ノ交通斷絕スルノミナラズ、東海道ニ於ケル交通機關モ亦之ト共ニ斷絕スルガ故ニ、如何ニ樂天的ニ計算ス

ルモ二ケ月以上ヲ支ヘ難キヤ蓋シ明ナルベシ。事果シテ此ニ至ラバ、假令戰役ヲ繼續シ最終ノ利ヲ得テ恢復ヲ圖ラント欲シ、强硬ナル態度ヲ執リ敵軍ヲ惱マシ、彼レヨリ進デ和ヲ講ゼシメントスルモ、果シテヨク其ノ目的ヲ遂行スルコトヲ得ヘキヤ。假リニ一歩ヲ讓リヨク其ノ目的ヲ果シ、敵ヲ國外ニ追攘シ得タリトスルモ、果シテ克ク我國防ノ實ヲ擧ゲ我隆運ヲ挽回スルノ術ヲ得タリト稱スルヲ得ベキカ。且夫レ戰役ノ狀態ハ今ヤ大ニ其ノ舊觀ヲ改メ、必ズシモ敵國ヲ亡滅スルヲ望マズ、自國ノ主張ヲ貫徹シ、戰利ヲ確保スルヲ以テ目的トナスニ至レリ。戰役ノ目的ハ敵ヲシテ城下ノ盟ヲナサシムルニアリトナスガ如キ舊思想ハ蓋シ重視スルニ足ラザルベシ。加之大國間ノ交戰ハ其ノ影響ヲ他邦ニ及スコト大ナルヲ以テ、兵ヲ用ルコト久シキニ亘リ、結局ノ勝敗永ク決セザルトキハ、列國ノ之ヲ環視スルモノ、必ズヤ、其ノ敗者ヲ制肘シ和ヲ勝者ニ請ハシムルニ至ラン。事果シテ此ニ到ラバ、假令敵ヲ國內ニ防ギ、最終ノ利ヲ得テ國光ヲ維持セント欲スト雖モ。一タビ列國ノ壓力ヲ蒙ムルニ至テハ、復タ之ヲ如何トモスルコト能ハズ。終ニ和ヲ勝者ニ請ヒ繼ニ平和ヲ克復スルノ不得已ニ至ランコト必セリ。』

トノ意義ヲ論述シタノデアル。然ルニ世ノ軍事ヲ議スルモノ、動モスレバ大陸的思想ニ左右セラレ、其ノ訓戒ヲ大陸ニ於ケル征戰ノ跡ニ求ムルガ故ニ、假令近來ニ至リ局地防禦說ノ步調四度路トナリ、大體ニ於テ移動軍ヲ重視スルノ機運ヲ開催シタリトハ云ヘ、百尺竿頭更ニ一步ヲ進メ之ヲ海洋的ニ進化シ去ルコト能ハズ、不知不識種々ノ謬見ニ陷リ、國防ノ本義ヲ誤解スルモノ尠カラザルハ吾輩ノ竊ニ浩歎スル處デアル。其ノ甚キハ、

戰爭ハ陸上大作戰ニアラズ
レバ其ノ終結ハ告グルコト能ハズ
セズ
ナリ
謬見

『凡ソ戰爭ハ陸上ノ大作戰ニアラザレバ其ノ終結ヲ告グルコト能ハズ』トハ、迷想ヲ固持シ、優勢ナル陸軍ヲ有スルニ非ザレバ最終ニ戰ヲ決スルコト能ハズト論定スルモノアリ。此種ノ議論ハ、或ル點ニ於テ有力ナル眞理ヲ含ムハ吾輩ノ確カニ認識スル處デアル。則敗戰ノ場合ニ於テハ海島國ト雖モ疑ナク此事實ヲ實驗スルハ今更論ズルノ必要ナイ。乍去國防ノ目的ハ決テ敗ヲ轉ジテ垂死ノ國命ヲ繼ガントト欲スルニアラズ。堂々トシテ外敵ヲ退ケ、百戰百勝ヲ以テ名譽アル戰爭ヲ終結セントト欲スルノデアル。敵軍ヲシテ一步ヲダモ我等ノ寶土ヲ蹂躪セシムルコトナク、常ニ日清及日露戰爭ノ如キ立派ナル國防戰ヲナサントト欲スルノデアル。サレバ「凡ソ戰爭ハ陸上ノ大作戰ニアラザレバ其ノ終結ヲ告グルコト能ハズ」トノ判斷ハ大陸的ナル思想ヨリ湧出スル、自然ノ結果ナルモ、我帝國ノ如キ四面海ナル海島國ニ於テハ固ヨリ同一ナル思想ヲ以テ判斷ヲ下スベキモノデハナイ。從テ先例ニ就キ之ヲ證明セント試ムル場合ニ於テハ、必ズヤ海島國ニ就キ之ヲ吟味スルノ方法ニヨラナケレバナラヌ。モシ萬一之レヲ大陸諸國ノ史例ニ求メントスルガ如キヨトアラバ、コレ實ニ木ニ倚テ魚ヲ求ムルヨリモ甚シイ間違デアル。大陸諸國間ノ作戰ガ陸戰ヲ以テ終結スルハ今更云フ迄モナク、狗兒ノ嚙合ガ陸上ニ了ルト同一ノ眞理ナルモ、我帝國ノ如キ海島國ニ該當スベキ史例ハ、是非トモ世界唯一ノ海島國（我國ヲ除キテハ）タル英國ノ史例ニ求メナケレバナラヌ。此場合ニ於テ獨佛墺以等ノ戰例ハ大抵擧上スルノ資格ガナイ。今試ニ英國ガ「ウイルリヤム」一世以降歐大陸諸國ト交戰シタル史例ヲ調査スルニ、佛國ト二十回、西班牙ト五回、和蘭ト二回、露國ト一回、コノ他西佛同盟ト五回、西佛蘭三國同盟ト一回、佛蘭丁三國同盟ト一回、都合約三十五回デアル（英國海軍年表參照）ガ、

英國ノ大陸作戰

其ノ主要ナル戰役ニ就テ調査スレバ英王若クハ英將ガ陸軍ヲ以テ歐洲大陸ノ戰場ニ顯ハレタル前例ハ

（一）「スロイス」海戰ニテ「フランダー」ニ於ケル基礎ヲ固メタル後、千三百四十六年八月「エドワード」三世ガ三萬乃至四萬ノ兵ヲ以テ佛王「フイリツプ」六世ノ八萬ノ兵ヲ敗リタル「クレーシー」ノ戰及千三百五十六年九月英ノ「ブラクツプリンス」ガ八千ノ兵ヲ以テ佛王「ジヨン」ニ屬スル六萬ノ兵ヲ敗リ終ニ佛王ヲ生擒シタル「ポアーチア」ノ戰。

（二）英王「ヘンリー」五世ガ一萬五千ノ寡兵ヲ以テ「コンスタープル、ダルブレ」ニ屬スル五萬乃至六萬ノ佛軍ヲ敗リタル千四百十五年十月ノ「アジヤンクール」ノ戰、及ビコノ戰ニヨリ「トロイ」ノ條約ニ基キ英王ニ與フルニ佛國ノ王ヲ以テセルヨリ以來有名ナル「ジヤンダーク」顯ハレタル戰役間ニ渉レル「オルンアンツ」ノ戰（千四百二十九年五月）及「パーテー」ノ戰。（千四百二十九年六月）

（三）「西班牙」王ノ繼嗣問題ニ關スル戰役中英將「マルボロー」公ガ墺國ノ王子「ユーゼン」ト共ニ佛軍ト戰ヒタル千七百四年八月ニ於ケル「ブレネム」ノ戰、千七百六年五月ニ於ケル「ラミリー」ノ戰及千七百八年七月ニ於ケル「オードナルド」ノ戰。

（四）千八百九年英將「チヤタム」ノ率井タル「ウアルシエレン」遠征軍ノ戰。

（五）千八百八年ヨリ千八百十四年ニ至ル英將「サー、ジヨン、モーア」及「ウエリントン」公ノ率ヒタル「ペニンシユラー、ウオア」。及

（六）英將「ラグラン」ノ率ヒタル千八百五十四年ヨリ同五十六年ニ至ル「クリミア」遠征戰。

（右ノ外英將「アバークロンビー」ノ埃及遠征軍アリ、且英將「クリントン」「コーンウオリス」等ノ北米戰爭アルモ歐洲大陸ニ於テ行ハレタルモノニアラザルガ故ニ列記セズ。）

ノ六例ニ過ギヌガ其内近代ノ著名ナル戰爭ハ西國嗣繼戰役ニ於ケル「マルボロー」公ト「ナポレオン」戰役ニ於ケル「ウエリントン」公ノ作戰ナルモ右ノ諸例中眞ノ國防戰ト稱スベキハ殆ンド一モナイノデアル。即第一ノ塲合ニ於ケル國防戰ハ「スロイス」海戰ヲ以テ終リ、第五ノ塲合ニ於ケル國防戰ハ「トラフアルガー」ヲ以テ終リタルハ如何ナル人ト雖モ首肯セザルヲ得ザル程明確デアル。其ノ他ニ至テハ一モ國防戰ト認ムベキ資格ガナイ。米國獨立戰爭ノ如キハ内亂ノ一種トモ稱スベキモノニシテ、國防戰トシテ觀ルベキモノニアラザルハ言ヲ待タズ。シカモ其ノ最後ノ戰トシテ一般ニ擧上セラル、「ヨークタオン」ノ陷落（英軍ノ受ケタル最後ノトドメ）トテモ（チエサピーク）沖海戰ノ結果デアル。サレバ英國ノ戰爭ハ主トシテ海上ノ戰爭デアル。英國ガ專ラ海上ニ其ノ眸ヲ注ギ大陸ニ於ケル禍亂ヲ避ケタルノ結果ハ其ノ富强ヲ致スベキ主因トナリ。此數百年間ニ成シタル殖民地ノ諸經營ト、其ノ國富ヲ增進シタル形跡トハ實ニ世人ノ齊ク嘆美スル所デアル。必竟戰爭ノ目的ハ其ノ主張ヲ貫徹シ其ノ國富ヲ伸張セシムルニ外ナラヌノデアル。徒ニ敵國ノ都市ヲ燒キ拂ヒ、敵國ノ首都ニ其ノ兵ヲ繰リ入レントスルガ如キハ殆ンド兒戲ニ類スル冀望ト謂ハナケレバナラヌ。故ニ理論上ヨリ察スルモ海島國ハ必ズシモ陸戰ヲ以テ其ノ國防戰役ヲ終結スベキ必要ナク。マタ大ナル陸戰ニアラザレバ充分ナル戰果ヲ收メ得ザル理由ナシ。則少ク其ノ作戰ノ方面ニ注意スルトキハ莫大ナル戰果ヲ得ルニ毫量ノ差支ヲモ認メヌノデアル、則何人モ英國ノ如キ大戰果ヲ以テ滿足セヌト云フ筈ハ決シテナイノ

○英國ノ海戰ト其偉業

デアル、世界中英國程戰役ヲ利用シテ其ノ實力ヲ增進セシメタル國ハ古來一モナイト云フコトニ注意セナケレバナラヌ。然ルニ英國ガ國防ノ急ニ應ジテ採用シタル唯一ノ戰策ハ、吾輩モ既ニ述タル如ク第一線國防ヲ以テ其ノ國ヲ防禦スルト云フ一點ニ歸スルノデアル。吾輩ハ英國ガコノ戰策ヲ襲用シタル結果トシテ大陸ニ兵ヲ用ヒタル場合ノ極メテ少キヲ證スルト同時ニ、英國ノ國防ガ果シテ陸戰ヲ終リタル形跡アリヤ否ヤヲ證センガ爲、十六世紀以來ノ國防戰ヲ擧上シ、一々之レガ研究ヲ重ネタルニ、明白ニ陸戰ト海島國防ノ終結トハ何等ノ關係ナク、且一回モ陸戰ヲ以テ終リタルコトナキヲ證スルノハ寧ロ奇異ノ感ニ打タル、位デアル。即

（一）千五百八十八年ニ於ケル「インウインシブル、アルマダ」ノ戰役ハ、「ホーワード」「ドレーキ」等ガ西將「メジナ、シドニヤ」ヲ破リタル海戰ヲ以テ終レリ。

（二）千六百五十二年ヨリ七十四年ニ亘ル三回ノ英蘭戰役ハ、海戰ヲ以テ始マリ海戰ヲ以テ終レリ。

（三）千六百八十九年ヨリ九十七年ニ亘レル佛王「ルイス」十四世ノ侵英戰役ハ、純然タル海戰ヲ以テ終レリ。

（四）千七百五十九年佛王「ルイス」十五世ノ企テタル侵英戰役ハ「ラゴス」及「クエベロン」ノ海戰ヲ以テ終レリ。

（五）千七百九十七年ニ於ケル佛國侵英戰役ハ「セントウインセント」、及「カンバーダオン」ノ海戰ニ終リ、翌年ニ至リ英將「ワーレン」ノ佛艦隊擊破ト「ネルソン」ノ「アブーカー」海戰ト同將軍ノ「コーペンハーゲン」攻擊ニ據リ佛國ノ侵英的期望ヲ根本的ニ打破セリ。

（六）千八百四年ニ於ケル「ナポレオン」ノ侵英策ハ「フロエル」沖ノ海戰ニ挫折シ「トラファルガー」ノ海戰ヲ以テ終レリ。

陸戰ト海島國防ノ終結トハ殆ド何等ノ交渉ナシ

コノ事實ハ果シテ如何ナル判斷ヲ吾輩ニ與フルデアロウカ。世間ノ或ル論者ノ斷定スル如ク「凡ソ戰爭ハ陸上ノ大作戰ニアラザレバ其ノ終結ヲ告グルコト能ハズ」トハ海島國ニトリテハ無稽ノ言デアル。獨リ無稽ノ言タルヲ證スルノミナラズ、國防戰ヲ以テ之ヲ看レバ、

『凡ソ海島國ノ國防戰ハ海戰ヲ以テ始リ海戰ヲ以テ終ルヲ例トス大陸戰ヲ以テ終結スルガ如キハ殆ンド稀有ノ事ナリ。

トノ判定ヲ下シ得ルト同時ニ、

『陸戰ト海島國防ノ終結トハ殆ンド何等ノ重大ナル關係ナシ』

ト斷言スルヲ憚ラザルデアル。マシテ國防戰ノ大局ハ既ニ第一線ノ勝敗ヲ以テ始マリ其ノ勝敗ハ獨リ最終ノ運命ヲ豫言シテ過ラザルノミナラズ、其全局ヲ左右スルノ跡極メテ顯明デアル。

故ニ以上縷述シタル理論ト實跡トニ鑑ミ大體ヨリ判斷ヲ下ストキハ、苟モ國家ガ軍ヲ備フル所以ノ道ニ從ヒ我帝國ノ軍備ヲ整ヘンガ爲ニハ他ノ諸國ト大ニ其ノ趣ヲ異ニスル處アリ。必先自衞ニ强ナル所以ノ策ヲ講ゼザルベカラズトノ前提ニ基キ、國防ノ方針ヲ制定セント欲セバ先第一ニ主トシテ第一線國防ヲ重視シ、全力ヲ傾注シテ之ヲ完成スルコト、例ヘバ普露西皇帝ガ其ノ陸軍ノ擴張ヲ專ラトシ、其ノ海軍（一時的ニ必要ナルモ）ヲ顧ミザリシガ如ク。又羅馬人ノ根氣ヨク海軍ヲ擴張シテ（カルタゴ）ヲ壓セルガ如ク。又英人ガ克ク祖先ノ遺訓ヲ紹繼率循シ、其ノ全力ヲ第一線國防ニ注ギタルガ如

ク。我帝國ニ於テモ、凡ソ軍備ヲ論ズル場合ニ於テハ、必竟先決問題トシテ第一線國防ノ整否ヲ問ヒ。然ル後第二第三ニ及ブノ順序ヲトラザルベカラズ。トノ原則ヲ採用スルノ外他ニ求ムベキ處ナシト斷言シ得ルハデアル。則

帝國國防ヲ議スルモノハ必先第一線國防ノ整否ヲ問ヒ、其ノ果シテ適當ノ程度ニアルヤ否ヤヲ闡明シ、之ヲ擴張若クハ補充スルノ必要ナキヤ否ヤ先決シ、然ル後第二第三線ニ移ルノ順序ヲトラザルベカラズ。

第八章　攻勢的及守勢的國防ノ要素並ニ全地及局地的國防

○國防ノ要素

吾輩ハ國防ノ三線ニ就テハ冗長ニ失スル程十分ニ意見ヲ論述シタル積デアルガ。兎ニ角吾輩ガ是迄諸方面ヨリ論結シタル趣意ヲ玩味スレバ、國防ノ主眼ハ第一線國防ニアリ、トハ明白ナル道理デアル。サリナガラ國防ノ三線ハ必竟形式ノ上カラ看タル判斷デアル。則第一線國防ヲサヘ完備スレバ島帝國ノ國防ハ最早其大體ヲ得タルモノト信ジ得ベシトノ觀念ヲ平面的ニ畫キ得タルニ過ギヌノデアル。從來我國軍學者ノ寶典トシテ尊崇シ來レル兵書ハ先第一ニ指ヲ孫吳ノ二子ニ屈スルノハ何人モ首肯スル處デアル。乍去コノ二子ハ其ノ内容ニ於テ大ナル懸隔アリ。則孫子ハ孫子、吳子ハ吳子ノ面目ヲ備ヘテ居ル。唐ノ李靖ガ「分合ノ出ス所唯孫武之ヲ能クス、吳起ヨリ而下ハ焉ニ及ブベキナシ」ト斷言シタルガ如ク、兵法ノ精髄ヲ呑ミ込ムニハ孫子デナケレバナラヌ。孫子ノ議論ハ根本的デアル精神ノ機動ヲ述べ活殺自在ノ妙處ガアル。之ニ對シ吳子ハ正奇ノ妙用ニ短ナルコト李靖ノ評ノ如シトハ謂ヘ

攻守ノ柄ヲ握ラザルベカラズ

其ノ說ク處頗ル實際的デアル。一言ニシテ之ヲ覆ヘバ孫子ハ用兵ノ原理ヲ主トシ、吳子ハ用兵ノ方術ヲ旨トシ、各々其ノ長ズル處ヲ以テ後學ヲ益スルノデアル。吾輩ノ三線論ヲ以テ之ニ比スレバ其ノ趣キ殆ンド吳子ニ類スルノデアル。乍去孫吳ノ二書アリ、初メテ兵法ノ何物タルヲ解釋シ得ルガ如ク、國防ノ研究ニ於テモ孫子的ノ說明ヲ要スルハ勿論デアル。吾輩ガ攻勢的及守勢的國防ナル文字ヲ列記シ更ニ數十頁ヲ費サントスルハ及バズナガラ國防問題ヲ理想的方面ヨリ解釋シ國防ノ三線ト相待テ活殺自在ノ妙用ヲ把握セントスルノ期望ニ外ナラヌノデアル。則吾輩ノ舊著國防論ニ

『夫レ戰勢ハ奇正ニ過ギズ。作戰ハ攻守ニ過ギズ。善ク奇正ノ變ヲ究ムルモノハ勝チ、善ク攻守ノ柄ヲ握ルモノハ敗レズ。是蓋シ萬世不易ノ原則ナリ。今試ニ一歩ヲ進メテ之ヲ敷衍センニ、凡ソ戰勢ノ變易スル所以ヲ察シ其ノ攻ムベキニ攻メ、其ノ守ルベキニ守リ、其ノ散ズベキヲ散ジ、其ノ集ムベキヲ集ムルハ、巧ニ奇正ノ變ニ應ジテ常勝ノ道ヲ講ズル所以ナリ。然レドモ若シ將ヲシテ散ゼント欲スルモ散ズベカラザルノ麾軍ヲ率ヒ、集メント欲スルモ聚ラザルノ孤兵ヲ以テ敵軍ニ對セシメンカ、其ノヨク奇正ノ變ヲ制シ攻守ノ柄ヲ握ルコト能ハザルヤ知ルベキノミ。果シテ然ラバ又何ヲ以テ奇正ノ變ヲ論ズルコトヲ得ンヤ。之ヲ要スルニ麾孤ノ軍ヲ以テ分合ノ理ニ應ジ攻守ノ柄ヲ握ラントスルハ、之レ實ニ其ノ能ハザルヲ能クセント欲シ、其ノ成ラザルヲ成サント欲スルモノ耳。』

ト論ジ奇正分合ノ變ヲ說ケルハ國防ノ要素ニ關スル理義ヲ明サンガ爲ニハ、麾孤ノ二字ヲ紹介シ、是ニ與ルニ充分ナル活動力ヲ以テシ、活殺自在ノ妙用ヲ以テ國防問題ヲ闡明セシメント欲シタルニ過ギ

麼孤軍兵

ヌノデアルガ。吾輩ハ此章ニ於テモ亦同一ノ手段ニ據リ更ニ明瞭ニ之ヲ說明ショウト思フ。元來麼孤ノ二字ハ讀者モ既ニ知ラル、如ク吾輩ノ勝手ニ創造シタル文字デハナイ。李靖ノ言ニ

『大公曰ク分テ分レザルヲ麼軍トナシ、聚メテ聚ラザルヲ孤旅ト爲ス』

吾輩ハ此言ニ基キ麼軍孤兵ノ意義ヲ論ジ國防方針ノ大原則トナサント試ミタルニ過ギヌ。

原來麼孤ノ軍ニ關スル理義ハ餘リニ明白ニシテ說明ヲ加フルノ必要ガナイ。「彼ノ戰線ガ手薄デアル、若干ノ援兵ヲ差向ケナケレバナラヌ、」トスルモ他ノモノニ妨ゲラレ其ノ通リニ行フコト能ハズ。又「彼ノ方面ヨリ此方面ニ若干ノ增加ヲ行フノ要アリ、モシ出來ベクンバ全力ヲ一團ニ集メ、大活動ヲ成サント欲スルモ他ニ妨害セラレテコレヲ實施スルコト能ハザル」トキハ。最早奇正モ勝敗モ問フベキ限リニアラズ。分合ノ變奇正ノ妙ナドハ到底夢想ダモ及バザル處デアル。若シ萬一戰陣ニアッテ如此情勢トナリタランニハ如何ニシテ捷利ノ目的ヲ果シ得ルデアロウカ、斯謂、「符堅百萬ノ衆ヲ總ベテ淝水ニ敗ル」ト云フハ此事デアル、モシ萬一國防ノ設備ヲナスニ際シ、茲ノ如ク不祥ナル麼孤ノ國防ヲ主眼トセバ果シテ如何ナル運命ヲ國家ノ前途ニ齎スデアロウカ。

古來ノ戰將ニシテ奇正分合ノ妙用ヲ盡シタルモノ必ズシモ一二ニ止ラズ。「ナポレオン」ガ「我全ヲ以テ他ノ分ヲ擊テ」ト云ヒタルモコノ意義ニ外ナラヌノデアル。サリナガラ海軍將官トシテ之ヲ看レバ、先東洋ニアッテハ韓將李舜臣、西洋ニ在テハ英將「ネルソン」ヲ推サナケレバナラヌ。李舜臣ハ實ニ蓋世ノ海將デアル、不幸ニシテ生ヲ朝鮮ニ享ケタレバコソ、勇名モ智名モ西洋ニハ傳ラヌノデアルガ、不完全ナガラモ征韓ニ關スル紀傳ヲ看レバ實ニ立派ナル海將デアル。西洋ニ於テ之レガ匹敵者ヲ求ムレバ啟カニ蘭將「デロイテル」以上ト謂ハナケレバナラヌ。「ネルソン」ノ如キハ其ノ人格ニ於テ到底比肩スルコトガ出來ヌ。此ノ李將軍ハ實ニ裝甲艦ノ創造者デアル、三百年以前ニ於テ既ニ立派ナル海軍戰術ヲ以テ戰ヒタル戰將デアル。夜間ノ警戒法ト曰ヒ、又ハ「ブームス」ノ應用ト曰ヒ、實ニ感服スベキモノ頗ル多イ、世人ハ嘖々トシテ防禦水雷ヲ攻擊水雷ニ轉化シタル我海軍ノ偉蹟ヲ賞スルデアロウ。コレハ如何ニモ後世ニ傳ヘテ誇トナスベキ資格ガアル、サリナガラ焉ゾ知ラン李將軍ハ既ニ三百年前ニ於テ「ブームス」ヲ攻勢作戰ニ利用シタノデアル。碧波亭ニ於ケル菅正陰ノ戰死ハコノ消息ヲ傳ヘテ居ルト吾輩ハ信ズル。兎ニ角コノ蓋世ノ海將李舜臣ハ見乃梁ノ海戰ニ於テ明カニ「コンセントレーション」ノ戰術ヲ用ヒタルモ、吾輩ノ調査シタル記傳中ニハ遺憾ニモ詳細ナル事蹟ヲ傳ヘテ居ラヌノデアル。併シ「ネルソン」ノ事蹟ニ至テハ其ノ傳ル處極メテ饒多デアル。同將軍ノ四大海戰則、「セントウインセント」「ナイル」「コーペンハーゲン」及「トラフアルガー」ニ於テハ常ニ分合麼孤ノ理ヲ基礎トシテ捷利ヲ得タノデアル。其ノ奇正ノ妙用特ニ著キハ「セントウインセント」ノ戰デアル。其ノ詳細ナル事蹟ニ就テハ讀者ノ英史ヲ讀ムニ委セ、茲ニハ戰勢ノ變化ニ就キ其ノ概略ヲ述ベヨウト思フ。

「セントウインセント」ニ於ケル「子ルソン」ノ獨斷專行

「ネルソン」ハ西班牙艦隊ノ風下枚隊ガ其ノ本隊ニ合セントスルヲ察シ、一ニハ之ヲ妨害シ、二ニハ英艦隊ノ一部ヲ敵ノ先頭ニ導クノ必要ヲ認メ、主將「ジャーウイス」ノ命令ニ關セズ、(逐次上手廻ノ信號命令アリタリ)斷然下手小廻ヲ行ヒ、猛然トシテ敵ノ先登部隊ヲ突擊シタノデアル。コノ獻身的ナル奇襲ハ實ニ戰局ヲ轉ジ、本戰ノ位置ヲ西艦隊ノ前部ニ移シ、正一轉シテ奇トナリ、奇一轉シテ正トナリ、終

「コーペンハーゲン」攻戰ノ戰術的趣味

ニ西艦隊ヲ破シタノデアル。吾輩ハ史ヲ讀ミ、「ネルソン」ノ此雄偉ナル獨斷專行ノ事蹟ヲ看ルニ至リ、欽慕スベキ古名將ノ颯爽タル雄姿ガ躍如トシテ眼前ニ顯ルヲ感ズルノデアル。而カモ「ネルソン」ヲシテ主將モ尙且知ラザルノ奇ヲ出シ猛然トシテ敵ノ先頭ヲ壓シ終ニカノ如キ偉功ヲ奏セシメタルハ、一ニ「ネルソン」ガ上將ノ命ヲ待タズ身ヲ擲チ分合ノ理ニ應シタル勇斷ニ歸セザルヲ得ヌ、則唐ノ太宗ガ夫レ右軍ノ却クニ當テヤ高祖色ヲ失フ、朕ノ奮擊スルニ及ンデ反テ我利ト爲ル。」ト謂ヒタル ト東西相照シテ海陸ノ雙璧デアル。而カモ「ネルソン」ヲシテ斯ノ如キ非常手段ヲ執ルコトヲ得セシメ、太宗ヲシテ威ヲ振ヒ南原ヨリ馳セ下テ横サマニ敵陣ヲ突クコトヲ得セシメタルハ、其ノ攻擊スベキ要點ニ對シ突進シ得ベキ好位置ニ占位シタルニ由ルトハ謂ヘ、實ニ艦隊及軍隊其ノ物ノ性質トシテ活動シ得ベキ資質ヲ備ヘ、縻軍ニモアラズ孤兵ニモアラザルノ實ヲ示スコトヲ得タルニ由ルノデアル。之ニ反シ「コーペンハーゲン」ノ攻擊ニ於テハ史傳ニモ明ナルガ如ク主將「ハイド、パーカー」ノ率ル艦隊ト「ネルソン」枝隊トノ間ニハ相扶相援ノ關係ヲ執ルコトガ出來ナイ、「ネルソン」ハ全然孤兵ヲ以テ敵城ニ肉薄シタノデアル。此點ヨリ察スレバ「ネルソン」タルモノ奇正分合ノ理ニ徹悟セザルガ如ク見ユルノデアルガ、其ノ實ニ至リテハ決シテ然ラズ。ソノ一見徹悟セザルカ如キハ則是徹悟シタル所以デアル。成ル程「パーカー」ハ「ネルソン」ノ苦戰ヲ看ルモ之ヲ援フコト能ハズ、苦悶ノ極退軍ノ信號ヲ揭ゲ、不世出ノ勇將「ネルソン」ヲシテ且ツ怒リ且ツ戲レシムルノ奇觀ヲ呈シタノデアル。此點ニ於テハ確ガニ分合ノ理ヲ破却セルニ相違ナキモ、コノ破却裡ニ於テモ決シテ分合ノ理ヲ失フテハ居ラヌ、「ネルソン」ガ孤兵ヲ提テ死地ニ入レル所以ハ丁抹艦隊ガ既ニ港內ニ蟄伏シテ全ク其ノ活動ヲ失フテ居ル。則既ニ縻軍トナリ孤兵トナリ一點ノ活動力ヲ有セザルヲ洞觀シ。巧ニ分合ノ理ヲ盡シ其ノ強ヲ以テ彼ノ弱ニ加ルノ手段ヲ講ジタノデアル、此ノ邊ハ消息ハ戰史ヲ讀ムモノ、愉快ニ堪ヘザル處ニシテ、思ハズソノ雄大無限ノ壯觀ニ打タレテ長吁スルノデアル。

縻孤ノ兵ハ勝負ヲシ

「ナイル」ノ海戰モマタ同一ノ筆法デ、敵ハ既ニ艦隊ノ本能タル運動力ヲ失シ。自ラ縻孤ノ兵ニ轉化シテ居ルノデ、活殺擒縱一ニ攻者ノ意ノ如クデアツタノデアル。「トラファルガー」ノ場合ニ於テハ少ク之ト異ナリ、彼我共ニ分合ノ妙ヲ鬪シ、正奇ノ變ヲ顯スコトヲ得ヘキ對勢ニアルノデ、「ネルソン」トハ雖モ此際ニハ深ク精神ヲ勞セルモノト看ユルノデアル。（本史論參照）

要スルニ、古來名將ノ常ニ勝チタル所以ハ主トシテ分合ノ理ヲ究ムルト否トニアルハ毫釐モ疑ヲ容レザル處デアル。孫子ノ所謂衆寡ノ用ヲ識ルモノハ勝ツトハ此點デアル、故ニ國防ノ設備ニ於テモ分合ノ理ヲ滿足ニ活用シ得ルコトヲ力メ國ヲ擧ゲテ縻孤ノ狀態ニ陷ラシメサ　ヲ期スルノガ何ヨリモ大切デアル。

之ニ反シ、古來ノ庸將ガ優勢ノ軍ヲ有シツ、無慘ナル敗北ヲ遂ゲタルハ、主トシテ其ノ軍ハ一部ヲ陷レテ縻軍孤兵トナシタルノ過チニ歸スルノガ多イ。甚キハ其ノ全部ヲシテ活動力ヲ失ハシメコレニヨリテ防禦ノ堅實ヲ求メタモノガアル。其ノ類例ハ史乘ノ徵スベキモノ頗ル饒多デアルガ、智將タリ勇將タルノ名譽ヲ有シツ、不知不識分合ノ理ヲ忘却シ悲慘ナル運命ニ出逢フタルモノモ尠カラヌノデアル。花ヤカナル戰例トシテハ曹操ノ赤壁ニ敗レ、那威ノ賢王「オラーフ」ノ「ストラルズンド」ニ敗レタルハ、智將勇將トシテノ例ナルモ「ノーバクタズ」海戰ノ初幕ニ於ケル「コリントス」ノ敗軍「マ

攻勢及守勢的軍備

カオン」ノ圓陣ノ如キ、「スロイス」海戰ニ於ケル「ヒリツプ」ノ連鎖艦隊ノ如キハ庸劣ナル海將ノ適例デアル。是レ等ノ戰例ハ其ノ精神ニ於テハ勿論其ノ形式ニ於テモマタ純然タル麼孤ノ軍トナツテ戰ハント欲シタノデアルガ。實ハ防禦ノ堅實ヲ圖ラント欲スルノ餘リ、却テ敗滅ノ禍ヲ招イタノデアル。コレハ國防ノ研究上大ニ留意スベキ要點デアル。

是等ノ戰例ノ内「ストラルズンド」ヤ「ノーバクタス」ノ如キハ頗ル興味アル戰例デアルカ、叙事ノ長キニ涉ランコトヲ恐レ不得已シテ之ヲ除タノデアル。（本史論參照）

以上述ル處ハ國防要素ノ選擇ト何等ノ密接ナル關係ナキガ如ク、殊ニ攻勢的及守勢的ノ意義ヲ解釋スルニ適セザルガ如ク看ユルノデアル。サリナガラ分合及麼孤ノ四字ハ吾輩ガ國防ノ要素トシテ攻守ノ二勢ニ關スル利害關係ヲ明白ニ說明スルニハ大切ナル寶デアル。

吾輩ガ本論ノ題目トシテ掲ゲタル攻勢的國防ノ要素ト謂ヒ、又守勢的國防ノ要素ト云フハ、如何ナル意義ヲ顯ハスノデアロウカ。讀者ノ多クハ幾分ノ誤解ヲ起サル、デアロウ、今吾輩ガ攻勢ト謂ヒ、守勢ト謂フモ決シテ之ヲ攻勢作戰ニ用ヒ又ハ之ヲ守勢ニ用ルノ意義ニハアラズ。端的ニコレヲ云ヘバ攻勢的要素ハ利刀ヲ意味シ、守勢的要素ハ堅甲ヲ意味スルノデアル、則攻勢的要素トハ攻勢的ノ性格ヲ有スル軍備ニシテ、守勢的要素トハ守勢的ノ性格ヲ有スル軍備ヲ謂フノデアル、吾輩ノ舊著ニ

『吾人試ニ譬喩ヲ以テ說カン、玆ニ人アリ、將ニ鬪ハントシ利刀ヲ提テ相對セリトセバ則如何、彼レ攻ムルトキハ我之ヲ防ギ、我擊ントキハ彼必之ヲ防ガン、勢ヲ以テ之ヲ看レバ、未ダ必ズシモ攻守ノ別ヲ定ムルコト能ハズ、然レドモ自衞ノ道ニ照シテ乃其物ヲ觀バ、是レ實ニ攻勢的性質ヲ有スルノ防禦ニアラズヤ、之ニ反シ共ニ堅甲ヲ被リ徒手ニシテ相對セリトセンカ、則俱ニ攻勢ニ轉ジテ敵ヲ攻ムルコト能ハズ、奇正ノ變ヲ究メテ勝ヲ全スルニ由ナシ、而カモ試ニ自衞ノ道ニ照シ甲其ノ物ヲ看レバ是レ實ニ守勢的ノ性格ヲ有スル防禦ニアラズヤ、』

攻勢及守勢ノ利害

ト論ジタルハコノ意味ヲ顯ハサント欲スルニ過ギヌノデアル。然ラバ之ヲ國防問題ニ轉化シ利害ヲ研究セバ果シテ如何ナル結果ヲ生ズルデアロウカ。抑モ利刀其ノ物ノ性質トシテハ天然的ニ防禦ノ性質ヲ具ヘテハ居ラヌ。サリナカラ之ヲ攻勢ニ用ルト之ヲ守勢ニ用ルト、之ヲ正ニ用ルト奇ニ用ルトハ一ニ刀ヲ操ルノ人ソノ人ニ存スルノデアル。故ニ利刀ハ奇正ノ用ヲ兼ネ攻守ノ變ニ應ズベキ性格ヲ具備シテ居ルト謂ハナケレバナラヌ。堅甲ハ之ニ反シ純然タル防禦裝置デアル。奇正ノ變ニ應ズルガ如キハ固ヨリ不可能デアル。攻守ノ柄ヲ執ルガ如キモ勿論出來得ベカラザルコトデアル。故ニ赤裸々淨瀧々ノ儘劒ヲ執ルノ人ト、赤手空拳ノマヽ重甲ヲ被ムルノ人ト相鬪ヒタランニハ、其ノ結果ハ殆ンド韓人ノ爭鬪ノ如ク、哀ヲ號ビツヽ劒戟亂下ノ下ニ横ハルノ人ヲ看出スデアロウ。則襲甲者ハ害ヲ敵ニ加フルコト能ハズ、身ハ終ニ斬殺セラレテ肝腦地ニ塗ルヽニ至ルデアロウ、コレハ誠ニ極端ナル話デアル。餘リニ兒戲ニ類スル勝負デアル。世間ノ事ハ固ヨリ如此ク極端ニ走ルベキモノデハナイ、乍去眞理ハ何處迄モ眞理デアル。則此ノ點ニ關スル趨勢ト結果トハ守勢ヲ主トスルモノト攻勢ヲ主トスルモノヽ身邊ニ纏綿シ、決シテ離ルベカラザルモノト覺期セナケレバナラヌ。更ニ一歩ヲ進メテ之ヲ曰ヘバ、凡ソ對敵者ノ相戰フニ當リテハ初ヨリ攻守奇正ノ分別ヲ生ズルモノニハアラズシテ、劒尖相觸レル後ニ攻守ノ勢ヲ生ジ、奇正ノ變ヲ看ルノデアル、サリナガラ若シ劒尖相觸ルヽニ際シ、其ノ鈍ク

シテ折レ易キモノ一タビ他ノ鋭利ニシテ堅固ナル者ニ打タレ忽チニシテ、毀損シ了レリトセバ、最早活殺一ニ敵人ノ慈悲ニ任セナケレバナラヌ。之レハ誠ニ情ナキ話デアル茲ニ至テハ南蠻鐵ノ盔金モ頼ムニ足ラズ、明珍ノ兜モ殆ンド禿顱ト選ブ處ガナイハデアル、吾輩モ既ニ論ゼル如ク、サシモ雄名赫々タル英國モ一タビ其ノ國防ノ方針ヲ變ジテ守勢的設備ヲ主トシ、砲臺ヲ築キ、木柵ヲ張リ、戰艦ノ艤裝ヲ解クニ及ビ、蘭將「デ、ロイテル」ノ爲ニ彼ノ如キ大打擊ヲ受タノデアル。當時「シャネス」ニ樹テラレタル蘭國ノ國旗ハ平和克復ヲ待タズシテ徹セラレ、今ヤ其ノ影ヲダモ忍ブ事能ハズトハ云ヒナガラ、千古難雪ノ國辱トシテ史上ニ明記サル、ハ是非モナキ次第デアル。

要スルニ利刀主義ト堅甲主義トハ、國防問題ノ判決上常ニ相對シテ研究スベキ問題ナリト雖、堅甲主義ノ不利益ナルハ今更多言ヲ要スズシテ明白デアル。其レニモカカハラズ、古來幾多ノ英雄名將ヲシテ其ノ判斷ニ苦マシムルハ、誠ニ怪訝ニ堪ヘザル次第ト謂ハナケレバナラヌ。必竟根本的ニ研究セザルノ致ス處ニシテ、「マキシマム」「ミニマム」ヲ算出シ、一ノ曲線ヲ畫テ明確ナル判斷ヲ下サザルトキハ、概見上誠ニ判別シ難イノデアル。「魚游ゲトモ水ヲ見ズ」既ニ防勢的思想理ニ引キ入レラレタル頭腦ニハ、殆ンド白馬ノ蘆花ニ入ルヲ見ルガ如ク、其ノ畛域ノ孰レニアルヲ知ルニ苦ムノデアル。乍去守勢的要素ノ國防則堅甲主義ノ防禦設備ハ必竟縻軍孤兵デアル、分合ノ變ヲ行フコト絶對的ニ不可能デアル、則堅甲主義ハ人ヲシテ縻孤的軍備ヲナサシメントスル可恐キ誘惑ナリト斷言スルヲ憚ラヌノデアル。

前ニモ述ル如ク、戰ノ勝敗ハ其ノ決スル處、主トシテ分合ノ理ヲ究ムルト否トニアルハ明々白々爭フ

孫子ト國防

ベキノ寸隙ナク、分合ノ理ヲ究メンガ爲ニハ力ノ集散ヲ自由ニシ、攻守ノ柄ヲ握ルノ必要ガアル。然ラザレバ假令如何ナル名將ト雖モ變化極リナキノ妙用ヲ盡シ得ベキ理由ガナイ、コレ獨リ吾輩ノ主張ノミナラズ、李靖ノ所謂「正ナラザルナク奇ナラザルナク敵ヲシテ測ルナカラシムル」トハ此間ニ存スル妙用ヲ云フノデアル。故ニ國防ノ要素ニ就キ論ズルトキハ、其ノ施設ニ關スル方針ヲ定メンガ爲ニモ先必先決スベキ一ノ要點ガアル。孫子ノ虛實第六ニ、

『我戰ハント欲セバ、敵壘ヲ高フシ溝ヲ深フスト雖モ、我ト戰ハザルヲ得ザルモノハ、其ノ必救フ處ヲ攻ムレバナリ。我レ戰ヲ欲セザレバ、地ヲ劃シテ之ヲ守ルト雖モ、敵我ト戰フヲ得ザルモノハ、其ノ之ク所ニ乖ケバナリ。故ニ人ヲ形シテ我ハ形ナシ、則我專ニシテ敵ハ分、我專ニシテ一トナリ敵分レテ十トナル、是十ヲ以テ其ノ一ヲ攻ムルナリ。則我衆、敵寡、ヨク衆ヲ以テ寡ヲ擊タバ、則吾ノ與ニ戰フ所ノ者約ナリ。吾ガ與ニ戰フ所ノ地知ルベカラズ、則敵ノ備フル所ノ者多シ。敵ノ備ル所ノ者多ケレバ、則吾ノ與ニ戰フモノ寡シ。故ニ前ニ備レバ則後寡ク後ニ備フレバ則前寡ク、左ニ備フレバ則右寡ク、右ニ備フレバ則左寡ク、備ヘザル處ナケレバ則寡カラザル處ナシ。寡ハ人ニ備レバナリ、衆ハ人ヲシテ備ヘシムレバナリ。故ニ戰ノ地ヲ知リ戰ノ日ヲ知レバ則千里ニシテ會戰スベシ。戰ノ地ヲ知ラズ戰ノ日ヲ知ラザレバ則左右ヲ救フ能ハズ、右左ヲ救フ能ハズ前後ヲ救フ能ハズ、後前ヲ救フ能ハズ、而カモ況ンヤ遠キモノ數十里ヲヤ」。

今日迄其ノ國防ノ目的ヲ全フシ、未ダ一タビ大陸諸國ニ敗ラレザルハ、「シャネス」事件アルニモセト云フ議論ガアル、此議論ハ先決スベキ一ノ要點ヲ指鍼シテ誤ラヌト吾輩ハ信ズルノデアル。英國ガ

ヨ、彼ノ場合ニ於テハコノ原則ヲ犯シタルニヨルコト既ニ明白デアル)、實ニ孫子ノ訓戒ト其ノ主意ニ於テ同一ナル方針ヲ確守シタル結果デアル。今試ニ英佛兩國ガ戰ヲ開クト想像シ、若シ英國艦隊則利刀的軍備ガ其ノ力微弱ニシテ、佛人ノ一觸ニ逢ヒ忽チニシテ破壞セラルベキ程度ニ過ギズ、已ヲ得ス退テ「ポーツマス」ノ軍港ヲ守レリト假定セバ。佛國タルモノ果シテ如何ナル戰策ヲトリテ英國ニ對スルデアロウカ。恐ラクバ蘭將「デ、ロイテル」ノ如ク「テームス」河口ヲ封鎖スルデアロウ。果シテ然ラバ、「ポーツマス」ニ退キタル英國艦隊ハ、果シテ戰捷ノ目的ナキヲ主張シ、長ク港内ニ留ルコトガ出來ルデアロウカ。此點ニ就テハ千六百九十年ニ於ケル「トアリントン」將軍ノ如ク、不名譽ナル嚴命ヲ受ケテ萬一ノ奇功ヲ望ミツヽ、出戰スルデアロウ。(史例第二十參照)孫子ノ所謂「敵壘ヲ高フシ溝ヲ深フスト雖モ、我ト戰ハザルヲ得ザルモノハ其ノ必救フ處ヲ攻ムレバナリ。」トハ此意義ニ外ナラヌノデアル。又退テ英國ノ軍備ニ關スル史例ヲ調査スルニ、英國ハ其ノ陸軍ヲ以テ國内ニ戰フコトハ絶對的ニ好マヌノデアルガ。之ニモ關セズ沿岸ノ地方ハ全ク開放シテ防禦ノ設備ヲナサズ、殆ンド地ヲ劃シテ守ルモノヽ如キ體裁デアル。然ルニモ關セズ、大陸ノ諸國ハ其ノ大陸軍ヲ英國ニ加フルコト能ザルハ、英海軍ガ常ニ海ヲ制シ、攻勢ヲ取テ大陸ノ海港ヲ監視スルガ故ニ、萬一ヲ僥倖シテ其ノ陸軍ヲ輸送スル如キハ必竟之ク所ニ乖クノデアル。又英人ノ戰役ニ處スル態度ヲ看レバ、常ニ敵ヲ致シテ敵ニ致サレザルヲ主眼トシテ居ル。則常ニ主動者トシテ敵ノ行動ヲ羈束スルノデ、大陸諸國ハ之レガ應接ニ暇ナク、英人ハ常ニ佛西人ヲ形シテ己ノ形ヲ顯サヌノデアル。加之英人ハ常ニ攻勢的勢力ヲ充實シテ敵ヲ監視センガ爲、其ノ内地及沿岸ニ於ケル國防ノ設備ヲ減シ、其ノ全力ヲ以テ海軍ヲ整備シタノデアル。之ニ反シ大陸諸國ハ其ノ國境ノ爲ニ陸軍ヲ備ヘ、其海防ノ爲ニ海軍ヲ備ヘナケレバナラヌ。從テ其ノ海軍モ已ヲ得ズ攻守ノ柄ヲ握ルベキ實力ニ達セシムルコトハ出來ヌ。遂ニ誤リ易キ姑息手段ニ誤ラレ、局地的防禦ヲ講スルニ至ツタノデアル。於茲國防ノ設備ハ彌々繁雜トナリ、其ノ國力ハ彌々分レ到底專ニシテ一ナル英國ニ抗スルコト能ハザル境遇トナツタノデアル。從テ英人ハ常ニ海上ニ雄飛シテ攻勢ヲトリ、佛西ノ海岸地方ニ急襲ヲ加ヘタノデアルガ、佛人ハ到底コレヲ豫期スルコト出來ヌ、ツマリハ英人ニトリテハ「與ニ戰フ所ノモノ約ナリ」ノ境遇ニ達シ、大陸諸國ハ「吾ガ與ニ戰フ所ノ地知ルベカラズ」ノ悲境ニセマツタノデアル。是等ノ點ニ對シテハ深ク留意セナケレバナラヌ、則是等ノ點ニ留意シテ國防ノ方針ヲ論定スレバ、先決スベキ要點ハ自然ト念頭ヨリ涌出シ來ルデアロウ。由來英人ハ國防ニ關スル觀念誠ニ深ク、事ニ觸レ折ニ連レ國防ニ關スル研究流行シ、議論ノ沸騰スルコト頗ル多イノデアル。勿論千古ノ卓見トモ稱スベキ賢王「アルフレッド」及「サー、ウオルター、ローレー」ノ言ノ如キ、英人ノ上下ヲ通ジ等ク服膺スル處ナリトハ謂ヘ、時ニ或ハ我田引水ノ議論ヲ聞キ、或ハ一時ノ弊竇ヨリ國家ヲ救ハンガ爲聊カ中庸ヲ失スルガ如キ激勵ノ聲ヲ聞クコトガアル。英將「コロム」中將ノ如キハ往々ニシテ奇矯ニ失スルガ如キ議論ヲ吐クコトアルモ、其ノ研究ノ基礎ヲ戰史ニ置キ、熱心ニ其ノ意中ヲ吐露シテ倦マザルノ點ニ至テハ、確カニ同國々防論者ノ泰斗トシテ推量スルノ資格アリト吾輩ハ信ズルノデアル。

國防論ノ二派

同中將ガ英國海陸軍ノ國防ニ對スル任務ヲ論ジ防禦法ニ二派アルヲ述ベ、盛ニ「インスチンクチーヴ」派ナルモノヲ駁擊シタルガ如キハ味フベキ點甚ダ多キヲ覺ユルノデアル。同中將ハ「インスチンクチ

ープ」及「リーゾンド」ノ兩派ニ大別シテ國防論者ノ全體ヲ看ルノデアルガ、同國ニ於テハ必ズシモ中將ノ命名シタル如キ黨派アルニアラズ、タヾ其ノ主張スル處ニヨリ假リニ旗幟ヲ掲ゲテコレヲ分類セルニ止ルノデアル。

同中將ガ「インステンクチープ」派（自然派）ト稱スルハ防禦ノ意義ヲ讀デ字ノ如ク解釋スルモノニシテ、他ノ一派則「リーゾンド」派（推理派）ニ於テハ理想的ノ研究上判斷シ得タル決論ヲ主張スルノデアル。則其ノ大要ハ吾輩ガ茲ニ述タル守勢的及攻勢的要素ト其ノ主意ニ於テ大同小異デアル。則自然派ハ讀デ字ノ如ク防禦ハ則防禦デアル堅甲ヲ着用スルハ防禦デアルト斷定スルモノ。推理派ハ寶刀其ノ者ハ護身上堅甲ヨリモ有利デアルト斷定シ、此ノ方針ヲ以テ國防問題ヲ研究セント欲スルノデアル。同中將ノ議論ニハ利刀堅甲ノ譬喩ナキモ、其精神ハ全クコノ通リデアル。同中將ハ此ノ方針ニ基キ盛ニ固定防禦ヲ排斥シ、遊動軍ノ必要ヲ說タノデアルガ之レハ誠ニ吾輩ノ兼テヨリ贊成スル處デアル。則吾輩ノ十餘年以前ヨリ常ニ主張シツヽアルノデアル。則固定軍ハ孫子ノ所謂「左右ヲ救フ能ハズ、右左ヲ救フコト能ハザル」底ノ軍備ニシテ、積極的ニハ麼軍トナリ消極的ニハ孤兵デアル。則甲地點ニ設ケタル固定防禦ノ一團ハ假令其ノ施設ニ於テ天下ノ壯觀ナリト誇稱スルモ、乙地點ノ防禦ニ對シテ之ヲ轉用スルコト能ハズ。餘リニ奇矯ニ過ギタル例ナリトハ謂ヘ、巨萬ノ資ヲ投ジ其ノ名ヲ聞クモ戰慄スベキ程度トナシタル「クロンスタウド」ノ砲臺ハ、日露戰役ニハ何ノ役ニモ立タザリシガ如キ、此ノ種ノ適例デアル。之ニ反シ名モナキ海防艦三艘ハ同地方ノ防禦用トシテ特ニ建造セラレタルモ、其ノ性質上「リーゾント」派ノ意味ヲ含ムガ故ニ無効ナガラモ、「アプロキシン」「セニヤヒン」及「ウーシヤコフ」ノ艦名ヲ東遣艦隊ニ列シ。日本海々戰ニ於テ一彈タリトモ、我聯合艦隊ニ對シ砲擊ヲ加フルノ位地ヲ占ムルコトガ出來タノデアル。要スルニ固定防禦ハ無性主義デアル、其ノ勢力ノ範圍ハ引キ張リタル蜘蛛網一面ニ過ギヌ、之ニ接觸スルモノニ對シテハ有効ナルモ一分一厘タリトモ其ノ以外ニ對シテハ何等ノ効ヲモ及ボシ得ザルノデアル、況シテ蜘蛛網ハ飛ブモノヽ發見シ難キ透明體ニシテ觸ルヽモノヲ捕足シ得ベキ粘著物デアル。而ルニ固定防禦ハ攻者ヨリ之レヲ看レバ去來自在ニシテ、而カモ其ノ存在ガ明瞭デアル。「此處ニ蜘蛛網アリ」ト高札ヲ立テタル如キ鹽梅デアル。從テ其ノ能力ノ如何モ自ラ察シ得ラルヽノデアル。「コロム」中將ノ說ニ據レハ、

「コロム」中將ノ說

世ニ自然的防禦ト推理的防禦トモ名クベキ二派ノ防禦法アリ、兩者相競フテ下ラズ自然派ハ防禦ハ防禦ナリトノ念慮ヲ固執シテ曾テ暢達ノ風ナク、防禦一邊ヲ事トシテソノ他ヲ顧ミザルニ似タリ、曰ク某地ハ敵軍ノ攻擊ヲ受クベキ恐アリ、先ヅ進デ之ヲ防禦セザルベカラズ、何ゾ其ノ他ヲ考フルノ遑アランヤト。

此派ノ防禦法ハ現レテ萬里ノ長城トナレリ、長城ハ本匈奴ノ來寇ヲ防ガンガ爲ニ築キタリシモ。匈奴ノ狡獪ナルヤ、間道ヨリ自由ニ侵入シタルニ非ズヤ。又「ウオーバン」ハ此ノ派ニ皷セラレ城壁ヲ以テ國內都市ノ四圍ヲ圍繞シタリシモ。必竟和蘭ノ粧飾ニ過ギズシテ程ナク敵手ニ渡リタルニアラズヤ。又獨逸ノ諸府ハ曾テ此派ノ爲ニ悉ク要塞モテ固メラレシモ、今ヤ開放シテ影モナク、斯ル局地ノ防禦法ハ乍チ一變シテ全般ノ防禦法トナリタルヲ知ラズヤ。此派ハ巴里ノ周圍ニ堡壘ヲ築カシメ「メツツ」ニ大軍ヲ閉チ込タリシガ、今尙ホ佛國ニ於テ獨逸ノ國境附近ニ當リ此

派ノ勢力ヲ逞スルハ何ゾヤ。且夫レ我英國ニ在テハ此派ノ感應スル所從來尠トセズ、則チ往年巨萬金(一八六〇年王國防禦調査委員ノ査定費額一一、八五〇、〇〇〇磅)ヲ抛チ、「ポーツマス」「プリマス」ノ兩軍港ニ砲臺ヲ築キタリ、若シ進デ「ロンドン」ニモ城壁ヲ圍ラスノ計畫起ランニハ經費嗣ザルノ故ヲ以テ始メテ銷沈センノミ。蓋シ此派ハ英國諸島以外ノ戰ニ於テ既往ノ成行如何ナリシヤ、又將來ハ如何ニ成行クベキヤノ要點ニ著目スルコトナク、早計ニモ戰爭ハ諸島ノ内ニ起ルモノト臆斷スルヲ以テ、一朝事變ニ會セバ殆ンド救フ能ハザル不測ノ災厄ヲ釀スモ知ルベカラザルナリ。推理派ハ防禦ハ一地方ニ限ルヲ好マズシテ常ニ全般ノ防禦ヲ主張ス。今茲ニ勢力相均シキ甲乙ノ二軍アリトセヨ甲軍ハ勢ヲ分テ互ニ孤立セル幾多ノ城砦ヲ守リ、乙軍ハ勢ヲ合セテ順次是等ノ城砦ヲ攻ムルトキハ、諸城ハ如何ニ堅固ナリトモ遂ニ支フベカラザルヤ疑ヲ容レズ。ソノ理概ネ此ノ如シ之ヲ歷史ニ徵シナバ必ズヤ其ノ眞ニ然リシヲ知ルベシ。

抑々推理派ノ主義トスル所ハ敵ノ來襲ヲ待チ受クルノ準備ヲ爲スニ在ラズシテ、敵ヲシテ來襲ヲ企テシメザルニ在リ。即チ敵ニシテ若シ某地ヲ襲ハントスルモ之ヲ陷ルヽニ先チ早ヤ防禦軍ノ總勢ノ沓至スベキヲ自覺セシムルニ在リ。更ニ換言スレバ攻者ヲシテ其ノ軍ノ移動全力ニシテ防禦軍ノ移動全力ヲ擊破スルニ足ルベキ十分ナル勝算ヲ有セザル以上ハ、進擊ヲ企ルモ全然無用ナルベキコトヲ諦メシムルヲ目的トス。但シ奇計ヲ以テ不虞ノ襲擊ヲ試ムルハ此限ニアラズト雖モ、之レガ爲ニハ勢ヒ規模ノ極小ナルヲ要スルヲ以テ、均ク萬全ノ策ニ非ザルヤ瞭々タリ。

同中將ハ更ニ某將校ノ「國防策」ト題スル短篇中ニアリトテ左ノ一節ヲ紹介シテ曰ク。

我國ノ如キ島國ノ位置ニ在リ、而カモ其領土甚ダ廣ク、且有力ナル海陸軍ノ防禦アル邦國ニ向ヒ一時或ハ特別ノ目的ノ爲、若ハ絶對的征服ヲ遂ゲンガ爲侵入セント欲スルモノハ。常ニ多額ノ經費ヲ要シ、且大ナル艱難ト危險トニ遭遇スルヤ必定ニシテ、敵ノ計畫ニ關シ何等ノ情報ヲモ得ザル程急突ニ侵入スルガ如キハ到底能ハザル所ナリ。即チ斯ル計畫ヲ擧行スベキ大準備ヲ爲スニハ長時日ヲ要スヘク、雄大重要ナル海陸軍ノ動作ニ關スル風評ハ、隣國ノ交通ニ依テ忽チ傳播スベク、海ヲ横切リ多量ノ兵ヲ運搬スルトキハ我カ巡洋艦ノ目ヲ掠ムルコト殆ンド能ハザルベク、戰爭ナルモノハ自然ノ勢トシテ交戰國ニ警戒ヲ皷吹スベキ事等ハ、全然秘密ノ推持ヲ至難ナラシメ、幾分カ計畫ノ暴露ヲ避ク可カラザラシムルモノアリ。

「コロム」中將ハ右ノ外「以上余ノ所見ヲ陳述シ來リテ茲ニ此一節ヲ揭グレバ、其ノ意義ノ相投合スルコト恰モ予カ昨今ノ持論ノ如シ。然レドモコレ百年前ニ在テ予ノ如ク國防問題ヲ討議シタル一海軍將校ノ手ニ成リタルモノニシテ、同將校ハ之ヲ起草スル三四五年前ニハ毎年我ガ大艦隊ガ英吉利海峽ヲ去テ往復各一ヶ月ノ航海ヲ爲シタルコト、又其ノ六年前ニハ「プリマス」ノ市民ハ優勢ナル西佛聯合艦隊ヲ目擊スルノ非運ニ會シタルコトヲ知リシヤ必セリ」ト論ジタノデアルガ、吾輩ノ議論モ要スルニ之ト同一デアル。吾輩ハ從來自ラ云ヒ慣ハシタル稱呼ニヨリ此二派ヲ全地防禦及局地防禦ノ二種ニ區別スルノデアルガ。必竟局地防禦ハ自然的防禦ニシテ全地防禦ハ則推理的防禦デアル、タヾ「コロム」中將ハ其ノ意味ヨリ命名シ、吾輩ハ其ノ形ヨリ命名シタリト云フニ止ルノデアル、故ニ吾輩ノ舊著ニ吾人ガ今茲ニ全地國防ノ設備ト稱スルハ其ノ作戰ノ區域全國ニ渉リ必ズシモ一地點ニ固定セザル

全地國防

ヲ謂フ。局地國防ハ之ニ反シ常ニ一處ニ定住シ其ノ地點ノ防守ニ任ジ、敵ノ來襲ニ應ジ之ヲ防遏スルヲ謂フ。故ニ全地國防ハ移動軍ヲ以テシ、局地國防ハ固定軍ヲ以テシ、兩々相待テ國防ノ重責ヲ擔任セシム。

ト論ジタルハ必竟「コロム」中將ト意見ヲ同フスルノデアル。

如上ノ趣旨ニ基キ、如上ノ性格ヨリ判斷スル時ハ、假令局地國防ヲ主張セントスルモ、ソノ理由ナキコト一目瞭然デアル。サリナガラ世ノ局地論者ハ此ノ解シ易ク悟リ難カラザル原則ヲ悟ラヌノデアル。吾輩ノ舊著ニ

孰ラ世ノ局地國防ヲ主張スルモノ、言ヲ察スルニ、其ノ言ニ曰ク、海岸ノ防禦ハ海防ヲ完フスル所以ノ道ナリ、全力ヲ擧テ之ヲ完整セザルベカラズ。北門ノ鎖鑰ハ西隣ノ覦フ處ナリ、之ヲ小數ノ軍隊ニ委スルハ危シ。(我北門ノ鎖鑰ハ實際薄弱ナリキ、而カモ今日ニ至リ領土ハ反テ北方ニ向テ擴延セリ、)南島ノ警備ヲ嚴ニスルハ、我ヲシテ南顧ノ憂ナカラシムル所以ナリ。堅堡ヲ築營シテ之ヲ衞ルハ刻下ノ要務ナリト。(露將「ロゼスト」ハ以將「ペルサノ」ヨリハ賢ナリシガ如ク、南島ノ防禦ニハ何等ノ挨拶ヲナサズ、反テ之ヲ避タリ。)凡ソ局地論者ノ說ク處千差萬別枚擧スルニ遑アラズト雖モ其ノ要ヲ摘デ之ヲ謂ヘバ守勢的防禦設備ヲ以テ國防ノ實ヲ擧ゲント欲スルニ過ギズ。吾人謂ヘラク局地論者ノ說ク處一理ナキニアラズ。然レドモ吾人ハ恐ル是レ所謂守ラザル處ナケレバ寡カラザル所ナキモノナルヲ。且夫レ一局地ニ於ケル防禦ヲ以テ敵ノ全力ニ當ラントスルハ愚ナリ。環海ノ要地ニ備ルニ悉ク敵ノ全力ニ當ルベキ防禦ヲ以テセントスルハ迂ナリ。

若シ攻ムルモノ其ノ全力ヲ擧テ一地點ヲ衝カバ、守者ハ竟ニ當ルコト能ハザラン。是レ實ニ海島ノ攻守ニ關スル史例ノ明證スル處ナリ、譬ヘバ砲丸ヲ以テ甲鐵板ヲ貫クガ如シ、彈丸ハ固ヨリ一塊ノ鐵片ニ過ギズ、然レドモ之ニ對シテ戰艦ヲ防護センガ爲ニハ數千噸ノ鋼鈑ヲ備ヘザルベカラズ。局地防禦ヲ以テ我國ヲ守ラントスルモノハ亦蓋シ斯ノ類ナリ。

ト論シタノデアルガ、世ノ局地論者ハ何故カ其ノ頭腦比較的ニ頑迷ナルガ故ニ、此末段ノ如キ容易ナル譬諭ヲスラ了解シ得ザルモノ多キハ浩嘆ノ至デアル。要スルニ局地防禦ハ吾輩ノ設ケタル譬諭ノ如ク甲鐵鈑ヲ以テ彈丸ノ穿徹ヲ防ガントト欲スルガ如キモノデアル。彈丸ノ穿貫シ得ザルト否トハ甲鈑ノ廣狹ニアラズシテ厚薄ニアリ、故ニ防禦面ノ狹隘ナル場合ニ於テハ必ズシモ之ヲ排斥スルノ要ナク經費上ヨリ之レヲ見ルモ決シテ負擔ニ堪ヌ次第デハナイ。例ヘバ南米諸國ガ北米陸軍ノ南下ヲ防ガン爲「パナマ」ノ地峽ニ於テ相當ノ設備ヲナサントト欲スルガ如キ場合ニ於テハ、此主義ヲ採用シ得ザルコトモナカロウ、御互ニ海軍ナシトセバ波斯ノ遠征軍ニ對シ、「ペロポンネシヤ」ノ諸國ガ「コリントス」ノ地頸ニ城廓ヲ設ケテ之ヲ防ガントナセルハ强チ無算ノ方法デハナイノデアル。(事實上ニ於テハ「サラミス」ノ海戰トナリ、更ニ善良ナル結果ヲ奏シ「コリントス」ノ土功ハ何等ノ功ヲダモ奏スルコトナクシテ了レリ。)サリナガラ我帝國ノ如ク防禦面ノ廣大ナル四面向フ處トシテ國境ナラザルハナク、剩ヘ國境以外ノ飛地多クシテ數十百ヲ以テ數フル場合ニ於テハ、斯ノ如キ方針ヲ採ルノ迂濶ナルハ固ヨリ疑ヲ容レヌノデアル。實際必要ナル二三ノ點ヲ於テハ暫ク措キ、更ニ他ノ譬諭ヲ設ケテ此ノ間ニ存セル理義ヲ判斷スレバ、局地防禦ノ方針ヲ以テ國家ヲ守ラント欲スルハ、譬ヘバ猶頭ヲ防グニ兜ヲ以

テシ、軀ヲ守ルニ甲ヲ以テスルガ如ク、全地國防ヲ主眼トスルハ、譬ヘバ劍ヲ執テ自ラ禦ガント欲スルガ如キデアル。而カモ此兩者ノ利害ハ吾輩ノ論ズルヲ待タズシテ既ニ明白デアル。

要スルニ局地國防ハ移動シ易キ兵力ニシテ、分合衆散ノ妙用ヲ極ムルコト能ハザル固定設備デアル。之ヲ他ニ移シテ其ノ急ヲ救フガ如キコトハ其ノ性質上絶對的不可能デアル。「ナポレオン」ノ言ニ「戰鬪ヲ開始セント欲スルモノハ、先其ノ兵ヲ集中シ、如何ナル分隊ト雖モ輕視セザルヲ要ス。是レ古今ヲ通ジ中外ニ施シテ悖ラザル原則ナリ。戰ノ勝敗ハ僅カニ一箇大隊ノ爲メニ決スルコトアリ」トアルハ將帥タルモノ、最モ注意スベキ處デアルガ、局地防禦ニ勢力ヲ用ルコト彌々多ケレバ此原則ニ戻ルコト彌々大ナルノ結果トナルノデアル。

「ネルソン」ガ「バルチック」遠征軍ノ發スルニ臨ミ七十四門艦一艘ノ「ダオンス」ニ擱座スルニ際シ一海軍大尉ハ之ヲ浮上セシムルニ盡力シ、殊功ヲ奏シタルヲ視特ニ之ヲ海軍省ニ稟申シ、其ノ進級ヲ請求シタルコトガアル。ソノ際同大尉ガ小官ノ微功ハ到底錄セラルベキ資格ナシト謙遜セシニ「ネルソン」ハ「否余ノ見ル處ハ大ニ異ナレリ。戰鬪艦一艘ノ亡失ハ勝利ノ亡失トナルコトアリ」ト言ヒタルハ是ヲ「ナポレオン」ノ言ニ比シ陸海同軌ノ金言ナリト云ハナケレバナラヌ。

依是看之、漫然タル觀察ニ基キタヾ〳〵軍備上必要ナリトノ理由ニ據リ局地防禦ニ其ノ勢力ノ一部ヲ削クハ、トリモナホサズ兵力ノ一部ヲ以テ縻孤ノ軍ヲ編制スルト同意味デアル。言ヲ換ヘテ之ヲ言ヘバ、力ヲ局地的設備ニ注グハ、猶陸戰ニ於テ其ノ兵ヲ分派シ脈絡通ジ難ク、緩急呼應シ難キ地點ヲ守ラシムルガ如ク、又一戰艦ヲ故ラニ某海門ニ擱座セシメテ砲臺トナスガ如ク、甲隊ハ甲ノ地ニ敗レ、乙モマタ其ノ地ニ敗ル、ニ至ランコト極メテ明瞭デアル。故ニ局地的設備ノ經始ハ、萬々不得已シテ後チ始メテ之ヲ行フベキモノニシテ出來得ル丈ケ之ヲ減ジ、可成之レガ爲ニ軍備力ヲ削減セザルノ方針ヲ取ラナケレバナラヌ。然ルニ彼ノ有名ナル英將「ウエリントン」公ハ晩年ニ至リ左ノ如キ迂濶ナル議論ヲ當路者ニ出シ一時英人ヲ迷ハシ英蘭第二戰役ノ二ノ舞ヲ演ゼシメントシタノデアル。幸ニシテ敵相ニ「ド、ウイト」ナク、敵將ニ「デ、ロイテル」ナク、且幸ニ平和ヲ繼續シ得タルヲ以テ何等ノ打擊ヲモ蒙ラズシテ終ツタノデアルガ。モシモ機運ガ英國ノ爲ニ不利ニシテ、且同公ノ主張シタル方針ヲ嗤馬的ニ實行シタナラバ、「ウエリントン」公モ亦「アル、ベマール」公ノ如ク涕泣宵ニ徹スルノ悲運ニ會サレシヤモマタ測ラレヌノデアル。此意見ハ今日ニ於テハ何等ノ價値ナキ故紙ニ屬セリト雖、參考ノ爲メ之ヲ譯載シ、試ニ二三ノ評言ヲ加ヘテ國防ノ原則ヲ說明スルノ一助トショウト思フ。(但吾人ハ如上ノ評言ヲ以テ「ウエリントン」公ノ意見ヲ痛罵シタルモ、當時英國ノ軍備大ニ衰退セルハ殆ンド想像ノ外ニ出ルモノアリ、海軍ニ於テモ「テームス」河口ノ重鎭タル「シヤネス」軍港ニ於テ佛國軍艦ニ對シ、ソノ禮砲ニ答フベキ軍艦ヲスラ存セザルノ甚キニ至リタルコトアリ。熱誠燃ルガ如キ公爵ヲシテ此痛切ノ言アラシムルハ固ヨリ同情ニ値セザルニアラズ。吾人ノ公爵ヲ冷評シタルハ、其ノ際ニ於ケル公爵ノ意見ハ、他ノ短見者流ノ輩ニ傚ヒ局地的防禦ヲ主張シタルヲ咎ムルノミ。)

「ウエリントン、」
「シ」トシテ地
公ノ局地
防禦論

ノ要素並ニ全地及局地的國防

陸軍少將「サー、ジョン、エフ、バーゴイン、」ニ與フル書

千八百四十七年一月九日

先キニ貴書ヲ委セショリ以來既ニ二週日ヲ經タリ書中我現今ノ軍備ヲ以テ佛國ト開戰スルノ結果ヲ論ゼル一ノ論文ヲ載セタリ。船艦ヲ運用スルニ汽力ヲ用フルノ發明アリショリ以來海軍ノ武器及戰術ニ一大變動ヲ來セルハ數年來予ノ已ニ知ル處ナリ。由來我國海岸ハ艦船ヲ以テ窺フコト能ハズト思惟セラレタリ、然レドモ汽船ノ發明アリショリ以來潮汐四季ノ變化ニ論ナク東ヨリスルモ西ヨリスルモ將タ南ヨリスルモ北ヨリスルモ其ノ欲スル所一トシテ近接スルヲ得ザルノ地ナシ、然ラバ則我ヲ襲フコト亦蓋シ難キニアラザルベシ、(公爵ハ汽機ノ發明以來制海權ノ應用大ニ增加セルヲ知ラズ、單ニ英海峽ヲ通過シ易キ單純ナル一點ノ理由ヲ以テ此言ヲナセリ。)嗚呼「ノルマン」征服以降未ダ嘗テ侵略ヲ受ケザル我海岸(英國諸島及海峽諸島ヲ含ム)モ今ヤ將ニ敵ノ占領スル所トナリ强制徵發ヲ課セラルヽノ虞アラントスルカ。吾人ハ既ニ形勢此ノ如キヲ知ル、隣國豈獨リ之ヲ知ラザランヤ。而シテ彼レハ我ト權力ヲ爭フモノニシテ又實ニ積年ノ仇敵タリ、余ハ之ヲ憂ヒ當路者ノ注意ヲ促スニ力メタリト雖未其ノ效ヲ看ズ。足下ノ議論ヲシテ亦余ノ轍ヲ踐マシムルコトナカランコト實ニ切望ニ堪ヘザル處ナリ。(當時埃及事件ヨリ英佛ノ關係大ニ切迫シ人ヲシテ開戰ノ事タル實ニ我國將來ノ危難ヲ表示シテ餘アリ、而シテ吾人ハ之レニ備フルノ防備ヲ有セズ、復之ヲ備フルノ望ナク、獨リ我艦隊ノ之ヲ防グ所以ノ道トシテ存ズルニアルノミ。(公爵ノ說ハ言々句々咸ナ肺肝ヨリ出ヅ、顧ミテ當時ノ英國々防ノ狀態ヲ察スル二、制海的ノ設備モ亦大ニ衰頹セルコト前顯ノ事實ノ如クナリシ。)

英人ガ天然ノ勇氣ニ富ムハ世人ノ喧傳スル處ナリ、余モ亦之ヲ信ジテ疑ハズ、然レドモ天然ノ勇氣ハ之ヲ編制訓練シ、軍紀ト秩序トヲ以テ之ヲ涵フニアラズンバ、一旦構練ノ軍ニ遇フニ際シテハ、徒ラニ興奮激動シテ我軍ヲ混亂セシメンノミ。試ニ一地方ニ事アルニ際シ、此勇氣ヲ利用セント試ムルアリトセンカ、豫メ之ヲ養フニ編制ト服從トヲ以テセザルノ結果ハ、必ズヤ其ノ家人從僕ノ外之ヲ他ニ通ジテ用ルニ由ナキニ至ルヲ看ン、而シテ是等烏合ノ衆ノ移動スルニ當テハ、地方ノ最有力者ト雖戸外ニ出ルコト能ハザルベシ、現時既ニ我海軍造兵廠造船所ニハ半バ守兵ヲ有セズ。若シ急ニ五千ノ完備セル兵ヲ出シ、此ニ用ント欲セバ職ノ何タルヲ問ハズ、其勤務ヲ放棄セシメ甚キニ至テハ陛下ノ親衛兵ヲモ廢セザルヲ得ザルニ至ラン。

恐ラクハ一朝宣戰布告ノ時ニ到リ初メテ我本國守兵ノ不足ヲ悔ユルアランコトヲ。今夫レ諸外國ノ我國ヲ論難スル所以ノモノ少カズト雖、其ノ宣戰ヲ布告スルト同時ニ海上ニ復讐的掠奪ヲ行ヘルガ如キハ其ノ共ニ怨ムル處ナリ、以ラク之レ必戰ヲ宣スルニ先チ掠奪ノ命ヲ下セルモノナラント之レ蓋シ吾人ノ大ニ憂フベキトコロナリ。請フ左ニ我國ノ要スル守備軍ヲ掲グン、卽チ左ノ如シ。

海峽諸島(能ク編制訓練シタル各島ノ民兵ヲ除ク)　一〇、〇〇〇人
「ブリマス」　一〇、〇〇〇人
「ミルフォールドハーウエン」　五、〇〇〇人
「コーク」　一〇、〇〇〇人
「ポーツマス」　一〇、〇〇〇人
「ドウアー」　一〇、〇〇〇人
「シヤネス」「チヤタム」及ビ「テームス」河　一〇、〇〇〇人

我王國守備軍ノ半數ハ愛蘭ニ駐屯シ、此ヨリ「コーク」ノ守兵ヲ出ストスルモ他ノ一半則大英國ニ在ルモノヲ以テ自餘ノ諸地ニ備ヘザルベカラズ。

是故ニ國內ノ同軍ヲ用テ一人ノ餘ス處ナカラシムルモ、開戰ノ際已ニ海軍造船及造兵廠ノ防禦ヲ守備スルニ足ルベキ兵員ヲダモ得ルコト能ハザルナリ。

此ヲ救フノ策ヲ案ズルニ、英蘭蘇三國各同數ノ民兵ヲ設ケテ之ヲ編制訓練スルニ如ザルヲ見ル、之レ余ノ當局者ニ勸告シテ其ノ決行ヲ促セル處ナリ。此方法ハ過去八十年間無事ノ際常ニ用タルモノニシテ固ヨリ憲法ニ違犯セザルナリ、今若シ此ヲ實施シテ直チニ其ノ訓練ニ着手セバ、依テ以テ十五萬ノ兵ヲ得ン、十五萬ノ軍之レ實ニ國家ヲ支ルニ足ルモノニアラズヤ。此大軍ヲ以テ當備軍ヲ援ケバ國家ノ安泰ヲ期スルノ上ニ於テ亦兵員ノ不足ヲ見ザルベキナリ。況ンヤ其費用ハ僅ニ四十萬磅ヲ出デザルオヤ、余老タリト雖敢テ防禦ノ任ニ當ラン。

然レドモ將來我國陸軍ノ兵力ハ依然トシテ今日ノ如ク、艦隊ノ力モ亦獨リ國防ノ重責ヲ全フスルヲ得ザランカ。開戰ノ後一週日ナラズシテ危殆ノ極ニ陷ルヤ必セリ。余常ニ之ヲ憂ヒ「ノースフォーランド」ヨリ「ドウアー」「フォークストーン」「ビーチーヘッド」「ブライトン」「アランデル」「ポーツマス」ニ近キ「セルシービル」ニ至ル一帶ノ海岸ヲ反覆調査セルニ、「ドウアー」砲臺ノ彈着距離內ヲ除ケバ、潮汐風向天候ノ如何ニ關セズ、步兵ノ上陸ニ堪ヘザルノ地點ナキヲ知リ、又其ノ地點ノ何レタルヲ問ハズ、其ノ兵ヲ進メ得ベキ嶮崖ヲ經テ進ムコト五哩以內ニ於テ、必ズ我內地ニ通ズベキ道路アルヲ知レリ。加之此海岸ニハ小港河口等合シテ

七箇所アリ、而シテ一モ防禦ノ備アルコトナシ、若シ敵ヲシテ歩兵ヲ以テ一地點ヲ占領シ、續テ騎兵及諸種ノ砲隊ヲ陸揚シ、以テ其ノ根據地トナサシメバ、佛國ト交通ノ道ヲ開クコト容易ナルベシ。(公爵ハ佛國海軍既ニ英吉利海峽ヲ制シタル場合ヲノミ想像スルモノヽ如シ、モシ然ラズトセバ、陸地攻擊艦隊ノ來襲ニ逢ヒタル多數ノ前例ヲ知ラザルモノト看ヘタリ。)而シテ此海岸中國都ニ接近スルハ、「サツセツクス」ノ沿岸地方ナリトス、此間「ブライトン」ヨリ「ロンドン」ニ達スル大道十二條ニ下ラス。余ハ知ル佛國陸軍部内ニハ四萬ノ兵ヲ海岸ニ進メ佛國沿岸ノ諸港ニ於テ其ノ馬匹砲車ヲ乘船シ、是レヲ英國海岸ノ某地ニ陸揚シ、砲隊騎兵ハ某港若クハ某河口ニ於テシ、某々ノ地點ニ諸艦隊ヲ集合シ、之ヨリ直ニ驛ヲ重テ「ロンドン」ニ向フ等、逐一精通セザルナキ四十名ノ參謀將校ヲ有スルコトヲ、余ハ現今ニ於ケル佛國陸軍ノ事情ニ通ズルコト昔日ノ如ク精密ナラズト雖、若シ其後非常ナル變動起リシニアラズンバ此ノ四十人ノ者尚是ニ屬スルヤ必セリ。請フ試ニ我國ノ地圖道路記ヲ檢シ自ラ事態ヲ考ヘ、吉凶ヲトセヨ、實ニ思半ニ過グルモノアラン。

戰國ノ危險已ニ此ノ如シ、速ニ强敵ヲ支ルニ足ベキ野戰軍ヲ蓄ヘ、實戰上ノ經驗ト學理トニ基キ、砦壘ヲ起シテコレヲ援クルニアラズンバ、將ニ來ラントスルノ危難ニ抗スルコト能ハザラントス。況ンヤ禍害ヲ未萌ニ防ガントスルヲヤ。

民兵ヲ以テ編成スル陸軍ヲ以テ帝國ノ防備ニ當ラントスルガ如キ人或ハ以テ狂ナリトセン。余モ亦狂ニ類スルヲ知ル。民兵ハ固ヨリ常備軍ノ用フベク賴ムベキニ如カズ、若シ常備軍ニシテ得ベクンバ焉ゾ民兵ヲ徵集スルノ愚策ヲ劃センヤ。然レドモ目下ノ形勢ニ察スルニ常備軍ノ編成ハ到底望ムベカラズ。之ニ反シ、民兵ハ之ヲ得ルニ易ク、一年僅ニ四十磅ヲ要スルニ過ギズ。而モ以テ常備軍ヲ援ケテ國防ノ任ニ當ラシメバ、庶幾クバ防禦ノ實ヲ擧グルニ足ルノ兵力ヲ得ルニチカカラン乎。我國ノ危險ト兵力トヲ論ズルコト既ニ斯ノ如シ。眼ヲ轉ジテ武庫造兵廠ノ現狀ヲ觀ルニ、大砲車(マスケツトドラグス)奢貨物及彈藥等ノ備甚ダ完カラズ亦大ニ憂フベキナリ。(中略)

今我國防機關ノ實權ハ殆ンバ足下ノ手中ニ在リ。若シ足下ト砲敞監トニシテ意アラバ、余ハ國防問題ニ關スル會談ヲ爲シ、若クハ祕密書信ヲ送リ余ガ目擊知悉シタル處ヲ盡シ、併セテ私見ヲ具陳シ、且我防禦組織ニ採用實施スベキノ諸事ヲ論述セント欲ス。足下以爲ラク、今ヤ我國勢安泰ナラズ、一朝變起ラバ依テ破ル所ノ不利益尠少ナカランヤト、余ノ見ル處ト正ニ相等シ、嗚呼今ニシテ急速缺漏ヲ補ハズンバ、必ズヤ大敗ヲ招キ雪グベカラザルノ國辱ヲ蒙ムルニ至ラン。

假リニ一歩ヲ讓リ、此ノ如ク忌ムベキノ結果ナシトスルモ、他ニ亦憂フベキモノナカランヤ。嘗テ吾等ノ國事ニ當レルニ際シ事ヲ我國ト共ニシ、我ガ援ニ由リ國光ヲ擧ゲ、國家ノ安寧ヲ維持シ、世界ノ獨立自由ヲ全セル同盟諸國ニシテ、我國ノ備ナキ如此ヲ看バ、皆我ヲ輕ジ其ノ間ニ伍シテ今日ノ勢威ヲ保有スルコト能ハサルヤ明カナリ。或ハ經濟的ノ觀察ヲ以テ自ラ誤リ、當今ノ形勢ニ鑑ミ國防ヲ全フシ國家ノ安泰ヲ期セント欲セバ必ズ施サヽルベカラザルノ計策ヲダモ延期セント欲スルモノアリト雖。而モ近世ニ至テハ戰捷者ガ常ニ敗者ニ莫大ノ金額ヲ課シ、貴重品物等ヲ貢セシムルコトアルヲ知ラザルニ似タリ。

試ニ佛國ノ伊太利及露西亞ニ爲セル處ヲ見ヨ「ウィンナ」「ベルリン」「モスコー」ノ如キハ獨リ課金ノ割リ當テヲ受ケタルノミナラズ、戰勝軍ノ生存費維持費及其ノ什器等ニ至ルマテ皆悉ク之ヲ負擔セシニアラズヤ。而モ「ウィンナ」ノ如キハ實ニ一回ニシテ止ラザルナリ。又同盟軍ガ佛國ニ侵入シ千八百十五年「パリ」ヲ占有スルニ當リ爲シタル處ヲ看ヨ。當時佛國ノ受ケタル金錢上ノ損害ハ、軍稅侵入軍ノ生存費、維持費(衣服及其ノ他ノ諸什器ヲ含ム)無効國債ノ支拂、戰役中佛國私人ガ歐洲諸國ニ於テナシタル負債ノ償還、戰役中佛軍ノ他國ニ賦課シタル課金ノ返濟、革命戰爭中賣却セラレタル動產不動產ノ辨償ニ亘レルニアラズヤ。

此ノ如キ要求ノ我國ニ對シ來ルコトナキハ論ヲ俟タズ、然リト雖尙我ニ對シ要求スベキ幾多ノ資料ナカランヤ。千七百九十三年「ツーロン」ニ於ケル艦隊ノ如キ、又英國臣民ノ佛國ニ囚禁セラレ、千八百十四年同盟軍侵入ノ際其ノ掩護ノ下ニ進ミタル者ノ未拂負債ノ如キモ、マタ要求ノ好材料タラザランヤ。且敵ハ戰勝ノ威ヲ以テ我償金ヲ迫ルニ當リ、誰カヨク其ノ要求類ヲ制限スルモノアランヤ。又千八百十四年十五年ニ於ケル巴里條約ヲ看ヨ、佛國ハ殆ンド歐洲ノ首府ヲ悉ク占有シ、此ヨリ課金ヲ徵シ、伊太利獨逸波蘭ノ如キハ全部或ハ佛領トナリ、或ハ其ノ配下ニアリシモ此條約ノ結果忽チニシテ千七百九十二年ノ國境ニ復セルニアラズヤ。我國ノ敗ルヽニ當テモ亦此ノ如キノミ。此時ニ至ラバ「ノルマン」征服以來未ダ會テ敵ヲシテ占領セシメザル海峽ノ諸島ヲモ亦割讓セザルベカラズ。誰カ獨聯合王國諸島外ノ地ヲ保有シ得ベシトスルカ、將タ此ニ對シ抗議スルヲ得ベシトスルカ。

余ハ盛衰ノ中ニ餘年ヲ送リ今ヤ七十七歲ノ高齡ニ達セントス、今人ヲシテ大難ヲ避ケシメント欲スルモ能ハズ。冀クバ天幸ニ余ヲシテ悲慘ナル境遇ノ目擊者タラシムルコトナカランコトヲ。

(因ニ)、千八百四十五年ニ於ケル英國常備軍ノ員數ハ各種兵ヲ合シ五萬九千八百七十人ニ過ギザリシナリ。

公爵ノ意見ハ言々憂國ノ至誠ヨリ出ヅ、結末ノ一句ノ如キ憂國者ヲシテ之ヲ聽カシメバ、血涙ノ袖ヲ沾スヲ覺ヘザルベシ。サリナガラ斯ノ如キ國防ノ方針ハ、果シテヨク英國ヲ泰山ノ安ニ置クニ足ルベキヤ否ヤ。冷頭氷心詳カニソノ論ズル處ヲ察スルニ、公ノ位置ト威權ト重望トヲ以テ、尙ホ且當然ニ論議スベキ制海的設備ヲ完整スルノ急ナル所以ヲ說カズ。其ノ言ハ寧ロ守勢ニ傾キ局地防禦ノ不完全ナルヲ憂慮シ、一言モ海軍ノ擴張整備ニ論究セザルハ果シテ如何ナル理由ナルヤ、吾輩ノ大ニ疑フ處

「ウエリントン」公爵ノ意見ニ對スル批判

デアル。我輩ハ公爵ガ假令陸軍出身ノ將校ナリトハイヘ公爵ノ如キ德望勢力ヲ有スル身ヲ以テ陸上ノ軍事ニ腐心シ、海上ノコトハ我レコレヲ知ラズト云フガ如キ態度ヲトルハ大ニ取ラザル處デアル。少クトモ國軍ノ主班タルベキ將軍ノ言トシテ受取リ難キ處デアル。

公爵ノ局地防禦意見ハ公ノ豫期スルガ如ク竟ニ行ハレズシテ已メリ。然レドモコノ書翰ハ陰然タル勢力ヲ國防當局者ニ及ボシコレガ爲大ニ局地論者ノ氣焔ヲ高メタルハ明白ナル事實デアル。「コロム」中將ノ如キハ公ヲ以テ局地論ノ俑ヲ作レルモノトシ痛ク之ヲ論駁シタノデアルガ。吾輩ハ公ノ位地ヨリ察シ「コロム」中將ノ駁論ヲ受タルモ是非ナキ次第ナリト思フノデアル。英國ニテハ其ノ後四十年ニシテ知名ノ將官等全地國防ノ萎靡振ハザルヲ嘆キ、千八百八十九年ニハ海軍國防令ヲ提出シ議會ヲ通過セシメ祖先以來赫々光輝アル制海的海軍ヲ再興シ、コレヲ以テ國防ノ主眼トスルノ實ヲ擧ゲ以テ今日ノ盛大ヲ致シタノデアル。

「ウエリントン」公ノ意見ハ根本的ニアラズ、從テ千歲不磨ノ金言トシテ尊信スルニ足ザルハ勿論デアル。乍去一タビハ英國ノ大宰相タリ、殆ド存國ノ恩爺トモ稱スベキ將軍タリ、マタ軍人ノ最高位最先輩トシテ七十七歲ノ高齡ニ達スルニ關セズ。熱心ニ國防ノ不完ヲ說キ之レヲ其ノ後輩タル當局者ニ傳ヘ其ノ意見ヲ實行セシメントスル勇氣ト熱誠トニ至テハ、實ニ吾輩ノ敬慕ニ堪ヘザル處デアル。今日ヨリ之ヲ看レバ其論旨明晰ヲ缺クノミナラズ、古今ノ戰例ニ照シテ千歲不渝ノ長策ヲ劃スルコトナク、一時ノ感想(換言スレバ一時ノ不安)ヲ論據トシ、姑息的ニ之ガ救濟ノ道ヲ講ゼントスルガ如キハ、大ニ論難スベキ點ナキニアラズトハ謂ヘ。公ノ如キ偉大ニシテ公正ナル性格ヲ以テ、猶且局地防禦ヲ重視スルコト斯ノ如シトセバ、吾輩等モ亦公ノ所說ヲ敬重シ、誠意ヲ以テ之ヲ講究シ其ノ利害ヲ闡明スルノ義務アリト信ズルノデアル、況ンヤ世ノ國防ヲ議スルモノ、動モスレバ初一念ニ執著シテ公正ヲ缺キ、或ハ我田引水的ノ思想ニ迷ハサレ。不知不識偏見ニ陷リ、大局ヲ洞觀スルノ明ヲ失フモノガ極メテ多イノデアル。是レ吾輩ガ參考ノ價値アルヤ否トニ關セス「ウエリントン」公ノ意見ヲ紹介シ更ニ進デ局地防禦設備ノ任務ト其ノ價値トニ論及シ國防設備ノ選定ヲ誤ラザランコトヲ期スル所以デアル。

我田引水ナル勿レ

第五篇　局地防禦ニ關スル研究

第一章　局地防禦設備ノ任務ト其ノ價値

局地防禦ノ任務及其ノ價値

吾輩ノ既ニ論ジタル如ク、「國防ノ究竟目的ハ敵ヲシテ一歩モ國内ニ入ラシメザルニ在リ」トハ動カシ難キ原則デアル。此原則ハ如何ニスレバコレヲ實際ニ解釋スルコトガ出來ルデアロウカ。ソハ言フ迄モナク敵軍ヲ上陸セシメザルニアルハ明白ナル道理デアル。假令幾分カ海岸ニ砲彈ヲ打チ込マレタリトスルモ、敵ニシテ上陸セザル以上ハ決シテ著シキ結果ヲ生スルコトハナイノデアル。サリナガラ國防戰ノ實施ニ際シテハ、此點マデ切リ込マルヽコトナク、其ノ以外ニ於テ敵ヲ擊攘スルノガ第一ノ目的デアル。則如何ニスレバ敵ヲシテ其ノ武力ヲ我國土ノ内ニ加ルコト能ハザラシムルコトガ出來ルデアロウカノ問題ハ、先第一ニ研究スベキ處デアル。

必研究スベキ先決問題

吾輩ハコノ問題ヲ解釋スルニ便利ナル方法トシテ先「我海軍ノ優勢ナル場合」ヲ研究ショウト思フ。此場合ニ於テハ、敵軍ガ我海岸ニ對シ攻勢運動ヲ開始スルニ先チ、是非トモ判斷セザルベカラザル四個ノ問題ガアル

（一）敵ノ優勢ナル艦隊ガ後詰トシテ來ルベキ憂アルモ、某地點ニ對シ攻擊ヲ加ヘ差支ナキヤ。

（二）モシ差支ナシトスレバ凡何日間ハ攻擊ヲ繼續シ差支ナキヤ。

海軍ノミニテ海岸要塞ヲ攻擊セシ先例

（三）假リニ攻擊ヲ開始セリトセバ右ノ日限内ニ目的ヲ達シ得ベキ望アリヤ。

（四）假リニ艦隊ノ主力ヲ以テ一局地ノ攻擊ニ從事スルヲ不可ナリトセバ、海岸線ニ急襲ヲ試ムルヲ程度トシテ分遣隊ヲ派遣シ得ベキヤ。

此ノ四個ノ問題ハ戰略的見地ヨリ看ルモ戰例ノ教訓ニ依ルモ當下ニ明答ヲ與ルコトガ出來ル。則第一ノ場合ニ於テハ。自己ノ艦隊ハ劣勢ナルニ關セズ、局地防禦ノ砲擊ニ從事シ、萬一其ノ實力ノ幾分ヲ損スルガ如キコトアラバ、例ヘハ伊墺戰爭ノ「リッサ」海戰ノ如ク、來ルベキ海戰ニ於ケル悲慘ナル結果ヲ覺期セナケレバナラヌ。マシテ艦隊ノミヲ以テ海岸砲臺ヲ攻擊シ善良ノ効果ヲ收メ得タル史例ハ、蔑爾タル而カモ防禦十分ナラザル小海島ニ於テハイザシラズ、其ノ他ニ於テハ殆ンド一モ之レナキガ如ク見受ラル、ノデアル。少クトモ一隊ノ陸軍ヲ輸送セズシテ局地ノ攻擊ニ從事スルハ戰術上常ニ不利益ナリトハ吾輩斷言セント欲スル處デアル。

サレバ海軍ノミヲ以テ海岸要塞ノ攻擊ニ從事シタル前例中、記憶スベキ價値アルモノ甚ダ少ナイノデアルガ。僅ニ前例トシテ擧上スベキ價値アルハ「アドミラル、ウアノン」ノ「ボルト、ベロ」ノ攻陷以來。僅ニ八回ニ過ギヌノデアル。

（一）千七百三十九年「アドミラル、ウアーノン」ノ「ボルト、ベロ」攻擊　（史例第三十五參照）

（二）千七百七十六年「コンモドル、パーカー」ノ「チャーレストン」攻擊　（史例第六十六參照）

コノ例ハ陸上方面ニ於ケル英將「クリントン」ト策應セルモノナルヲ以テ適切ナリトハ稱シ難シ。

（三）千八百一年「アドミラル、ネルソン」ノ「コーペンハーゲン」攻擊。（史例第百四十六參照）

（四）千八百十六年「アドミラル、エキスマス」ノ「アルゼリヤ」攻撃。（史例第二百十八參照）

（五）千八百四十年「アドミラル、ストツプフォルド」ノ「ジョンダークル」ノ攻撃。（史例第二百二十一參照）

（六）千八百五十五年「アドミラル、ダンダス」ノ「スウイヤボルグ」攻撃。（史例第二百二十六參照）

（六）千八百六十三年「アドミラル、フアラガツト」ノ「モビール」及「ミシシツピー」ニ於ケル諸砲臺攻撃。（史例第二百二十七參照）

（七）千八百六十六年「アドミラル、ペルサノ」ノ「リツサ」島攻撃。（史例第二百二十三參照）

（八）千八百八十二年「アドミラル、シーモア」ノ「アレキサンドリヤ」攻撃。（史例第二百二十八參照）

コレ等史例ノ多クハ勿論成功デアル。凡ソ局地的防禦設備ガ移動軍ニ對シ最終ノ利ヲ得ルコト能ハザルハ今更論ズルマデモナイ。サリナガラ戰鬪ノ經過ニ至ツテハ決シテ容易ナコトデハナイト云フコトガ證セラルノデアル。吾輩ハ艦隊ノミヲ以テ海岸要塞ヲ攻撃スルノ迂策ナルコトニ就テハ、別ニ論ズ積デアルガ、要スルニ前掲ノ史例ヲ吟味スレバ疑モナク右ノ決論ニ逢著スルノデアル。モシソレ未ダ陷落セザルニ先チ優勢ナル敵ノ艦隊來着シタル場合ノ如キハ既ニ、若干ノ損害ヲ受ケタル艦隊ヲ以テ初ヨリ優勢ナル敵ト對戰セナケレバナラヌノデ其ノ不利モトヨリ云フニ足ラヌ。言ヲ換ヘテ之ヲ言ヘバ、コレ疑モナク艦隊ノ破滅ヲ意味スルノデアル。今假リニ我國ノ優勢ナル艦隊ガ佐世保ニ在ル際シ敵ノ艦隊ガ突然ニモ東京灣口ニ顯ハレタト想定スレバ、千代崎觀音崎横須賀ノ砲臺及其他數箇ノ海堡陷落シ、灣内進入ノ目的ヲ果シ得ル迄、佐世保艦隊ノ來ラザル艦如キ樂天的ノ觀察ヲ下シ得ル

假想戰ニ對スル判斷

兵力ヲ分ツハ可ト言フ可ラザルコトナリ

デアロウカ、假令殆ンド永久的ノ防禦設備ナク、急造砲臺ト敷設水雷及潛航水雷艇ヲ以テ防禦スル場合ニ於テモ到底一兩日ヲ以テ其ノ目的ヲ貫徹シ得ザルハ勿論デアル。殊ニ敵ノ艦隊ハ長距離ノ航海ヲナシタル結果トシテ石炭ヲ添載スルノ必要モアルガ如キ活劇ヲ演ズルコト能ザルハ少ク事理ヲ解スルモノ、明言シ得ル處デアル、サレバ優勢ナル佐世保艦隊ノ來着ハ刻一刻差シ迫リ、到底安閑トシテ攻撃ヲ繼續シ得ヌハ勿論デアル。

此點ヨリ考フレバ、第一ヨリ第三ニ至ル三ケ條ノ疑問ハ最早詳說スルノ要ナクシテ破壞シ去ラレタノデアル。然ラバ第四點ハ果シテ如何ナル結論トナルデアロウカ。

此問題ハ古來ノ戰例ニヨルモ、決シテナシ得ザルコトデハナイノデアル。乍去敵艦隊ト遭遇スルノ時期明カナラス。時々刻々哨艦ノ報告ニ鶴首シツヽアル場合ニ於テハ、到底其ノ勢力ヲ削滅シテ他方ニ用フルガ如キ大膽ナル行動ヲナシ得ルモノトハ信ジラレナイノデアル。コレ獨リ吾輩一箇ノ意見ノミニアラズ、古來名將モマタ同樣デアツタノデアル。英將「セント、ウインセント」ノ如キモ、其軍隊ヲ分テ地中海ニ在リタル「ネルソン」ノ窮境ヲ救フ能ハザリシガ如キ、マタ「子ルソン」ガ「トラフアルガー」ノ戰前ニ於テ、「カルダー」將軍ノ爲「ライン」艦一艘ヲ送遣スルコトスラモ數日ノ熟考ヲ要シタル如キハ、ヨキ前例ノ一ツデアル。或ル人ハマタ巡洋艦隊ノ一部ヲ派遣スルガ如キハ容易ナル事業ニ屬スルモノトシテ判斷スルノデアロウ、サリナガラ此ノ場合ニ於テハ偵察ノ任務ガ極メテ大切デアル。戰時ニ際シ、巡洋艦ハ常ニ足ラザルハ古來ノ戰例ニ照シ殆ンド一轍ニ出ルノデアル。今後モ必ソウデアロウト思フ。「ネルソン」ガ吾モシ死セバ巡洋艦ノ一語ノ吾心臟ニ印銘シアルヲ發見スルデア

率制運動ヲ行フノ難易

ロウト絶叫シタルガ如キ、ヨク實際ノ場合ニ照シテ思ヒ當ルノデアル。英國ノ如キ巡洋艦ノ多數ヲ有スル國ニ於テスラアノ通リデアル。(英國ハ此際「フリケード」ノミニテ百六七十艘ヲ有セリ。)況ンヤ他ノ國ニ於テハ到底思モヨラヌ事ト判斷セナケレバナラヌ。故ニ敵艦隊ガ劣勢ナル場合カ均勢ナル場合ニ於テハ、決シテ其ノ艦隊ヲ分遣シテ遠距離ニアル、局地防禦ノ攻擊ニ從事セシムルガ如キ迂策ヲトルモノハナイガ、モシ萬一ニコレアリトスルモ疑モナク失敗ヲ意味スルノデアル。併シナガラ場合ニヨリテハ僅ニ一二艘ノ高速力巡洋艦カ或ハ到底其ノ主力ニ合同シ難キ位置ニアル敵ノ一部ガ特種ノ目的例ヘバ牽掣運動ノ爲一地方ノ海上ニ顯ハレ、其ノ附近ヲ騷ガスコトハ實際アリ得ベキコトデアル。故ニモシ我現在艦隊ガ敵ヨリモ大優勢ナル以上ハ、幾分ノ設備ヲ或ル地點ニ加ル爲相當ノ費用ヲ支出スルノ必要アルデアロウガ。久シク艦隊ノ攻擊ニ堪ヘル如キ設備ハ要スルニ不必要デアル。是ニ由テ觀レバ、我海軍ノ優勢ナル場合ニ於ケル、四個ノ先決問題ハコレニテ決定シタルモノト認ムルコトガ出來ル。モシ之ニ反シ我艦隊ハ敵ヨリモ劣勢デアル。換言スレバ敵ハ優勢ナル海軍ヲ以テ我國ニ攻擊ヲ加ントスル場合ニ於テハ如何ナル研究ヲ必要トスルデアロウカ。コノ際敵艦隊ノトルベキ最良ノ戰策ハ如何デアロウカ。此疑問ハ最早多言ヲ要スルニ及バズシテ明白デアル。必先我艦隊ト會戰シ、我艦隊ヲ敗リ、然ル後心ヲ安ンジ、徐ニ第二ノ目的ニ移ルハガ適當ノ順序デアル。其ノ少ク優勢ナルヲ恃ミ大規模ノ輸送ヲ行フガ如キハ大早計デアル。殷鑒不遠波斯軍ニアリト云フバカリデハナイ、日露戰役ニ於テモ、モシ日本海々戰ニ敗北セバ如何ナル結果トナリシヤヲ想像スレバ、必ズヤ思ヒ半ニ過グルデアロウ。假リニ敵艦隊ノ長官ハ我艦隊ト會戰スルノ時機ヲ得難キニ苦ミ、或ハマタ我沿岸ノ防禦ヲ攻

局地防禦ノ威力ハ利用シ難シ

メ陷スノ必要ニ迫リタルニ際シ、モシモ、コレガ爲ニ生ズル不利ヲ恐レ、海岸攻擊ヲ實施セザルトキハ、到底戰役ノ終結ヲ看ルコト能ハザルガ如キ情態ニ迫マラレ、海岸要塞ノ面前ニ其ノ姿ヲ顯スニ至ツタトスレバ我劣勢ナル艦隊ハ如何ナル行動ヲトルベキデアロウカ。局地防禦ト連合シテ敵艦隊ニ當ルベキモノデアロウカ。六十六年ノ「リツサ」海戰(史例第二百二十三)ノ場合ノ如キハコノ一例デアル。則「ペルサノ」大將ノ如キ艦隊司令長官アリ、海戰ヲ行フ以前ニ於テ、眞面目ニ砲臺ト戰ヒ大損害ヲ蒙リ、自ラ敗滅ニ近ヅクヲ悟ラザルガ如キ暗將アリテ、敵艦隊ヲ指揮スル場合ニ於テハ、コレガ爲彼我優劣ノ關係ヲ顚倒シ、我劣勢ヲ以テ反テ敵ヨリモ優勢ナラシムルコトヲ得ベキ望ガアル。サリナガラ、此ノ如キコトハ敵將ヲ無下ニ輕侮シタル擧動デアル、決シテ攻擊艦隊ニ如斯キ愚劣ナル行動アリトヨ豫想シテ軍備ヲ整フルコトハ出來ヌ。要スルニ劣勢艦隊ガ局地防禦ノ威力ヲ利用シ、相連合シテ敵ニ當ラントスルガ如キハ、必竟望ムベキコトニアラズ。モシ萬一敵ノ艦隊ガ或ル必要ナル地方ノ海岸ニ顯ハレタル結果トシテ之ニ赴援スルハ必要ニ薄リタリトセバ、反テ敵ノ係蹄ニ懸リ。所謂「我ト戰ハザルヲ得ザルモノハ其ノ必救フ處ヲ攻ムレバナリト」ノ敎訓ヲ實ニシタルモノトナラナケレバナラヌ。モシコノ場合ニ當リ自重シテ出デズ、己レニ利益アル不慮ノ事變ヲ待チ、若クハ敵艦隊ノ自ラ耐ヘズシテ我海岸ニ薄リ、自ラ損害ヲ招キ優劣ノ分舊ノ如ク明ナラザルニ至ルヲ待チ、一擧シテ敵ノ不利ニ乘ズルコトモ出來ルデアロウガ、如斯キ獨相撲的ノ戰爭ハ到底望ンデ得ラルベキコトデハナイ。旅順港外ニ於テ初瀨八島ノ沈沒シタル如キ不意ノ出來事ヲ以テ、戰役中敵方ニノミ常ニアリ得ベキ普通ノコト、速解シ國防ノ大計ヲ論ズルガ如キ固ヨリ不都合デアル、其ノ他ハ荏苒遁避運動ヲ繼續

勝ヲ期セズ不得已ノ戰ヒ悲慘ナル先例

シ終ニハ外壓ニ制セラレテ戰場ニ進ムノ不得已ニ至ルハデアル。則此ノ點ニ關スル悲ムベキ戰例ハ有史以來數々看ル處デアル。假令我艦隊司令長官ガ持重シテ時機ヲ待タントスルモ、我國民ガ我將官ノ勇武ト忠烈トニ信賴シ、固ク愼默ヲ守ルニアラザレバ、到底當初ノ目的ヲ決行スルコト能ハザルハ毫モ疑ナキ事實デアル。何ノ怠慢モ何ノ落度モナキ熱誠燒ルガ如ク忠義日月ヲ貫クベキ良將ニ附スルニ露探ノ汚名ヲ以テシ、石ヲ其邸ニ投ズル底ノ國民ニテハ到底冷靜死灰ノ如キ行動ヲ默認シテ其自由ニ委スルガ如キコトハ出來ナイノデアル。必ズヤ史上ニ傳フル處ノ前例ノ如ク、或ハ諷刺トナリ或ハ譴責トナリテ顯ハレ、劣勢艦隊司令長官ヲシテ不得已敵ト對戰スルニ至ラシムルデアロウト思フノデアル。英將「トアリントン」ガ囹圄ノ內ニ呻吟シ。「ド、ウインター」ガ敵ニ獲ラレ、「ウエルニューデ」ガ「トラフアルガー」ノ敗將トシテ悲慘ナル歷史ヲ後世ニ傳ヘ、以將「ペルサノ」ガ暗將怯將トシテ後人ニ指摘セラル、ガ如キハ、皆是レ意ニ反シテ敵ニ對シタルノ結果デアル。吾輩ガ舊著國防論ニ於テ海戰艦隊ノ設備ヲ節約スルノ結果大ニ悞ルベキヲ證センガ爲メ引例シタル前記諸將ニ關スル記事ノ如キハ、此場合ニ適切ナリト認ムルガ故ニ、今茲ニコレヲ轉載シ讀者ニ紹介シヨウト思フ。

「古來劣勢艦隊ヲ率テ敵軍ニ當リ勇名ヲ博セルモノ多シト雖、自ラ勝算ナキヲ知リ自ラ勝算ナシト信ズル艦隊ヲ率キテ敵軍ニ膺レル將軍ノ心事ニ至テハ、轉タ同情ノ念ニ禁ヘザルモノアリ。凡ソ戰ノ勝敗ハ必ズシモ其ノ物質的勢力ノ優劣ニ由ルモノニアラズ、英將「セント、ウインセント」伯ノ如キハ僅ニ十五艦ヲ以テ敵ノ二十七艦ヲ破レリ、(如此勇將ト雖ドモ劣勢ナル艦隊ヲ以テ地中海ニ止ルコト能ハズ地中海ヲ捨ツルコト最モ不利ナル場合ナルニ關セズ不得止シテ「ジブラルタル」以西ニ出デタルコトアリ)然レドモ海將タルモノ其ノ力敵ニ抗スルニ足ラザルヲ知リ、外壓ニ制セラレ、已ムコトヲ得ズ勝算ナキ海戰ヲ行ヒ、或ハ其名譽ヲ汚シ或ハ其ノ生命ヲ擲チテ國難ニ殉スルモ、一人ノ同情ヲ表シテ之ヲ慰メ或ハ之ヲ弔スルモノナキニ至テハ、其悲慘實ニ極マレリト謂フベキナリ。英將「トアリントン」ノ如キ、蘭將「ド、ウインター」ノ如キ以將「ペルサノ」ノ如キ、其ノ成敗ノ跡、勇怯ノ差、固ヨリ同日ノ論ニアラズト雖、外壓ニ制セラレテ無算ノ海戰ヲ行ヒタルニ至テハ則一ナリ。若シ有事ノ際我艦隊敵ニ勝ツノ目的ナク已ムヲ得シテ之ヲ避クルニ際シ、或ハ民聲ニ壓セラレ或ハ嚴命ヲ受ケテ敵ニ對スルニ至テハ其ノ慘更ニ甚キモノアツテ存スルヤ知ルベキナリ。

「トアリントン」ノ先例

英將「トアリントン」卿ハ千六百九十年ノ役ニ當リ佛軍ノ優勢ナルヲ知リ、若シコレト接シテ大敗ヲ招カバ海峽ノ制權ハ忽チ佛軍ニ移リ、渠レ大擧シテ英國ヲ突クニ至ランコトヲ憂ヒ。他ノ一艦隊ノ來テ其ノ麾下ニ屬スルヲ待タンガ爲メ、「フリートインビーイング」ノ戰略ヲ以テ佛軍ニ對セリ、英相「ノッチンガム」ハ「トアリントン」ノ戰ハザルヲ看、其ノ深意ノ存スル所ヲ察セズ、攝政皇后「メリー」ニ奏シ左ノ如キ書翰ヲ下シタマハンコトヲ請ヘリ。

朕ハ六月二十六日附ヲ以テ卿等ガ朕ノ宰相ニ致セル公信ヲ披閱セリ。朕ハ卿等ガ敵軍ニ對シ、王國ノ利益ヲ進メンガ爲メ、此緊急ノ時機ニ際シ、卿等ノ材幹ト熟練ト巧妙トヲ顯ハサンコトヲ信ズ。然レドモ朕ハ卿等ノ「ガンフリート」ニ退クノ不幸ナランコトヲ憂慮ス。故ニ朕ハ、卿等ガ敵軍ニ對シ遙カニ利ヲ獲ルニ先チテ退クヨリハ、寧ロ風力ヲ利用シ敵ト交戰センコトヲ望ム。然レ

「トアリントン」卿ノ不運

ドモ我艦隊ヲシテ「プリマス」及西方ヨリ來會スベキ他ノ艦船ニ合センガ爲、佛國艦隊ノ西方ニ赴クノ必要アリトセバ朕卿等ノ材略ニ囑任スベシ、然レドモ朕ハ卿等ガ其ノ力ヲ西方ニ偏注スルガ爲メ東方ニ於ケル佛艦隊ヲ管制スルヲ忽ニシ、彼ヲシテ、虛ニ乘ジ、我ガ海岸或ハ「メッドウエー」若クハ「テームス」ニ於テ攻擊及上陸ヲ企ルノ時機ヲ得セシムルコトナカランコトヲ望ミ、併テ我艦隊ノ西航ニ際シ、彼レ佛人ヲシテ戰ヲ交ヘズシテ歸帆セシムルコトナカランコトヲ望ム。

當時英將ハ其ノ軍隊ノ勢力遙カニ佛西同盟軍ニ劣リ、到底正戰ヲ以テ勝ヲ得ルノ望ナキヲ信ゼリ。而カモ「トアリントン」ハ已ムコトヲ得ズ丁書ヲ「ノッチンガム」ニ呈シテ戰場ニ出タリ。其ノ略ニ曰ク、

（前略）若シ我艦隊過テ敵ト濫戰シ敗衂ヲ見ルニ至ラバ、百事皆去リ悉ク彼ノ手中ニ入ルベシ。（海ヲ制セラル、ニ至ラバ、到底敵ノ侵襲ヲ避ケ得ベキ望ナク、國命ヲ維持スルコト殆ンド不可能ナリトノ意味ナリ。）故ニ小官ハ濫戰ヲ非ナリトス。然レドモ今ヤ既ニ勅令ヲ拜セリ。小官ハ唯之ヲ奉行スルアルノミ。小官ハ茲ニ貴官ニ對シ、速ニ勅命ヲ奉行スベキヲ誓ハントス。伏シテ皇天ノ祐助ヲ下シ賜ハンコトヲ祈ル。（後略）

「トアリントン」ハ此書ヲ呈シテ出戰セシガ猶大敗ヲ取ルノ不利ナルヲ信ジ、大衝突ヲ避ケ、小戰ノ後「テームス」ニ入リ、身ハ囹圄ノ辱ヲ受ケ國運ヲ累卵ノ危ニ救ヘリ」。

「トアリントン」卿ノ事ニ關シテハ大ニ悲ムベキ紀傳ヲ以テ滿サレテ居ルノデアル、殆ド英人ノ總テガ卿ヲ以テ辱職將官トシテ誹謗シタノデアルガ。「コロム」中將ノ調査ト立論トニ依リ、同將官ノ寃罪ヲ雪ギ得タノデアル。實ニ「コロム」中將ノ言ノ如ク、モシ當時「トアリントン」卿ヲシテ「フリートインビーインク」ノ戰略ヲ固守シ、自己ノ名譽ヲ捨テ、大接戰ヲ避クルノ擧ニ出デズ、奮慨ノ餘リ佛艦隊ニ大衝突ヲ試ミタランニハ、モシ天祐アリテ同將軍ニノミ幸福ヲ下シタリトセバイザ知ラズ。當然ノ推算ニヨリテ考レバ疑モナク大敗ヲトルベキ運命ヲ免レヌノデアル、モシ果シテ大敗ヲ取ラバ、佛王ハ最早憚ル處ナク、徐ロニ大陸軍ヲ輸送シ、「ノルマン」征服ノ昔ヲ再スルニ至リシヤモマタ測ラレヌノデアル、必ズシモ其ノ結果ノ如何ヲ豫測スルコト容易ナラズトスルモ大勢上ヨリ觀察スレバ、如此場合ニ於テハ「トアリントン」卿以上ノ行動ヲトルコト恐ラク困難デアロウト思フ。英將「セントウインセント」ガ十五ヲ以テ敵ノ二十七ヲ破リタル後日ノ例ヲ以テ當時ヲ軌スルガ如キ至極ノ酷評ト謂ハナケレバナラヌ「セントヴィンセント」ト雖「トアリントン」伯ノ如ク、英國々防ノ全部ヲ負擔シタナラバ決シテアー云フ勇斷ハ出來ヌノデアッタロウト吾輩ハ信ズル。サリナガラ既ニ敵ト戰ハザルヲ得サル勢トナリタルヲ察知シタル以上ハ苟モ戰ヲ避ケントスルガ如キコトナク、猛然トシテ敵艦隊ニ向フベキハ、時ノ古今ヲ問ハズ、戰將タルモノ、宜ク勉ムベキ處デアル「身ヲ捨テ、コソ浮ブ瀨モアレ」、餘リニ算數ニ明ナルハ吾輩ノトラザル處此點ニ於テハ誠心ヨリ深ク「トアリントン」將軍ニ敬服スル能ハザル處デアル。

「ウエルニューヴ」ノ先例

佛將「ウエルニューヴ」ニ至テハ立派ナル先例トシテ之ヲ記述スルノ資格ナキハ勿論ナルモ其ノ行キ懸リハ先次ノ如クデアル。

「ナポレオン」怒ル

「佛將「ウエルユーヴ」ハ「ネルソン」ノ艦隊ヲ欺キ之ヲ西印度ニ導キ、急航シテ本國ニ歸リ將ニ「ブレヌト」艦隊ニ合スルノ任務ヲ遂行セントスルヤ、不幸ニシテ英將「カルダー」ニ會シ、小戰ノ後其ノ二艦ヲ失ヒ「フエロル」ニ入レリ、「ナポレオン」ハ之ヲ聞キ、對英ノ策遂ニ成ラザルヲ悟リ、且ツ怒リ且ツ罵リ、直ニ書ヲ海相ニ下ダセリ。其ノ辭ニ曰ク、

急使ヲ「フエロル」ニ馳セ「ウエルニユーヴ」ヲシテ英京ニ受ケタル通信ヲ知ラシメ、且ツ朕ガ其任務ヲ奉行スルヲ望ムノ意ヲ知悉セシメヨ。又朕ハ英艦隊ヲシテ我ニ對シ數時間ノ小戰ヲ交ルコトヲ得セシメ、若クハ其ノ十四艦ニ過ザル艦隊ヲ以テ我ニ對スルヲ許スハ、寧ロ帝國海軍ノ恥辱ナリト思惟スルノ意ヲ致セ。敵艦隊ノ損害甚シキニ反シ、我損害ノ大ナラザルハ彼ノ自ラ報ズル所ニヨリテ明白ナルニアラズヤ」。

「ナポレオン」ガ「ダルー、ダルー」ト叫ビテ憤懣ノ意ヲ漏シタルハ此時ノ話デアル。兎ニ角「ナポレオン」ハ討英ノ目的ヲ遂グルト否トハ、一ニ「ウエルニユーヴ」艦隊ノ海峽ニ來ルト否トニ由テ決スルノデアル。故ニ同艦隊ガ「カルダー」ニ會シテ「フエロル」ニ入港シタリトノ情報ハ、「ナポレオン」ノ爲ニハ殆ンド致命傷トモ稱スベキ大打擊デアル。其ノ結果ハツマリ埃地利ノ急襲トナリ、埃地利ノ爲ニハ誠ニ迷惑ナ結果トナツタノデアル。當時「ナポレオン」ハ失望甚ダシク、史家ノ傳ル處ニヨリ、其ノ赫怒シタル狀ヲ想見スレバ、興味誠ニ深キガ如ク覺ユルノデアル。其ノ怒レル眼光ノ閃キハ、「フエロル」ヘノ急使トナリ、「ウエルニユヴ」ノ頭上ニ向テ飛ダノデアル。

「「ダルー」伯爵ノ「ナポレオン」ニ伺候スルヤ、帝ハ方ニ「ウエルニユーヴ」ノ「フエロル」ニ入リタルノ情報ニ接シ、失望及憤怒ノ餘、心思殆ンド狂亂シ、靴音高ク室内ヲ來往シ。時々斷續セル怒聲ヲ發セシガ、「ダルー」ノ來ルヲ見、息ヲハヅマセ左ノ如ク言ヘリ、

海軍何物ゾ、損スル處多クシテ得ル處ナキニアラズヤ。海軍將官何物ゾ。渠奴「ウエルニユーヴ」ハ海峽ニ入ラズシテ「フエロル」ニ入レリ。嗚呼、止ナンカナ、望ハ絶テリ、渠ハ封鎖セラレンノミ「ダルー」筆ヲ執レ」。

「ナポレオン」ノ怒リハ如此デアツタ、「ヴエルニユーヴ」タルモノ如何ナル運命ニ會シタデアロウカ。

「ナポレオン」ハ第一回ノ急使ヲ以テ尙足レリトセズ、翌々日ヲ以テ第二ノ勅書ヲ發シテ、海軍大臣ニ下シタ。

「朕ハ朕ノ艦隊司令長官ガ三十艘ノ艦隊ヲ以テ、敵ノ二十四艦ニ對シ懼ル、所アルヲ許サズ。若シ果シテ相抗スルノ力ナシトセバ、朕ハ海軍ヲ以テ恃ムニ足ラザルモノト爲サザルヲ得ズ。而カモ朕ハ決シテ望ヲ海軍ニ絶コトヲ欲セズ。其ノ志氣ヲ失墜スルコトヲ懼レバナリ。若シ「ウエルニユーヴ」ニシテ、十三、十四、十五及十六日ニ及ブモ尙且「フエロル」ヲ出ルコト能ハズトセバ、朕ハ決シテ其ノ所爲ヲ嘉納スルコト能ハズ。若シ彼ヲシテ順風ヲ得ルモ、尙敵ノ二十四艦ニ對シテ出航スルコト能ハザルコト一時間以上ニ及バヾ、朕ハ斷ジテ温顏ヲ以テ彼ヲ見ルコト能ハズ。朕ハ已ムコトヲ得ズ、有爲ノ將官ヲ簡派シテ、彼地位ニアラシメザルベカラズ、朕ガ將官ノ不能ハ實ニ佛國ノ幸運ヲ地ニ墜シメ、朕ガ征英ノ好望ヲ破壞セシム。云々

當時英艦隊ノ勢力ハ決シテ大優勢ニハアラズト雖、「ウエルニユーヴ」ノ目的地タル「ブレスト」港外

「ナポレオン」怒ル

「佛將「ウエルユーヴ」ハ「ネルソン」ノ艦隊ヲ欺キ之ヲ西印度ニ導キ、急航シテ本國ニ歸リ將ニ「ブレヌト」艦隊ニ合スルノ任務ヲ遂行セントスルヤ、不幸ニシテ英將「カルダー」ニ會シ、小戰ノ後其ノ二艦ヲ失ヒ「フエロル」ニ入レリ、「ナポレオン」ハ之ヲ聞キ、對英ノ策遂ニ成ラザルヲ悟リ、且ツ怒リ且ツ罵リ、直ニ書ヲ海相ニ下ダセリ。其ノ辭ニ曰ク、

急使ヲ「フエロル」ニ馳セ「ウエルニユーヴ」ヲシテ英京ニ受ケタル通信ヲ知ラシメ、且ツ朕ガ其任務ヲ奉行スルヲ望ムノ意ヲ知悉セシメヨ。又朕ハ英艦隊ヲシテ我ニ對シ數時間ノ小戰ヲ交ルコトヲ得セシメ、若クハ其ノ十四艦ニ過ザル艦隊ヲ以テ我ニ對スルヲ許スハ、寧ロ帝國海軍ノ恥辱ナリト思惟スルノ意ヲ致セ。敵艦隊ノ損害甚シキニ反シ、我損害ノ大ナラザルハ彼ノ自ラ報ズル所ニヨリテ明白ナルニアラズヤ」。

「ナポレオン」ガ「ダルー、ダルー」ト叫ビテ憤懣ノ意ヲ漏シタルハ此時ノ話デアル。兎ニ角「ナポレオン」ハ討英ノ目的ヲ遂グルト否トハ、一ニ「ウエルニユーヴ」艦隊ノ海峽ニ來ルト否トニ由テ決スルノデアル。故ニ同艦隊ガ「カルダー」ニ會シテ「フエロル」ニ入港シタリトノ情報ハ、「ナポレオン」ノ爲ニハ殆ンド致命傷トモ稱スベキ大打擊デアル。其ノ結果ハツマリ墺地利ノ急襲トナリ、墺地利ノ爲ニハ誠ニ迷惑ナ結果トナツタノデアル。當時「ナポレオン」ハ失望甚ダシク、史家ノ傳ル處ニヨリ、其ノ赫怒シタル狀ヲ想見スレバ、興味誠ニ深キガ如ク覺ユルノデアル。其ノ怒レル眼光ノ閃キハ、「フエロル」ヘノ急使トナリ、「ウエルニユヴ」ノ頭上ニ向テ飛ダノデアル。

「「ダルー」伯爵ノ「ナポレオン」ニ伺候スルヤ、帝ハ方ニ「ウエルニユーヴ」ノ「フエロル」ニ入リタルノ情報ニ接シ、失望及憤怒ノ餘、心思殆ンド狂亂シ、靴音高ク室内ヲ來往シ。時々斷續セル怒聲ヲ發セシガ、「ダルー」ノ來ルヲ見、息ヲハヅマセ左ノ如ク言ヘリ、

「海軍何物ゾ、損スル處多クシテ得ル處ナキニアラズヤ。海軍將官何物ゾ。渠奴「ウエルニユーヴ」ハ海峽ニ入ラズシテ「フエロル」ニ入レリ。嗚呼、止ナンカナ、望ハ絶テリ、渠ハ封鎖セラレンノミ「ダルー」筆ヲ執レ」。

「ナポレオン」ノ怒リハ如此デアツタ、「ヴエルニユーヴ」タルモノ如何ナル運命ニ會シタデアロウカ。

「ナポレオン」ハ第一回ノ急便ヲ以テ尙足レリトセズ、翌々日ヲ以テ第二ノ勅書ヲ發シテ、海軍大臣ニ下シタ。

「朕ハ朕ノ艦隊司令長官ガ三十艘ノ艦隊ヲ以テ、敵ノ二十四艦ニ對シ懼ル、所アルヲ許サズ。若シ果シテ相抗スルノ力ナシトセバ、朕ハ海軍ヲ以テ恃ムニ足ラザルモノト爲サヾルヲ得ズ。而カモ朕ハ決シテ望ヲ海軍ニ絶コトヲ欲セズ。其ノ志氣ヲ失墜スルコト多大ナランコトヲ懼レバナリ。若シ「ウエルニユーヴ」ニシテ、十三、十四、十五及十六日ニ及ブモ尙且「フエロル」ヲ出ルコト能ハズトセバ、朕ハ決シテ其ノ所爲ヲ嘉納スルコト能ハズ。若シ彼ヲシテ順風ヲ得ルモ、尙敵ノ二十四艦ニ對シテ出航スルコト能ハザルコト一時間以上ニ及バヾ、朕ハ斷ジテ温顏ヲ以テ彼ヲ見ルコト能ハズ。朕ハ已ムコトヲ得ズ、有爲ノ將官ヲ簡派シテ、彼地位ニアラシメザルベカラズ、朕ガ將官ノ不能ハ實ニ佛國ノ幸運ヲ地ニ墜シメ、朕ガ征英ノ好望ヲ破壞セシム。云々

當時英艦隊ノ勢力ハ決シテ大優勢ニハアラズト雖、「ウエルニユーヴ」ノ目的地タル「ブレスト」港外

「セルベラ」ト「ウエルニユーヴ」

ニハ英將「コーンウオルス」及ビ「カルダー」ノ艦隊アリ。又「ネルソン」艦隊ノ己レヲ追求スルアリ。佛將ノ處置ハ固ヨリ勇決ナリト稱シ難シト雖、彼レハ「ネルソン」ノ己ヲ追跟スルヲ知リ、「カルダー」ノ己ヲ監視スルヲ信ジ、復タ他ノ艦隊ノ「ブレスト」灣外ニアルヲ知レリ。唯目前ノ艦隊ヲ以テ其ノ優劣ヲ較スルハ寧ロ酷ナリト謂フベシ。是ニ由テ之ヲ觀レバ、佛將ノ出港ヲ難ジタルハ復已ヲ得ザルニ出ル者トシテ同情ヲ表スベキナリ。況ンヤ當時佛國海軍々人ノ訓練ハ遠ク英人ニ及バザルハ、數年來ノ經驗ニ於テ明カナルノミナラズ。二國海軍ノ聯合セル僅カ二十九艘ノ艦隊ヲ以テ精鋭ナル英ノ二十四艘ニ對スルハ、勝算疑ナキモノト信ズルヲ得ザルニ於テヲヤ。必竟此ノ際ニ於ケル事實ハ「ウエルニユーブ」ガ事ヲ斷ズルノ勇氣ニ乏ク。英艦隊ヲ惧ルヽコト甚キニ依ルハ、佛將「ガントーム」ガ其ノ艦隊ヲ率テ、「ウエルニユーブ」ニ會センガ爲「ブレスト」ヲ出タルニ徵スルモ明ナリト雖。自ラ其力ヲ計ルニ遠ク敵艦隊ニ及バザルモ、尙且ツ出航セザルベカラズトセバ、「ウエルニユーヴ」ノ心事モ亦憐ムニ堪ヘタリ。（米西戰爭中「サンチヤゴー」ニ於ケル「セルベラ」將軍ノ心事ヲ察スルモ亦同一ノ感ナキヲ得ズ。）此史例ハ固ヨリ之ヲ以テ他ノ海將ニ比スルコト能ハズト雖、常ニ絶代ノ勇將ノミヲ以テ我司令長官タラシムルコト能ハズトセバ、此海將ノ擧動モ亦一考ノ價値ナキニアラズ、況ンヤ「ウエルニユーヴ」タルモノマタ必ズシモ勇氣ニ乏シキニアラズ（「ウエルニユーヴ」ハ當時ニ於テ最モ勇名アル將官ノ一人ナリ）其ノ麾下艦隊ノ遠ク英軍ニ及バザルヲ知リ、不得已シテ戰ヲ避ケント欲セルニヨレルヲヤ「トラフアルガー」ノ海戰ニ先チ、其ノ艦隊ニ下セル訓令中「砲戰裡ニ入ラザル各艦長ハ其ノ位置ヲ守ラザルモノナリ、之ヲ定位置ニ就カシメンガ爲旗將ノ信號ヲ煩スハ該艦長ノ恥辱タルベシ」等ノ言アルガ如キ、同將官ガ如何ニ部下ノ諸艦長ヲ信用セザリシヤヲ證スルニ足レリ、之ニ反シ英國海軍ニ於テハ寧ロ苛酷ニ失スル軍法ヲ以テ將校ノ動作ヲ監視シ、英將「カルダー」ノ如キ「ウエルニユーヴ」ノ優勢艦隊ヲシテ「フエロル」ニ入ラシメタルハ其職ヲ盡サヽルモノトシテ有罪ノ宣告ヲ受クルニ至レリト雖、他ノ一方ニ於テハ此ノ如ク峻烈ナル軍法ヲ勵行スルニ對シ、常ニ其ノ海將ニ附スルニ優勢ナル艦隊ヲ以テスルノ注意ヲ怠ルコトナク。（實際ニ於テハ常ニ必ズシモ如茲ナルコト能ハサリシニモセヨ）海將等ヲシテ敵ノ優勢艦隊ヲ看ルコト、猶ホ劣勢艦隊ヲ看ルガ如クナラシメンコトヲ期シ、又常ニ有力ナル艦隊ヲ附シ、劣勢ナル艦隊ヲ以テ敵ニ對スル事ナカラシメンコトヲ期セリ。是レ蓋シ英將等ノ常ニ勇敢ニシテ敵ヲ惧レズ、一モ怨聲ヲ發シテ政府ノ己ニ與ルノ薄キヲ訴ルモノナキ所以ナルベシ。（以上舊著）要スルニ「アドミラル」「ビング」ガ「ミノルカ」ヲ救ハザルニ座シテ極刑ニ處セラレタルト前ニモ述ル如ク「アドミラル、セント、ウインセント」伯ガ十五艦ヲ以テ兩國ノ二十七艦ヲ破リタル兩端ノ活例ハ、當時英國將校ニ與フル深刻ナル感想ヲ以テシタルヤ疑ヲ容レス。之ニ反シ佛國ニ於テハ千七百年代ノ半ニ於テハ「ド、グラス」「スフラン」ノ如キ勇將アリ。數々英將ヲ擊破シ後進ノ鋭氣ヲ引キ立タルコトナキニシモアラズト雖ドモ、舊來ノ歷史ハ殆ンド英艦隊ノ常勝ト佛艦隊ノ常敗ヲ表スルガ故ニ、此自然的感想ガ兩國軍人ノ志想ヲ支配シタルコト淺カラサルモノ、如ク、未ダ戰ハズシテ既ニ戰敗ノ鬼胎ヲ抱キシコトコレ實ニ佛艦隊ノ更ニ敗戰ヲ重ネタル一原因タラズンバアラス。況ンヤ佛國ノ方針ノ勉テ其ノ艦船ノ無難ナルヲ期シ、可成敵ヲ避ケテ其艦隊ノ完全ナルヲ望ムノ形跡アリ「ナポ

「ドウインター」ノ先例

レオン」ト雖ドモマタ明ニ之ヲ口ニシタルヲヤ。日露戰爭ノ初期ニ當リ、露將「クロパトキン」カ「兩國開戰ノ曉ニハ時ニ或ハ戰鬪ノ局部ニ於テ敗退シ、士卒ヲシテ其ノ苦痛ヲ嘗メシムルニ至ルモ亦知ルベカラズ、然レドモ事ノ苦痛ヲ耐忍シテ漸次勢力ヲ增加シ遂ニ守勢ヲ轉ジテ攻勢ニ變ズルノ用意ナカルベカラズ、而シテ其ノ攻勢ニ轉センニハ、總テノ方面ニ於テ、充分餘力ヲ蓄ヘ、勝算歷々タルモノアリ而シテ後初メテ決行スベキモノトス。(コレハ誠ニ覺束ナキ冀望デアル)其一旦用意成リ勢力充實シタル場合ニ於テハ咄嗟ニ猛然トシテ敢行シ、決シテ浚巡スルヲ許サズ」トノ意義ヲ宣言シタルガ如キハ蓋シ、其ノ敗因ノ大ナルモノニシテ、其ノ命令中ニ戰敗ヲ豫期スルノ語氣アルガ如キ、實ニ「ウエルニューヴ」ト相似タルモノアリ。成ル程一局部敗退ノ如キハ全軍ニ就テ之ヲ看レバ些少ナル痛苦タルニ過ギズト雖、當事者ヲ以テ之ヲ看レバ、コレ實ニ其ノ不名譽ナル戰死ヲ意味スルモノニシテ、此感想ニシテ其ノ念頭ニ徂徠セバ、之レガ爲メ士氣ノ失墜ヲ來スコト果シテ幾何ゾヤ、凡ソ軍人ノ戰場ニ臨ムヤ、敗戰ノ鬼胎ヲ抱ク程元氣ノ衰退ヲ誘起スル者ナク。士氣ノ衰頹ハ是レ實ニ戰敗ノ最大原因ナリ。況ンヤ其ノ敗ヲ重ヌルコト二回三回ニ至テハ、假令物質的勢力ニ於テ敵ヨリモ優勢ナリト雖、敗戰ノ惰力ハ僅カノ優勢ヲ以テ之ヲ挽回シ得ベキニアラズ。第一戰ノ勝利ハ實ニ第二戰ノ勝利ノ過半ヲ意味スルモノニシテ、第三戰ノ必勝ヲ意味スルモノナリ。之ニ反シ第一戰ノ敗ハ第二戰ノ敗ヲ豫言シ。第二戰ノ敗ハ第三戰ノ敗ヲ斷言スルノ傾向アリ。佛艦隊ノ終ニ振ハザル蓋シ故アリト謂フベシ」。

次ニハ蘭將「ド、ウインター」ノ話デアル「ド、ウインター」ハ英將「ダンカン」ノ封鎖ヲ受ケ「テキセル」ニ在ツタノデアルガ。荏苒日月ヲ費シ其出港ヲ猶豫スルニ及ビ左ノ如キ訓令ヲ受クルニ至ツタノデアル。

「ペルサノ」ノ先例

「貴官ハ風候ノ許ス限リ可成速ニ出航スベシ。而シテ海上ニ於ケル動作ハ曩ニ訓令セル第九第十及第十一項ノ要領ニ從フベシ。(此三項中下ノ如キ言アリ)。貴官ハ北海ニ於ケル勢力懸絶セザル場合ニ於テハ、敵ト對戰ヲ試ミ、努メテ大ナル損害ヲ與フベシ。若シ敵軍ノ勢力、到底勝利ノ目的ヲ以テ相對スルコト能ハズトセバ、直ニ要衝ノ地點ヲ選ミテ之ヲ攻擊シ、之ヲ占領シ、或ハ邂逅セル敵艦隊ヲ擊破シ、其ノ通商航海ニ防害ト恐慌トヲ與フベシ。(以上九項)、貴官ハ敵ノ勢力ヲ思料シ、該訓令ノ事項ヲ擴充シテ動作セザルベカラズ。換言スレバ、若シ敵艦隊ノ勢力ノ遙ニ優勢ナリト聞知セル場合ニ於テハ、蘭國將官ハ優勢ナル敵軍ニ對シテモ、其ノ國旗ノ名譽ヲ宣揚セルコト決シテ少ナカラザルヲ思ヒ、能ク注意シテ之ヲ避クベシ。(以上十項)、若シ敵ト相戰フベキ場合ニ際セバ、出來得ル限リノ注意ト詐謀トヲ以テ敵ヲ誘ヒ、佛蘭西共和國ノ海港ニ近クコトヲ試ムベシ。(以上十一項)、」

當時「ド、ウインターノ」意見ハ少ク政府ノ見ル所ト異ナリ、大優勢ナル敵ト砲煙ノ間ニ相見ヘ、無算ナル敗北ヲ來シ、醫スベカラザル傷痍ヲ受ケンヨリハ、寧ロ持重シテ砲火ヲ交ヘザルヲ得策ナリト信シタルハ、同將官カ英將「ダンカン」ニ語レル所ニ徵シテ明ガナリ。而カモ政府ノ嚴命ハ辭スルニ由ナク、已ムヲ得ズシテ勝算ナキ海戰ヲ試ミ纔カニ自己ノ勇名ヲ維持シテ、其ノ艦隊ノ全滅セラル、ノ不幸ニ會シ、英人ニ與ルニ同海面ニ於ケル自由動作ヲ以テスルニ至レリ」。

又伊將「ペルサノ」ハ伊國第一ノ良將トシテ其ノ名譽藉々タル人デアツタノデアルガ、司令長官ノ任

コ受ケ艦隊ヲ檢閲スルニ及ビ、其ノ不整頓ノ甚シキヲ見テ、其ノ出航ヲ難シタリシカバ。終ニ海相ヨリ左ノ如キ書翰ヲ受クルニ至ツタノデアル。

「閣下ハ世界ニ於テ海軍ヲ信スルコト最モ厚ク、殆ント狂スルガ如キ國民ヲシテ、我海軍ノ爲ニ千二百萬ノ軍費ヲ增加セルニ關セズ、我艦隊ノ敵ト戰フコト能ハザルヲ知ラシメント欲スルカ。我儕ハ戰ハザルベカラズ。然ラザレバ我儕ハ擊殺セラルヽモ尙足ラザルベシ。吾人ハ未ダ曾テ墺人カ我海軍ヲ以テ已ニ加カストナシ、之ヲ輕侮セルモノアルヲ聞カザルナリ。云々、」

又當時「ペルサノ」將軍カ伊國王ノ侍從武官長ヨリ受タル書翰ハ左ノ如シ、

今朝軍事會議ヲ開キタルニ、議員一同ハ我艦隊ガ敵艦隊ニ對シ活潑ナル行動ヲ採ルコト能ハザルヲ痛嘆セリ。故ニ陛下ハ余ニ命シ閣下ニ傳フル速カニ目下ノ態度ヲ變ズベキヲ以テセリ。又海軍大臣モ余ニ命シ閣下ニ通知セシムルニ、閣下ノ麾下ニ屬スル艦隊ニシテ、今後尙從來ノ如ク行動ヲ始メザルガ如キコトアラバ、同大臣ハ止ヲ得ス閣下ノ職ヲ解キ、閣下ニ代ルニ他ノ適當ナル將官ヲ以テセンコトヲ以テセラレタリ。

（此書翰ハ何トナク深意アルガ如ク想像シ得ベシト雖ドモ必竟「ペルサノ」ニ向テ理屈ヲ述ルニ過ギズ。是レ唯「ペルサノ」將軍ヲ苦ムルニ了ランノミ。毫モ同將軍ニ益スルコトナク、又一モ同將軍ノ勢力ヲ增加スルモノニアラス。）

當時伊人ハ相喧傳シテ曰ク、「遲疑スルコトナカレ、墺人ト戰ヒ其ノ邦土ニ上陸セヨ、然ラザレバ「リツサ」ヲ攻擊セヨ、唯邁進スベキノミ、何ノ遲疑スル處アランヤ。」ト夫レ國民ノ叫ハ斯ノ如ク、海相ノ督責亦斯ノ如シ、渠「ペルサノ」ヲシテ皮下一滴ノ血ナカラシムルモ、應ニ憤然トシテ蹶起スベシ。而カモ猶出ルコト能ハサルハ、適々其ノ艦隊ノ不完全如何ニ甚ダシキカヲ想見スルニ足ルノミ。獨リ「ペルサノ」ノ怯懦ヲ罵リ口ヲ極メテ之ヲ誹議スルハ酷ナリト謂フベシ。然レドモ海相ハ民聲ヲ叫喚彌々益々甚キヲ看、默々ニ附スルコト能ハズ。終ニ無謀ナル電訓ヲ發スルニ至レリ。

貴官ハ直ニ艦隊ヲ率テ港外ニ出ツベシ。苟モ砲ヲ載スルモノハ大小ニ論ナク悉ク出港スベシ。貴官ハ唯此訓令ニ從テ行動スルヲ要ス。

伊將モ今ハ已ムコトヲ得ズ此訓令ニ從ヒ出帆セリト雖、固ヨリ勝算ヲ定メラ攻勢ニ轉スルニ意ナク。一巡航ノ後再ビ「アンコナ」ニ歸リシカバ、（コノ際ニ於ケル「ペルサノ」ノ行動ハ殆ンド解スベカラザル程無意味ナリキ。）不平ノ聲ハ漸ク艦隊ノ少壯者間ニ起リ、國民ノ嘲罵ハ更ニ激烈ヲ加ルニ至レリ。茲ニ於テ國王及海相ハ「ペルサノ」ノ擧動ヲ以テ屈辱ナリトセル國民ノ喧囂ニ制セラレ。已ヲ得ズ左ノ如キ訓令ヲ發セリ、

亂暴ナル命令

「貴官ハ其ノ方法ノ如何ヲ問ハズ速ニ敵ノ砲臺及艦隊ヲ擊破スベシ、」

今ヤ「ペルサノ」ハ一分一秒ヲモ猶豫スベキ間隙ヲ有セズ、終ニ意ヲ決シテ「リツサ」ノ大敗ヲ招ケリ。當時以將ノ擧動優柔不斷ニシテ海將ノ器ニアラザルヲ表セルコト一ニシテ足ラザルヲ以テ「ウエルニユーヴ」ト與ニ、之ヲコノ史例ニ班スルハ、吾人ノ聊カ屑トセザル所ナリ。然レドモ伊人ヲシテ自ラ優勢ナリト信ズベキ艦隊ヲ有セズ、其ノ力遙ニ敵軍ニ劣リタルヲ知ラシメタリトナスモ若シ墺將「デゲトフ」ヲシテ攻勢運動ヲトリ、以國ノ海岸ノ視線內ヲ遊弋シ其ノ威武ヲ示シ、所在陸梁

我艦隊ノ劣勢ナル場合ハ如何

ヲ逞フスルヲ得セシメタランニハ、伊人タルモノ其ノ海軍ノ劣勢ナルヲ忘レテ只管海將ノ不能ヲ嘲罵シ、伊將ヲシテ勝算ナキノ戰ヲ敢テシ、其ノ艦隊ノ全滅ヲ招クニ至ラシムルコトナキヤ大ニ疑フベシ。是ニ由テ之ヲ觀レバ、我艦隊ノ劣勢ナル場合ニ於テモ、若シ敵艦隊來テ東京灣、伊勢灣及紀淡海峽ノ如キ國民ノ感覺ヲ刺撃スベキ要點ヲ衝カント擬スルニ至ラバ。我國民タルモノ果シテ深ク聯合艦隊司令長官ノ智勇ヲ信シ、一々其所爲ニ任ジテ疑ハザルヲ得ベキヤ。是レ大ニ疑フベキナリ。我激勵シ易キ國民ヲ以テ之ヲ看レバ、若シ我將官ヲシテ果シテ右ノ史例ノ如キ場合ニ至ラシメタランニハ、更ニ憤激シテ戰ニ赴キ悲慘見ルニ忍ビザルノ激戰ヲナシ、我艦隊ノ全滅ヲ見ルヤ疑フベカラズ。「セルベラ」艦隊ノ「サンチヤゴ」ニ全滅シタルガ如キモ亦實ニ上官ヨリ與ヘタル無算ニシテ暴戾ナル訓令ニヨラズンバアラズ。

是ニ依リテ之ヲ視レバ、司令長官ノ行動ハ必ズシモ、其所見ニ從ヒ得ベキモノニアラズ、或ハ民聲ニ制セラレ、或ハ嚴命ヲ受ケテ勝算ナキノ戰鬪ニ從事シ、身ハ公ニ殉シテ國家ニ寸効ナキニ終ルコトアリ、固ヨリ一身ヲ捧ゲテ國家ニ盡ス所以ニシテ、深ク惜ムニ足ラズト雖ドモ、司令長官ヲシテ斯クノ如キ悲慘ナル運命ニ會セシムルハ、國家ガ眞ニ其ノ責ヲ盡サザルノ結果ニシテ、劣勢ノ艦隊ヲ與ヘテ戰ヲ強ユルノ致ス處ナルヲ憶ヘバ。軍備ノ方針ヲ定メテ之ヲ實施スルノ責更ニ大ナルモノアルヲ知ルベキニアラズヤ

讀者ハ今ヤ如斯キ悲慘ナル數箇ノ實例ヲ看タノデアル。是ニ由テ之ヲ觀レバ、我艦隊ガ劣勢ナル場合ニ於テハ、如何ナル手段ヲ講ズルモ自然ノ趨勢ニ制セラレ、不得已敵ニ接スルニ至ルコト殆ンド明白デアル。此場合ニ於テハ寧ロ奇功ヲ奏スルヲ萬一ノ望トナシ、一刻モ早ク敵艦隊ヲ攻撃スルノ外致シ方ガナイ。「トアリントン」ノ行動ハ吾輩ノ左袒セザル處デアル。モシ此際幸ニシテ敵軍ヲ撃破シ得タリトセバ從テ局地防禦其物ヲ救フコトヲ得ヘキモ、如此コトハ豫メ期シ得ベキ限リニアラズ、如此空想ヲ以テ國防ノ設備ヲナサントスルガ如キハ、會々國家ノ敗滅ヲ來ス所以ニシテ、不忠實コレヨリ大ナルハナイ。但コヽニ存在スベキ一個ノ問題ハ、局地防禦ノ掩護ヲ受クル劣勢ナル艦隊ハ果シテ如何ナル運命ニ接スルデアロウカノ一事デアル。コレニ關スル古來ノ戰例ハ、到底其ノ運命ヲ保ツコト能ハザルヲ明示スルノデアルガ。カノ「トアリントン」將軍ノ唱ヘ出シタル「フリート、イン、ビーイング」戰略ノ如キハ、如此場合ニハ到底應用ガ出來ヌ。(「トアリントン」ノ港灣ニ退カザリシハ敵ト觸接ヲ失ザルノ實ヲ擧ゲンガ爲ナリ。コノ戰略ハ少クトモ運動ノ意義ヲ有スル艦隊ニアラザレハ應用シ難ク、マタ他ノ艦隊來リ會シタル場合ニ於テ敵ニ對シ均勢ヲ維持シ、若クハ優勢ニ至ルノ望ナキ場合ニ於テハ、到底十分ナル奏功ヲ期シ難キハ少ク同戰略ニ就キ研究シタルモノ、明識シ得ベキ處デアル。

戰例第六　要塞ノ掩護ヲ受ケタル艦隊ノ運命

戰例第六

敗餘若クハ劣勢ナル艦隊ガ防禦港灣ノ掩護下ニ在泊シ敵ノ攻撃ヲ受ケタル前例。

對手國	戰例	在泊艦隊ノ運命	掩護砲臺ノ運命
英對丁	一七〇〇「コーペンハーゲン」ノ戰、一八〇一「コーペンハーゲン」ノ戰、	丁人力盡キ英瑞兩國ノ要求ニ屈セリ、全滅、	丁人力屈シ英將ト和セリ

英對西	一七九七「トリニダッド」ノ攻陷、	全滅、	陷落、
英對佛	一七〇二、「ウキーゴー」ノ攻擊、 一八〇一、「アルゼシラス」ニ於ケル攻擊	全滅、 雙方トモニ大損害、	陷落、 大ナル影響ナシ、
	一八〇〇、「マルタ」ノ攻陷、	一艘逸出他ハ全滅、	陷落、
露土對佛	一七九八、「コルフ」ノ攻陷、	一艘脫出他ハ全滅、	陷落、
英佛對露	一八五四、「セバストポール」ノ攻擊、	全滅、	陷落、
米國北軍對南軍	一八六四、「モビール」灣ノ攻擊、	全滅、	陷落、
英對「アルゼリヤ」	一八一六、「アルゼリヤ」攻擊、	全滅、	英ノ要求ヲ入レ陷落ヲ免ル

（備考）右ノ外一七六二年ニ於ケル「ハバンナ」攻擊、一七八一年ニ於ケル「チャールストン」攻擊ノ如キ、一八六三年南北戰爭ニ於ケル同港封鎖中ニ起リタル一二ノ例ノ如キ、旅順及威海衞ニ於ケル淸露艦隊ノ如キ適例アルモ皆之ヲ除ク。而シテコレ等ノ諸例ハ一トシテ在泊艦船ノ全滅ニ了ラサルハナシ。

（一）千七百年英將「ルーク」「コーベンハーゲン」ヲ攻擊ス。（史例第二十三參照）

（二）千七百二年英將「ルーク」佛艦隊ヲ（ウキーゴー）ニ擊滅ス。（史例第二十四參照）

（三）千七百九十七年英軍西領（トリニダッド）ヲ征服ス。（史例第百二十九參照）

（六）千八百一年英「ソーマレーツ」「アルゼシラス」砲臺ニ近ク碇泊スル佛艦隊ヲ攻擊ス。（史例第百五十七參照）

（七）千八百一年英將「ハイド、パーカー」及「ネルソン」「コーペンハーゲン」ヲ攻擊ス。（史例第百四十六參照）

（四）千七百九十八年露土同盟軍「コルフ」ヲ攻陷ス。（史例第百五十二參照）

（五）千八百年英軍「マルタ」ヲ陷ル。（史例第百四十四參照）

（八）千八百十六年英將「エキスマス」「アルゼリヤ」ヲ攻擊ス。（史例第二百十八參照）

（九）千八百五十四年英佛同盟軍ノ「セバストポール」攻擊。（史例第二百二十二參照）

（十）千八百六十四年米國北軍ノ將官「ファラガット」「モビール」灣ヲ攻擊ス。（史例第二百二十七參照）

此戰例第六ハ他ノ例ノ如ク明瞭ナル判斷ヲ吾輩ニ與フベキ資格ガナイノデアル。何トナレバ其ノ結果ハタヾ成敗ヲ以テ論ズルコト能ハザル場合多ク、且其成敗ノ點ノミヲ以テ全般ノ利害ヲ比較スルニハ其ノ類例餘リニ少數デアル。從テ全戰例ヲ一貫スル原理ヲ發見スルニ苦ムノデアル。サリナガラ砲臺掩護下ニアル艦隊ハ既ニ縻軍デアル。其ノ碇泊ノ場合ニ於テハ孤兵デアル。モシ攻擊艦隊ノ長官ニシテ理勢ヲ看ルノ明アラバ尙「ネルソン」ノ「ナイル」ノ如ク、「コンセントレーション」ヲ行フヘキ時機ヲ失セヌデアロウ。然ラザレバ其ノ出動ヲ監視シ、外海ニ於テ之ヲ擊破スルノ策ヲ講ズルデアロウ。モシコレヲモナシ難シトセバ。日露戰役ノ旅順攻擊ノ如ク、又日淸戰役ニ於ケル威海衞攻擊ノ如ク、種々ノ方法ヲ以テ敵艦隊ヲ苦メ、終ニ之ヲ全滅スルノ策ヲ講ズルデアラウ。要スルニ敵ノ艦隊ニシテ既ニ萎微シテ運動力ヲ失タル以上ハ、最終ノ勝利我軍ニ歸スルハ疑モナキ事デアル。若シ運動力ヲ有ストスレバ、早晚コレヲ海洋ニ邀フルノ時機ガアルノデアル。大體ニ於テ其ノ成敗ヲ疑フノ必要ガナイ、

劣勢艦隊ハ必竟犠牲ナリ

コノ點ニ就テハ戰例第六ト雖モ、マタ之ヲ證スルコトガ出來ル。ツマリハ全滅ノ厄運ニ會スルハ防禦艦隊ノ持前ナリト謂フコトガ出來ル。「アルゼシラス」ノ戰例ニ於テハ寧ロ攻擊艦隊ノ不利ニ終ツタノデアルガ、此ノ場合ニ於テモ防禦艦隊ガ其ノ一タビ出動スルニ及ビ、忽チ英艦隊ニ擊タレテ同士打ヲナシ。海戰上希ニ見ルノ一笑話ヲ遺シテ大敗ニ終ツタノデアル。コノ大敗ハ毫モ此戰例ニ關係ナキモ、既ニ砲臺下ニ入リテ其ノ掩護ヲ受ケ、僅ニ其ノ命脉ヲ保留セントスルガ如キ場合ニ於テハ。士氣ノ失墜著ク遂ニハコレガ原因トナリテ、大失敗ヲ招クニ至ルコトアリト吾輩ハ察スルノデアル。

兎ニ角我艦隊ノ敵ヨリモ劣勢ナル場合ニ於テハ、如何ニスルモ敵ト會戰ヲ避クルノ道ナク。其ノ會、砲臺ト聯合シテ優勢ナル艦隊ニ當ラントスル場合ニ於テモ、自然ノ結果トシテ其ノ運動力自ラ萎微シ。浮砲臺ト選ブ處ナキ有樣トナリ。敵軍ガ其ノ面前ヲ去リ他ノ砲臺ニ移ラントスルヲ看テモ之ヲ追ノコト能ハズ。(モシ追跟シテ出港セバ純然タル海戰トシテ敵ニ擊破セラル、ガ故ニ、モシコレヲシモ辭セザル決意ナリトセバ、長ク砲臺ノ援助ヲ請フノ理由ナク。從テ砲臺ト協同シテ作戰スル場合ニ於ケル問題ハ成立セズ。)遂ニハ民聲若クハ他ノ壓力ニ推サレテ他ノ要衝ニ赴援シ、不得已純然タル海戰ヲナスコト獨伊墺戰役ニ於ケル「リッサ」ノ如ク、(但シコノ實例ニ就キ研究セント欲セバ「テゲトフ」ヲシテ「ベルサノ」ト其ノ處ヲ代ラシメ「テゲトフ」ハ決シテ「リッサ」ヲ眞面目ニ攻擊スルガ如キコトナク「ベルサノ」ハ民聲ニ壓サレテ「リッサ」ニ赴援セリト看テ之ヲ判斷スルヲ要ス)誠ニ悲慘ナル結果トナルデアロウト思フ。

由是觀之。我艦隊ノ勢力微弱ニシテ敵ヲ破ルベキ見込立ザル場合ニ於テハ、如何ナル手段ヲ講ズルモ終ニハ不名譽ナル結果ヲ看ルニ至ルベキハ最早疑フニ足ラヌノデアルガ。之ニ反シ我艦隊ノ優勢ナル場合ニ於テハ、假ヒ我艦隊ガ一時不利ナル行動ヲトリ、乘ズベキ好機會ヲ失シタリト假定スルモ、敵ノ將官ガ驚クベキ勇氣ト熟練ト機敏トヲ兼備シ、我將官ガ怯惰ニシテ未熟ニ、執拗ニシテ遲純ナル、或極端ノ場合ニ於テハイザ知ラズ。其ノ他ノ場合ニ於テハ、敵ヨリ攻勢ヲ取ルベキ患ナク、從テ敵兵ノ我近海ニ顯ハレ、我領土内ニ上陸ヲ試ムルガ如キハ到底アリ得ベカラザルコト、判斷スルコトガ出來ル。假令之アリトスルモ其ノ決シテ畏ル、ニ足ラザルノミナラズ、反テ敵軍ノ敗滅ヲ意味スルハ、既ニ述タル戰例ニヨリテ明白デアル。則假令、或機會ニ於テハ或ハ實顯スルコトナキニアラズトスルモ、國防計畫ノ大方針上ヨリ之レヲ見レバ絶無トシテコレヲ看ルニ差支ナイノデアル。乍去、是等ノ點ニ對シテハ研究ノ上ニモ研究ヲ加ヘ愼重ノ上ニモ愼重ニ吟味スルノ必要アリト吾輩ハ確認スルガ故ニ、更ニ後章ニ於テ之ヲ繰リ返シ一層緻密ニ之レヲ證論スベキ豫定ナルモ、今ハ暫ク之ヲ措キ、國防上ニ於ケル局地防禦ノ價値ニ對シテ說明ヲ開始シ、比較的ニ明白ナル證據ヲ以テ論旨ノ明晰ヲ期セヨウト思フノデアル。

國防論者ノ意見

第二章　國防論者ノ意見

前章ノ末段ニ述タル如キ趣意ニ從ヒ、海岸防禦設備ハ國防上果シテ如何ナル價値ヲ有スルヤノ問題ヲ研究セントスルニハ。先適當ノ順序トシテ、海岸防禦其ノ物ノ性質ト能力トヲ定メナケレバナラヌ。此點ニ就キ先第一ニ知名ノ國防論者ノ言ヲ紹介シ、且、一々短評ヲ試ミ、吾輩ノ意見ノ存スル處ヲ說

千八百八十九年ノ狀況

明シヨウト思フ。舊著ニモ論ジタル如ク國防論其ノ物ノ性質トシテ、自國ノ防禦ニ適切ナルヲ以テ目的トスルガ故ニ、根本的ニ其ノ意義ヲ研究シ、全般ニ應ジテ解釋ヲ下シ得ベキ原則的議論ヲ提出スルモノ少ク。多クハ寧ロ群盲象ヲ相スルノ傾キガアル。故ニ。諸名士ノ說ヲ載錄スルニ際シテモ、必ズヤ先其ノ國ノ形勢ニ注意シ、樵夫ニ問フテ滄海ニ棹スノ愚ヲナサヽルコトニ留意シナケレバナラヌ。吾輩ハ此點ヨリ推定シ、國防ニ關スル諸論者ノ言ヲ引用セントスルニ際シテハ、主トシテ地理的關係ノ我國ニ酷似スル英國ヲ採擇ショウト思フノデアル。殊ニ千八百八十九年ノ頃ハ英人ガ國防問題ノ研究ヲ必要ト認メ、殖民地ニ於ケル局地防禦ニ關スル事項ヲ研究シタル時代ニシテ、彼ノ有名ナル海軍國防案ノ議會ヲ通過シタルモ同時代ナルガ故ニ。此際ニ於ケル英人ノ議論ハ最モ眞面目ニシテ着實ナル時代デアツタノデアル。其ノ後佛將「メルシヤ」ナドノ英國侵略策ニ驚カサレ。二三ノ議論ヲ「タイムス」上ニ見タルコトアリ。南阿戰爭ノ爲「帝國的英國ノ國防」則印度南亞北米其他ノ大陸的ナル領土ニ對スル國防ニ關シ議論沸騰セルコトアルモ。其本國ニ對スル議論ニ至テハ千八百八十八九年頃ヲ以テ其ノ全盛ナル時代ナリト信ズルガ故ニ。吾輩ノ紹介スル議論モ主トシテ同時代ノ論戰デアル、併シナガラ、コヽニ一ノ留意セザルベカラザルコトアリ。全體英國ハ海軍立國主義ノ國デアル。古ヨリコノ主義ヲ以テ一貫シタル國柄デアル、故ニ其ノ議論ハ一トシテ制海ノ二字ヲ前提トセザルモノナキハ殆ンド怪ムベキ程ニ同一轍デアル。制海則「コンマンド、オフ、ゼ、シー」ノ前ニハ如何ナル軍備モ低頭平身シナケレバナラヌガ、英人ニ固着シタル思想デアル。故ニ其ノ議論ノ如キモ往々ニシテコノ本尊ニ對シ仇矢ヲ試ルガ如キ語氣ヲ漏スモノナキニアラザルモ、正面ヨリコノ主義ニ對シ一矢ヲモ射カクルコトガ出來ヌノデアル。英人ノ海洋的思想ノ代表トシテハ「ブリタニヤ」ハ波ヲ支配ス」トカ「海軍ハ王國ノ城壁圍廓デアル」トカ云フ色々ノコトアルモ、カノ英人ノ人口ニ膾炙スル古詩ノ一節ニアリトテ國防論者ノ常ニ紹介スル

英人ノ思想

"This fortress built by Nature for herself,
Against infection and the hand of War,
* * * *
This precious stone set in the silven sea
Which serves it in the office of a wall,
Or as a most defencive to a house,
Against the envy of less happier lands.

ノ如キ英國人ガ如何ニ四面環海ノ國ナルヲ幸福トシ且得意トスルヤヲ遺憾ナク發揮シテ居ルノデアル。又古ヨリ傳ハリタル語ニ

"Britania needs no bulwarks no towers, along the steep."

ナドノ語アルハ疑モナク木壁則軍艦アレバ何物モイラヌトノ意味ヲ表スルノデアル、カノ詩伯「テニソン」ノ詩ノ一節ニ

"The fleet of England is her all in all."

ナドノ句アルガ如キ實ニコノ觀念ヲ發表シタモノデアル。

又カノ「コロム」中將ノ如キハ殆ンド極端ナル全地國防論者ニシテ、局地防禦論者ニ對シテハ苦々敷駁論家デアル。千八百八十九年三月「タイムス」社宛ノ書信ニ於テ

苟モ一錢タリトモ、我海軍ガ海上權ヲ掌握シ若クハ保存スルニ充分ナル威力ヲ有スルニ先チ、築城ノ費用ニ投ズルガ如キコトアラバ、假令絶對的無意味ニ投棄スルモノニハアラズトスルモ、少クトモ其ノ一錢ハ使用ノ法ヲ誤リタル一錢ナルベシ。

「ゲビテン、ストーン」ノ論

ト絶叫シタルガ如キハ實ニ其ノ證據デアル。此議論ハ一見極端ニ馳スルノ觀アルハ中將ノ爲ニ大ニ惜ムベク見ユルノデアル、乍去コレハ實際眞理デアル、根本的研究ノ結果ハ實ニ此ノ通リデアル、吾輩ガ國防上ニ對スル意見モコノ二三行ノ結論ニ逢着スルノ外ナキハ吾輩ノ斷言スル處デアル。

前ニモ云ヘル如ク、千八百八十九年頃ハ英國ニ於テ國防會議ヲ開カレ、有名ナル伯爵「カーナボン」卿ガ議長トナリ、主トシテ殖民地ノ防護ニ關シテ研究シタル時代ナルガ。此際海陸軍協會ニ「ゲビテン、ストーン」ヨリ提出シタル論文中、

造船所ト船渠ト石炭補給所ノ有無ハ實際我海軍ノ優勢ヲ決スル所以ナリトハ、吾人ノ前提トシテ先茲ニ宣言セント欲スル處デアル。而シテ又吾人等ガ國民トシテ存在センガ爲ニハ、我海軍ヲ優勢ニ維持スルコトノ絶對的ニ必要ナルト、又我造船所及石炭補給所ニ築城シ、我艦隊ヲシテ自由ニ敵ノ造船所船渠及石炭補給所ヲ攻擊シ或ハ主要ナル通商線ノ保護ヲ行ヒ、或ハ必要ニ際シ敵艦隊ヲ擊破シ得ベキ艦隊ヲ編制シ得ベカラシムルハ、我海軍ノ優勢ヲ維持スル所以ノ道ナリトノ前提ヲ置カナケレバナラヌ。云々

吾輩ガ「ストーン」大尉ヲ始メ、當時ノ立言者タル諸論者ノ意見ヲ掲載スルハ、其ノ意見ヲ紹介シ、併テ吾輩ノ意見ノ大體ヲ表幟セントスルニ過ギヌノデアル。必ズシモコレヲ論駁批裂シテ完膚ナカラシメント欲スルニハアラザルモ。吾輩ノ首肯シ得ザル處ハ一々意見ヲ附シテ輕觸ヲ試ミナケレバナラヌ。

「コロム」ノ駁論

サリナガラ、茲ニ吾輩ノ忻慕シテ措カザルトコロノ一事アリ。英國ニ於テハ軍事界ノ大立物トモ稱セラル、元帥大將其他知名ノ將官ガ、一大尉ノ言ヲモ輕々ニ看過セズ。充分ナル敬意ヲ以テ之ヲ研究シ。コレト其ノ議論ヲ上下セントスルノ襟度ヲ有スルノデアル。コノ「ストーン」大尉ノ意見ニ就テモ諸名將ノ意見續出セシガ、中ニモ移動軍備論派ノ驍將タル「コロム」中將ハ大尉ノ說ニ對シ、皮肉ナル論駁ヲ試ミタノデアル　其ノ大要ニヨレバ。

大尉ノ說ニ據レバ、局地防禦ヲ要衝ノ地點ニ設クルトキハ、其ノ設ザルニ際シ海軍ノ到底ナシ得ザリシ事業ヲモナシ得ルニ至ルベシトノ意味ヲ含ムガ如ク見受ラル、ノデアル。而シテマタ、大尉ノ說ニ據レバ海軍ハ防守ニ不適當ナリ。海軍ハタ、攻勢作戰ニノミ從事スベキモノニシテ、局地ニ集中シタル陸軍ハ實ニ其ノ局地ニ於ケル實際ノ防禦也ト信ゼラル、ト見ユルノデアル。

予ノ所見

吾輩ノ信ズル處ニヨレバ大尉ノ說ハ一應尤デアル。必ズシモ排斥スベキ論議デハナイ。サリナガラ更ニ一歩ヲ進メテ按着シ看レバ、疑フベキ點誠ニ少カラヌノデアル。元來海軍ノ主目的ハ我國防ニ必要ナル場合ニ於テ、實力的ニ海上ヲ制スルニアリ。此目的ニシテ貫徹シ得タリトセバ、最早敵軍ヲ攻勢ト考ルノ必要ハナイ。若シ萬一我監視艦隊ノ目ヲ掠メテ我國ニ上陸スルコト千七百九十八年ノ愛蘭侵入軍ノ如キ例アリトスルモ、大體ニ於テ恐ルニ足ラザルハ史上ノ示ス處ニヨリ明白デアル。又大尉

ノ說ニ依レバ、局地防禦ノ力ヲ以テ艦隊ニ自由ヲ與ヘルコトヲ得ベシト、概括的ニ決定スルガ如キモ、コハ大ナル間違デアル。(半面ノ理アルハ勿論ナリ、コノ點ニ關シテハ後章ニ論ズル處アルベシ)戰例ノ明示スル處ニヨレバ海岸防禦ガ海軍ノ救ヲ待タズシテ其ノ守禦ヲ全フシ得タルハ前代未聞デアル、(後出戰例第七第八及第九參照)海軍ハ決シテ海岸ノ防禦ヲ局地防禦ニ委セヲ自由ノ運動ヲトルコトガ出來ズ、ソマリ海岸防禦其ノ物ハ海戰艦隊ノ足手纏デアル、如何ニスルモ打捨テ、置ク譯ニハ行カヌノデアル。カノ有名ナル海軍將官「ロード、フード」ガ千七百八十五年ノ築城ニ關スル議按ニ對シ、要塞ノ築造ハ海軍ニ自由ヲ與ルモノナリ」ト論ジテ之ニ贊成シタノハ固ヨリ優勢海軍ヲ前提トシタノデアル。決シテ劣勢艦隊ヲ意味スルニアラズ。又絶對的ニ行動ノ自由ヲ意味セルニモアラズ。優勢ナル艦隊ハ要塞ノ補助ヲ得テ其ノ運動ヲ自由ナラシムルノ益アリト論定セルニ過ナイノデアル。之ニ反シ劣勢ナル塲合ニ於テハ反テ敵ノ爲ニ係蹄トナルガ如キ奇觀ヲ呈スルハ既ニ述ブル處ニヨリテモ明白デアル。又大尉ノ說ニ據レバ敵國ノ造船廠及石炭補給所等ヲ攻擊スルガ海軍ノ任務ノ如ク見ユルノデアルガ、コハ主要ナル職務ヲ遂行シ得タル後、乃チ一海戰ヲ終リ充分ニ敵艦隊ヲ屈伏セシメタル後、陸軍ト協同シテ行フベキ任務デアル。決シテ海軍ノ主要任務トシテ擧上スベキモノニアラズ。決シテ海軍ノ行動ガ局地防禦ノ爲メニ幾分ノ自由ヲ得タルニ乘ジテ行フベキ行動ニアラズ、既ニ海上ヲ廓清シ局地防禦ノ防備ノ有無ガ局地ノ防禦ニハ何等ノ關係ヲダモ有セザル塲合、假令ヘバ日露及日清戰役ノ如ク我帝國沿岸ノ安全ハ決シテ沿岸砲臺アルト否トニヨツテ變ズルガ如キ憂ナキ塲合ニ於テ初メテ行フベキ行動デアル。

「エーチ」「ー」氏ノ說

又同年「タイムス」ニ投書シタル「サー、ジヨン、エーチー」氏ノ言ニ據レバ

陸軍防禦ニ就テ論ズレバ、今假リニ敵軍ガ海ヲ踰テ來襲シタリト想像スル塲合ニ於テ。モシ敵ヲシテ我海岸ニ於テハ一モ根據トスベキ港灣ヲ發見スルコトガ出來ナイ、從テ如何ナル塲合ニ於テモ打チ開キタル海岸ヨリ上陸スルノ外他ニ良策ナシト思考セシムルト。之ニ反シ孰レノ地點ニテモ隨意ニ上陸シ得ベキ根據地ヲモ得ラルベシト思考セシムルト。防者ニトリテハ其ノ利害ノ關係果シテ如何デアロウカ。是レ則沿岸諸港ニ防禦ヲ施スノ必要アル理由デアル。又試ニ外國ト開戰セリト假定セバ、此塲合ニ於テハ味方ノ軍艦及商船ガ其ノ荷物ヲ陸揚シ、石炭ヲ搭載シ軍需品ヲ添積スル爲、港内ニ碇泊スルノ必要ヲ認ムルコト勿論アリ得ベキコトデアル。況ンヤ破壞シタル塲所ニ修理ヲ加ヘ或ハ暴風雨ヲ避ケ、或ハ〻タ已ヲ得ズシテ戰塲ヲ退キタル塲合ニ於テ安全ナル庇蔭所ヲ要スルノハ自然ノ結果デアル。コレガ則局地防禦ノ必要ヲ認ムル所以デアル。

ト論ジテ居ル。

予ノ所見

此議論モ「ストーン」大尉ノ如ク疑ヲ挿ムベキ餘地頗ル多イノデアル。此論者ノ議論ハ「ストーン」大尉トハ異リ、守勢的デアル、大尉ノ議論ハ艦隊ノ運動ヲ自由ニスルヲ主眼トシ、「エーチー」氏ハ海軍ノ不利ナル塲合ヲ想像シテ居ルノデアル、英國ガ其ノ海上ヲ敵手ニ渡シタル塲合ニ於テ如何ナル結果ヲ生ジタルヤノ問題ハ、吾輩ガ既ニ詳細ニ說明シタル如クデアル、今更港灣及海岸ノ安全ナドヲ論スベキ塲合デナイ、ナゼナレバ敵軍ガ既ニ海上ノ交通自在ナル塲合ニ於テハ英人ガ自ラ樂土トシテ祝福シタル觀念モ。最早全ク破壞セラレ、大陸ト選バザルノ狀態トナリ、敵ノ大軍ガ雲霞ノ如ク推シ寄スル

塲合デアル。カクテハ防禦シタル港灣モ防禦ナキ港灣モ其ノ結果ニ於テ同一デアル。其ノ僅カニ異ナル所ハ唯々時日ノ問題ノミ。之ニ反シ、英國ノ海軍ガ海ヲ制シタル塲合ニ於テハ敵軍ハ一歩ヲモ海上ニ踏ミ出スコト能ハズ。假リニ海上ニ踏ミ出シ英國ノ海岸ニ上陸ヲ試ントスル塲合アリトスルモ、又假令防禦ナキ港灣ナリトスルモ、僅カ一兩日中ニ優勢ナル艦隊ノ海ヲ覆フテ來ラントスルヲ知リツヽモ悠々トシテ煩雜ナル上陸事業ニ從事スルコトガ出來得ルデアロウカ、コハ苟モ經驗アルモノヽ等ク知ル處疑問トシテ諸人ニ訂スノ必要ヲ認メヌノデアル。サレバコソ英國々防ニ於テハ海軍ヲ以テ主幹ナリトシ、陸軍ハ殆ンド之ニ關セザルガ如キ境遇ニアルノハ無理モナイノデアル。

又第二段ノ塲合、則艦船ノ庇蔭所トシテノ必要ニ關スル塲合ハ如何ニモ道理アル議論デアル。乍去是レトテモ敵ノ艦隊ヲ擊破シ得ベキ他ノ艦隊ヲ有スル塲合ニ於テ始メテ有望ナルモ敗餘ノ海軍トシテハ到底何等ノ望モナイコトデアル。敵ガ庇蔭所ニ退キタリトノ理由ヲ以テ之レガ擊滅ヲ圖ラザルガ如キハ、之ヲ打捨置クモ全體ニ於テ左程ノ影響ヲ認メヌ塲合ノミニ限ラル、ノデアル。コノ點ニ對スル好戰例ハ日露戰役ニ於ケル旅順浦鹽ニヨリ明瞭ニ解釋シ得ラル、ノデアル。則旅順ニアツテハ如何ナル手段ヲ講ズルモ、露國艦隊ヲ擊滅セザレバ第二第三艦隊ノ來東ニ對シ有望ナル戰策ヲ畫スルコトガ出來ヌ、從テ數萬ノ勇士ヲ犧牲ニ供シアラユル方法ヲ盡シテ之ヲ攻陷セラレタノデアル。コレニ反シ浦鹽艦隊ハ旅順ニ比シ左程ニ重視スルノ必要ガナイ、則コレガ爲大體ノ勝敗ヲ轉ズルガ如キ憂尠イノデアル。從テ浦鹽攻擊ノ戰策ハ實行セラレズシテ止ンダノデアル。吾輩ハコノ點ヨリ考ヘ「エーチー」氏ノ議論ハ既ニ其ノ根柢ヨリ崩壞シ去ラレタルモノト認ムルノデアルガ。同氏ノ議論トテモ强チ一概ニ之ヲ駁擊シ去ルニ及バヌ點ガアル。必竟同氏ノ論ズル所ハタヾ局地防禦ハ萬ガ一ノ入用トシテ（換言スレバ國防ヲ完整センガ爲メ）必要デアル、衣ヲ裁シテ襟ヲ附センガ爲ニ必要デアル。如茲完整スルトキハ比較的ニ國家ノ損害ヲ輕減スベシトノ議論ニ過ギズトセバ誠ニ立派ナル議論デアル。

「カーナボン」卿ノ「コロム」將軍ニ對スル駁論

「コロム」中將ハ、吾輩ガ既ニ紹介シタル如ク、殆ンド絶對的ニ局地防禦ヲ否認スル論者デアル、同中將ガ海岸防禦ト艦隊ト題スル講話ヲ開演セルニ際シ、當時ノ國防會議々長タル「カーナボン」伯ハ其中ノ一節ヲ駁擊シテ左ノ如ク言ハレタ。

試ニ閣下ニ問フニ、防禦アル石炭補給所ト港灣トハ、如何ニ戰役ニ貢獻スル處アリヤヲ以テセバ、閣下ハ必其ノ利益ノ點ヲ擧グルコトガ出來ルデアロウ。今試ニ自問自答ノ答案ヲ述ブレバ、遠ク相隔在スル石炭補給所ニ施スニ防禦ノ裝置ヲ以テセバ、艦隊ヲシテ有利ナル運動ヲトラシムルニ有益デアル。然シテ又如斯ク防禦シタル港灣アリトセバ、一戰ノ後我艦隊ガ砲臺掩護ノ下ニ修理ヲ了ルコトヲ得ベキモ。モシ然ラズトセバ常ニ萬里ノ風濤ヲ犯シテ本國ニ歸還セザルヲ得ヌ。假令修理ヲ加ルノ必要ナシトスルモ、艦隊ノ行動上必要ナル石炭ヲ補給センガ爲入港スルノ必要アリ。商船ノ如キモ敵ノ拿捕船ニ追ハレテ困難ニ遭遇スルニ際シ、コレヲ防禦港灣ニ避ケ、或ハコレニ寄港シ、安ンジテ石炭ノ補給ニ從事スルコトガ出來ル。吾人ノ信ズル處ニヨレバ、モシ海外ニアル諸要港ニ施スニ防禦裝置ヲ以テセズンバ、英國ノ商船ノ三分ノ二ハ實戰ノ後間モナク敵國ノ旗章ヲ掲グルデアロウ云々。

予ノ所見

伯爵ノ論ズル處ハ大ニ味フベキ點ガアル。吾輩ハ至極穩當ナル議論ナリト信ズルノデアル。而カモ伯

「ロートン」博士ノ所論

爵ノ意味ヲ解釋スルニ先チ三箇ノ事實ヲ研究スルノ必要ガアル。則チ一ニハ英國艦隊及石炭補給所ハ遠方ニ隔在シ、世界ノ各方面ニ散布サレテ居ルト云フコト、二ニハ如斯世界各方面ニ散布スル艦隊ハ、必ズシモ常ニ優勢ナリト稱スルコト能ハズト云フコト、然シテマタ第三ニハ、英國ノ通商機關ハ非常ニ發達シ全世界ノ商權ハ殆ンド英人ノ手中ニアルガ故ニ、全世界ノ船舶ノ大部ハ英船ナリトノ三點ハ、是非トモ前提トシテ考慮ヲ加ルノ必要ガアル。加之伯爵ハ其ノ議論ノ前提トシテ、本國々防ニ關シ其ノ意見ヲ述ブルニアラザルヲ明ニシ、主トシテ遠洋ニ隔在スル要地ヲ以テ論點トセラレタノデアルガ、コノ點ニ就テハ大ニ注意ヲ加ヘナケレバナラヌ。本國附近ト遠方ニ隔在スル小島若クハ港灣トハ、特ニ注意シテ區別スルノ必要ガアル。英國ニ於テハ必ズシモ遠隔ト云フニハアラザルモ、コレト同意味ノ議決ヲナシタル先例ガアル。今日ヨリ之レヲ見レバ寧ロ一笑話ニ過ギヌ、優勢ナル艦隊ガ、敵ノ砲擊ヲ受クルコト三ケ月ニ及ベル造船廠ニ赴援スルコト能ハザルガ如キハ、今日ニ於テハ到底アリ得ベカラザル事デアル。「ロートン」博士ノ傳ル處ニヨレバ。

千七百八十五年ニ造船廠ヲ正當ナル方法ニテ防禦スヘキ目的ニ從ヒ一ノ委員會ガ開設セラレ、「リツチモンド」公ヲ議長トシ、七人ノ陸軍將校ト五人ノ海軍將校ガ委員トシテ任命セラレタノデアル。其ノ議題ハ艦隊ガ本國ヲ去ルコト三ケ月ナルベキ場合ニ於テ、三萬人ノ佛軍ガ上陸スル場合ノ想定ニ基クノデアツタ。

コノ委員會ハ一種ノ不思議ナル狀態ニアリ、「リツチモンド」公ハ議長ト謂ハンヨリモ寧ロ陸軍側ノ案內者トシテ其ノ態度ヲトツタノデアル。而シテ其ノ結果ハ公式ニ造船所ニ築城スルコトニ議決セシモ。「ミルバンク」、「グレヴス」「ジャーヴイス」ヲ始メ五人ノ海軍將校ハ之ニ不同意デアツタ。コレガ爲メ左ノ如ク不思議ナル覺書ノ文句ガ出來タノデアル。

愚劣ナル國防委員會ノ決議

『我等ノ結論ハ、我英國ノ全海軍ガ三ケ月間本國ニアラザルガ故ニ、敵國ハコノ機ニ乘ジ、三萬ノ陸軍ト「ポーツマス」若クハ「プリマス」ヲ攻擊スルニ適當ナル砲兵隊トヲ上陸セシメ、コノ三ケ月間ハ艦隊ノ爲メ何等ノ障礙ヲ蒙ラザルベシトノ想定ニヨリ議決セラレタルモノナリ。』

コレハ今日ニ於テハ一好笑話ト云フニ過ギザルモ、三ケ月間モ味方海軍ノ來ルベキ望ナキ地點ニ於テハ、固ヨリ相當ノ防備ヲ要スルノハ至當デアルト謂ハナケレバナラヌ。併シ我國ノ如キ地勢ニ於テハ三月ハ愚カ三週間ニテモ一週間ニテモ到底議題トスルニハ足ラヌ。則チコノ點ヨリ看レバコノ議決ノ如キハ我國ニハ到底アリ得ザルコト、認定スルノガ穩當デアル。

「クラーク」氏ノ說

又英國陸軍ノ「クラーク」中佐（元ノ濠洲「ウイクトリヤ」洲ノ總督）ハ英國ニテ有名ナル國防論者デアルガ。其ノ著書帝國々防論ニ

『海上ニ優勢ヲ維持スルヲ以テ英帝國ノ國是トスベキハ世間既ニ定論アリ、故ニ海軍ノ優勢ヲ維持スルハ絕對的ニ必要デアル。又戰時ニ於テハ我海軍ニ自由ノ行動ヲトラシムル爲石炭補給ヲ十分ナラシメ。且ツ其ノ兵員ニ懲養ヲ與ヘルノ必要マタ決シテ輕シトナサザルハ疑モナキ必要條件デアル、而カモヨク是等ノ場所ヲ防禦センガ爲ニハ、是非トモ海上ニ優勢ヲ保タナケレバナラヌ。而シテ我海軍ガ海上ニ優ヲ占ムルコトヲ得ベシトハ我海軍省ノ保證スル處ナリト雖「デウオンシヤ」公ガ嘗テ論ゼラレタル如ク、戰ノ初期ニ於ケル巡洋艦ノ急襲（レード）ニ對シテモ果シテヨリ完全ナリ

ヤ否ヤ。モシ我戰略上必要ナル地點ニ些少ノ防禦ヲモナサヾルトキハ、反テ敵艦隊ニ與ルニ石炭ノ補給ヲ以テスルノミナラズ、在泊ノ船舶ハ其ノ私有ト國有トニ論ナク、皆悉ク破壞セラル、デアロウ。而シテ如斯急襲ハ戰ノ初期ニ於テハ敵ノ根據地ヨリ適當ノ距離内ニ在テハ決シテ行ヒ難キコトニアラズ。タヾ其ノ艦數ノ多カラザルハ勿論其ノ兵ヲ上陸セシメザレバ十分ニ其ノ目的ヲ達スルコト能ハズトノ觀察モ亦「デウオンシヤ」公ノ論ゼラルル通リデアル。「カーナボン」委員會ニ於テ決定セル戰略要點ノ防禦ニ關スル理由モマタ之レニ外ナラザルハ言フ迄モナク明白デアル。而シテマタ假令戰略上必要ナラザル地點ナリト雖ドモ、或ハ船舶ノ輻輳ノ爲、或ハ富力ノ大ナルガ爲、敵ノ急襲ヲ招クベキ患アリト認定シタル塲合ニ於テハ、マタ一考ノ價値アルハ論ヲ待タズシテ明白デアル。

予ノ所見

我海上ノ利害ハ實ニ海上ニ於ケル戰略要點ニ依賴シ、我帝國ノ通商ヲ保護スベキ我軍艦ノ爲ニハ是非トモ石炭ヲ添載シ、或ハ相當ノ修理ヲナスベキ地點ノ必要ガアル。而シテマタ他ノ殖民地ノ防禦ニ關シテハ之レヲ英帝國全體ノ目ヨリ見ルヨリモ、寧ロ其ノ局地ノ利害ニ關スルノデアルガ、是等ノ地點ニ於テモ敵國ノ巡洋艦ニ休養ノ便ヲ與ヘザル底ノ用意ハマタ必要デアル。』

「クラーク」氏ノ意見ハ首尾貫徹シ一點ノ駁擊ヲ加フベキ點ナキガ如ク見受ケラル、ノデアル、則英國ハ如ク世界的大國ニシテ、其ノ海軍モ既ニ優勢ヲ維持スルニ足レリト、當局海軍省ノ明言スル以上ハ、在外殖民地中必要ノ地點ニ局地防禦ヲ設クルハ何ノ異存ダモナキ事柄デアル。然ルモ尙ホ英人ハ如何ニモ局地國防ヲ實施スルニ冷淡デアル。

「ウオルカー」氏ノ說

又千八百八十九年「コロム」中將ノナシタル「局地防禦ト移動海軍」ト題スル講話ニ對シ、「メジョール、ウオルカー」ノナシタル駁論中。局地防禦ノ價値ニ對シ論ズル處幾分ノ眞理ヲ包含スルガ如ク。且ツ海軍將官中ノ重鎭トモ稱スベキ「ハミルトン」將軍ノ「ウオルカー」ニ贊シタル「ノーエル」將軍モマタコレニ同意シタルガ如キハ少ク注意スベキ價値アルノミナラズ。其ノ間ニ含メル諸將官ノ意思モマタ自ラコレニ依リテ察スルコトガ出來ル。

「メジョール、ウォルカー」ノ海陸軍協會ニ於テ講ジタル駁論ノ一節。

「コロム」將軍ノ云ハレタル如ク、千七百八十年八十一年及八十二年ニ於テハ、西國ハ實ニ海上ヲ制シタリ、而カモ「ジブラルター」ヲ取ラザルハ如何、其ノ堅固ニ築城セラレタルガ爲ナリ。千七百九十八年ニ於テハ佛國ハ地中海ノ海權ヲ失ヒタリ、而カモ英國ハ遂ニ「モルタ」ヲ取ラザリシ。同島ハ實ニ二歲ノ後飢餓ノ爲ニ陷落セリ。コレ皆强力ナル防禦設備アリタルガ爲ニアラズヤ。之ニ反シ「ミノルカ」ハ制海權ノ持主ヲ變ズルト共ニ其ノ所有者ヲ變ゼリ。是レ他ノ理由アルニアラズ其ノ防禦ノ堅實ナラザルヨ由レリ。要スルニ如此特別ナル位地ニ於ケルモノ、外、制海權ノ變更ト共ニ其ノ所有者ヲ變ジタル海岸要塞アリシヤ否ヤ。「トラファルガー」以來平和條約ニ至ル迄英國ハ絶對的ニ海權ヲ握レルニ關セズ、果シテ佛國海岸要塞ノ英人ノ手中ニ入リタルモノアリヤ云々。」

予ノ所見

コノ議論ハ何トナク趣味アルヲ覺ユルノデアル。併シナガラ「コロム」中將ヲ以テ之レヲ看レバ多分ハ一笑ニダモ價セザリシナラン。千七百八十年乃至八十二年ニ於テハ算數上西艦隊ガ海ヲ制シタルコ

トアルハ事實ナリト雖。八十年ニ於テハ西將「ランガラ」英將「ロドニー」ノ爲ニ「セント、ウインセント」沖ニ破ラレテ大ニソノ士氣ヲ沮喪シ。ソノ結果ハ翌八十一年ニ於ケル英將「デルビー」ノナシタル「ジブラルター」救援ニ何等ノ妨害ヲ加ルコト能ハザルノ甚キニ至ツタノデアル。翌八十二年ニ至リテハ事態少ク重大ナリシモ、コレマタ英將「ホー」ヲシテ容易ニコレガ救援ヲ實行スルコトヲ得セシメタノデアル。要スルニ西艦隊ハ決シテ實際的ニ海上ヲ制セズ、マタ海上ヨリ砲臺ノ砲擊ニ從事セザルガ故ニ「ジブラルター」ノ攻擊ハ兵力ノ問題ニアラズシテ寧ロ糧食ノ問題デアツタノデアル。故ニコノ點ヨリ見レバ「ジブラルター」ノ包圍戰ハ海岸要塞ノ作戰ニアラズシテ陸正面砲臺ノ作戰デアル。從テコレヲコノ場合ニ引例スルニ穩當ナリト稱スルコトガ出來ヌ。則「陸正面ノ砲臺ニシテ陷落セズンバ制海權ノ有無ハ其ノ防守ノ能否ヲ證ス」トノ一點ヨリ外ニ引例トスルニ足ラヌノデアル。「モルタ」ノ如キハ英國ガ之ヲ攻陷スルヲ急務トナサズ、タヾコレヲ封鎖シタノデアル。「トラファルガー」以來ノ如キハ會々反對ノ證據ヲ示シ居ルニアラズヤ。コノ海戰ノ結果ハ「ウエリントン」等ノ半島作戰トナリ英國ハ同半島ヲ殆ンド自國ノ所有ノ如クニ使用シタノデアル。佛國軍港ノ攻陷ニ其ノ全力ヲ盡サヾリシハ英國ガコレヲナサヾリシニヨル。決シテ不可能ナリシトノ證據ニハナラヌノデアル。世間ニハコレニ類シ何トナク趣味アリ氣ナル議論ヲ見ルコトアルモ、ヨク〳〵注意シテ誤ラザルヲ期セナケレバナラヌ。「ハミルトン」大將ノ議論ノ如キモ豫想ヨリハ不明瞭ナル論旨デアツタ、

「ハミルトン」將軍ノ說

歷史上傳ル處ニヨリ察スルニ劣勢ナル艦隊ガ砲臺ノ爲ニ其ノ敗滅ヲ免レタルコトアリ。千五百八十七年則西班牙ノ「アルマダ」ノ場合ニ於テハ、「ドレーキ」ハ容易ニ「カヂス」ニ有効ナル攻擊ヲ加ルコトヲ得タリシモ。其ノ後同港ノ防禦完備シタルガ故ニ「ネルソン」ノコレヲ封鎖スルニ當リテハ其ノ港內ニアル軍艦ヲ攻擊スルヲ敢テセザリキ。則コレ砲臺ハ劣勢艦隊ニ對シ好保障タルヲ證スルモノナリ。

予ノ所見

ト云フノデアル是レハ餘リニ普通デアル。如何ニモ其ノ通リデアル、局地防禦ノ局地防禦ニ効アルハ無論ノコトデアル、コレハ申ス迄モナイ。吾輩ノ問ハント欲スル處ハ「必竟如何」ノ四字デアル。若シモ西國海軍ガ實際英海軍ヨリモ優勢デアルガ、一時「カヂス」ニ在泊シタル艦隊ハ封鎖艦隊ヨリモ劣勢ナリトノ場合ニ於テハ、優勢艦隊ノ來援ト共ニ封鎖艦隊ヲ擊破シ、國防ノ目的ヲ貫徹スルコトガ出來ル。サリナガラ優勢艦隊ノ來援スベキ目的絕テコレナシトセバ、必竟ハ封鎖艦隊ノ屬スル海軍ノ爲ニ擊滅セラルベキ運命ヲ有スルノデアル。況ンヤ「ネルソン」ノ「カヂヌ」ヲ攻擊セザルハ、コレヲ攻擊スルヨリモ寧ロ其ノ艦隊ノ帆影ヲ敵ニ示スコトナク。西佛艦隊ヲシテ港外ニ出デシメ一擧シテ勝敗ヲ決セント欲シタノデアル。コノ點ニ對スル「ハミルトン」將軍ノ意見ハ餘リニ無造作ニ而カモ事實ニ頓着セザル議論デアル。然モ其ノ結果ハ豫想ノ如ク「トラファルガー」ノ海戰トナリシニアラズヤ。當時述ベラレタル「ノーエル」大將ノ議論ハ吾輩ノ信ズル處ニ據レバ至極正當デアル。

「ノーエル」將軍ノ說

軍港及石炭補給所ニ於テハ、一時的ニ其ノ附近ニ於ケル我軍ノ勢力ヨリモ優勢ナル敵海軍ヲシテ、其ノ行動ヲ猶豫若クハ遷延セシムルニ足ルベキ程度ニ於テ。充分ナル防禦設備ヲ要シ、且商船ニ對シテハ急襲ニ對シ之ヲ防遏スベキ防禦ヲ要ストノ「ウオルカー」少佐ノ說ニ贊ス。

コレ誠ニ穩當ナル議論デアル、又「ウオルカー」少佐ハ其ノ論文ニ於テ局地防禦ノ價値ヲ高メンガ爲。

「ロシトン」博士ノ「ウオルカー」ニ對スル評論

「サー、チャールス、チルク」氏ノ說

「ジブラルター」ノ例ヲ引キ三年間ニ亘リ防禦ノ實ヲ揚ゲタルヲ說キシガ、海軍歷史家ノ泰斗「ロートン」博士ハコレヲ駁シテ。

「ウオルカー」少佐ハ曰ク要スルニ築城ハ「ジブラルター」ヲ防ゲリ、國人ハ「ジブラルター」ノ防ガレンコトヲ望メリ、而シテ砲臺ハ實ニ之ヲ防ゲリト。然レドモ焉ゾ知ラン「ジブラルター」ヲ防ギシハ築城ニアラズシテ海權（コンマンドオフシー）ナリシヲ。モシコレナクバ砲臺ノ有無ニ關セズ千七百七十二年ニ於テ「ミノルカ」ノ陷リタルガ如ク、千七百八十年ノ春若クハ千七百八十一年ノ夏ニ於テ陷落セシヤ疑ヲ容レズ。ト云ハレタノデアル。

コレハ流石ニ博士ノ議論デアル、

是ヨリ我輩ノ引用セント欲スルハ、英國ノ名士ニシテ、英國兵制論及英帝國論等ノ著者タル「サー、チャールス、チルク」氏ノ議論デアル。此兵制論ハ嘗テ我陸軍ノ先覺者ガ階行社ニ於テ刊行セシメラレタノデアル。我海軍ノ將校ハイザ知ラズ、陸軍將校ヲ稗益シタルコト決シテ尠カラズト信ズルガ故ニ、殊更ラニ兵制論ノ一二節ヲ引用シ、コレニ加フルニ批評ヲ以テセント欲スルノデアル。敢テ必ズシモ全體ニ於テ之ヲ論ズルニアラズ、マタ必ズシモ其ノ說ノ是非ヲ說カント欲スルニアラズ、タヾ單ニ局地防禦ニ關スル氏ノ所說ヲ紹介シツヽ、吾輩ノ意見ヲ發表セント欲スルニ過ギヌノデアル。

同書ノ結末國防論ニ

若シソレ內地ノ防禦ニ於テハ、我邦タルモノ第一ニ海軍ノ力ニ賴ルヤ疑フベカラズ。而シテ我ガ第一防禦線ハ我ガ海邊ニアラズシテ敵國ノ沿岸線ニアリト心得ザルベカラズトハ肯綮ニ中ルノ言ト云フベシ。然レドモコヽニ銘心スベキコトアリ。夫レ方今ノ船艦ハ之ヲ以テ從前ニ比スルトキハ、其勢力ニ於テ迥カニ駕スル所アルハ誣ユベカラズ。然レドモ其ノ製造費ノ嵩メルモ亦タ甚ダ大ナリ。是ヲ以テ其ノ艦數、從前ノ如ク多カラザルヲ致ス。之レ實ニ勢ノ免レザル處ナリ。今若シ我艦隊ヲ以テ往時ノ大戰ニ使用シタル艦隊ニ比スルニ、其ノ艦數迚モ往時ニ及ブベクモアラズ。而シテ其ノ艦隊タル有力ハ有力ナルモ、一艘ノ船艦ハ則一艘ノ船艦ニシテ、一擧兩所ニ使用スル能ハザルヲ以テ貿易航通線路ヲ保護シ敵港ヲ封鎖スルニ至リテハ、往時ヨリモ一層ノ困難ナクンバアラズ。是レヽ事實ニ徵スルニ、米國內亂ノ際北軍ノ艦隊ハ南軍艦隊ノ迥カニ右ニ出ルモノアリタルハ誣ユベカラズ、而カモ北軍艦隊ハ南部ノ港灣ヲ密鎖スル能ハザリシ、南部ノ港灣ハ北軍艦隊ノ封鎖ヲ受ケナガラ昌盛ノ貿易ニ從事シ、以テ、此ノ密貿易ノ爲當時富有ヲ致シタルモノ實ニ尠カラズ、サレバ封鎖艦隊ノ方ニテ如何程警戒ヲ嚴ニスルニモ拘ハラズ。快走汽船ヲ以テスルニ於テハ其ノ封鎖セラレタル港灣ニ出入スルヲ能クスルヤ爭フベカラザルモノアリ。

予ノ所見

ト論ジテアルガ。吾輩ノ云フ迄モナク、「ヂルク」氏ハ「海上ヲ制スルトハ如何ナル意義ナリヤ」ノ問題ニ答フルコトガ出來得ラル、デアロウ、サリナガラ此場合ニ於テハ制海ト云フ眞ノ意義ヲ明白ニ適用シ居ラレザルガ如ク見受クルノデアル。吾輩ノ考フル處ニ據レバ通商線ノ保護ハ强チ軍艦ヲ同行セシメテ直接ニ諸船舶ヲ保護セシメザルヲ得ザルモノニハアラズシテ。寧ロ海上ヲ廓淸シ自由ニ護衛ナクシテ航通セシムルヲ利益トスルノデアル。コレハ英蘭戰役ノ事實ニヨリテ明白ナルノミナラズ。日淸及日露戰役ノ實例ニ於テモ明白ナル次第デアル。則當時英國ノトリタル方針ハ船舶ソレ自身ヲ保護ス

ルニハ強力ナル軍隊若クハ軍隊ノ實在ヲ求メズ、我艦隊ヲ以テ敵ノ主力艦隊ヲ擊破シテ其ノ海上ヲ廓清シ其ノ收メ得タル勢力範圍内ヲ安全ニ通航セシメントスルニ在ルノデアル。是ニ反シ蘭國ニアッテハ、最初ノ方針ハ飽ク迄モ船隊其ノ物ノ直接保護ヲ主トスルニアリシガ、其ノ利害得失ハ歷史上既ニ明白デアル。成ル程制海權ノ影響確實ナラザル場所ニ於テハ少規模ノ急襲ニ應ズル爲幾分ノ護衛ヲ附スルコト必要デアル。則敵ノ急襲艦ニ對シ之ヲ防禦シ得ベキ程度ノ護衛ヲ附スルコト適當デアル。サリナガラ是レ決シテ唯一ノ護衛ニアラズシテ制海ナル大意義ノ下ニ其ノ缺漏ヲ補フ爲ノ護衛デアル。

「チルク」氏ノ議論ハ強チ直接掩護ヲノミ主張セルニハアラザルモ。貿易航通線路ノ保護ノ爲ニ特設スベキ艦隊ヲ要スルノ說ニ至テハ、根本的ニ謬レルモノト吾輩ハ信ズルノデアル。又「チルク」氏ハ其ノ議論ヲ續ケ、

「チルク」氏ノ說

加之、今日世ニ行ハル、所ノ水雷艇ノ如キ、遠ク洋心ニ出デ、大戰ヲ爲スノ際、其ノ價値ノ如何ハ姑ク措クモ、夜間ニ乘ジ、港灣封鎖ノ事業ヲシテ甚ダ困難ヲ覺ヘシメ、且非常ノ危險ヲ感ゼシムルヤ疑ヲ容ルベカラズ。要スルニ我ガ海軍タルモノ敵港封鎖ノ力ヲ大ニ失墜シ、又我ガ沿岸地方ニ外寇ノ上陸ヲ防禦スル力ヲモ大ニ失墜シタリト云フベシ。

予ノ所見

ト論ジタノデアルガ。コレモ大體ニ於テ謬見デアルト吾輩ハ信ズル。成ル程封鎖ノ困難ナルハ古今ヲ通ジ困難ナル事業デアル。殊ニ水雷ノ發明アリシ一事ハ其困難ヲ增加シタルノ傾アルハ爭ヒ難キ事實ナルモ。全體封鎖ナル意義ハ戰略上ヨリ見レバ明瞭ヲ缺クノ嫌ガアル。「コロム」中將ノ說明シタル如ク元來封鎖ナル文字ハ讀デ字ノ如ク一寸ノ隙間モナク封鎖スルノ意義(一)ト、封鎖艦隊ガ其ノ實力ヲ示サズ之ヲ海洋ニ誘致シテ擊破セントノ翼望ヲ有シツ、敵艦隊ノ行動ヲ羈束スルノ意義(二)ト、タダ單ニ其ノ動靜ヲ監視スル(三)トノ三意義アリ、吾輩ハ之ヲ閉鎖、欺誘、監視ト命ジョウト思フノデアル。ソコデコノ閉鎖的封鎖ハ實力ヲ以テ直接ニ之ヲ封鎖スルノ必要ガアル。米國「サムソン」ガ西將「セルベヲ」ヲ「サンチヤゴー」ニ封鎖シタルガ如キハ此實例デアル。欺誘的封鎖ハ「ネルソン」ノ「カヂス」封鎖ノ如ク成ルヘク敵ヲ誘出セントコロムリツ、監視スル戰略的動作デアル。而シテ又監視ハ一二ノ巡洋艦ヲシテ敵ノ動作ヲ監視セシメ、ソノ出港ニ際シコレヲ迎擊スルヤ否ヤハ其ノ時機ニヨッテ決スルノデアル、英將「ペリユー」ガ「オーシエ」遠征軍ヲ監視シタル如キ其ノ一例デアル。日露戰爭中ニ行ヒタル我旅順封鎖ノ如キハ比較的錯雜ナル方法ナリシモ、要スルニ閉鎖的封鎖デアル、從テ幾分カ有力ナル艦隊ヲ港外ニ顯出セシメ他ハ相當ノ距離ニ隔在シ水雷艇等ノ進擊ヲ避ケタノデアル。全體水雷艇ノ襲擊ハ漫然ト之レヲ解釋スルトキハ大ニ畏ルベキモノデアルカ。彼封鎖港ノ視界以外ニアリテ通信ヲ絕チタル地點ニ其ノ艦隊ヲ置クトキハ比較的ニ安全デアル。直接ニ面前ニアルニ比スレバ遙ニ安全ナルノミナラズ。其ノ効反テ確實ナルコトガ多イ。要スルニ「サムソン」將軍ノ如キ封鎖法ハ最早行ヒ難ク。我旅順ニ實行シタル方法ガ多分後來ノ模範トナルデアロウガ。此ノ場合ニ於テモ、必ズシモ實力ヲ以テ其ノ前面ヲ壓スルニハ及バヌノデアル。タヾ優勢ナル艦隊ガ同時ニテモ被封鎖艦隊ノ出港ニ應ジテ作戰シ得ベシトノ看念ヲ敵艦隊ニ與フルヲ以テ足レリトスベク。此ノ畛域ヲ踰ユルコト一歩ナレバ一歩丈ケ危險ニ近ヅクノデアル。

封鎖ノ說明

此點ヨリ見レバ現今ノ封鎖ハ昔時ヨリモ大ニ其ノ困難ヲ增加シタルガ如キ想アルハ已ヲ得ザル結果デ

アル。サリナガラ封鎖ハ必ズシセ閉鎖的封鎖ヲ要セズ。國防ノ全體ヨリ見レバ欺誘的封鎖ヲ最良トスルノデアル。必ズシモ多大ノ困難ヲ犯シテ水雷艇若クハ敷設水雷ノ犧牲トナルベキ位置ニ其ノ艦隊ヲ置クノ必要ガナイ。成ル程タヾ單ニ監視ノミヲ行ヒ比較的遠隔ノ地ニ其ノ主力艦隊ヲ置クガ如キハ稱用スベキ戰略ニアラズトハ吾輩ト雖モ信ズル處デアル。「サー、エドワート、ベリユー」ノ如キ立派ナル監視者アリナガラ「コルポイス」ハ遂ニ佛艦隊ニ會スルコト能ハザリシガ如キ。（史例百二十六參照）マタ佛將「ブルイ」カ英將「ロード、ブリツトポート」ヲ避ケテ「ブレスト」ヲ出タルガ如キハ、皆是レ監視ヲ主トシテ欺誘ノ方法ヲ講セザルノ致ス處デアル。「ブリツドポート」ノ場合ニ於テハ其ノ失敗ノ原因ハ主トシテ英將ガ其判斷ヲ謬リタルニ座スト雖ドモ。ツマリ欺誘的封鎖ノ大主意タル「敵ヲ其ノ間接的眼界ニ保ツ」ノ主義ヲ捨テヽタヾコレヲ監視ニ一任シタルノ過チニ歸セナケレバナラヌ。（史例第百三十九參照）

封鎖ノ難易

要スルニ、直接則閉塞的封鎖ノ點ヨリ看レバ、水雷艇其他ノ新武器ノ發見ニ伴ヒ、コノ後ト雖ドモ其ノ困難ヲ增加スベキハ疑ヲ容レズト雖、封鎖ノ二字ヲ以テ直ニ閉塞ノミト速斷スルハ早計デアル。其ノ他ノ場合ニ於テハツマリ帆走ト汽走トノ相違ニ過ザルヲ斷言シ得ベク。「ウエリントン」公爵ノ意見ニモ見ヘタル如ク汽船ノ發明以來敵ヲ海岸ニ受クルノ場合多ク、マタ敵海ヲ封鎖スルノ困難ヲ增加セリト論ズルモノガ多イノデアルガ。「デルク」氏モ其一人デアル。成程不利ノ點ヲモ幾分カ增加シタルニ相違ナキモ。他ノ一方ニ於テハ、利益ノ點モマタ增加シタノデアル。昔時ハ船積小ニシテ風波ニ堪ヘザルガ故ニ天候ノ爲ニ封鎖ヲ撤スルコトガ多イ。古來ノ戰例中艦隊ガ封鎖ヲ脫シタルハコノ場合ガ多イノデアル。千七百五十九年ニ於ケル英將「ホーク」及「ボイス」等ノ佛艦隊封鎖（史例第四十八參照）ヲ初メ、「ナポレオン」ノ埃及遠征ニ對スル「ネルソン」ノ「ツーロン」封鎖（史例第百三十六參照）ノ如キ、皆天候ノ爲メ其ノ目的ヲ達セザリシ前例デアル。然ルニ此頃ニ至リテハ主力艦隊ガ風波ノ爲ニ封鎖線ヲ撤スルノ必要ニ會スルコト少ク。且如此場合ニ於テハ被封鎖艦隊モマタ出港シ難キ狀態ニアル。然ルニ昔時ニ於テハ風向ノ封鎖艦隊ニ利ナルトキハ、被封鎖艦隊ノ出港ニ不利ナルモ、被封鎖艦隊ニ利ナルトキハ、封鎖艦隊ニ不利益デアル。則「ブロツケードランナー」ハ主トシテコノ時期ヲ利用シテ封鎖線ヲ破ルノデアルガ。今日ニ於テハ此ノ如キ行動ヲ許サナイ。又風波ノ爲港口ヲ去リタル場合ニ於テ、昔時ハ其ノ舊位置ニ復歸スルコト困難デアル。少クトモ風向ノ變ズルヲ待チ、且相當ノ强風ヲ得ルニアラザレバ迅速ニ舊位置ニ就クコトガ出來ヌ。然ルニ今日ニ於テハ此ノ患ガ少ナイノデアル。少ク想像ヲ逞スルガ如キモ、日清戰役中威海衞ノ封鎖ニ際シ非常ナル暴風アリシガ。（二十八年一月三十一日）モシ彼ノ場合ニシテ帆前船時代ナリシト假定セバ、封鎖艦隊タル我艦隊ハ非常ナル困難ニ遭遇シ、重大ノ損害ヲ受ケタルヤ疑ナイノデアル。モシ彼ノ際北風ニアラズシテ南風ナリトセバ日本艦隊ノ損害ハ左程ニ甚シカラザルベキモ遠ク朝鮮近海ニ流サレ。威海衞艦隊ハ容易ニ脫出シタデアロウ。況ンヤ監視及通報ニ關スル設備モ大ニ完備シタル今日及未來ニ於テ。欺誘又監視ノ目的ニ於テ敵港ヲ封鎖スル場合ニ於テハ、昔日ニ比シ確實ヲ期シ得ベキ望ミ反テ多イノデアル。或ハマタ石炭搭載等ノ困難ナルヲ說キ、汽船ヲ以テ封鎖ヲ行フハ到底不可能ニ屬スルモノト速斷シタル戰術家アルモ。顧ミテ露國東遣艦隊ノ成績ヲ看ルモ、我主力艦隊ガ數月ニ渉リ旅順ヲ封鎖シタル前例ニ

據ルモ、決シテ不可能ノ事業ニアラザルヲ證明シ得ルノデアル。要スルニ、汽船ノ發明以來封鎖ノ困難ヲ增加シタルハ事實ナルモ、之ト同時ニ之ヲ容易ナラシムベキ理由モマタ增加シタノデアル。從テ其ノ利不利ノ點ニ就テハ今日ト雖、帆走時代ト格段ナル差違ナキモノト吾輩ハ信ズルノデアル、又「ヂルク」氏ハ封鎖力ノ減少ト共ニ敵ノ上陸軍ヲ防遏スベキ能力モマタ從テ減少シタル如ク思考サルヽハ少ク杞憂ニ失スルモノト謂ハザルヲ得ヌ。元來汽船ノ發明ガ運動ノ敏捷ト正確トヲ進メタルハ言ヲ待ザル次第ナリト雖。コレ反テ艦隊ノ國家ニ對スル防禦力ヲ增加シタルモノニシテ減少シタルモノニアラジ。更ニ一歩ヲ進テ之ヲ言ヘバ敵艦隊ノ我海岸ニ顯ハレタルヨリ上陸ヲ了スル迄ノ時間ハ寧ロ昔時ヨリモ增加シタノデアル。增加セヌ迄モ減少シテハ居ラヌノデアル。換言スレバ上陸設備ノ進歩ハ驚クベキモノアリト雖モ、上陸軍ニ必要ナル物件ノ增加ハマタ實ニ驚クベキモノデアル。從テ上陸ニ要スル時間ハ決シテ短縮シテ居ラヌ。殊ニ輸送ニ用ル船積ノ增加ハ輸送力ニ於テ莫大ノ進歩ヲナシタルモ、陸揚設備ヲ有セザル港灣及海岸ニ對シテハ寧ロ其ノ上陸ノ速度ヲ減少シタルモノト考ヘナケレバナラヌ。(殊ニ遠淺ノ海岸ニ於テハ著シク減少シタルモノト認メナケレバナラヌ)。コノ間ノ關係ハ日露戰役中ノ經驗ト「クリミヤ」戰役時代トヲ比較スレバ殆ド疑フベカラザルコトデアル。「クリミヤ」戰役時代ニ於テハ約六萬人ノ兵員ヲ十二時間ニ上陸セシメタル經驗アルモ今日ニ於テハ如此速度ヲ以テスルコトハ殆ンド不可能デアル)要スルニ奈翁時代ニ於テハ上陸ノ困難ヨリモ海岸ニ達スルニ時日ヲ要スルヲ困難ナリトシタノデアル、則「六時間海峽ヲ制スレバ朕ガ望足レリ」ト「ナポレオン」ノ言ヒタル如ク英國ノ海岸ニ到着サヘスレバ、ソレデ其ノ望ヲ貫徹シ得タリト認ムベキ理由ガアツタノデアルガ。假リニ上陸事業ノ困難ハ昔日モ今日モ時日ニ於テ大差ナシト假定スルモ。防禦艦隊ノ上陸點ニ達スベキ時間ハ昔時ノ幾分ノ一ニ過ギヌノデアル。加之、通信ノ確實等ノ關係ヨリ上陸實施中ニ防禦艦隊ノ襲擊ヲ受クベキ場合ハ大ニ增加シタノデアル。昔時ニ於テハ四五百海里以內ニ敵艦隊ノ存在セザル場合ニ於テハ、先安心ニ上陸ヲ了シ得ベキ成算アリシモ。今日ニ於テハ到底如斯キ大膽ナル計畫ヲ實施スルコトガ出來ヌ、敵ハ必ズ縮地ノ術ヲ施シタルガ如ク。遽然トシテ面前ニ顯ハル、デアロウ。必ズヤ敵艦隊ヲ擊破シ、コレヲ一港內ニ蟄伏セシメ、監視ヲ嚴ニスルカ、或ハ閉塞的封鎖ヲ行ヒ、然ル後初メテ輸送ヲ實施スベキ必要ガアル。然ラザレバ悲慘ナル運命ニ遭遇スルコトナシト思考スルコトガ出來ヌ。此點ヨリ推考スレバ汽船ノ發明ハ攻擊軍ノ爲ニハ困難ヲ增加シ、防禦軍ノ爲ニハ寧ロ任務ノ遂行ヲ容易ナラシメタルモノト認メナケレバナラヌ。換言スレバ上陸軍ノ困難ハ汽船ノ速力ノ增加スルト通信ノ機關ノ進歩トニ從ヒテ其度ヲ增シ、上陸事業ノ進歩ト共ニ其ノ度ヲ減ズルノデアルガ。今日ノ趨勢ニヨレバ彌々困難ノ度ヲ增加スルハ毫釐モ疑ナキ事ト吾輩ハ思フノデアル。「ヂルク」氏ノ說

「ヂルク」氏ハ又曰ク、

一朝有事ノ日ニ際シ、我ガ艦隊ガ從事スベキ任務タル唯サヘ甚ダ大ナリ。況ンヤ更ニ之ニ加フルニ內地防禦ノ唯一手段タルノ任務ヲ以テスルニ於テヲヤ、尋常一樣ノ擴張ヲ以テシテハ我ガ海軍ハ迚モ其ノ當該一切ノ任務ヲ果ス能ハザルヤ明カナリ、我ガ沿岸ニ敵ノ襲來ヲ視察スルガ爲何事ヲモナサヽル各船艦ヲバ我ガ海軍力ヨリ引去リ殘ル船艦ヲ以テ海軍當該ノ本務ニ從事セザルヲ得ズ。

予ノ所見

此議論モマタ大ニ疑フベキ處アリ。「ヂルク」氏ハ歴史上ノ教訓ヲ十分ニ調査セラレタルナランモ、本國附近ノ海上ヲ制スルトキハ、實際上殖民地モマタ安全ナリトノ經驗ヲ承知サレヌモノト看ヘルノデアル。此ノ經驗ハ英國ノ賢宰相トシテ聞ヘタル「ウィルリヤム、ピット」氏ノ行ヒタル處ニシテ、「ピット」ハ地方ニ於ケル戰捷ハ佛國ノ勢威ヲ毀傷スルニ足ラズトナシ、充分ニ之ヲ挫折センガ爲ニハ、歐洲近海ニ於テ大捷ヲ制セザルベカラズト思惟シ、之ヲ實行シタノデアル。元來「ピット」ノ方針ハ「フレデリツキ」大王ヲ佐クルニ軍資ヲ以テシ、英國ハ大陸ニ在テハ寧ロ第二位ニ立ツヲ甘ズルト同時ニ其ノ注意ノ全部ヲ海上ニ投ジ、「マスターリー、オフ、ゼ、シー」則制海權ノ攫收ヲ目的トシ、「アメリカ」ヨリ佛人ヲ追攘シ、且海上ノ威力ヲ利用シ「アメリカ」及印度ヲ取リ、聯合王國ヲ進メテ大帝國トナサントスルニアリ。則チコレガ爲ニハ佛國ヲシテ手足ヲ海上ニ投ズルニ處ナカラシムルノ要アリ、從テ其根本タル本國ノ海上ニ着目シタノデアル。史ニ傳ル處ニヨレバ、コノ政策ノ結果ハ誠ニ偉大ニシテ、其効ノ顯著ナル驚クベキモノアリ。コレガ爲メ佛國ノ海上事業ハ全ク半死半生ノ有樣トナリ、印度及亞米利加ノ交通ハ全ク絶タレ、且之ニ援助ヲ與フルノ道スラモマタ全ク之レナキニ至ツタノデアル。加之英海軍ハ其ノ方針ノ命ズル處ニ從ヒ、所在佛國海岸ニ砲火ヲ雨注スルニ怠ラザリシカバ。佛國側ニ於テハ、自然ノ結果トシテ、不得已全然防勢ヲトラザルベカラザル狀態ニ陷ツタノデアル。於是佛國ノ海外通商事業ハ、到ル處、英艦ノ視線内ニ入ルト同時ニ破壞セラレ。英人ハ之ニ反シ所在通商業ノ勃興トナリ、且大陸ニ於ケル同盟國ハ英國ノ補助ヲ受ケテ十分ナル軍資ヲ整ヘ、如何ナル地方ニテモ其ノ必要ニ會シ其兵ヲ送ルコトヲ得タリシカバ、其結果トシテ陸上ノ作戰モ亦從テ有利ノ姿

大「ピット」ノ大戰策

「ヂルク」氏ニ對スル予ノ所見

勢ニアツタノデアル。如此ク「ピット」ノ海軍政策ハ實ニ偉大ナル影響ヲ生ジタノデアルガ。其實相ニ於テモ其ノ用意ノ極メテ周到ナルヲ證スベキモノ至テ多イノデアル。則先ヅ第一ニ海峽及大西洋沿岸地方ノ港灣ヲ封鎖シ。其ノ或ハ英國ヲ突キ、或ハ「セントローレンス」ニ對スル諸計畫ヲ實施スル等、凡ソ佛國ノ英國ニ對シテナサント欲セル凡テノ積極的行動ヲ破壞スルト同時ニ、他ノ一方ニ於テハ「ジブラルター」海峽ヲ嚴守シ、佛國地中海艦隊ノ出動ヲ塞イデ其ノ行動ヲ牽束シ。且時々遊軍ヲ發シテ所在攻擊ヲ斷タザラシメ、敵國ヲシテ其ノ沿岸諸港灣ニ於テ艦隊ヲ艤裝スルコト能ハザラシムベキ態度ヲトツタノデアル。則如斯シテ大西洋ヲ自己園中ノ一沼地ニ變ジ、亞米利加方面ニ對スル己レノ行動ヲ自由ニシ。西印度ニ對スル佛國殖民地ノ占領ヲ容易ナラシムベキ手段ヲトツタノデアル、是レ實ニ英國海上事業ニ長足ノ進歩ヲ與ヘ、後日ノ隆盛ヲ來セル所以ノ大原因ニシテ。佛國ハ之レガ爲メ大打擊ヲ蒙ムリ、海上事業ノ不振ハ實ニコノ時代ニ胚胎シタル結果トシテ後人ヲ苦ムルコト至テ大ナルニ至ツタノデアル。

「ヂルク」氏ガ這般ノ事情ト前例トヲ承知セザル筈ハナカロウト思ハル、ガ。而カモ尙コノ言アルハ吾輩ノ怪ム處デアル。吾輩ノ察スル處ニヨレバ、「ヂルク」氏ノ内地防禦ト稱スルハ、讀デ字ノ如ク、防勢ヲ以テ防禦ノ姿勢ヲトルノ意味ニシテ、攻勢ヲ以テ防禦ノ道ヲ講ズルノ意味ニハアラザルガ如ク見ユルノデアル。果シテ然ラバコハ實ニ根本的ノ誤謬デアル。吾輩ノ既ニ論ゼル如ク制海ノ二字ハ海上ニ於ケル凡テノ問題ヲ解決スルノデアル。内地防禦モ敵海制壓モ通商線ノ保護モ一トシテコノ二字ヲ解釋セラレザルモノハナイノデアル。假リニ「ヂルク」氏ノ所謂海軍當該ノ任務トハ通商線ノ防禦ヲ

意味スルモノトセバ、或ル場合ニ於テハ本國附近ノ海上ヲ制スルノミニテハ不安心デアロウト思フ、米國革命ノ際ニ米將「ポール、ジョンス」ノナシタル行動ノ如キハ大ニ注意スベキ要點デアル。サリナガラコレトテモ全般ヨリ觀察スレバ一小事デアル、海軍當該ノ本務トシテ特筆スルニ足ラヌ一小事デアル。往年英蘆間ニ葛藤ヲ生ジタル際（巨文島事件）露國艦隊ノトラントシタル濠洲大陸方面ニ對スル急襲ノ計畫ハ酷ク英人ヲ驚カシタノハ事實デアル。露西亞ノ如キ一種特別ノ國柄ニ對シテハ、成ル程無理モナキコトデアルガ。コレトテモ其ノ海軍サヘ推シツメテ仕舞ヘバソレデ宜シイノデアル。決シテ特筆スベキ海軍當該ノ本務トシテ內地防禦ヨリモ敵海制壓ヨリモ重視スベキコトデハナイ。要スルニ海軍ノ本務ハ決シテ區々タル小局地ノ利害關係ヨリ打算シ來ルベキモノニアラズ。其ノ紛爭ノ中心トモ稱スベキ、假令ヘバ敵本國ノ海上ヲ制スレバ既ニ其ノ本務ヲ盡シタルモノト吾輩ハ信ズルノデアル。

海軍ノ本務

茲ニ吾輩ガ國防研究上ノ先輩タル「デルク」氏其他ノ諸士ヲ無理ヤリニ拉シ來リ、壁訴訟ノ如キ態度ヲ執テ議論ヲ試ミルハ如何ニモ無理ナル次第デアル。乍去、吾輩ハ「デルク」氏以下ヲ當ノ敵トシテ舌戰セント試ムルノデハナイ。先キニ發言シタルモノハ後ニ演壇ニ立ツモノ、爲ニ利用セラレ、罵倒セラレ、或ハ稱揚セラル、ハ自然ノ結果デアル。吾輩ハタ、國防ノ眞理ヲ研究シ之レヲ讀者ニ紹介センガ爲メ、假リニ諸先輩ヲ煩シテ演壇ニ立タシメタノデアル。ツマリハ諸先輩ヲ利用シ、其ノ片言雙語ヲ捕ヘ、コレニ依テ吾輩ノ言ハント欲スル處ヲ述べ、其ノ間ニ存スル吾輩ノ意見ヲ表顯シ、國防ノ原則ヲ發見セント欲スルニ過ギヌ。ツマリハ禪家ノ着語ノ如キモノト解釋シテ貰イタイノデアル。禪家ノ着語位惡罵ヲ逞スルモノハ世間ニハ恐ラクハナカロウ。聖諦ノ第一義ヲ捉ヘテ繫驢楔ナドハ餘リニ烈シイデハナイカ。而カモ其ノ實ハ無上ナル尊敬ヲ表スルノダトハ誠ニ蟲ノヨイ話デアル。何ハ兎モアレ、吾輩ガ孔夫子孟子ヲ初メ釋迦如來以降幾多ノ先輩ヲ捉ヘテ是レヲ吾輩ノ藥籠中ニ收メ。必要ニ應ジ、或ハ揑ジ、或ハ溶カシ、臆面ナク之ヲ讀者ニ投ズルノハ、悉ク右ノ意味ニ外ナラヌノデアル。「デルク」氏等ニ對シテハ誠ニ恐縮ナル話デアルガ今一二回演壇ニ立テ戴カナケレバナラヌ。「デルク」氏ハ更ニ其ノ論旨ヲ進メテ曰ク。

「デルク」氏ノ說

我ガ內地陸兵ニシテ自衞ノ力ヲ有シ、艦隊一時ノ不在ニ乘ジ、上陸スルモ測ルベカラザル外冠ヲ打拂フノ用意ナキニ於テハ、近隣諸邦ヲシテ我海岸ニ上陸ヲ窺覦スルノ念ヲ斷タシムルヲ望ムモ無益ノ事ニゾアル。今日ノ狀勢ヲ以テ察スルニ、輿論ハ我ガ艦隊ノ一大部分ヲ割キ、本國內地ノ沿岸ニ碇繫スルヲ主張スルナラン。サレバ一ノ海國ト交戰ノ事アルニ當リテハ、艦隊ノ一大部分ヲ內地ノ海上ニ抑留スルヨリ忽チ我外國貿易ヲ保護スル能ハザルニ至ルヲ發見スベシ。何トナレバ果シテ此ノ如クナラン歟、我邦タルモノ世界各邦ニ冠絕スル處ノ最大海軍力ヲ有シナガラ、我ガ貿易ハ破壞セラレ、我ガ人民ノ命脈ヲ維持スル食物ノ供給減縮シ、又動モスレバ其ノ供給ヲ杜絕スルヲ免レザラントスレバナリ。我ガ邦ガ萬國中最モ富有ニシテ又最モ勢力ヲ有スル所以ハ、今日ノ貿易ト信用トノ二者アレバナリ。而カモ右等ノ如キ種々ナル事情ノ壓スル處トナリ。吾人ハ恐ラク此貿易及信用ヲ失ハズンバアラズ。將又我貿易ヲ保護スルニ從事センカ、遠ク艦隊ヲ放チテ洋心ニ出シメザルベカラズ。果シテ然ラン歟、我ガ帝國ノ肺腑ニシテ適切ノ守備ナキヲ知リツ

、モ、之ヲ其ノ運命ニ抛擲セズンバアラズ。是ヲ以テ之ヲ觀ルトキハ、從來懈怠ニ附セル堡砦工事ノ如キハ早々之ニ着手セザルベカラズト。

予ノ所見

此議論ノ如キハ遺憾ナガラ殆ンド支離滅裂ノ感ヲ免レナイノデアル。成ル程英國ノ侵入ノ夢ハ歐洲大陸殊ニ佛蘭西ノ夢ムル長夜ノ快夢デアル。既ニ數年前ニ於テモ「メルシア」將軍ガ英國進入論ヲ出シ、「サー、ジョンコロム」ニ醜弄セラレ、「風船ニ乘テ來タマヘ」ト云フテ冷サレタノデアル。コノ快夢ハ實ニ佛蘭人ノ病氣ト見ヘル。成ル程此迷夢ヲ醒スニハ「ウエリントン」公ノ如ク此處ニ一萬彼處ニ二萬ノ兵ヲ完備スルノ必要ガアルカモ知レヌガ。他人ノ夢ヲ苦ニシテ金錢ヲ使フハ決シテ得策デハナイ。勿論戰爭ノ塲合ニ於テハ英國海軍ノ大部分ハ歐洲ニ殘リ、祖先以來ノ筆法ニ從ヒ海峽ヲ制シツ、敵ノ港灣ヲ監視スルデアロウ。殖民地ト云ヒ海上通商ノ事業ト云ヒ世界ノ各方面ニ擴充スル英國トシテ之ヲ看レバ、海上事業ニ大損害ヲ受クルハ到底免ルベカラザルモノト覺悟セナケレバナラヌ。此點ニ就テハ英蘭戰役中ノ蘭國ノ如ク英國ノ自然的ニ受ケナケレバナラヌ弱點デアルガ、大洋ノ中心ニ於テ商船ノ保護ニ任セントスルガ如キハ必竟無益ノ事業デアル。數十艘ノ艦隊スラモ洋心ニテ之ヲ待チ合スルハ困難ナル事業デアル。況ンヤ今日ノ如ク箇々獨立ニ航海スル商船ヲ保護センガ爲メ海上ニ出航スルガ如キハ、コレヲ方針トシテ愚策中ノ最愚策デアル。ソレヨリモ嚴重ニ敵ノ軍港ヲ監視シ、其ノ出艦ヲ待チ之ヲ擊破シ、敵艦隊ヲ蟄伏セシムルノ手段ヲトルベキハ勿論デアル。一二艘ノ快走巡洋艦ガ巧ニ英艦隊ノ目ヲ掠メ海上ヲ荒レ廻ルガ如キコトアルハ如何ナル方法ヲ取ルモ防グベキ道ハナイガ。如此患ヲ尠カラシメンガ爲ニモ敵海制壓ノ手段ヨリ適切ニシテ實効多キ方法ハ決シテナカロウト思フ。又本國ノ防禦ニ就テハ海軍ヲ以テ唯一無上ノ備トナスベキハ勿論デアル。砲臺ト陸軍ヲ以テ本國ヲ守ラントスルガ如キハ蓋シ「ヂルク」氏ノ宿論デハナカロウト思フ。サリナガラ氏ノ局地防禦ヲ視ルコト比較的ニ重キハ次ノ議論ニテモ察シ得ラルヽノデアル。則

「ジルク」氏ノ局地防禦論

『內地陸兵ノ編制ヲ整頓シ、陸上防禦手段ヲ一般ニ改メ、以テ暫時ノ間敵軍ガ海上ノ權ヲ掌握スルヨリシテ、忽チ我ガ沿岸地方ニ上陸スベキヤモ測ラレザル侵入軍ヲ陸上ニ引受ケ、打チ拂フ程ノ用意ヲ講ズルコソ。我邦家人民ノ熟慮斷行ヲ要スベキ最モ大切ノ條項ナルヤ明白ニシテ爭フベカラザルナリ。』トアリ、同兵制論英國兵制理想按中ニハ

『サレバ、余ガ英國軍備ノ理想ニ於テ、劈頭第一ノ條件ハ我ガ海軍ヲ放チテ其ノ本分ノ任務ヲ全セシメ、世界各地ノ勢援ニ忙カラザラシムルニアリ。沿海要塞及石炭積入所ノ如キ他ノ力ヲ藉ラズシテ其ノ守禦ヲ全フシ、今日ノ如ク海軍ノ力ニ凭依シテ之ガ負擔ヲ增サシメズ、寧ロ之ニ一臂ノ助力ヲ與ヘズンバアラズ云々』ト

予ノ所見

アルガ如キハ其一證デアル、コノ議論ノ如キハ極メテ巧妙ニ構成セラレテ居ル。殊ニ海軍ヲシテ其ノ行動ヲ自由ナラシメン(則「フリーイング、ゼ、ネヴイ」)トスルノ點ニ至テハ、單純ナル皷膜ニハ一種ノ快感ヲ與ヘルデアロウ。サリナガラ「ヂルク」氏ハ海軍ノ任務ヲ根本的ニ錯解シテ居ラル、ノデハナカロウカ。「世界各地ノ聲援ニ忙殺云々トハ如何ナル意味ヲ表スルヤ。內地ノ防禦ハ既ニ當該ノ本務ニアラズト喝破シ、マタ沿海要塞及石炭積入所ノ赴援モ其ノ任ニアラザラシメント欲シ。更ニ世界各地ノ聲援(則世界各地ノ防禦ノ爲ニ)ヲモナサヾラシメント欲スルニ至テハ誠ニ奇怪ナル說ナリト謂ハ

ザルヲ得ヌ。然ラバ海軍ノ任務トシテ殘留スルハ洋心ニ於テル商船ノ防護ノミトナルベキ理由デアル。成ル程「ヂルク」氏ノ議論ハ主トシテコノ點ニアルモノ、如ク、兵制論ノ全部ヲ通シ、是レヲ論ズルコト極メテ切實デアル。或ハマタ敵海制壓ノ大任務ヲ以テ擬スルヤモマタ知ルベカラズト雖ドモ。コノ點ニ對シテハ比較的、冷淡ナルガ如ク、第一防禦線ヲバ既ニ內地ノ防禦ニ編入シッ、（氏ハ敵海ノ制壓ヲ內地防禦ノ最良手段トナセリ）尙且內地防禦ヲ以テ當該ノ本務トナサヾルハ頗ル疑フベキ次第デアル。殊ニ敵襲ヲ陸上ニ擊破セントスルガ如キハ、迂策中ノ最迂策ニシテモトヨリ論ズルニ足ラズ。又海軍ノ優勢ナル場合ニ於テハ如斯患殆ンドコレアルコトナク、「ヂルク」氏ノ言ノ如ク內地防禦ノ艦船ヲ引キ揚ゲ、洋心ニ於ケル貿易ノ保護ヲ全フセントスル短見者流ニシテ後初メテ生ズベキ杞憂ニ過ギザルハ吾輩ノ斷言セント欲スル處デアル。「サー、ヂヨン、コロム」氏ガ「メルシヤ」將軍ヲ冷評シタル警語中「佛人ガ莫大ノ陸軍ヲ輸送セント欲シ、之レヲ集合スルモ尙是ヲ知ラザルガ如キ遲鈍ナル將校アリテ英海軍ノ主腦タル場合ニ於テハイザ知ラズ。モシ萬一英人ヲシテ其ノ計畫ヲ聞知セシメタランニハ如何ナル方法ヲ以テ安全ニ之ヲ出港セシメントスルヤ。」ノ語アルガ如キ間接ニ「ヂルク」氏ノ杞憂ヲ拂ヒ得テ餘リアリト云フベシ。殊ニ「ヂルク」氏ノ謬見ナリト斷言スベキハ局地防禦ヲ過重視スルノ一事デアル。各地ノ防禦ダニ堅實ナラバ世界各地ニ赴援スルノ必要ナキモノト信ズルハ誠ニ無稽ノ言ナリト吾輩ハ信ズルノデアル。

要スルニ、「ヂルク」氏ノ議論ハ、局地防禦ヲ以テ獨力其任務ヲ全フスベキモノト思惟スル等、頗ル徹底セサル處アリト雖、當時ノ事情ヨリ之ヲ察スレバ、誠ニ無理ナラヌ次第デアル、成程兵制論ニ載スル議論ノミヲ以テ氏ノ說ヲ看レバ、一見陸上勢力ヲ重視シ國防ノ大任ハ寧ロ之ヲ陸軍ニ委セントスルガ如キ嫌アルモ、氏ガ英國海軍ヲ觀ルコト他ノ國防論者ニ劣ラザルハ勿論寧ロ他ノ論者ニ比シ一層熱烈ナル海軍國防論者タルハ明カナル次第ニシテ、千八百九十九年ニ發行シタル「英帝國」ト題スル著書中、國防論ノ劈頭ニ。

「ヂルク」氏ノ海軍論

我帝國殖民地ノ國防ハ主トシテ優勢ナル海軍ノ力ニ賴ラザルベカラズ、印度及母國ノ防禦ニ於テモ亦我貿易維持ニ於テモ實ニ然リトス。今ヤ我海軍ノ勢力ハ幸ニシテ既往ニ比シ著ク整頓セリ、而カモ是我對手國ノ情勢ニ對照シテ之ニ謂フナミ、吾人ハ恐ル近キ將來ニ於ケル勢力ハ今日ヨリモ減センコトヲ。

「コロム」將軍ノ說

ト論ジタルガ如キ、明ニ氏ノ意見ヲ徵スベキ好證憑デアル。

國防論ニ關シ知名ナル諸先輩ノ論ゼラル、處ハ大凡右ノ如クデアル。吾輩ハコレニテ局地防禦主張者意向ヲ察スルコトガ出來ルト信ズルノデアルガ。吾輩ノ敬重スル「コロム」中將ハ

吾人ハ我領土ノ某地點ノ防禦ト其ノ連絡トハ二者ヲトリ、其ノ必要ノ度ニ從ヒ順次ニ之ヲ配列スルトキハ。後者ノ常ニ前者ニ先ツヲ覺ユ。此觀念ニ就テハ吾人ハ其ノ或ハ誤謬ナランコトヲ恐レタリ。然レドモ如何セン吾人ハ研究ノ進ムニ從ヒ新事實ト新思想ノ吾眼前ニ顯ルヽヲ視レバ、一トシテ海上交通ノ先ニシテ局地固定防禦ノ之ニ從フヲ示サヾルナシ。

ト論ジ知名ナル局地論者ノ議論ヲ根柢ヨリ打破セラレタノデアル。中將ノ此議論ハ一見無意味ノ感アルモコノ順序ノ依テ生ズル所以ヲ吟味スレバ其趣意極メテ明晰デアル。

局地防禦ノ任務ト効力

第三章　局地防禦ノ任務及其効力

前章ノ末段ニ述タル「コロム」中將ノ議論ヲ吟味咀嚼スレバ、前ニ述ベタル諸先輩ノ議論ハ朝露ノ日光ニ逢フガ如ク溶解シ去ルデアロウト思フガ、吾輩ハコレヨリ進デ研究ヲ繼續セントスルニ先チ、諸大家ガ局地防禦ヲ重視スルハ如何ナル點ニアルヤヲ稽ヘ、其ノ大要ヲ列スレバ大凡左ノ四點ヲ出デヌノデアル。

（一）局地ヲ實力的ニ防禦スルコト。
（二）艦隊ノ運動ヲ自由ナラシムルコト、
（三）艦隊ノ實力ヲ補給スルコト、
（四）通商線交通線ノ防禦トナルコト、

局地防禦ノ必要ナル理由ノ一

此四點ハ局地防備設備ノ要否カ決スベキ要件ニシテ其ノ研究ニ依リ局地防備ノ國防上ニ於ケル價値ガ決定セラルヽノデアル。

（一）局地ノ實力的防禦トナルコト

實力的防禦

局地ノ實力的防禦トシテ局地設備ノ價値ヲ判定スルニハ、是非トモ左ノ二點ニ就キ講究先決スルノ必要ガアル。

一　局地設備ハ他ノ補助ニヨラズシテ其ノ任務ヲ全フシ得ベキモノナルヤ。
二　移動軍ノ來リテ局地防禦ヲ援クルニ際シテハ、其ノ力敵軍ニ加カザル場合ニ於テモ、相依テ

防禦ノ實ヲ擧ゲ敵ヲ擊破スルコヘトヲ得ベキカ。

吾輩ノ信ズル所ニヨレバ、局地設備ハモシ其ノ設備ニシテ完整シ、其ノ實力攻擊軍ヨリモ雄大ナル場合ニ於テハ或ハ他ノ助ヲ藉ラズシテ其ノ防禦ヲ全ウスルコトガ出來ルデアロウ。而カモ一局地ニ如此キ雄大ナル設備ヲナスハ實際上ナシ得ザル處デアル。マタ如斯ク雄大ナル局地防禦ニ對シ、攻擊ヲ試ムルガ如キハ其陷落シ得ルト得ザルトニ論ナク攻擊者ノナサヽル處デアル。去リナガラ、タヽ單ニ攻擊軍ヲシテ其ノ攻擊ヲ加ヘザラシメンガ爲メニハ、必ズシモ如此雄大ナル設備ヲナスノ必要ガナイ、「フランス」ガ遂ニ「ロンドン」ヲ攻ムルコト能ハザルハ決シテ「ロンドン」ニ防禦設備アルガ爲ニアラズ。「パリス」ガ獨逸人ニ攻メラレ命旦夕ニ迫リシハ決シテ防禦設備ガナカリシガ故ニアラズ。「ロンドン」ヲ廻ルコト幾回ナルモ防禦設備ノ存在スルヲ認ムルコト能ハズ、コレニ反シ「パリス」ニ於テハ如何ニ不注意ナル田舍人ト雖ドモ堅固ナル城壁アリテ圍繞スルヲ知ルベシ。必竟「ロンドン」ノ攻擊ヲ受ケザルハ局地設備ノ有無ニヨルニアラズシテ攻ムルコト能ハザル他ノ原因アルニヨルノデアル。要スルニ局地防禦設備ガ獨力ヲ以テ其ノ任務ヲ果シ得ベキハ、唯攻擊者ガ熱心ニ之ヲ攻擊者セザルト、移動軍ノ勢力ノ關係上之ヲ攻ムルノ不利ナルヲ悟リテ攻擊ヲナサザルトニ由ルノアデル。其ノ他ハ其ノ設備ノ完全ニシテ到底攻擊ヲ加ヘ難キト、移動軍ノ援助ニ依ルトノ外他ノ理由アリテ防守ノ實ヲ擧ゲ得タル先例アルヲ聞カヌノデアル。三十七八年戰役中ニ於ケル浦鹽斯德ノ攻擊ノ如キハ、之ヲ攻陷スルヲ以テ目的トナサヽルガ爲ニ陷落スルニ至ラヌノデアル之ニ反シ、前ニモ述ベタル如ク佛人ハ屢々「ロンドン」ヲトラント計リシモ、終ニ之ヲ取ルコト能ハザリシハ、決シテ堅牢ナル要塞アリテ防禦ノ勢ヲ

局地防禦ノ陷落セザル場合

張レルガ爲ニハ非ズ。佛人ノ力ヲ以テ海ヲ踰ヘ進デ「ロンドン」ヲ攻ムルコト能ハザリシニヨルノデアル。

吾輩ガ理論上ニ畫ケル局地防禦ノ價値ハ以上陳ル處ニヨリ大要了解シ得ラル、デアロウガ、尙吾輩ハ、強大ナル要塞ハ果シテ如何ナル程度迄其ノ防禦ノ目的ヲ貫徹シ得ベキモノナリヤ。果シテ自力ノミニテ防禦ノ實ヲ擧ゲ得タル先例アリヤ。或ハマタ移動軍ノ援助ニヨラズシテ陷落ヲ免カレ得タル先例アリヤ。モシ果シテコレアリトセバ如何ナル理由ニヨルヤヲ研究センガ爲、熱心ナル攻擊若クハ長日月ニ渉リテ包圍ヲ行ヒタル戰例ヲ調査シ、七年戰役以降ニ於テ十四例ヲ數フルニ至ツタノデアル。コノ戰例調査ノ結果ハ、優勢ナル移動軍アリテ之レガ救援ニ從事シタル塲合ノ外、一回ト雖防禦ノ實ヲ擧ゲタルモノナキヲ證明シタノデアル。　尙コレガ補例トシテ。防禦港灣ノ攻擊ニ關スル戰例ヲ渉獵セント試ミシニ其ノ類例甚ダ多ク殆ンド枚擧ニ暇アラザルガ故ニ。假リニ第十九世紀ニ於ケルモノノミヲ摘出シテ調査シタルニ、無慮四十四例ヲ得タノデアルガ。コレマタ優勢ナル移動軍ノ來援シタル塲合ノ外一トシテ防禦ノ目的ヲ遂行シ得タルモノガナイト云フコトヲ證明シタノデアル。

吾輩ハ以上五十八例ノ調査ニ據リ理論上ハ暫ク措キ、實際ニ於テハ局地防禦其ノ物ノ性質トシテ到底攻擊軍ニ敵スルコト能ザルモノナルヲ確認スルコトガ出來タノデアル、則約六十例中一回ト雖優勢ナル移動軍ノ來援ナクシテ防禦ヲ全フシ得タルモノナキヲ證明シ得タノデアル。

戰例第七

強大ナル海岸要塞ニ對シテ行ヒタル攻擊　（七年戰役以降）

對手國	回數	成功	中止	失敗
英對佛	二	二		
英對佛米	一	一		
西佛對英	一			
英墺對佛	一	一		
英對丁	二	二		
英佛對露	一	一		
英對埃	二	二		
英對「アルゼリヤ」	一	一		
日對清	二	二		
日對露	一	一		
合計	一四	一三		一

（一）　千七百五十八年「セルブール」ノ急襲。（成功）（史例第五十參照）

（二）　千七百五十九年「クエベック」要塞ノ攻擊。（成功）（史例第五十四參照）

（三）　千七百八十一年「チャールストン」ノ攻擊。（成功）（史例第九十八參照）

（四）　千七百七十九年ヨリ三星霜ニ渉レル「ジブラルタル」要塞ノ攻擊。（失敗）（史例第百〇二參照）

（五）千八年「ゼノア」ノ攻擊。（成功）（史例第百四十三參照）
（六）千八百年「コーペンハーゲン」ノ攻擊。（成功）（史例第百四十六參照）
（七）千八百七年「コーペンハーゲン」ノ攻擊。（成功）（史例第百八十四參照）
（八）千八百十六年「アルゼリヤ」攻擊。（成功）（史例第二百十八參照）
（九）千八百四十年「ジヤンダークル」ノ攻擊。（成功）（史例第二百二十一參照）
（一〇）千八百五十四年「セバストポール」ノ攻擊。（成功）（史例第二百二十二參照）
（一一）千八百八十二年「アレキサンドリヤ」ノ攻擊。（成功）（史例第二百二十八參照）
（一二）明治二十七年　旅順港ノ攻擊。（成功）
（一三）明治二十八年　威海衛ノ攻擊。（成功）
（一四）明治三十七年　旅順港ノ攻擊。（成功）

前記三史例ハ必要ナキヲ以テ說明ヲ附セズ。

戰例第八

相當ノ防禦設備ヲ有スル港灣若クハ海島ニ對シ行ヒタル攻擊（第十九世紀以降）

對手國	回數	成功	中止	失敗
佛對英	二	一		一
英對佛	一〇	一〇		
英對西	一	一		
英對瑞	一	一		
英對丁	四	四		
英佛對露	二	二		
英對蘭	一一	一〇	一	
英對土	一			
英葡對佛	一	一		
丁對英	一			
以對埃	一			
英對蘭佛	一	一		
英對米	二	二		
米北對南	二	二		
智對秘	一	一		
日對清	一	一		
米對西	二	二		
合計	四四	四〇	一	三

（一）千八百一年「ポートフエラヨー」ノ攻擊。（失敗）（史例第百六十二參照）
（二）千八百一年埃及ノ遠征。（成功）（戰例第五ノ一〇及史例第百五十八參照）

(三)　千八百一年「セント、バーソロミユー」及「セント、マルチン」ノ征服。(成功)
(四)　同　年「セント、トーマス」「セント、ジョン」、「セントマーチン」ノ攻撃及「サンタ、クロア」ノ征服　(成功)
(五)　同　年「セント、ユースステーシヤス」及「サバ」ノ征服。(成功)
(六)　同　年「マデーラ」ノ征服。　(成功)
(七)　同　年「テルナーチ」ノ征服及「マカオ」ノ外東印度ニ於ケル葡領殖民地ノ征服。
(八)　千八百三年「セント、ルシー」ノ征服。(成功)
(九)　同　年「トバゴ」ノ征服。(成功)
(一〇)　同　年「デメラ、」「エスキーボ」及「バービス」ノ征服。(成功)
(一一)　千八百四年「キユラソー」ノ攻撃。(中止)
(一二)　同　年「スリナム」ノ攻撃。(成功)
(以上十例ハ戰例第四ノ四四ヨリ五三ニ相當スル史例ヲ參照スベシ)
(一三)　千八百五年「ドミニカ」「子ビス」「セント、キツツ」及「モンセラー」ノ急襲。(成功)
(史例第百八十一參照)
(此史例ハ戰例第四ニ編スルヲ得ベキモ、當時制海權佛人ノ手ヲ離レ一時局部ノ海上ヲ制セルニ過ギザルヲ以テ之ヲ省略セリ。)
(一四)　千八百六年　喜望峯ノ征服。(成功)(史例第百八十五參照)
(一五)　千八百七年　埃及ノ遠征。(成功)(史例第百八十八參照)
(一六)　同　年「ヘリゴランド」ノ征服。(成功)(史例第百八十七參照)
(一七)　同　年「キユラソー」ノ征服。(成功)
(一八)　同　年「セント、トーマス」及「サンタ、クロア」ノ攻陷。(成功)
(一九)　千八百八年「ギアナ」ノ征服。(成功)
(二〇)　千八百九年「アンホルト」島ノ征服。(成功)
(二一)　同　年「マルチニーク」島ノ征服。(成功)
(二二)　同　年「セネガル」ノ征服。(成功)
(二三)　同　年「ブールボン」島「セント、ポール」攻陷。(成功)
(二四)　千八百十年「ガーダループ」ノ征服。(成功)
(二五)　同　年「セント、マルチン」「セント、ユースステーシヤス」及「サバ」ノ征服。(成功)
(二六)　同　年「セント、マウラ」征服。(成功)
(二七)　同　年「ブールボン」島ノ征服。(成功)
(二八)　同　年「アンボイナ」島ノ征服。(成功)
(二九)　同　年「バンタ」島ノ征服。(成功)
(三〇)　同　年「アイル、オフ、フランス」ノ征服。(成功)
(三一)　千八百十一年「ジヤワ」島ノ征服。(成功)

（右十五例ハ戰例第四ノ五五ヨリ七〇ニ相當スル史例ヲ參照スベシ。）

（三二）千八百十一年「アンホルト」島ノ恢復。（失敗）（史例第二百〇九參照）

（三三）千八百十二年「レカシオ」ノ攻擊。（成功）（史例第二百十九參照）

（三四）千八百十四年「ペノブスコット」遠征。（成功）（史例第二百十六參照）

（三五）千八百十四年「ワシントン」及「ポルチモア」ノ攻擊。（成功及中止）（史例第二百十七參照）

（三六）千九百五十四年「オデツサ」ノ攻擊。（成功）（史例第二百二十二參照）

（三七）千八百五十四年「ボーメルズント」ノ攻擊。（成功）（史例二百二十五參照）

（三八）千八百六十三年「チヤールストン」ノ攻擊。（成功）（史例第二百二十四參照）

（三九）千八百六十四年「モビール」灣ノ攻擊。（成功）（史例第二百二十七參照）

（四〇）千八百六十六年「リツサ」島ノ攻擊。（失敗）（史例第二百二十三參照）

（四一）千八百七十九年「ビサグア」ノ攻擊（成功）（史例第二百三十二參照）

（四二）千八百九十八年「マニラ」ノ攻擊。（成功）

（四三）千八百九十八年「サンチヤゴ」ノ攻擊。（成功）

（四四）明治二十八年　澎湖島ノ攻陷。（成功）

以上記載シタル五十八例ニ據リテ考フレバ。局地防禦ハ假ヒ一見シタル所ニテハ、懸崖萬仞攀ツベカラザルカ如ク、是ヲ攻陷スルノ容易ナラザルヲ覺ユルノデアルガ。其ノ實ハ決シテ恃ムニ足ラザルモノデアルト云フコトガ分ル。要スルニ局地防禦ハ一時劣勢ノ兵力ヲ以テ敵ノ進軍ヲ喰ヒ留メ、優勢

海岸要塞ト內地要塞トノ差異

ナル味方ノ集中ニ相當ノ時間ヲ與ヘル爲メデアルノデアルガ、海上ニアツテハ如此目的ニ適スル場合ハ極メテ少ヒ。何トナレバ海上ニハ陸上ノ如キ一定ノ道路ナキ故宇治瀨田ノ如キ要衝ノ地點ハ到底求メ得ラレナイノデアル。某地點ノ砲臺ヲ陷レズシテハ某所ニ進ミ難ヒト云フ樣ナ處ハ極メテ少ナイノデアル。例ヘバ對州ニ如何ナル大要塞ヲ築造シテモ對州海峽ヲ通過シ得ルコト、要塞ヲ有セザル場合ト少シモ違ハヌノデアル。モシ果シテ異ナレリトセバ、コレハ通信ト他ノ移動軍トノ關係カ、若クハ海上ニ於ケル施設ノ爲デアル。コレ等ノ點ヨリ考フレバ、局地防禦ト云フモノハ其ノ局地若クハ其ノ附近ノ防禦ニ對シテハ豫想外ニ効果ノ少ナイモノデアル。如何ニ考ルモ一時的ノモノニ過ギヌノデアルト云フコトガ分ル。サリナガラ、局地防禦ノ攻擊ハ實際上誠ニ困難ナル事業デアル。タヾ正面ヨリ艦隊ヲ以テ攻擊スルガ如キハ迂策中ノ迂策デアル。コノ場合ニ於テハ艦隊ノ勢力ノ首位ヲモ占ムベキ運動力ハ、殆ンド何等ノ効ヲモ奏スルコトガ出來ヌノデ、不得已シテ浮砲臺トシテ戰ハナケレバナラヌ。コノ一點ニ於テモ既ニ艦隊ノ不利ヲ證スルモノト謂ハナケレバナラヌ。古名將ガ數々コノ迂策ヲ行フタノハ實際不得已ニ出ルノガ多ク。其ノ結局ニ於テハ固ヨリ砲臺ノ敗ニ歸スルコトガ多イノデアルガ、コハ決シテ稱用スベキ戰策ト認ムルコトガ出來ヌ。然ラバ如何ナル方法ガ要塞ノ攻擊法中最良ノモノトシテ紹介スベキデアロウカ。吾輩ハ我日清及日露戰役ニ於ケル旅順及威海衛ノ攻陷ヲ以テ理論上最良ノ戰策ナルヲ疑ハナイノデアルガ。古來如茲戰策ヲ用ヒタル例果シテ多キヤ否ヤヲ吟味セザルトキハ、果シテ善良ナル戰策ナルヤ否ヤヲ原則的ニ決定スルニハ何トナク物足ラザルガ如ク感ズルノデアル。

戰例第九

最良ナル海岸要塞ノ攻擊法

吾輩ハ右ノ如キ意見ニ基キ十八世紀以來ノ類例ヲ集メテ其ノ成敗ノ跡ヲ徵シタルニ、此場合ニ於テモ理論ト同一ノ結果ヲ見タノデアル。

戰例第九

防備ナキ或ハ防備充實セザル地點ニ上陸シ而ル後目的地ヲ攻擊シタル前例

對手國	回數	成功	中止	一部成功	失敗
英對佛	一四	一二	二		
佛對英	一	一			
英對蘭	三	三			
英對丁	一	一			
英對土	一	一			
英對米	三	一			一（チャールストン）
英佛對露	一	一			
英對西	一	一			
佛對「アルゼリヤ」	一	一			
智對秘	一	一			
日對清	二	二			
米對西	一	一			
日對露	一	一			
合計	三一	二八	二	〇	一

（一）千七百十年　英軍佛領「ポート、ローヤル」ヲ攻陷ス。（成功）（史例第三十一參照）
（二）千七百四十五年　英軍佛領「ケープ、ブレトン」ヲ取ル（成功）（史例第三十八參照）
（三）千七百四十六年　英軍「ローリヤン」ヲ攻ム。（中止）（史例第四十二參照）
（四）千七百五十六年　佛軍「ミノルカ」ヲ攻陷ス。（成功）（史例第四十八參照）
（五）千七百五十八年　「ケープブレトン」ノ攻擊（成功）（史例第五十一參照）
（六）千七百五十八年　「セルブール」軍港ノ攻擊。（成功）（史例第五〇參照）
（七）千七百六十二年　「ハバンナ」ノ攻擊。（成功）（史例第五十五參照）
（八）千七百六十一年　「ベルアイル」ノ攻擊。（成功）（史例第六十三參照）
（九）千七百七十六年　英軍「チャールストン」ヲ攻ム。（失敗）（史例第六十六參照）
（一〇）千七百八十一年　英軍再「チャールストン」ヲ攻ム。（成功）（史例第九十八參照）
（一一）千七百九十三年　「トバゴ」島ノ攻擊。（成功）（史例第百〇五參照）
（一二）千七百九十八年　「ミノルカ」島「ポート、マホン」ノ攻陷。（成功）（史例第百二十八參照）

(一三) 千八百一年　(アレキサンドリヤ)攻撃。(成功)(史例第百五十八參照)
(一四) 千八百四年　「スリナム」征服。(成功)(史例第百七十八參照)
(一五) 千八百六年　喜望峰ノ攻陷。(成功)(史例第百八十五參照)
(一六) 千八百七年　「コーペンハーゲン」攻陷。(成功)(史例第百八十四參照)
(一七) 千八百七年　埃及遠征。(成功)(史例第百八十八參照)
(一八) 千八百九年　「マルチニーク」征服。(成功)(史例第百九十九參照)
(一九) 千八百九年　「アントウアープ」ノ攻撃。(中止)(史例第百九十六參照)
(二〇) 千八百九年　「シントポール」ノ攻陷。(成功)(史例第二〇二參照)
(二一) 千八百十年　「アイル、オフ、フランス」ノ攻陷。(成功)(史例第二一二參照)
(二二) 千八百十年　「ガータループ」ノ降服。(成功)(史例第二〇三參照)
(二三) 千八百十一年　「ジャワ」ノ征服。(成功)(史例第二一〇參照)
(二四) 千八百十四年　華盛頓ノ攻撃。(戰例第三五及史例第二百十七參照)
(二五) 千八百三十年　「アルゼリヤ」Algeria ノ攻撃。(成功)(史例第二百二十參照)
(二六) 千八百五十四年　「セバストポール」ノ攻撃。(成功)(史例第二百二十二參照)
(二七) 千八百七十九年「ピサグア」ノ攻撃。(成功)(史例第二百三十二參照)
(二八) 明治二十七年　金州半島ノ攻撃。(成功)
(二九) 明治二十八年　威海衞ノ攻陷。(成功)

(三〇) 千八百九十八年　「サンチャゴー」ノ攻撃。(成功)
(三一) 明治三十七年旅順港ノ攻撃。(成功)

(右四例ハ近代ノ出來事ニシテ既ニ世人ノ知ル處ナルヲ以テ略ス)

前記三戰例ノ訓ユル處ニ從テ稽フルニ。海岸要塞ハ獨力ヲ以テ防守ノ實ヲ擧グルコト到底出來得ベカラザルモノデアル。殊ニ其ノ設備ノ雄大ナラザルモノニアツテハ、海ヲ制スルト否トニ從ヒ其ノ成敗ノ難易遲速ニ於テ隔斷ナル差ヲ生ズルト云フコトガ想像シ得ラルヽノデアル。而カモ其ノ終局ニ於テハ陷落ノ運命ニ會セザルモノナキハ殆ンド奇異ノ感ニ打タル、如ク確實デアル。

之ヲ要スルニ、局地防禦設備ハ一定ノ場所ニ固住シテ移動スルコトガ出來ナイ。從テ彼此相佐テ敵軍ニ當ルベキ能力ヲ備ヘテ居ラヌ。甲ハ甲ノ地ヲ離ル、ニ由ナク、乙ハ丙ノ地ヲ援フニ由ナイノデアル。故ニ攻撃軍ガ全力ヲ込メ最良ノ戰策ヲ用ヒ、熱心ニ攻撃ヲ加ル場合ニ於テハ、如何ナル方法ヲ講ズルモ終ニ守リ得ベカラザルニ至ルハ理ノ當然デアル。モシコレヲ防禦ナキ若クハ防禦少キ地點ニ陸軍ヲ上陸セシメ、背後ヨリ局地防禦要塞ヲ攻撃シ海陸相策應シテ作戰ニ從事シタル戰例ニ照シ、其ノ三十一例ニ於ケル事情ト結果トヲ稽ヘ、更ニ之ヲ戰例第五、則敵前上陸ノ例ニ照シテ其ノ利害得失等ニ鑑ムル處アランニハ、局地防禦ノ攻撃ニ關スル最良戰策ハ困難ナクシテ發見シ得ラルヽデアロウト吾輩ハ思フノデアル。戰例第九ノ三十一例中ニハ失敗ト認ムベキモノ一回、中止シタルモノ二回、都合三回ノ不結果ガアル。サリナガラ、此三例ハ一トシテ明白ナル原因ヲ有セザルモノハナイ、千七百七十六年ニ於ケル「チャールストン」ノ攻撃ハ上陸點ノ選定ノ殆ンド滑稽ニ近キ不詮索ナルト海面ヨリ港

海岸要塞ノ攻守

口ヲ攻擊スベキ艦隊トノ策應不可能ナリシ迂濶千萬ナル計畫ニヨルノデアル。千七百四十六年ノ「ローリヤン」ト千八百九年ノ「アントウアープ」ノ遠征ハ海軍ノ勢力ヲ現ハスニハ餘リニ不適當ナル前例デアル。殊ニ材料ノ不完全、疫癘ノ發生等ハ其作戰ヲ中止セシムベキ原因トナリ、不得已シテ其ノ進行ヲ停止シタノデアルガ。海軍ノ優勢ナル一事ハ其ノ中止ヲ容易ナラシメ、猶ホ自國海岸ニテ上船スルガゴトク徐ロニ陸兵ヲ引キ揚ゲルコトヲ得タルハ深ク留意スベキ事柄デアル。

是ニ由テ考フレバ

海岸防禦ノ最良ナル守勢ノ戰策ハ必ズ先我艦隊ヲ以テ敵ノ艦隊ヲ制壓シ、敵ヲシテ其ノ兵ヲ揚陸スルコト能ハザラシムルニアリ。然ラザレバ

沿岸ノ要地ニ我艦隊ノ來援ヲ待ツニ足ルベキ消極的ノ設備ヲナシ、敵ヲシテ幾分ノ力ヲ用フルニアラザレバ其ノ地點ヲ占領スルコト能ハザラシムルニアリ。而シテコノ場合ニ於テハ、必先決問題トシテ果シテ優勢ナル艦隊ヲ以テ之ニ救援シ得ベキ有力ナル海軍ヲ有スルヤ否ヤヲ決スルニアルハ勿論デアル。又

海岸要塞ニ對スル最良ノ攻勢戰策ハ必先敵ノ艦隊ヲ搜索シテ之ヲ擊破シ。其ノ海上ヲ制シ。徐ロニ所要ノ陸軍ヲ輸送シ、防禦少キ若クハ皆無ナル地點ニ上陸セシメ、背後ヨリ之ヲ攻擊スルコト我旅順及威海衞ニ於ケル如クナラシムルニアリト云フコトガ分ルノデアル。之ニ反シ艦隊若クハ陸上移動軍ノミヲ以テ海岸要塞ヲ攻ムルハ、其ノ損害比較的ニ多クシテ其ノ効ヲ奏スルコトヲ顯著ナラズト斷言スルコトガ出來ル。

要スルニ艦砲ノ威力ノミヲ以テ海岸砲臺ヲ陷ルハ決シテ紹介スベキ戰策ニアラズ。歷史上ニ於テモソノ類例極メテ僅少デアル、「コロム」中將ノ論ズル如ク、簡單ナル海上砲擊ニ隨伴シテ起レル敵砲臺ノ陷落ハ「ウエルノン」ノナシタル「シャーグルス」陷落（史例第三十六參照猶「クロース」氏卷二、一六一―一六二ヲ看ヨ）ヲ以テ嚆矢トスルノデアル。コノ場合トテモ全ク同砲臺ノ地理的弱點ト戍兵ノ怯懦トニヨツテ容易ニ奏功シタノデアル。コノ他「エキスマス」ノ「アルゼリヤ」（史例第二百二十參照）「ストツプホルド」ノ「ジャンダークル」（史例第二百二十一參照）「シーモア」ノ「アレキサンドリヤ」（史例第二百二十八參照）其ノ他「ネルソン」ノ「コーペンハーゲン」（史例第百四十六參照）「フアラガツト」ノ「ミシシツピー」強行通過（史例第二百二十七參照）ノ如キ、艦隊ノミヲ以テ砲臺ト對戰シタル先例ナキニアラルザモ、是レ等ハ決シテ稱揚スベキ戰策ニアラズ、場合上不得已シテ實行セルニ過ギヌノデアル。從テ戰例トシテ之ヲ揭ゲ、其ノ理害ヲ研究スルノ必要少ナイト吾輩ハ信ズル。

又コヽニ注意スベキ一事ガアル、假令制海權確實ニ我軍ノ手中ニアリト雖、寡少ノ兵ヲ以テ猥リニ敵前ニ上陸スルガ如キコトアラバ、折角ノ制海權モタヾ僅ニ消極的ノ果効ヲ奏スルノミトナリ、積極的ニハ一時無効ナルガ如キ情態ニ陷ルコトガアル。千六百九十四年ニ於ケル「ブレスト」攻擊ノ如キモ其ノ一例デアル、（史例第二十二參照）コノ點ニ就テハヨク〳〵注意シ、出來得ベクンバ戰例第九ノ訓戒ヲ嚴守シ、防禦ナキ地點ニ上陸セシムルノ戰策ニ從ハナケレバナラヌ。

前ニモ說明シタル如ク、要塞ノ武力ハ移動シ得ベキモノニアラズ、一地點ニ固住スル砲熕ノ威力ニシテ毫モ遊動的ノ權能ヲ備ヘザル一種ノ武力デアル。從テ攻圍軍ニ對シ逆擊ヲ行フガ如キ作戰ハ到底望

局限セラレタル局地防禦ノ威力

ムコトガ出來ヌ。則砲臺ハ他ノ移動軍ノ來援ヲ頼ミトシテ其任務ヲ遂行スルノミ必竟ハ移動軍ノ到着マデ其ノ地點ヲ固守シ得ルニ過ギズ。由是看之、要塞攻撃戰ノ勝敗ハ、必竟移動軍ノ勝敗ニヨリテ決定スルノデアル。モシコノ際攻撃軍ノ敗戰ニ了レリトセバ、必ズヤ其ノ損害ノ大小ニ應ジ、或ハ補充ヲ行ヒ、或ハ其儘ニ再戰スルカ、二者ニツキ其一ヲ選ブニ相違ナイノデアルガ。若シ攻撃軍ノ勝利ニ終レリトセバ砲臺ノ到底守リ難キハ勿論デアル。必竟局地設備ハ其ノ編制ヲ變ゼザレバ決シテ有理ナル敵ノ運動ニ應ジテ移動軍ヲ佐ケルコトガ出來ヌ。少クトモ移動シ得ベキ性質ヲ備フル武力ニアラザレバ後詰メノ兵ト相佐ケテ敵軍ニ當ルコトガ出來ヌ。ソノ僅カニ相佐ケ得ベキハ歩兵トシテノ一群ト、野戰砲兵トシテ用フベキ小數ノ一隊トノミデアル。其ノ主タル砲煩ノ力ヲ以テ野戰軍ヲ佐クルガ如キハ到底出來得ベカラザルハ無論デアル。「アルマ」ノ戰爭ニ「セバストポール」ノ局地設備ノ何等ノ効モナカリシハ當然ノコトデ二十七八年戰役ノ際金州ニ逆襲シ來リタル清兵ハ如何ナル場合ニテモ旅順ノ砲臺ヨリ補助ヲ得ルコト能ハザリシハ無論デアル。旅順要塞ノ威力ヲ以テ南山ノ戰ニ加ルコトノ出來ザルハ勿論、南山ハ南山ニ於テ旅順ハ旅順ニ於テ陷落シタル實蹟ハ日露戰役ニ於テモ明白デアル、海軍ニ在テモ全クコレト同ク。一面ニハ砲臺ト戰ヒ一面ニハ來援艦隊ト戰フガ如キ愚策ヲ取ルガ如キハ決シテコレアルマジキ事柄デアル。ツマリハ艦隊ハ純然タル海戰ヲ以テ其勝敗ヲ決シ、勝敗ノ數既ニ明白ナルニ至テ後初メテ砲臺ノ攻撃ヲ開始スルデアロウ。換言スレバ或ル特別ノ場合、假令ヘバ港内ニ蟄伏シタル艦隊ガ出來得ル丈ケノ手段ヲ以テ消極的ニ防禦軍ヲ援助スル場合ニアラザレバ、在港艦隊ガ攻撃軍ニ對シ砲臺ト相協力シテ防禦ノ威力ヲ張ルコト能ハザルハ勿論。攻撃艦隊モコノ場合ノ外ニハ砲臺ト防禦艦隊トヲ重ネ之ヲ一線ニ看ルコトハナイノデアル。則戰例第六ノ場合ニ於ケル十例ノ如キハ要スルニ此情況ニアツタノデアル。日露戰役ノ旅順ノ如キモマタ同一ノ類例デアルガ。其他ノ例ハ戰ノ勝敗ニ論ナク悉ク砲臺攻撃ノ姿勢ヲ轉ジ純然タル海洋戰トシテ相戰フタノデアル。千七百五十六年ノ「ミノルカ」ノ塲合ノ如キ、又近ク千八百六十六年ノ「リッサ」攻撃ノ塲合ノ如キハ最モヨキ先例デアル。日露戰役ノ塲合ニ於テモモシ第二第三艦隊ガ旅順陷落以前ニ東洋ニ顯ハレタナラバ、必マタ此二例ノ如キ作戰ヲ看タデアロウト思フノデアル。

優勢ナル後結ナキ局地防禦ハ如何ニ陷スモ落スベシ

由是觀之レバ、局地ノ實力的防禦トシテ堡壘若クハ砲臺ノ必要ヲ感ズル塲合ハ、我移動軍則我艦隊若クハ野戰軍ヲ以テ、敵ノ艦隊若ハ上陸軍ヲ敗リ得ベキ塲合ニ於テ、我移動軍ニ有利ナル姿勢ヲ取ラシムル迄、敵ノ攻撃ニ堪ルノ必要アル塲合ニ限リ、若シ優勢ナル移動軍ヲ以テ、後詰ヲナサシメ得ベキ望ミナキ塲合ニ於テハ、如何ナル地點ニ如何ナル砲臺ヲ築クモ、必竟何等ノ功ヲモ奏シ難キハ明白デアル。更ニ一方ヲ進メテ之ヲ云ヘバ我艦隊ノ敗北セザル塲合ニ於テハ、假令現塲ニ於テハ敵ヨリモ優勢ナラザル塲合ナリト假定スルモ、苟モ「フリート、イン、ビーインク」ノ戰略的姿勢ヲ取リ得ベキ塲合ニ於テハ、敵軍ノ上陸ヲ看ルコト實際上不可有コトガラデアル。ヨシ假令少數ノ軍隊ガ冒險的ニ一地方ニ奇襲ヲ加フコトアルニモセヨ、コハ決シテ論ズルニ足ラズ。敵ニ内應セントスルモノ多キ塲合ニ於テハイザ知ラズ、我國ノ如キハカヽル心配ハ固ヨリ無用デアル。則我艦隊ノ未ダ敗レザル以上ハ局地防禦設備ニ雄大ナル敵ノ攻撃ヲ受クルガ如キコト萬々アルベカラザル道理デアルガ。コノ道理ハ必ズシモ自他共ニ通スルモノト認ムルコトガ出來ナイノデアル。例ヘバ「ルイス」十四世「ナポレオン」一

世ノ如キモ尚且戰略上不可侵ノ原則ヲ犯シ英國ノ侵略ヲ企テタルカ故ニ、局地防禦ノ攻擊ヲ以テ海軍ノ目的ト信ズル謬見者流モマタ決シテ少クハナイノデアル。故ニ世間ニハ必ズシモ我艦隊ノ敗北ヲ待タズシテ我海港ヲ攻擊セント欲スルモノナキニアラズト想定シ、必要ノ地點ニ於テ相當ノ防禦裝置ヲ施スハ固ヨリ必要ナル注意デアル。サリナガラ、コレトテモ漫然ニ注意ノ箇條トシテコレヲ採用スルコトガ出來ヌ。コノ前ニハ是非トモ決定セザルベカラザル一問題ガアル。コノ問題ハ既ニ前ニモ述タル如ク我艦隊ガ果シテ敵艦隊ヲ擊破スルニ足ルベキ勢力ヲ有スルヤ否ヤノ問題デアル。モシソレコノ問題ニシテ解決セラレザルトキハ、局地防禦設備ハ無用ノ長物デアル、必竟何等ノ役ニモ立タヌ設備デアル。獨リ役ニ立タザルノミナラズ、我劣勢ナル艦隊ヲ陷レテ敵手ニ入ラシムベキ係蹄デアル。此點ハ深キガ上ニモ深ク注意セナケレバナラヌ。

要塞ト艦隊トノ協力

要スルニ、局地防禦設備ハ、決シテ移動軍ト相協同シテ優勢ナル敵ト相對シ、絶對的ニ其ノ運命ヲ支持シ得ベキ資格ヲ有スルモノニアラズシテ、我優勢ナル艦隊ニ有利ノ運命ヲ與ヘントスルニ際シ、「一時的ニ必要ナル」軍事機關ナリト云フニ過ギヌノデアル、決シテ我艦隊敵ヨリモ劣勢ナル場合ニ於テ砲臺ヲ以テ其勢力ヲ幫助セントスルガ如キ迷想ニ支配セラルベキモノデハナイ。言ヲ換ヘテ更ニ之ヲ云ヘバ、

移動軍ノ來ツテ局地防禦ヲ援クルニ際シテハ、其ノ實力ガ敵ニ加カザル場合ニ於テモ相佐ケテ防禦ノ實ヲ擧ゲ、敵ヲ擊攘スルコトガ出來ルデアロウカ。

ノ疑問ニ對シテハ明白ニ「否」ト答フルコトガ出來ルノデアル。則局地防禦設備ハ我移動軍ノ勢力敵ニ優リタル場合ニ於ケル幫助裝置デアル。コノ點ニ對シテハ世間一般ニ誤リタル見解ヲナスモノ多キカ故ニ吾輩ハ切ニ其ノ誤謬ナカランコトヲ願フノデアル。則吾輩ハ

海岸要塞作戰ノ原則

海岸局地防禦ノ設備ハ、我海軍ガ想定ノ敵海軍ヨリ優勢ナル場合ニ於テ、敵軍ノ我國ニ加ヘ得ベキ勢力ト、其ノ勢力圏ノ大小トヲ顧慮シ、其ノ遠近ニ應シ、且我優勢艦隊ノ往援シ得ベキ時日ヲ稽査シテ、持久力ヲ論定シ、以テ其ノ程度ヲ定ムルニ滿足スベシ、モシ我海軍ガ敵海軍ニ加カザル場合ニ於テハ、決シテ其ノ費用ヲ局地設備ニ費スコトナク、必先海軍ノ勢力ヲ充實シ、而シテ後、其ノ實力ヲ顧慮シテ局地設備ノ經始ヲナスベシ。

トノ原則ヲ主張シ、コレヲ實施センコトヲ冀望スルノデアル。

要スルニ海岸要塞ヲシテ克ク其ノ任務ヲ全フセシメントスルニハ、其ノ對敵勢力ヨリモ耐久力ヲ大ニスルノ必要ガアル「ジブラルター」要塞ガ三年間西佛軍ノ攻圍ニ堪ヘタルハ、其ノ攻擊力ノ偉大ナル結果ニアラズシテ耐久力ノ偉大ナルガ爲メデアル。耐久力偉大ナレバコソ、優勢艦隊ノ來援ヲ待ツコトガ出來タノデアル、攻擊力ノ偉大ナルハ運動力ト相待テ後初メテ充分ナル功ヲ奏シ得ベキモノデアル。故ニ吾輩ハモシ局地防禦設備ノ必要アリテ之レガ經始ヲ要スル場合ニ於テハ、攻擊力ノ大ナルヨリモ寧ロ耐久力ノ大ナルヲ主トシテ貴イタイノデアル。

局地防禦ノ必要ナル理由ノ二

艦隊ノ運動ヲ自由ナラシムルコト

（二）　艦隊ノ運動ヲ自由ナラシムルコト

海岸要塞ハ、局地的防備トシテ如何ナル價値ヲ有スルモノナルヤノ問題ニ就テハ、吾輩既ニ其ノ大體ヲ論究シタル積デアル。コレヨリ吾輩ノ記述スベキ問題ハ、約束ノ如ク制海艦隊ノ運動ヲ幫助スルノ

見地ヨリ判斷シ、海岸要塞其ノ物ノ價値ヲ決定セント欲スルノデアル。

コノ問題ヲ決セントスルニ際シ、假リニ我艦隊ガ到底敵ヲ破ルベキ實力ヲ有セザルガ故ニ、如何ナル方法ヲ講ズルモ敵ノ接戰スルヲ避ケザルベカラズト假定セバ、コレ既ニ我艦隊ハ攻勢的ノ性格ヲ失ヒタルモノニテ、コノ艦隊ヲ以テ積極的ノ意義ヲ解釋スルコト能ハザルハ勿論デアル。則コノ塲合ニ於テハ、局地防禦ト艦隊トノ間ノ問題ハ到底成立スルノ望ガナイ、假令成立セシムルモ成功ノ望ハ絶無デアル。更ニ一歩ヲ進メ我艦隊ハ假令其ノ勢力微弱ナリトスルモ、辛フジテ「トアリントン」ノ「フリート、イン、ビーイング」主義ノ姿勢ヲ取リ得ベキ塲合ナリト假定スルトキハ、局地防禦設備ヲ以テ補助力ト認ムベキ理由ヲ生ズルノデアル。「トアリントン」ガ港内ニ退カズ、常ニ敵艦隊ノ運動ヲ制駐モント計リタルガ如ク、斷ジテ要塞ノ掩護ヲ受ケザルヲ以テ「フリート、イン、ビーイング」ノ意義ナリトナシ併テ絶對的ニ防禦港灣内ニ退クノ必要ヲ認メザル「コロム」中將ノ說ハ、必ズシモ神聖ナリト稱スルコトガ出來ス。我輩ハ運動力ノ有無ガ問題デアル。必ズシモ港内ニ入ルト否トニハ關係セヌト云フ議論デアル。

帆走時代ニ在テハ數月ヲ通ジテ絶ヘズ運動ヲ行フコトハ實際不可能ノ問題デハナカツタノデアル、乍去今日ニ於テ如此キ行動ヲトルノ不利ナルハ勿論、敵前ニ於テ夜ヲ撤スルガ如キモ、敵艦隊ニ水雷艇ノ如キ夜間ヲ主トスル攻擊兵器若クハ潛航艇ノ如キ危險ナル船艇ノ絶無ナルヲ確知シタル塲合ノ外ニハ、到底行フベカラズ。假令不可能ニハアラズトスルモ、不利益ナリト見ル方適當デアル。則コノ際ハ寧ロ近傍ノ防禦アル地點ニ退キ、或ハ敵艦隊ガ外洋ニ行動若クハ漂泊スルニヨツテ生ズル不利益ニ

補助トナルヘキ局地防禦

乘ジ、或ハ不得已シテ其ノ勢力ヲ分チタル塲合ニ乘ズル等、機ニ臨ミ變ニ應ズルノ用意ヲ怠ラザルヲ以テ最良ナリトスルハ蓋シ爭フベカラザルノ道理デアル。此點ヨリ判斷スルモ我艦隊ガ敵ニ對シ大敗ヲ取ルコトナク、相對峙シテ重ヲナシ得ベキ勢力アリトセバ、相當ノ補助力トシテ局地防禦ノ効ヲ認ムルコトガ出來ル。サリナガラ此塲合ニ於テモ敵將タルモノ我艦隊ノ目的ヲ察シ局地防禦ヲ有セザル地點、若クハ、放棄シ置クコト能ハザル塲所ニ向ヒ攻擊ヲ加ルトキハ、我艦隊ハ如何ナル決心ヲ有スルモ、結局不得已シテ艦ト戰フニ至ルベキハ吾輩ノ既ニ述ベタル處デアル。サリナガラ、コノ塲合ニ於テモ他ノ味方艦隊來會スルトキハ勝利ヲ以テ敵ト戰ヒ得ベキ望アルコト「トアリントン」ノ如キ塲合ニアラザレバ必竟何事ヲモナシ得ヌハ無論デアル。

局地防禦ノ三問題

如茲煎ジ詰ムレバ　吾輩ノ研究問題ハ少クトモ物質的ニ於テ敵ト均衡ヲ維持シ得ベキ實力ヲ備ヘタル塲合ニアラザレバ、局地防禦ト移動艦隊トノ關係ヲ論ジ、其ノ運動ヲ幫助スルニ効アリヤ否ヤヲ論定スルコトガ出來ヌト云フコトニナルノデアル。

ソコデ是等ノ意義ヲ包含セシメツヽ、コノ問題ヲ決定スルニハ、如何ナル順次ニヨリ秩序的ニ論決スルヲ必要トスルデアロウカ。吾輩ハコノ問題ノ決定上必要ナル順序トシテ先左記ノ三問題ヲ掲ゲントスルノデアル。

一　海岸要港ヲ攻擊セザルトキハ、海國トノ戰鬪ハ局ヲ結ブコト能ハザルベキカ。

二　敵艦隊優勢ナル塲合ニ於テ、敵ノ海岸防禦ヲ攻擊シ、或ハ其ノ陸軍ヲ上陸セシムルコトヲ得ベキカ。

局地防禦艦隊置配ノ愚

三　敵ノ優勢ナル艦隊ノ來ルベキ患アル塲合ニ於テ、其ノ艦隊ヲ割キ局地設備ノ攻擊ニ充ツルコトヲ得ベキカ。

吾輩ハ今茲ニ右ノ三問題ヲ提起シタノデアルガ。元來コノ三箇ノ問題ハ殆ンド詳說スルノ必要ナクシテ明瞭デアル。殊ニ第二第三ノ如キハ吾輩ノ既ニ論ジタル處ニヨリ明白ナルノミチラズ。戰例ノ上ニ於テモ確タル證據アルハ諸者モ既ニ知ル處ナラン。第一ノ問題トテモ同樣デアル、凡ソ海國ヲ攻擊センガ爲メニハ先其ノ收得シタ制海權ヲ利用シ力メテ局地防禦ト相對スルノ不利ヲ避ケ、防禦ナキ地點ニヨリ侵襲ノ目的ヲ貫徹スルノガ第一ノ良策デアル、サリナガラ此歷史的敎訓ハ必ズシモ絕對ニ遵奉スルコト能ハズ。若シ國家ノ目的ト其ノ塲合ニ於ケル事情トニ依リ、速ニ戰局ヲ結ブノ必要ヲ認メタル塲合ニ於テハ。敵ノ死命ヲ制シ得ベキ樞要ノ地ヲ選ミ、之ニ攻擊ヲ加ルノ必要ニ會スルコト決シテ珍クハナイ。若シコノトキニ際シ其ノ地點ニ相當ノ防禦ナキトキハ、敵兵ハ容易ニ之ヲ占領シ、如何ナル大損害ヲ我國ニ加フルヤモ計リ難イノデアル。故ニ同地點ノ完全ヲ期センガ爲ニハ、勢ヒ强大ナル防禦艦隊ヲ常備シ、敵ノ來襲ニ對セザルベカラザルニ至ランコト疑ナイ。而カモコハ決シテ國防上稱用スベキ良策ニアラジ、我移動軍ヲ變ジテ固定軍トナシ、其特有ノ長所ヲ滅却スルガ如キハ愚策中ノ最愚策デアル。殊更現時ノ如キ敏捷ナル敵軍ノ行動ニ對シテハ、假令同地點ニ敵襲ヲ受クルノ患アリヤ否ヤ判然セザル塲合ニ於テモ、我艦隊ハ之ヲ捨テ他ニ向テ有利ノ行動ヲトルコトガ出來ヌ。故ニ我艦隊ヲシテ自由ノ行動ヲ取ラシメンガ爲メニハ、不得已沿海ノ要地ニ相當ノ防禦ヲ施シ、我艦隊ヲシテ必要ニ應シ同地點ヲ去リ、有利ナル運動ヲ取ルノ便利ヲ得セシムヘキ必要アルハ毫釐モ疑ナキコト

局地防禦ハ味方艦隊ヲ陷ルベキ係蹄トナルコトアリ

、吾輩ハ信ズルノデアル。但シコノ決論ハ我海軍ガ敵艦隊ヨリモ優勢ナル塲合ノミニ限リ、モシ我實力敵艦隊ニ加カザルニ關セズ、其ノ力ヲ削テ局地設備ニ經費ヲ投ズルガ如キハ、固ヨリ許スベカラザル誤謬デアル。

右ニモ述ル如ク、我艦隊ガ敵ノ艦隊ヲ擊破シ得ベキ實力ヲ備ル以上ハ、其ノ運動力ヲ幫助センガ爲、一時必要ナル地點ヲ防守シ得ベキ程度ニ於テ局地防禦ヲ行フノ必要アリトセバ、其ノ目的ニ基キ建設シタル海岸要塞ニ觸ル、コトナク、絕對的ニ攻城戰ヲナサズシテ戰局ヲ結ブニ至ルベシトハ吾輩ノ信ズル能ハザル處デアル。若シ此時ニ際シ防禦軍ノ艦隊ガ明ニ攻擊軍ヨリモ優勢ナルトキハ攻擊艦隊ハ決シテ海上ニ留ルコト能ハズ、從テ局地攻擊ヲ企ルコト極メテ困難ナリトハ云ヘ、若シ兩國ノ勢力必ズシモ逕庭ナシトセバ、戰策上ノ必要ニヨリ海岸要塞ノ攻守戰ヲ見ルニ至ルベキハ勢ノ免レザル處デアル。況シテ兩國ノ開戰スルハ其ノ兵力決シテ敵ニ劣ラズト自信シタル塲合ヲ常トスルノデアル、從テ自然ノ結果トシテ海岸要塞ニ對スル作戰ヲ看ルニ至ルベキハ殆ンド免ルベカラザルノ勢ナリト覺期セナケレバナラヌ。則チコノ意味ニ於テ「リツサ」島ハ以艦隊ヲ陷ルベキ係蹄トナツタノデアル。

要スルニ、兩國ノ相戰フニ際シテハ各自勝算アリト思考スルニハ相違ナイノデアル。露國ノ如キモ初ヨリ如彼敗北ヲ取ルベシトハ考ヘザリシナラム。兎ニ角敵國軍備ノ實力ヲ推算スルハ難事中ノ最難事デアル。故ニ縱令我艦隊ガ敵ヨリモ優勢ナリト信スベキ塲合ニ於テモ、必ズシモ敵軍ノ來襲ヲ受クルコトナシトハ斷言シ得ベカラサルハ無論デアル。故ニ我艦隊ノ運動ヲ羈束スルコトナク、隨意ニ有利ナル運動ヲトラシメムガ爲ニハ沿岸ノ要所ニ防禦ノ設備ヲ行フ必要アルハ不得已ノ結果ナリト考ナケ

敵軍優勢ナル場合ノ進攻作戰ノ「コツ」ニ關スル「ムルトン」將軍ノ說

レバナラヌ。

又敵艦隊ノ優勢ナル場合ニ於テモ敵ノ海岸防禦要塞ヲ攻擊シ或ハ其ノ陸軍ヲ上陸セシメ得ベキヤノ問題ニ關シテハ、吾輩ハ既ニ讀者ニ向テ縷述シタル積デアル。英將「コロム」此點ニ關スル研究ヲ積ミ其ノ著海軍國防論集ニ於テ左ノ如キ言ヲナシタルノデアル。

我海軍ハ、「エリサベス」女皇ヨリ英蘭戰役ヲ經「トラファルガー」ノ海戰ニ至ルマテ、未ダ曾テ一タビモ局地防禦設備ノ必要ヲ感ゼルコトナシ。人アリ汽船ノ發明ハ從來ノ戰術ヲ打破シ、全然其ノ趣ヲ異ニセシメタリト稱スルモノアリ。然レドモ汽船ノ發明ハ、從來確實ナラザリシ事項ヲ確實ナラシメタルノミ。何等ノ變易ヲ生ジタルヲ見ズ。帆走時代ニ於テハ、英艦隊ノ本國ヲ出帆シ「ジブラルター」ニ赴援スルニ要スル時日ハ尠クトモ一箇月ヲ要セシガ、今日ニ於テハ僅ニ三四日ヲ要スルニ過ギズ、敵艦隊タルモノ我艦隊ノ來援三週日ノ後ニアリト信ズル場合ニ於テ、砲臺ヲ攻擊スルコト、或ハ之レアラン、然レドモ三日ノ後敵ノ來會スベキヲ知リ、而カモ猶ホ之ヲ攻擊セントスルモノアリヤ、吾人ハ決シテ其ノ之レナキヲ信ゼントス。

佛將「スフラン」ハ英將「ヒユース」カ二週日以上ヲ隔ツル「マドラス」ニ在ルヲ知リ、初メテ「トリンコマリー」ヲ攻ムルノ策ヲ立テタリ。吾人ハ近世ノ「スフラン」タルモノハ、今日ノ「ヒユース」ガ蘇西運河以西ニ在ルヲ聞知スルニアラザルヨリハ、其ノ攻擊ヲ開始スルコトナカルベキヲ信ス。

(中略)又假リニ英將ガ其ノ十艘ノ戰艦ヲ率テ「ブレスト」ヲ攻擊セリトセンカ、其ノヨク此運動ヲナスハ「ブリマス」ニ十全ナル防禦アリシガ爲ナリトナサバ、是レ佛國ガ吾人ノ聞知セザル他ノ艦隊アリテ「ブリマス」ノ面前ニ顯ハル、ノ場合ヲ想像スルノミ、然ラザレバ「ブリマス」砲臺ハコノ際ニ於テ何等ノ價値ダモナキコト明ナレバナリ。

(中略)吾人ハ更ニ史ニ就キ之ガ類例ヲ求ンニ、千六百九十四年英將「ラツセル」ノ地中海ニ入ルヤ。佛艦隊ハ正ニ「バルセロナ」ノ攻擊ニ從事セシガ。英艦隊ノ「カルタジナ」ニ入港セルヲ牒知シ、倉皇其ノ攻擊ヲ中止シ歸帆セルガ如キ。又其ノ翌年ニ於テ「ラツセル」ノ「パラモス」ヲ攻ムルニ際シ百五十海里ヲ距ツル「ツーロン」艦隊ガ、航海ノ準備正ニ整フヲ聞キ其ノ攻擊ヲ中止シタルガ如キ、(中略)又千七百四年乃至五年佛軍ノ「ジブラルター」ヲ回復セントスルヤ、英將「リーク」「リスボン」ヨリ來レリトノ報ニ驚サレテ其ノ攻擊ヲ中止シタルコト二回ニ及ベリシガ如キ。佛將「ツロー」ノ千七百五十九年ニ於ケル英國東岸ニ對スル攻擊策ガ、「ボイス」及「ブレツト」ノ存在ニヨリテ防遏セラレタルガ如キ。又佛將「スフラン」ガ千七百八十二年陸軍ヲ以テ「ネガパタン」ヲ攻擊セントシ將ニ發セントスルニ際シ、英將「ヒユース」ノ遠カラザルヲ聞キ速ニ陸兵ヲ上陸セシメテ其ノ計畫ヲ捨テタルガ如キ。(中略)又英將「ルーク」ノ「ジブラルター」ヲ攻擊スルニ際シ、佛艦隊ニ備ル爲メ三十七艦ヲ割キテ之ニ備ヘ、二十二艘ヲ以テ攻擊ニ從事セルガ如キ皆然ラザルハナシ。英將「ロドニー」ガ佛將「ドグラス」ノ「トバゴ」ヲ攻陷スルヲ見テ之ヲ救フ能ハザリシガ如キハ、彼我ノ勢大ニ懸絕シ到底之ヲ援フニ由ナカリシニヨルノミ。

(中略)千七百四十五年英艦隊ノ「セントマロ」及佛國海岸ノ諸港ヲ攻擊スルヤ、英將「アンソン」

ハ「ブレスト」艦隊ヲ抑留シテ其ノ出港ヲ妨ゲ。千七百六十一年「ケッペル」ノ「ベルアイル」ヲ取ルヤ、又一艦隊ヲ割テ「ブレスト」ノ封鎖ヲナセシガ如キ。皆コノ意ニ外ナラザル也。普佛戰爭ニ際シ佛將「ブーエー、ウイロウメ」ガ大優勢ノ艦隊ヲ有シ、而カモ猶防禦ノ薄弱ナル「コルベルヒ」ヲ攻擊セザリシハ、劣勢ナル獨逸艦隊ノ七百哩以内ニアリテ之ヲ妨害センコトヲ恐レタルニ由ルノミ。而シテ古來是等ノ史例ニ一致セズコノ敎訓ヲ蔑視シタルハ前後僅ニ二人アルノミ、「メヂナシドニヤ」及「ベルサノ」二將則チ是レナリ。

「コロム」中將ノ言ハ該博ニシテ而カモ明晰デアル。吾輩ガ玆ニ一言ヲ加ヘントスルモ蛇足ヲ加ルニ過ギヌノデアルカ。試ニ二三ノ例ヲ加ヘテ同中將ノ說ヲ證スルモ强チ無益デハナカロウト思フ。則「ルイ」十四世カ第三回ノ對英策全ク敗レ、到底英國ノ力攻スベカラザルヲ知リタルハ、英艦隊ガ海峽ニ顯出スル塲合ニ於テハ、到底陸軍ヲ輸送シテ一地點ニ上陸ヲ試ムベキ望ナキヲ悟リタル結果ニ外ナラヌノデアル。「ナポレオン」第一世ハ佛國ノ屢々失敗シタル前例ヲ熟知シ、且眼ノアタリ「ナイル」海戰ノ結果ヲ看大ニ研究スル處アリ、遂ニ巧妙ナル戰策ヲ按出シ、コレヲ以テ其ノ目的ヲ達センコトヲ望ンダノデアル。其ノ大體ニ於テ海國侵攻ノ大原則ニ戻ルコト極メテ明白ナルモ、其ノ目的トスル處ハ、當時「ツーロン」監視ノ任ニアリタル「ネルソン」艦隊ヲ欺キ、之ヲ誘出シテ遠征ノ途ニ上ラシメ、其ノ歸來スルニ先チ其全力ヲ海峽ニ集メ、一擧シテ二十海里ニ過ギザル海峽ヲ渡リ、其ノ常勝軍ヲ英國ニ投入セントスルニアツタノデアルガ。悲ヒ哉、佛將「ウエルニューブ」ガ其ノ任務ヲ遂行シ得ザリシ爲、到底其ノ目的ヲ遂グルコト能ハザルヲ悟リ、突然其ノ鋒ヲ轉ジテ墺地利ニ向フタノデアル。

敵艦隊ノ來援ヲ豫期シテ侵攻ヲ行フハ不可能ナリ

右ノ二例ハ優勢ナル敵艦隊ノ來ルベキ情勢ヲ知リタル塲合ニ於テハ、到底敵國ノ沿岸ニ攻擊ヲ加ルコト能ハザルヲ證シテ餘リアリト吾輩ハ信ズルノデアルガ。尙試ニ「コロム」中將ノ說ヲ補ハンガ爲、同中將ノ述ベサル一二ノ例ヲ揭ゲテ之ヲ證センニ、則千七百六年ニ於テ佛國ノ「バルセロナ」恢復ヲ企ツルニ際シ「アドミラル、ルーク」ノ來援ニ逢フテ其ノ攻擊ヲ中止シ本國ニ遁避セルガ如キ。マタ千六百九十一年ニ於テ英將「ライト」ガ「ガータルーフ」攻擊中、佛艦隊ノ來擊ヲ聞キ、攻城材料ヲ委棄シテ退帆シタルガ如キ、凡ソ戰例第二ニ記載シタル諸例ハ此ノ間ニ揭上スベキ好戰例デアル。

是等ノ史例ニヨツテ考レバ、敵艦隊ノ來襲ヲ憂フル塲合ニ於テ其ノ陸軍ヲ上陸セシメ、陸上ノ作戰ニ從事セシムルガ如キハ實際難事中ノ最難事デアル。故ニ我艦隊ニシテ猛虎山ニ靠ルノ勢ヲ示シ、嚴然トシテ敵ノ行動ヲ監視セハ、敵艦隊ガ我沿岸ニ見ハレ其ノ兵ヲ上陸セシメ局地ノ攻擊ニ從事スルガ如キコトハ萬々コレアルベカラザル道理デアル。モシ萬一コレアリトセバ、例ヘバ以太利ノ「ペルサノ」將軍ノ如ク我艦隊ハ「テゲトフ」トナツテコレヲ一擊ニ破碎スルバカリデアル。

吾輩ガ史例ヲ基礎トシ判斷シ得タル處ニヨレバ、疑モナク、右ニ述ルガ如クニ相違ナイノデアルガ、更ニ右ノ理論ヲ證明センガ爲メ、現時ノ有樣ヨリ一ノ想定ヲ設ケ、優勢ナル敵艦隊ノ來ルベキ塲合ニ於テハ決シテ局地ノ攻擊ヲ行フベカラザルノ理由ヲ一層明白ニ論究ショウト思フ。

今假リニ我ガ優勢ナル艦隊ガ敵ノ艦隊ヲ監視中。敵艦隊ハ我艦隊ノ監視線ヲ破リ出港シタリトノ報ヲ得、之ヲ濟州島以北ノ線ニ擊破センガ爲高速力ニテ背進中、マタモヤ敵艦隊ハ我第二監視線ヲ脫シテ其ノ所在ヲ失モタリトノ情報ニ接セシカバ、最早策ハ施スベキナク、不得已シテ佐世保附近ニ引キ揚

ゲタリト假定セバ如何。コノ場合ニ研究スベキ問題ハ決シテ一ニシテ足ラヌノデアルガ、先第一ニ研究ヲ要スルハ敵ノ行動シ得ベキ勞力圏ノ問題デアル。

假令如何ナル海軍ニ於テモ、同型ノ軍艦ノミヲ以テ艦隊ヲ組織シ得ルコトハ、實際ニ於テアリ得ザル道理デアル。從テ其ノ運動速力ト行動區域トハ其ノ艦隊主力中ノ最劣艦ヲ基準トシナケレバナラヌ。殊ニ其ノ勢力ガ我艦隊ニ劣ル場合ニ於テハ、其ノ艦隊ヲ分チ、速力ノ遲キ行動區域ノ小ナル艦隊ヲ背後ニ殘ス譯ニハ參ランノデアル。今假リニ現在ノ諸海國ガ實際編成シ得ベキ艦隊ガ海戰ヲ避ケテ一局地ノ攻擊ヲナサントスル場合ニ於ケル行動區域トシテハ、先大凡一千海里ヲ以テ極限トセナケレバナラヌ。或ル場合ニ於テ之ヲ延長シ得ルモノト假定スルモ尙一千五百海里以上ニ伸長スルコトハ實際困難デアル。況ンヤ艦隊ノ全力ヲ以テ行フ場合ニ於テハ到底一千海里以上ニ達スルコトハ困難ナリト考ヘナケレバナラヌ。今假リニ敵ノ根據地ヲ佐世保ノ西方四五百海里ナリト想定スレバ其ノ行動圏ノ外端ハ南ハ伊勢灣北ハ敦賀ヲ越ルコトハ出來ヌノデアル。

今假リニ是等地點ノ一ニ攻擊ヲ加ヘント欲セバ、北ハ對島海峽南ハ薩南諸島ノ監視線ヲ脫スルノ必要ガアル、故ニモシコノ二線ノ一ヲ通過スルニ際シ、我望樓ニ發見セラレタリトセバ敵ノ艦隊ハ如何ニスルモ我艦隊ノ所在地點ヲ距ルコト一晝夜以上ノ遠方ニ逸シ去ルコトガ出來ヌノデアル。モシマタ假令巧ニ是等ノ監視線ヲ通過シ紀淡海峽若クハ其ノ以東ニ顯ハレタリトスルモ三晝夜航程以上ノ遠距離ニアルベキ理由ガナイノデアル。敵ハコノ短時間ヲ利用シテ何事ヲナサントスルノデアロウカ。假令攻擊地點ニ永久築城ノ設ナシトスルモ、先第一ノ順序トシテ海岸ヲ掃射シテ敵ノ有無ヲ確メ。且其附近ノ動靜ヲ視察シ果シテ防禦ノ設備若クハ移動軍ノ駐屯セザルヤ否ヤヲ確メ、然ル後敷設水雷ノ搜索若クハ破壞ヲ試ミナケレバナラヌ。モシ司令長官タルモノ意ヲ決シテ其ノ陸軍若クハ陸戰隊ヲ上陸セシメタリトセバ、其ノ上陸ヲ了シ其ノ地點ヲ占領スルニハコレマタ相當ノ時間ヲ要スルノデアル。モシ艦隊コノ地點ヲ去ラザルコト千七百九十八年ニ於ケル「ナイル」河口ノ如クナラバ兎ニ角、苟モ海戰ヲ避ケンガ爲メ海上ニ出ルノ必要アリトセバ、少クトモ相當ノ時日ニ對スル軍需ノ陸揚ヲナサヾルベカラザルハ疑ヲ容レザル次第デアル、果シテ如斯ナリトセバ、優勢ナル防禦艦隊ハ其ノ事業ノ未ダ全カラザルニ先チ、既ニ眼界內ニ顯ハルヘキハ疑ナキコト、思ハンケレバナラズ。帆走時代ニアツテハ風候ノ都合ニヨリ既ニ視界ニ入リタル後ト雖ドモ、若干ノ時間ヲ要スルコトアリ、幾分カ其ノ損害ヲ減スルノ道ナキニアラザルモ、現今ニ於テハ敵艦隊既ニ視界ニ入レバ遲クモ二三時間ノ後ニハ敵彈ヲ受ケザルヲ得ズト宣告セラレタルト同樣デアル。

如斯危險ナル行動ハ常識アルモノ、決シテ取リ得ザル處デアル。況ンヤ敵ヲ一晝夜以外ニ逸スルコト殆ンドコレナキハ推理上殆ンド明ナルヲヤ。

故ニ古來ノ史例ハ暫ク措キ我國ノ現在ノ狀況ト地理上ノ關係ニヨリ推察スレバ、場合ニヨリテハ海岸地方ニ敵艦隊ヲ看ルコトナキニアラザルモ、敵襲ヲ我沿岸地方ニ受ケ敵兵ニ上陸セラルヽガ如キコト萬々コレナキハ勿論。假令コレアリトスルモ。敵ヲ我係蹄ニ陷イルヽガ如ク必竟何等ノ恐ルヽ處ナキハ明白デアル。乍去敵艦隊ハ顯ハルヽニ從ヒ孰レノ處ニモ急航スルガ如キハ我艦隊ヲシテ奔命ニ疲レシムル所以ニシテ、其レガ爲實在ノ勢力ヲ減ズルハ場合コレナキニ非ザルガ故ニ、我艦隊ヲシテ優勢ヲ

局地防禦ヲ必要トスル場合

占メサセ得ベキ程度ニ我海軍ヲ充實シ得タル場合ニ於テハ、一時ハ敵襲ニ堪ヘテ陷落ノ患ナキ防禦設備ヲ程度トシ、コレヲ沿岸要衝ノ地點ニ施スハ艦隊ハ行動ヲ幇助シ有利ナル行動ニ移ルノ猶豫ヲ得セシムル爲ニハ必要ナル事業デアルト吾輩ハ信ズルハデアル。況ンヤ國力ノ發展ニ伴ヒ遠隔ノ地ニ屬島ヲ有スルニ及バヽ、大凡右ノ如キ要領ニ從ヒ相當ノ設備ヲナスノ必要アルハ蓋シ疑ヲ容レザル處デアル。

今ヤ吾輩ハ先決問題ノ第一第二ニ對シ意見ヲ陳述シ了ツタノデアル。コレヨリ研究スベキ第三ノ問題ハ敵ノ優勢ナル艦隊ノ來ルベキ患アル場合ニ於テ、其ノ艦隊ヲ割キ局地設備ノ攻擊ニ充ツルコトヲ得ベキヤ否ノ問題デアル。

艦隊ヲ分派スルノ困難ト不利

此問題ハ艦隊司令長官其人ノ意中ニ存スルコトデアル。一概ニ之ヲ決スルコトハ恐ラクハ不穩當デアル。從テ絶對ニ不可能トスルコトノ出來ヌハ無論デアル。サリナガラ史上傳ル處ニヨリ、吾輩等ガ勇將智將トシテ尊重スル將官ガ之ヲ行ヒ得ザリシ事實ヲ證トシ、吾輩等ガ戰役ニ從事中起リタル感想ニ基キ之ガ判斷ヲ加ヘ、併セテ自己ノ位地ヨリ推測シ、左程ニ危險ナラズト思考シタル場合ニ於テ其ノ艦隊ヲ分遣シ、終ニ救フベカラザル失敗ヲ招カントシタル事蹟ニ照シタナラバ、萬ニ一モ誤謬ナキ判斷ヲ下スコトガ出來ルデアロウト思フ。

吾輩ハ右ノ目的ニ從ヒ吾輩ノ最モ尊敬スル和蘭ノ將官「デ、ロイテル」ヤ英國ノ「セント、ウインセント」伯ヤ又「ネルソン」將軍ノ事蹟ニ就キ研究シ。失敗セントシタル戰例トシテハ英蘭第一戰役ニ於ケル一事實ヲ以テセント欲スルノデアル。

英蘭戰役ノ初期ニ於テ蘭將「デ、ロイテル」ハ六十艘ノ運送船ヲ護衛シ、「ブリマス」沖ヲ通過セントセシガ、英將「アイスキユー」ハコレヲ擊破センガ爲同沖合ニ顯ハレタノデアル。コノ際「デ、ロイテル」ハ運送船護衛ノ爲メ其ノ艦隊ノ一部ヲ割キコレヲ戰線外ニ避ケシムベキ必要ヲ認メタノデアルガ、如何センコノ戰策ヲトルコト能ハズ。運送船隊ヲ危險ノ位地ニアラシメタル儘、英艦隊ト劇戰シ、終ニ之ヲ擊破シ、然ル後其ノ艦隊ヲ削テ運送船ノ護衛トナシ、之ヲ南方ニ發遣セシメタノデアッタ。此ノ戰ニ關シ英史ノ傳ル處ニヨレバ蘭國商船中武器ヲ載スルモノヽ多數ハ勇戰シテ「デ、ロイテル」ヲ援ケタル如ク看ユルノデアルガ。兎ニ角當時ノ陣形ニ據テ察スレバ「デ、ロイテル」將軍ガ商船隊ヲ非戰側ニ置キ、勉メテ戰ヲ避ケシメタルハ事實ナリト信ズベキ理由ガアル。(史例第十四參照)又英將「セントウインセント」ハ、其ノ部將タル「ネルソン」ガ僅カ三艘ノ艦隊ヲ率ヒ「ツーロン」監視ノ任ニ當リ三十餘艘ノ佛國艦隊ガ將ニ出航セントシテ準備中ナルヲ知リツヽモ、「カヂズ」ノ封鎖艦隊ヲ削テ之ヲ援クルコトガ出來ナカッタノデアル。此際「ツーロン」ニハ「フランス」ノ大艦隊ガ出航ノ準備既ニ整ヒ、百餘艘ノ船舶ガ同灣内ニ在ルヲ監視シテ居タノデアルガ、當時勇名赫々タル「セント、ウインセント」伯トヽ雖モ西艦隊ヨリモ劣勢ナル艦隊ヲ以テ其ノ任務ヲ盡シ難シト信ジタルガ故ニ、「ネルソン」ノ安危ニ就キ非常ナル憂慮ヲ抱ケルニ關セズ終ニ決心シテ「ネルソン」ヲ救フコト能ハズ。英將「カルチス」ノ艦隊來會スルニ及ビ初メテ其ノ十艘ヲ削テ「ネルソン」ノ麾下ニ屬セシメタルノデ。「ネルソン」モ初メテ左程迄劣勢ナラザル艦隊ヲ以テ佛艦隊ヲ「アブーカー」ニ敗ルコトヲ得タノデアル。(史例第百二十六及百三十六參照)

此他勇將「ネルソン」ガ其ノ艦隊ヲ率テ「シ、リー」ノ役ニ從事セル際、其ノ長官タル「ロード、キース」ガ佛西艦隊ノ連合ニ關スル情報ヲ得、自己ノ艦隊ノ薄弱ナルヲ悟リ「ネルソン」ノ任務ノ極メテ重大ナルヲ知リツヽモ、不得已其ノ四五艦ヲ割キ之レヲ己レノ麾下ニ致スベキ命令ヲ發シタノデアッタ。「ネルソン」モ其ノ長官ノ命ニ對シテハ絶對的ニ服從スベキヲ知リシモ、如何セン其ノ艦隊ヲ割クノ餘力ナシト信ジテ其ノ命ニ應ゼズ、將ニ軍法ニ問ハレントスルノ場合ニ立至タノデアル。是等ノ事情ニヨツテ考フレバ優勢ナル艦隊ノ將ニ來ラントスル場合ニ於テハ、例令如何ナル必要アルモ、其ノ艦隊ヲ割テ他ノ任務ニ從事セシムルコト能ハザルハ毫釐モ疑ナキ事實デアルト吾輩ハ信ズルノデアル。

艦隊ノ運動ヲ敏活ナラシムル爲、四方ニ派遣スル哨艦偵察艦等ノ如キハ、固ヨリ戰略上必要デアルカラ是レハ別問題デアルガ。前ニ述タル史例ニ依ルモ、優勢若クハ均勢ナル艦隊ノ來航スベキ恐アル場合ニ於テ、其ノ艦隊ノ一部ヲ削テ他ノ任務ニ當ラシムルコトハ實際上ナシ得ベカラザル事デアルト云フコトガ分ル。則我艦隊ガ敵ヨリモ優勢ナル場合ニ於テハ勿論、殆ンド優劣ナキ場合ニ於テモ、敵艦隊ノ一部ガ其ノ本隊ヲ離レ局地防禦設備ノ攻擊ヲ行フガ如キ場合ヲ想像シ、要衝ノ地點ニ堅固ナル設備ヲ行フガ如キハ、所謂雪上ニ霜ヲ加フルガ如ク一見何等ノ益ナキガ如キモ。寒意更ニ深キ底ノ妙意ハ確カニ認メ得ラルヽノデアル。則國防ノ研究上萬全ノ上ニモ萬全ヲ期センガ爲ニハコレモマタ必要デアル。世俗ニ所謂「ダメ」ヲ押スト云フハ實際上痛切ナル訓戒デハナカロウカ。故ニ若シ我沿岸ノ要地ニ、一時敵軍ニ抵抗シ得ベキ防禦アリテ、敵襲ニ耐ヘ得ベキ程度ニアラシメタランニハ、我艦隊ハ此牽制ニ介意セズ滿ヲ持シテ敵ノ主力ヲ突クコトモ出來ルノデアル。サリナガラ、己レノ海軍ヲ優勢若クハ均勢ノ位地ニダモ引キ揚グルコト能ハザルニモ係ラズ。沿岸到ル處堅固ナル砲臺ヲ築クガ如キハ勿論沙汰ノ限リデアル、世間ノ海防論者ハ十中ノ八九ハ此ノ妄見者デアル。先年海防費ノ献金アリシ際ノ如キモ實際ノ適例デアル。我輩ノ何處迄モ追究シテ打撲シ殺サントスルハ此ノ一流ノ迷想デアル。

軍備上ヨリ看察シタル艦隊及ビ局地防禦

（三）制海艦隊ノ實力ヲ補給スルコト

（四）通商線及交通線ノ防禦トナルコト

局地防禦ノ必要ナル理由及ノ第三第四

コノ問題ハ極メテ簡單デアル、左迄研究スルノ必要ナクシテ之ヲ判定スルコトガ出來ル、試ニ英國ヲ引例シテ之ヲ述ベンニ。若シ英國ヲシテ「ペリム」以東ニ「アデン」「シーロン」「シンガポール」及香港等ノ港灣アルモ何等ノ防禦ナシト假定セバ如何デアロウカ。若シ萬一東洋ニ勢力ナル艦隊ヲ送遣スルニ先チ、敵國ヨリ先ダテ宣戰セラレ、例ヘバ露佛ノ艦隊ハ機先ヲ制シ英國艦隊ニ先チテ紅海ニ入リ、直チニ「ペリム」ノ石炭庫ヲ燒キ「アデン」ヲ陷レ、更ニ進デ「シーロン」ヲ經「シンガポール」ニ入リタリトセバ。英國タルモノ如何ナル方法ヲ以テ其ノ艦隊ヲ東洋ニ派遣スルコトガ出來ルデアラウカ。必ズヤ露國遣東艦隊ノ如キ大困難ヲ凌ギ、多クノ月日ヲ費シテ後ハジメテ東洋ニ來着スルデアロウ。之ニ反シ一タビ機先ヲ制シタル同盟艦隊ハ到ル處容易ニ其ノ軍需品ヲ搭載シ、巧ニ敵國ノ港灣ヲ利用シ容易ニ東洋ニ來着スルノ目的ヲ果スコトガ出來ルノデアル。モシ此場合ニ於テ「ペリム」以下ノ諸港ニ相當ノ防禦アリ、露佛艦隊ノ「ペリム」ヲ陷ルヽニ先チ、英國艦隊ノ殺到シ來ルガ如キ情況トナリタランニ

ハ同盟艦隊ハ英國艦隊ノ東洋ニ來ルヲ防グコト能ハザルノミナラズ。必ズヤ悲ムベキ境遇ニ陷ルデアロウ。

是等ノ事情ヨリ稽フレバ、凡ソ石炭補給所ノ如キ海戰艦隊ノ行動上極メテ必要ナル地點ニ於テハ、吾輩ガ曩ニ述タル要領ニ從ヒ、相當ノ防禦設備ヲ行フノ必要ナルハ少シモ疑ナイコトデアルガ。此點ヨリ稽フルモ我國ト英國トハ其ノ關係ニ於テ大ナル差違アルニ注意シナケレバナラヌ。我國ニ於テハ戰略上必要ナル諸地點ハ決シテ相隔在スルコト英國ノ如ク甚シクハナイノデアル。其距離ノ最遠ナルモノニアツテモ尚僅カニ三日程ヲ要スルノミデアル。如之其ノ途次敵情ヲ知リ得ベキ通信機關モ尠クハナイ。從テ一地點ヲ攻擊スル敵艦隊ヲ逸スルガ如キ場合ハ殆ンド皆無ト云フテモ差支ガナイノデアル。故ニ我國ノ場合ニ就テ考フレバ其ノ設備ノ程度ハ英國ノ如クナルヲ要セヌノデアル。通商及通信線ノ保護ニ就キテ考フルモ其ノ要領ハ全クコレト同ク、其ノ規模英國ノ如ク大ナラズ。殆ンド之ヲ念頭ニ置クノ必要モナイ位デアル。假令コレヲ念頭ニ置クモ南臺灣北樺太ノ外ニハ防禦スベキ地點ガナイ、マタ立チ寄ルベキ場所モナイノデアル。コレハ研究セント欲スルモ研究スルノ道ガナイノデアル。

吾輩ガ以上縷述シタル趣意ニヨリ局地防禦設備ノ國防ニ對スル價値ハ最早明白デアル。則吾輩ガコノ議論ヲ終ルニ臨ミコレマデ判定シ得タル事項ヲ列記スレバ大凡左ノ如クデアル。

局地防禦ニ對スル著者ノ意見

一　海岸局地防禦設備ハ、優勢ナル移動軍ノ來援スベキ目的ナキ場合ニ於テハ、防守ノ功ヲ奏スルコト能ハズ。

二　海岸局地防禦設備ハ、我劣勢艦隊ト相佐ケ、敵ノ優勢艦隊ニ膺ラシムベキ能力アルモノニアラス。

三　海岸局地的防禦設備ハ、我艦隊ノ勢力敵ト海洋戰ヲ試ミ得ベキ程度ニ在ルトキハ、我艦隊ヲシテ有利ナル戰策ヲ實施スル爲、或ル期間ニ於テ自由ノ行動ヲトラシムルノ効アリ、而シテ其ノ設備ノ程度ハ敵艦隊ニ對シ、永久ニ防守シ得ルノ要ナク、或ル短期日間數艘ノ巡洋艦ノ襲擊ニ抗シ、若クハ艦隊ノ脅威運動ニ堪ユルヲ以テ適度トナスベシ。

四　國防ノ全體ヨリ察スルニ、海岸局地防禦設備ハ、必竟國軍ノ一部ヲ縻孤ノ軍ニ變スベキ方法ナルガ故ニ、更ニ愼重ナル調査ヲ精ミ、其ノ程度ノ最下限ヲ踰ヘサルニ留意シ、其ノ本幹タル移動軍ノ實力ニ關スル設備ヲ侵害セザルヲ要ス。

吾輩ハ又右ノ所見ニ基キ、海岸局地防禦ノ經始ニ關スル吾輩ノ意見ヲ讀者ニ紹介ショウト思フ。

一　海岸局地防禦ハ我海軍ガ想定敵國ノ艦隊ニ對シ優勢ヲ維持シ得ベキヤ否ヤヲ先決シ、然シテ後之レガ經始ヲナスベシ。

二　海岸局地防禦ハ、我艦隊ガ豫定セル作戰基地。若クハ某地點ヲ發シ、其ノ地點ニ往援スル、ニ必要ナル時日ノ長短ヲ顧慮シ其ノ設備ヲ計畫スベシ。

三　海岸局地防禦ハ、想定敵國ノ艦隊ノ勢力圏及其ノ作戰基地ヲ中心トシ、假根據地ヲ要セズシテ運動シ得ベキ區域ヲ顧慮シ其ノ設備ヲナスベシ。

四　海岸局地防禦ハ、主トシテ海軍戰略ニ關スル研究ノ結果ニ基キ其ノ地點ヲ定メ、同研究ノ上ヨリ打算シタル必要ノ度ニ從ヒ之ヲ設クベシ。

五　海岸局地防禦ハ、海上ヨリ受クベキ攻擊ニ對スルヲ以テ足レリトナス、故ニ背面ニ對スル直接防禦ヲ重視スルノ要ナシ、但シ單獨ニ孤立スル大要塞ニアッテハコノ限リニアラス。

六　海岸局地防禦ハ、敵ノ艦隊ヲ擊破スルヲ主要ナル目的ト爲スコトナク、敵ノ砲火ニ耐フルヲ目的トシテ之レガ經始ヲナスベシ。

但主要ナル港灣若クハ地點ニ到ランカ爲航過スヘキ水道ニ於テハ、場合ニヨリ攻擊力ヲ主トスヘキコトアリ。

七　海岸局地防禦ハ、其ノ標高ヲ高クシ、艦砲ノ威力ヲ避ケ、且水雷防禦ノ側防タル低キ直射砲臺ハ岬角若クハ斷崖ヲ以テ充分ニ保護セラルベキ地點ニ設クルヲ要ス。

第六篇　軍備ノ程度ニ關スル研究

第一章　軍備ノ節約

軍備ノ節約

國家ノ生存上軍備ノ必要ニシテ缺クベカラザルハ勿論、其他ノ各方面ヨリ觀察シ得タル結果ニヨルモ、我帝國ノ天職上ヨリ之ヲ看ルモ、我ガ國體ヲ永遠ニ確保スル所以ノ道ニヨッテ之ヲ察スルモ、軍備完整ノ今日ニ缺クベカラザルハ固ヨリ言ヲ待タヌノデアル。乍去必竟軍備ノ目的ハ國家ノ安寧幸福ヲ擁護シ其ノ隆運ヲ維持シ且之ヲ助成スルニ過ギズシテ、直接ニ國利民福ヲ增進スベキ能力ヲ有セヌノハ無論デアル。間接ノ干繫ニ於テハ必ズシモ然ラス。海軍ノ如キハ海上事業ノ先達トナリ、又コレガ擁護者トナリ、陰ニ陽ニ其ノ進步ヲ補助スルニ偉功アルハ論ヲ待タズシテ明カナルガ故ニ、軍艦旗ハ商船旗ニ先行シ、ソノ嚮導者トナルヘシトノ敎訓ヲ生スルノデアルガ、假令コレ等ノ事實アルニモセヨ、ツマリハ國富增進ニ對シ間接的關係ト消極的ノ賦分ヲ有スルニ過ギサルコト、譬ヘハ商工業ノ直接ニ國家ヲ防衛スルノ能力ナキト一般デアル。此點ヨリ判斷スレバ、成ベク其費用ヲ節シ生產的事業ノ進步ヲ資ケントスルハ、國步ノ伸長上當然拂ハザルベカラザル注意デアル。

節約ノ意義

乍去、吾輩ガ今茲ニ軍備ノ節約ヲ唱フルハ決シテ漫リニ其ノ經費ヲ減少スベシト云フノデハナイ。國家經濟ノ得失ハ決シテ其費用ヲ吝ムト否トニ依テ岐ル、モノニアラズシテ、其ノ用フベカラザルニ用ヒ其ノ不急ヲ先ニスルヨリ起ルノデアル。之ニ反シ、若シ之レヲ當然ノ費用ニ充ツルトキハ、假令如

「ブロホ」ノ陸海軍論

何ナル巨額ニ達スルモ深ク憂ルニ足ラザルハ、今更吾輩ノ言ヲ待タズシテ明白デアル。則、軍備ノ完整ニ際シテハ、最小額ノ經費ヲ以テ最大ノ効力ヲ有セシムベキ方法ヲ講ズルハ、國家經濟ニ於テ第一ニ留意スベキ要點デアルガ。唯々其ノ經費ノ輕減ヲ以テ目的トスルガ如キハ必竟國運ノ衰頽ヲ來スベキ所以デアル。要スルニ事業ノ成功速カニシテ其ノ結果モ亦善良ナルハ、一定ノ目的ヲ遂行シテ渝ラザルニヨルコト、經濟上ニ於テモ亦同樣デナケレバナラヌ。故ニ其ノ目的ニシテ一定シタランニハ、決シテ外誘ニ動サレテ其進路ヲ變ズルコトナク、唯々勇往邁進シテ疑ハザルヲ要スルノデアル。普王「ウイルヘルム」一世ガ、斷然トシテ其ノ陸軍ヲ擴張シタル偉績ノ如キハ、軍備ノ完整ニ對スル千古ノ模範ニシテ、吾輩ガ國防ニ關シ研究ヲ怠ラザルモ、ダヾ〳〵コノ洪範ヲ倣ハント欲スルニ外ナラヌノデアル。例ノ露人「ブロホ」ノ如キハ、其ノ論旨ハ兎モ角、財政上ヨリ軍備ヲ解釋スル點ニ於テハ確カニ出色ノ論者デアル。其ノ著「戰爭ノ未來」ニ於テ、

海ヲ掌握スルハ英人ガ自國殖民地ノ安全ヲ期シ得ル所以ナリ。海洋ノ管制ナル語ハ決シテ空言ニアラズ。英國人ハ如何ナル點ニ於テモ、其ノ海軍ヲ强勢ナラシメンガ爲メ、其ノ國費ヲ投ズベキ好論據ヲ有セリ。而シテ英國ノ事例ハ宜ク他ノ諸國ノ學ブベキ所ナリトス。英國ハ決シテ陸軍ノ力ニ賴ルノ要ナシ。蓋シ海ヲ制スル海島國ハ國民枕ヲ高クスルコトヲ得ベク。是レ其ノ艦隊ヲ增加センガ爲ニハ、他ノ事業ヲ犧牲ニ供スルモ亦辭セザル所ナリ。然レドモ露國ハ全ク事情ヲ異ニシ、海軍ハ我國ノ安寧ヲ期シ得ベキ設備ニアラズ。露國ニ來ルベキ大打擊ハ必ズ陸上ヨリスベシ、是レ海軍ハ露國軍備ノ補助機關ニ過ギズトナス所以ナリ。

我陸軍擴張ノ影響

ト論ズルガ如キハ露國ノ國情ニ適スル議論デアル。則氏ノ意見ハ國防ノ主幹ニアラザル海軍ノ爲ニ其ノ國資ヲ投ズルノ不利ヲ闡明セント欲スルノデアル。サリナガラ、軍備ハ決シテ絕對的ノモノニアラザルガ故ニ、他國トノ關係ニ留意シ、他國ヲシテ我軍備ノ精神ハ國防ニ在リテ他意ナキヲ知ラシメナケレバナラヌ。モシ之ニ反シ國防以外ノ軍備ヲ張リ、他國ヲシテ戒心セシムルガ如キハ、コレガ爲メ相互ノ感情ヲ破リ、更ニ無用ナル軍備ヲ競爭的ニ增加スルノ不得已ニ至リ、終ニ軍備ノ本領ヲ失シ、騎虎ノ勢ニ驅ラレ無限的ノ擴張ヲ要スルニ至ルコトアリ。是レ一ニハ軍費ヲ最小限ニ維持スルノ主旨ニ反スルノミナラズ。之ヲ外ニシテハ世界ノ人道ニ反シ、之ヲ內ニシテハ國民ノ負擔ヲ增加シ國步ノ伸長ヲ阻害スルニ至ルハ疑ヲ容レザル處デアル。日清戰役以後ニ於ケル我陸軍ノ擴張ハ露國ヲシテ其海軍ヲ擴張シテ朝鮮海峽ヲ制スルノ必要ヲ認メシメ、我海軍ヲシテ我ニ倍スルノ敵ト相對スルニ至ラシメタノデアル。則日本海ノ戰ニ於ケル露艦隊ノ主力ハ勿論、旅順艦隊ノ主力モ我陸軍ニ對スルヲ主トシテ新設セラレタル軍備ナルハ露人ノ言ニヨリテ明白デアル。

元來我國ノ立脚地ヨリ看レバ、大陸ニ向ヒ進略的行動ヲ試ミントスルノ意思毫モ之レナキハ明白ナル次第デアル。要スルニ大陸ニ於ケル作戰ハ全然受動的ノ行爲ニ過ギヌノハ疑モナキ事實デアル。サリナガラ目下歐洲諸國ニハ陸軍ノ大擴張ヲ行フモノナク、獨リ海軍ノ擴張ヲノミ競ヒツヽアルガ故ニ、我國ノミ陸軍ヲ擴張スルハ兎角ニ耳目ヲ聳動シ易ヒノデ、猜疑的意思ヲ有スル他邦人ノ目ヲ以テ之ヲ看レバ、我陸軍ノ擴張ハ何事カ豫期スルモノ、如ク少クトモ大陸ニ對シ若干ノ發展ヲ試ミントスルノ意思アルモノトナスハ、必ズシモ無理ナラヌ次第デアルガ、實際何等ノ異心ナキ我國ニトリテハ誠ニ

以テ迷惑千萬ナルコト、謂ハナケレバナラヌ。加之更ニ退テ考レバ、我陸軍ノ擴張ニ痛痒ヲ感ズルハ露西亞一國ノミ、假令數百萬ノ兵ヲ養フモ他ノ諸國ニ對シテハ何等ノ重キヲモナシ得ザルノ一事ハ深ク留意スベキ問題デアル。從テ外交問題トシテ我陸軍ガ直接何等ノ威力ナキハ無論デアルガ、何ハ兎モアレ、モシ萬ガ一ニモ今日ニ於テ右等猜疑心ノ爲メニ影響ヲ蒙ムリ、自衛上必要ナル程度ヨリ以上ノ軍備ヲ要スルガ如キコトアラバ、國富ノ發展上決シテ歡迎スベキ事デハナイ。

露國ヲシテ大陸ニ野心アリト思ハシムルハ彼レヲシテ東亞ニ於ケル武力的施設ヲ大規模ナラシムル所以デアルノデ。殆ンド無限大ナル露國陸軍ニ對シ均衡ヲ維持セントカムルガ如キハ國防上甚シキ不得策デハナカロウカ。假令コレヲ目的トスルモ、彼ニ對シ算數上優勢ヲ維持スルコトハ實際困難デハナカロウカ。假令如何ナル大擴張ヲ行フモ其ノ極所ニ於テハ今日ノ儘ニナシ置クト同一ナル結果ヲ生ズルモノデハナカロウカ。我レ五十萬ヲ備レハ彼レノ我ニ對スルハ五十萬以上デアル。我百萬トスレバ彼ノ我ニ對スル兵數ハ百萬以上デアル。彼ノ陸軍ハ其ノ內容ノ如何ニ關セズ其ノ戰時員ハ四百四五十萬ニ達スルノデアル、今日ノ我國力ヲ以テ世界第一ノ大陸軍國ト大陸ニ拮抗セントスルハ、猶今日ノ我國力ヲ以テ英國ノ大海軍ト海上ニ相對セント欲スルモノト同一デアル、而カモ其ノ費用ニ於テハ英國ト拮抗スルノガ遙ニ容易デアル國防上第二段ノ問題タル大陸作戰ニ於テ露國陸軍ヲ標準トセバ。國防上ノ先決問題タル海上作戰ニ於テ英國海軍ヲ標準トスルノ必要ハ。更ニ必要ナル問題トシテ之ヲ研究スルノ必要アリト斷言スルハ果シテ不合理デアロウカ、抑モマタ如何ナル必要アリテ陸軍ノミコノ標準ニ據ルベキ理由アリトナスノデアロウカ、國防ノ第一線ハ滿韓ノ野ナリト稱スル一派ノ論者ノ如キハ露國ヲ知テ他ヲ知ラズ露國ノ外決シテ他ノ國ト干戈ヲ交ルコトナシト妄信スル偏見者流ノ迂論デアル。吾輩ノ看ル處ニ據レバ、大陸ニ於テハ可成血醒キ方法ヲ避ケ他ノ平和的手段ヲ以テ紛擾ヲ避ケナケレバナラヌ、モシ果シテ我陸軍ヲ以テ大陸ノ作戰ニ於テ常ニ優勢ナランコトヲ目的トセバ、我海軍ニ於テモ少クトモ英國艦隊ノ東遣力ニ對シ優勢ヲ維持センガ爲メ百萬噸以上ノ戰鬪艦ヲ備ヘナケレバナラヌ、百萬ノ陸軍ト百萬噸ノ戰艦トハ果シテ我國力ニ不相應ナル軍備デハナカロウカ、百萬噸ノ海軍ハ國命ノ死活問題デアル。百萬ノ陸軍ハ滿韓維持ニ必要ナル兵力ノ一部デアル。而カモ其足ラザルハ日露戰役以前ト五十步百步デアル、而ルニコレヲ同一ニ重要視シ、俱ニコレヲ備フルガ如キハ大ナル誤謬トスルニ猶豫セザル處デアル。況ンヤ海軍ガ未ダ其ノ域ニ至ラザルニ關セズ、萬ガ一ニモ、陸軍ノ兵備ヲ右ノ標準ニ達セシメ。尙且其ノ誤謬ヲ悟ラザルガ如キコトアリタランニハ果シテ何等ノ短見ト謂フベキデアロウカ、露國政治家ガコレヲ看テ侵略的志望ヲ有スルモノトナスハ、强チ無理ナラヌ次第デアル。

死活問題ト他ノ問題ヲ同一ニ視スルハ不可ナリ

吾輩ハ今日ノ如キ塲合ニ於テ露國ハ勿論他ノ諸國ヲシテ國防以上ノ軍事目的ヲ有スルモノト想像セシムルヲ不利益ナリト信ズルノデアル。モシモ我國ノ方針ガ大陸侵略ニアリトセバ兎ニ角、モシモ吾輩ノ信ズル如ク、自强ヲ以テ唯一ノ目的ナリトセバ、防守自衛以上ニ陸軍ヲ擴張スルハ疑モナク國防上ノ失計デアル。必先防守自衛ニ關スル軍備ノ完整ヲ先ニシ、然ル後コレヲ他ニ及スノ順序ヲトラナケレバナラヌ、モシコノ順序ニシテ果シテ之ヲ誤ラザランカ、假令コレガ爲莫大ノ經費ヲ要スト雖ドモ、大體ニ於テ深ク憂ルニ足ラザルハ是レマタ吾輩ノ深ク信ジテ疑ハザル處デアル。假令ヘバ我陸軍ヲ日

軍備節減ニ對スル政事家ノ無責任ナル言論

軍人ヲシテ軍備ノ程度ヲ定メシムル害

露戰役程度ニ止メ、他ハ悉クコレヲ海軍ニ投ジ、海軍モマタ制海的武力ノ增加ヲ唯一ノ目的トシ、非常ナル勇斷ヲ以テ陸軍設備ノ費用ト雜費トヲ削リ主トシテ之レヲ製艦及訓練ノ費用ニ投ジタルモノトセバ、優ニ四十萬噸ノ戰鬪艦ヲ添造シ、未ダ十年ナラズシテ七十萬噸ニ達シ、防守自衞的國防上安全ナルノ程度ニ達スルノデアル、然ルニ世人ハコレヲ察セス、陸海兩軍ヲ以テ車ノ兩輪トナシ、先決問題トシテ制海的武力ヲ完整スルノ順序ヲトラズ。渾テ一網ニ打了シ去リテ軍備費ノ支出ヲ議シ、漠然タル意見ヲ以テソノ縮少ヲ論ズルモノアル。彼等ハ果シテ我國現實ノ軍費ハ過重ノ域ニ達シテ居ルデアロウカ、或ハマタ世界列强ノ振合ヲ失セザル程度ニアルデアロウカ、抑モマタ更ニ幾分ノ增加ヲ行フベキ餘地アルデアロウカノ問題ニ對シ、充分ナル研究ヲ積ミタル上、進デ軍備費ノ節減ヲ唱フルノデアロウカ、吾輩ハ世上ノ論者ガ果シテ如何ナル程度迄研究シ居ルヤヲ知ラズト雖ドモ、其ノ所論ニ就キ察スルトキハタヾ〳〵漠然タル感想ヲ土臺トシテ論議スルニ過ギザルガ如ク見ユルノデアル。第一我國現在ノ軍備ハ過重ノ域ニ達シテ居ルデアロウカ。果シテ然リトセバ如何ナル方針ニ從ヒ之レヲ節約スベキカ。之ニ反シ未ダ過重ノ域ニ達セズトセバ、果シテ如何ナル方針ニ從ヒ軍備ノ完整ヲ期スベキヤノ問題ニ就テハ其ノ研究ノ極メテ冷淡ナルヲ認ムルノデアル。「其ノ方法ハ當局者自ラ之レヲ選ブベシ、予ハタヾ軍備費ノ過重ヲ唱フルノミ。」ト論ズルガ如キハ餘リニ無責任ナル話デアルガ。要スルニ軍人ニアラザレバ軍備問題ニ容喙スベカラズト云フハ謬說デアル。

軍人ニアラズシテ軍事ヲ論ズルハ固ヨリ困難デアル。然レドモ軍人ニアラザレバ軍備ノ大方針ヲ論ズルコト能ハズト云フハ、軍事ト軍備トハ相似テ而モ異ナル處アルヲ知ラザルノ致ス處デアル。軍人ニアラザレバ軍備ヲ完整スルコト能ハザルハ猶ホ餅屋ニアラザレバ好キ餅ヲ造リ、酒屋ニアラザレバ醇キ酒ヲ釀スコト能ハサルガ如クデアル。然レドモ軍備ノ方針ト程度トハ之ヲ軍人ニ一任スベキモノニアラザルコト、譬ヘバ餅ノ分量ト品質トヲ餅屋ニ委セ、酒ノ分量ト品質トヲ酒屋ニ委スルコト能ハザルト同樣デアル。況ンヤ世ノ餅屋酒屋タルモノ、唯單ニ其ノ注文ノ多キヲ願ヒ、必ズシモ顧客ノ利害ヲ重視スルコトコレナキニ於テハ尙更ニ此點ニ注意セナケレバナラヌ。

餅屋ノ多ク餅ヲ造ラントスルハ猶酒屋ノ多ク酒ヲ賣ラント欲スルガ如ク是レ皆自然ノ成リ行デアル。主人タルモノ甲ヲ減ジ乙ヲ增スノ判斷ニ乏ク、タヾタヾ家計ノ緊縮ヲ名トシ、平均ニ其ノ需用ノ幾割ヲ減セントスルガ如キハ、會以テ酒ニ乏ク餅モ亦乏キノ境遇ヲナスニ過ギナイノデアル。モシモ一朝來客ニ會セバ必ズヤ其ノ供用ノ定ラザルニ狼狽スベシ。

凡ソ一家ノ來客ハ、交友ノ種類ニヨリ殆ンド豫想シ得ベク、酒ヲ嗜ムノ知友多キトキハ、酒ヲ用ルコト多ク、餅ヲ好ムノ知友多キトキハ、餅ヲ用ルコト多シ、然ルニ主人ハ是等ノ意義ヲ解セズ、漠然トシテ來客ニ備ヘントセバ、酒餅併セ備ヘテ盡サルノ富豪ナラバイザ知ラズ、必ズヤ家計ノ困難ヲ看ルニ至ランコト勿論デアル。

國家軍防ノ備モ亦全體如斯モノデアル。然レドモコレヲ以テ彼ニ比スレバ其ノ判斷ハ反テ容易デアル。地理的關係ト來客ノ資格ヲ以テ豫定スルニ易ク、知友ノ數モマタ自ラ尠キガ故ニ、之レヲ豫想スルコト困難ナラザルハ無論デアル。

此意義ヨリ推察スレバ我國現在ノ軍備ノ方針ハ少クトモ一考ヲ要スベキ狀態デアル。我國民ハ是非ト

政事家カ軍備國防ヲ度外視スルハ極メテ不可ナリ

モ此點ニ對シ相當ノ監督ヲナサナケレバナラヌ。則チ、少クトモ軍備ノ方針ヲ定メ之ヲ酒屋タリ餅屋タル陸海軍ニ示サナケレバナラヌ。モシ此意義ニシテ貫徹シ得タランニハ、我今日ノ富力ヲ以テ自强的國防ノ目的ヲ果シ得ベキヤ殆ンド疑ナキヲ信ズルノデアル。換言スレバ世ノ憂國者タルモノヨクヨク是等ノ理義ヲ究メ陸海軍ノ當局者ニ與フルニ其ノ準據スル處ヲ以テセバ、我軍備ノ完整ハ必ズシモ困難デハナカロウト吾輩ハ信ズルノデアル。然ルニ之ヲ之レ思ハズ、漫リニ軍備ノ縮小ヲ唱ヘ、不知不識御國體ヲ擁護スルニ必要ナル武力ヲモ萎微セシムルガ如キハ誠ニ以テ思ハサルノ甚キモノト謂ハナケレバナラヌ。

凡ソ洋ノ東西ヲ問ハズ、時ノ古今ヲ論ゼズ、如何ナル國如何ナル場合ト雖、軍備ヲ忽ニスベキ理由ハ決シテナイノデアル。然ルニ世ノ政事家ハ動モスレバ軍備ヲ以テ特種ナル性質ヲ帶フルモノトナシ、專門家ニアラサレバ到底了解スベキモノニアラズト信ズルモノガ多ヒ。是レ實ニ大ナル謬見デアル。軍備ハ決シテ專門家ニシテ後初メテ容喙シ得ベキ底ノモノニアラズシテ、疑モナク政事家ノ修得セザルベカラザル必要科目ノ一デアル。世ノ政事家カ財政及事業經營ノ問題ニ精通スルニ關セズ、軍備ニ對シ何等ノ知得スル處ナキハ、實ニ政事家タルノ恥辱ナリト謂ハナケレバナラヌ。苟モ國政ニ參與セント欲スルノ人士ハ、其修學時代ニ於テ早ク既ニ軍備ノ概念ヲ有セザルベカラザルハ無論デアル。之ヲ要スルニ國政ノ一半ハ軍備ニ屬シ、財政ノ三分ノ一以上ハマタ軍備ニ屬スルノデアル。而カモ當者ハ勿論、世ノ國政ヲ議スルモノ、軍備ニ關シ何等ノ修養アルコトナク、社會ノ上流ニ立チ國民ヲ指導スベキ人士ニシテ軍備ノ何物タルヲ知ラザルトキハ、何ヲ以テヨク國民ノ輿望ヲ擔ヒ、其ノ膏血ヲ意味スル歲計ヲ鹽梅調和シ、萬一ノ遺漏ナキヲ期スルコトガ出來ルデアロウカ。モシソレ唯々トシテ軍事當屬者ノ言ニ承順シ、無限ノ擴張ヲ行ヒ或ハ軍備ノ本義ヲ解セス、只管過重論ヲ呼唱シ、一網ニ打シテ軍費ノ削滅若クハ縮小ヲ試ムルカ如キハ、是レ實ニ國家ヲ擁護シ國步ヲ發展セシムル所以ノ道ヲ知ラザルノ徒輩デアル。

無價ノ大寶

吾輩ハ右ノ意見ニ基キ、我國ノ軍費ハ果シテ既ニ最大限ニ達シテ居ルデアロウカ。抑モマタ幾分ノ擴張ヲ許スベキ程度ニアルデアロウカ。其ノ配賦ノ方法ハ果シテ適當ニ行ハレツヽアルデアロウカノ諸點ニ就キ、更ニ研究ヲ進メンカ爲。先コレヲ富力、人口及地理ノ三章ニ區別シ、讀者ヲシテ自ラ省悟スル處アラシメント欲スルノデアル。則コレカ爲メニハ先第一ニ讀者ニ紹介シ度キ吾輩ノ論文ノ一節ガアル。

吾輩ノ既ニ述タル如ク、我帝國ハ世界ニ比類ナキ特種ノ國柄ナリ。他ノ意義ヲ以テ之ヲ表スルトキハ、則チ最モ愼重ニ最モ確實ニ擁護スヘキ無價ノ大寶ナリ。

無價ノ大寶ハ筐ヲ重子櫃ヲ厚ウシテ之ヲ收藏セサルヘカラス。之カ爲メ巨萬ノ費用ヲ要スルハ固ヨリ言ヲ待タス。然レトモ戰後ニ於ケル經營ハ國富ノ增進ヨリ急ナルハ無シ、此際ニ當リ時勢ノ推移未タ急ナラサルニ關セス、不生產的ナル軍備ヲ擴張スルハ其ノ時ヲ得タルモノト云フ可ラズ。假令無價大寶ノ擁護ノ爲ニスト雖トモ事ニ自ラ緩急アリ、先ツ第一ニ軍備費ノ節約ヲ行ヒ、殖產ノ發達ト國富ノ增進トヲ計ルヘキハ固ヨリ其所ナリト云フヘシ。而モ此ノ如キ時代ハ決シテ長久ナルコト能ハス。若シ果シテ「平和ハ戰爭間ニ於ケル小休止ナリ」トセハ、自ラ續出シ來ルヘキ

戰前準備ト戰後經營

問題ハ「戰前ノ準備」ナラサル可ラス。「平和ヲ望マハ戰備アルヘシ」トハコレ實ニ羅典人ノ拳々服膺シタル格言ニアラスヤ。

戰後經營ト云ヒ、戰前準備ト云フハ、其意義ニ於テ著シキ差異アリ。少クトモ一ハ消極ニシテ一ハ積極ナリ。然レトモ戰後經營ハ他ノ一面ニ於テ戰前準備ヲ意味シ、戰前準備ハ他ノ一面ニ於テ後日ノ發展ヲ意味ス。換言セハ戰後經營ノ時代ハ、則チ是レ戰前準備ノ時代ニシテ、戰前準備ノ時代ハ、則チ是レ一面ニ於ケル發展的施設ノ時代ナリ。我ガ帝國ハ今ヤ果シテ戰後經營ノ時期ナリヤ。或ハ又戰前準備ノ時代ナリヤ。此兩者ハ大局ヨリコレヲ判スルトキハ、其ノ實質ニ於テ何等ノ差異ナシト雖トモ。戰後既ニ六七星霜ヲ閲セル今日ニ於テハ、其意氣込ニ於テ戰前準備ノ覺悟ナカルヘカラス。天ニ三日ノ晴ナク地ニ三尺ノ平ナシ、況ンヤ近キ將來ニ於ケル世界的活動ノ舞臺ハ、疑モナク太平洋ニ移轉シ、我帝國ハ實ニ其ノ管鑰ヲ掌ルヘキ位置ニアルヲヤ。マタ況ンヤ無價ノ大寶ハ衣帶ヲ典スルモマタ必ス之ヲ珍護セサル可ラサルヲヤ。

將來ノ舞臺ト支那問題

近キ將來ノ世界的舞臺ニ於ケル我帝國ノ役割ハ誠ニ重大ナリ。殊ニ東洋方面ニ於テハ事ノ輕重大小ニ論ナク避ケント欲スルモ能ハサルノ關係ヲ有セリ。若シ我帝國ニシテ列强ノ伍伴ニ入リ堂々トシテ其主張ヲ貫徹シ、而モ列强ノ嫉妬ヲ受ケテ危カラサランコトヲ欲セハ、必スヤ列强ニ畏敬セラル、ノ軍備ナカルヘカラズ。由來外交ハ軍備ト密接ノ關係アリ、外交ノ管鑰ハ時トシテ金力ニ司掌セラル、コトアリト雖トモ、其ノ關係ニシテ切迫センカ、武力ニアラサレハ之ヲ解決スルニ由ナシ。コレ古來歴史ノ明證スル處ナリ。

清國保全ノ問題ハ、我國人士ノ宜シク研究スヘキ處ナリ、世界ノ平和ヲ維持シ無價ノ大寶ヲ擁護セントスルニ於テ殊ニ其ノ切ナルヲ看ル。要スルニ近キ將來ニ於ケル、東洋ノ紛爭ハ恐クハ支那問題ヨリ生セン。露國ノ滿洲ニ於ケル、米國ノ菲利賓ニ於ケル、固ヨリ密接ナル關係ヲ有スト雖トモ、其紛爭ヲ生スヘキ公算ハ、確ニ二分ノ一以上トシテ支那問題ヲ看ルヘシ。而モ主トシテ此問題ニ容喙スヘキ英米佛獨ノ四國ハ、地理的關係上共ニ大ナル陸軍ヲ派遣シテ事ニ當ルニ由ナシ乃チ此場合ニ處スル我帝國ノ態度ハ極メテ簡單ナリ。我武力ヲ海上ニ發揮シ、比較的小規模ナル陸上武力ヲ大陸ニ用ユレバ可ナリ。假令海上ヲ完握スルコト能ハサルモ、右各四ケ國ノ東洋ニ派遣シ得ヘキ勢力ト均衡ヲ維持スルトキハ、其ノ際ニ於ケル問題ハ我帝國ノ意思ノマニ〳〵之ヲ決定シ得ヘシ。

之ニ反シ、我カ軍備ニシテ劣勢ナランカ。我帝國ハ自ラ四强ニ疎外セラレ、東洋ニ於ケル利權ノ問題ハ悉ク四强ニヨリテ決定セラレ、歐洲ニ於ケル地理的關係上露國ノ爲ニ滿洲ヲ讓ルノ勸告ヲ受クルニ至ランモマタ知ルヘカラス。果シテ然ラハ此際ニ於ケル屈讓ハ永久ノ屈讓ヲ豫言シ遂ニ未來ヲ盡シテ發展ノ望ナキニ終ラン。語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ此間ニ於ケル利權ノ分賦ハ海上武力ノ大小ニ比例シ、殆ト陸上武力ト何等ノ交渉ナク海上ノ武力ニシテ旺盛ナランカ、滿洲讓與ノ問題ノ如キハ決シテ他國ノ舌端ニ上ルコト無カラン。假令或場合ニ於テ大陸ニ兵ヲ用ユルコトアリトスルモ海上武力ノ優勢ナルヲ證シ、而シテ後初メテ之ヲ見ルコトヲ得ヘキノミ。要スルニ陸上武力ノ問題ハ獨リ露國ノ關係ニ於テ之ヲ見ルノミ而カモ第二期ノ問題トシテ之ヲ看ルノミ。他ノ

列強ニ關シテハ其ノ問題ノ如何ニ關セス。常ニ海上武力ノ優劣ヲ以テ決定スルニ外ナキヲ知ラサルヘカラス。

右ノ議論ハ此處ニ於テ之ヲ附揭スルニ適セサル如キ議論デアル。サリナカラ、此處ニ於テ、讀者ニ與ルニ右ノ如キ觀念ヲ以テスルトキハ、後段ニ論スル處ヲ咀嚼スルニ容易ナリト信スルカ故ニ、何トナク木ニ竹ヲ接スルカ如キ感アルニ關セス、コレヲ此處ニ挿入シタノデアル。

第二章　富力ト軍備

富力ト軍備

元來吾輩ハ財政ノコトニ就テハ純然タル門外漢デアル。故ニモシ吾輩ノ說ニシテ專門家ノ看ル處ニ反ストセハ、コハ疑モナク吾輩ノ謬見ナリト悟ラナケレバナラヌ。然ラバ何故ニ愼默ヲ守ラザルヤト云フニ、既ニ前ニモ論スル如ク、世間ニハ往々軍備過重ノ說ヲナスモノアリ。其ノ論ズル處ハ必竟一文呑ミ主義ニシテ、國家ノ大方針ヲ誤ルベキ迂論タルニ相違ナキモ。軍備節減ノ好辭令ハ兎角世人ヲ迷ハスベキ趨勢ガアル。國防研究者タル吾輩ヲ以テ之ヲ看レバ、誠ニ苦々敷次第ト謂ハナケレバナヌ。是等ノ徒輩ニ對シ、注意ヲ惹キ起サンガ爲ニハ及バズナガラ衆人ノ最モ解シ易キ數字的立證ニヨリ明ニ其ノ謬見ヲ指摘スルノ必要アリト吾輩ハ信ズルノデアル。

軍備過重ノ聲

抑モ軍備過重ノ聲ハ吾輩ノ常ニ聞ク處デアル。此思想ハ如何ナル國ニ於テモ、如何ナル時勢ニ於テモ決シテ絕ルコトナキ怨聲デアル。英國ノ如キハ除外例ニ屬シ往々ニシテ反對ノ結果ヲ顯ハシ、意外ニモ積極的民聲ヲ起シ、政府ヲ要シテ海軍ノ擴張ヲナサシメタルコト多シ。其ノ他元氣ノ旺盛ナル國步ノ急進發達スル場合ニ於テハ、國民ヨリ奮テ軍備ノ擴張ヲ要求セルコト其ノ例ナキニアラザルモ、先大體ニ於テハ時代ノ古今ヲ問ハズ、苟モ太平ヲ唱フル以上ハ、軍備縮小ノ聲コレニ繼デ起ルノハ自然ノ勢デアル。殊ニ守成時代衰微時代ニ於テ最モ甚イノデアル。換言スレバ軍備過重ノ怨聲ノ多少ニヨリ國步ノ進退ヲトスルコトガ出來ル。既ニ前ニモ述タル如ク元來我國ハ武ヲ以テ立タル國柄デアル。此點ヨリ考フレバ軍備過重論ノ如キハ我國ニハ流行セザルベキ筈ナリト吾輩ハ信ズルノデアル。況ンヤ我國ノ今日アルハ主トシテ天祖御垂統ノ靈德ニヨリ自ラ發揮振興セラレタル大稜威ノ致ス處ニシテ、コレヲ翼成シ奉リタル國民ノ實力優勝ナルニヨルコト勿論ナリトハイヘ、日淸及日露戰役ニ於ケル軍事上ノ効力モ亦偉大ナリシハ何人モ爭ヒ難キ處デアル然ルニ今日ノ國士ヲ以テ自ラ任スルモノヲ見ルニ其ノ身邊ニハ贅澤ノ限リヲ盡シ、幾多高潔ナラザル嗜好ニ巨萬金ヲ擲チ、而シテ顧ミテ軍備ノ過重ヲ論ズルガ如キ、誠ニ氣ニクワヌ話デアル。

國士ト軍備

殊ニ我國ハ今方ニ勇往邁進ノ時代デアル、國步ノ伸長ニ世界ノ耳目ヲ驚カシムルノ隆時デアル。從テ外國ト事端ヲ開クコト多キハ自然ノ趨勢ト云ハナケレバナラヌ。此ノ如キ場合ニ於テハ例外ニ大ナル軍備ヲ要シ從テ擴張ヲ要スルハ固ヨリ不得已ノ結果デアル、然ルニ何事ゾヤ。知名ノ人士ニシテ軍備節減ヲ唱フルモノアリ、更ニ顧テ既往ノ事實ヲ稽レバコノ風潮ハ久シキ以前ヨリ行ハレ議會開設ノ頃ヨリ一種ノ壓力トナリテ海陸軍ニ加リ、海軍ノ如キハ甚シキ壓迫ヲ受ケ、第四議會ノ如キ必要不可缺ノ擴張費ヲ削除シ、海軍ノ不整理ヲ論ジタノデアルガ、此事實ハ畏レ多クモ酷ク宸襟ヲ惱シ奉ルノ原因トナリ、二十六年二月十日ノ大詔ニヨリ內廷ノ費ヲ省キ、及文武官僚ヲシテ俸額十分ノ一ヲ納レ、

軍艦製造ノ補足ヲナサシメ賜フニ至ツタノデアル。今日ヨリ顧ミレバ誠ニ以テ恐懼ニ堪ヘザル次第デアル。而カモ時機ハ既ニ後レ、此ノ際製造シタル新艦ノ海上ニ浮ブニ先チ、早クモ清國ト開戰スルニ至ツタノデアル。此ノ戰爭ニ際シテハ實ニ劣勢ナル巡洋艦隊ヲ以テ彼ノ甲鐵艦隊ト戰フ必要ニ會シ、伊東聯合艦隊司令長官ノ艦隊ハ之レガ爲メ非常ナル苦境ニ入ラントセシモ、御稜威ノ御加護ニヨリ彼ノ如キ大勝利ヲ得、世界ノ耳目ヲ聳動サセタノデアル、一時不整理ノ汚名ヲ受ケコレガ爲擴張ヲサヘ許サレザリシ海軍ガ如彼大勝利ヲ得タルハ如何ナル奇跡ト稱スベキデアロウカ。其後戰後經營トシテノ軍備擴張ハ意外ノ好況ヲ以テ實行セラレ、議會ノ公正ナルヲ證シタリシモ、日露戰役ノ開始前ニ至リ、マタモヤ軍備節減ノ民聲起リ、財政ノ關係上第二ノ想定敵ニ對シ、我海戰ノ實力ヲ完整スルニ困難ヲ覺ルニ至タノデアル。サレバ、三十五年ノ擴張案ハ幸ニモ第十七議會ヲ通過シタリトハイヘ。同案ニヨリ建造シタル新艦ノ海上ニ浮ブニ先テ、日露戰役ハ開始セラレ、我海軍ハ優勢ナル敵國ヲ對手トシ戰ハザルヲ得ザルニ至ツタノデアル。此點ヨリ察スレバ我國力ノ發展驚クベキニモ關セス、軍備過重ノ怨聲多キハ事實デアル、國民ノ觀念果シテ右ノ如シトセバ充分ナル軍事ノ發達ヲ期スルコト實際ニ困難ナルモ。モシ出來得ベハンバ一日モ早ク我軍備ノ實力ヲ整ヘ例令萬一ノコトアルモ「三回ガ三回迄間ニ合ハヌ」ガ如キ遺憾ナカランコトヲ期スルハ、當局者ハ勿論、國民全般ノナサヾルベカラザル處デアル。是レ實ニ我輩ガ軍備ト國富トノ關係ニツキ今日ノ軍備ハ果シテ其ノ過重ヲ訴フベキ程度ニ達セルヤ否ヤヲ吟味セント欲スル所以デアル。

現往ノ過誤ヲ繰リ返スコトヲ勿レ

凡ソ一國ノ富力ハ必ズシモ數字ヲ以テ之ヲ示シ得ベキモノニアラズ。絶對的不可能ノ業ニハアラザルベキモ、實際上精確ニ之ヲ顯ハスコト能ハザルモノ多キハ事實デアル。從テ外面ニ顯ハレタル財政上ノ狀況ヲ以テ確實ナル判斷ヲ下サントスルガ如キハ、寧ロ早計ト謂ハナケレバナラヌ。例令ヘバ日露戰爭ニ際シテハ、財政上如何ナル困難ニ遭遇スルヤモ計ラレズトノ意見ニヨリ、硬貨準備ヲ確實ナラシメンガ爲メ、心アル國民ハ、貴金屬ノ贅澤品ヲ始メ家寶トシテ傳來シタル器物ヲモ國家ノ爲メニ提供セント欲シタノデアル、彼ノ際我日本國ハ其武力ニ於テハ露國ニ破ラレザルニモセヨ、經濟上ニ後レヲ取ルニ至ラントハ世界一般ノ說ナリシガ、事實ハ全ク之ニ反シ、我國ノ富力ノ豫想外ニ大ナルヲ證シ世界ノ大國タル露西亞ト戰ヒ數十萬ノ大軍ヲ動カシタルモコレガ爲少シモ避易スルコトナク、立派ニ戰爭ヲ終ツタノデアル、此點ヨリ考レバ我國ノ富力ハ外形ヨリ着ル處ニ比シ遙ニ優大ナリシヲ證スルコトガ出來ル。

歲計ト軍備費

乍去或ル格段ナル場合ノ外、國力ニ不相應ナル歲計ヲ爲ハ、實際上アリ得ベカラザル事實ナルガ故ニ、富力ト軍備トノ關係ノ調査ニ際シテハ、其ノ歲出ト軍備費トヲ對照スレバ最モ簡單ニ實際ニ近キ判斷ヲ下スコトガ出來ルデアロウト吾輩ハ信ズル。

一九一〇年度歲計及軍備費比較表（千九百十一年政治年鑑ニ據ル）

國名	陸軍費	海軍費	合計	國債整理費	歲出	歲出ト陸軍費トノ百分比	歲出ト海軍費トノ百分比	歲出ト軍備費總數トノ百分比	記事
英國	三七、三三六	三五、八〇七	六三、〇四三	三二、八五七	一五七、八四五	二一、七	二八、六	五〇、四	
米國	二九、二五七	一三三、九七三	一五三、二三〇	五四、三九二	七二六、六六七	一九、三	一八、四	三七、六	